

EAST-ASIAN LIB. UNIVERSITY OF TORONTO



3 1761 02989 8228

PL  
772  
H9  
1905  
v.7













發音記

一、目十三番、東京市本河原南門外

會社、吉川、近、文、前

目録

目録

東京市本河原南門外四番

目録

目録

目録

東京市本河原南門外四番



吉川、半、上

目録

吉川、近、文、前

東京市本河原南門外四番

明治四十二年十二月

八月

明治四十二年十二月

八月

明治四十年十二月二十五日印刷  
明治四十年十二月二十八日發行

百家說林索引

東京市京橋區南傳馬町一丁目十二番地

編輯兼  
發行者

合資  
會社 吉川弘文館

右代表者

吉川半七

東京市本所區番場町四番地

印刷者

廣瀨鐘太郎

東京市本所區番場町四番地

印刷所

内外印刷株式會社

發行所

東京市京橋區南傳馬町  
一丁目十二番地

合資  
會社 吉川弘文館



脇差 「タウ」刀劍ヲ見ヨ

●ワケ

和氣仲世 の忠勤（正上一〇〇七、鋸屑三八）

●ワサ

禍 「なうながす」（正下八六一、花月四九）  
「クル」禍福ヲモ見ヨ

●ワシ

和字 を漢字に改めし事（續下二ノ八八、柳記）

鷺津見氏 の祖（續下一ノ一八九、閑次）

走井 （續下九七二、河社）

●ワス

忘貝 （正上九九八、鋸屑二四）

忘草 （正上九九八、鋸屑二四）

●ワタ

わたのはら 海を——といふ（正上七四二、圓珠三）

和田 岸和田、岩和田等地名にある——の事

●口 （正上一三八、南留二三）

和田義盛 の叛（正下七七四、雲萍三五）

渡殿 （正下二三七、家屋三四）

渡邊幸庵 百三十歳の老人——（正上九六三、假世）

渡邊湊水 （續中一〇八四、近世）

渡橋 の事、附遺水（續中六八三、後松）

渡廊 （正下二三七、家屋三四）

渡瀬 奥州——の氣候（正上二一九、茶筆七九）

●ワニ

鰐 一、一の一口（正上九八九、鋸屑一〇）

鰐口 （正上六八九、桂林五）

丸部 （續下一ノ八三〇、難江）

●ワミ

和名抄 ——の古抄本（正下九一、遊京下一三）

●ワヤ

和樣 ——唐樣（續中一二二一、天朝）

●ワラ

草鞋 （續下一ノ五〇七、筠庭）

笑 くつ／＼（續下一ノ三三四、燕居）

●ワリ

破子 （續下一ノ五三〇、筠庭）

●ワレ

われから といふ虫（續下一ノ六七、閑耕）  
（正上一〇五三、茅窓七二）（續中四〇九、比古）

われて といふ詞（續下一ノ二二七、年々）

五香木 のよみ方（正上一四〇、南留二七）

百家説林索引終



●ロタ

露臺 (續上一六六、錦所)(續下二ノ三二四、柳隨)

●ロチ

露地 (正上一五六、南留五七)

●ロホ

鹵簿 (續中六二〇、後松)

圖(正下四二八、畫譚二三)

●ロム

論議 と問答との別(正上一二八、南留六)

論語 (續上八〇二、松落)(續下二ノ二五〇、柳隨)

柳隨

——の題號讀くせ(續下二ノ五一、梅筆)

——は心學の骨髓たるの證左(正下一一四、梧拾八〇)

四、梧拾八〇)

の板(正上七九八、昆陽五)

天正古寫本の——(正上九三八、假世二六)

——の撰述(續下二ノ三二五、柳隨)

●ワ

和 の字の訓(正上一三九、南留二五)

●ワイ

賄賂 は古今政治の通弊なり(正下一一〇六、梧拾六六)

●ワウ

王 の字の義(正上一三五、南留二〇)

王 童名に何——と稱したる(正上一二七、南留五)

王安石 (續上六五二、れさめ)

王照君 (正下四二四、畫譚一七)

王梅溪 が教訓(正下四〇九、訓淺五三)

王人 (續下一ノ二二一、年々)

王隣 僧——(續中一〇八六、近世)

黃疸 と蜆(續下一ノ一七九、閑次)

黃榮宗 尺牘の寫(續中六五五、後松)

往來 は通行の手形(正上八一八、昆陽四七)

●ワカ

わかんどほり 王家統を——とよむ(續下一ノ九二、閑耕)

和歌 「ウタ」歌ヲ見ヨ

和歌三神 ——の事(正下九一七、閑窓三)

和歌四天王 の異名(正上三六八、傍廂一五)

和歌浦 (續上七七九、松落)

和合 と養生(正下七六二、雲萍一五)

和合神 (續下一ノ三三一、燕居)

和學大概 (續上五九三、織錦)

若瓜 (正上三八、北邊一三)

若鷹 ——考(正下七一六、兎小一〇ノ四四)

若衆人偶 (續上六七九、還魂)

若菜 (續上二一三、庖丁)

若茄子 (正上三八、北邊一三)

若紫 (正上七七三、圓珠五八)

我宿草 ——自序(正下三五八、我宿一)

跋(正下三七五、我宿二五)

●ワキ

脇草 (正上三三〇、傍廂五一)

脇坂侯 の叡智(正上一一八五、春波一一三)



レサノツト 露相 の信書(正上一一七)

三、春波)

# ●レツ

列次 の事(續中七七六、後松)

列宿 (正上一七四、茶筆五)

劣得 の字義(正上八二〇、昆陽五〇)

烈女 烈母の書(續下一ノ三四〇、燕居)

越後の——(正下六八一、兔小九ノ二六一)

大湊の——(正下一〇三、遊京下三五)

# ●レム

輦 (續上三八八、酣中)(續中七八二、八二

九、後松)

連歌 (正上八四、北邊九三)(正上九一一、

獨語一四——「九」)

——戀物(續上三六三、梅日)

連歌扇 (續下二ノ二二一、柳筆)

連着鞆 (續下一ノ四一五、松竹)

連判 (續中九七一、後松)

蓮如上人 の御筆草(正上七三、北邊七三)

# ●ロ

櫓 と棹(正上七五三、圓珠二三)

# ●ロウ

樓閣 (正下二五三、家屋六五)

樓門 (正下二六四、家屋九〇)

漏刻 (續下二ノ三〇八、柳隨)

婁宿 (續下二ノ三〇八、柳隨)(續下一ノ七

七〇、難江)

弄病 の字義(正上八三二、昆陽七三)

# ●ロキ

露銀 「クワ」貨幣ヲ見ヨ

# ●ロク

六住藏人 (續下二ノ三〇七、柳隨)

六葉 (正下二五四、家屋六八)

六郷橋 (續下二ノ一五五、柳筆)

六歌仙 (正上一五一、南留四七)

六具 (續下二ノ三〇五、柳隨)

六尺 駕夫を——といふ(續上三二四、梅日)

六十四卦 を日に當る事 (續下二ノ三二

# 五、柳隨)

六時禮讃 (續下二ノ三一〇、柳隨)

六僧 (正下七八〇、雲萍四六)

六代御前 (續下二ノ三〇六、柳隨)

六畜 (正上三一三、傍廂二〇)

六町町 (續下二ノ五三三、梅筆)

六條顯季 (續下二ノ三一一、柳隨)

六等田 (正下三一七、續見三六)

六德牒記 (正下七七三、雲萍三三)

六波羅 (續下二ノ三一二、柳隨)

六波羅寺 —の額(正上一〇二二、茅窓

一九)

六曜 —日どり(續下二ノ三〇四、柳隨)

綠苔 (續中九九八、後松)

轆轤首 (續下一ノ五一、閑耕)(續下二ノ

三〇六、柳隨)

# ●ロシ

呂子義 (正上八六三、昆陽一三〇)

# ●ロセ

盧生が夢 —の事(續上六四三、れさめ)



禮儀 下より——を作る（正上一二六、南留

三）

士人の類禮（正上二二——二六、獨語三六

——四三）

路を譲るの——（續下一ノ一七七、閑次）

禮儀類典 ——序（續上一二〇、年山）

禮法（續中八五〇、後松）

禮服（續中六一〇、後松）

——冠（續上四〇六、酣中）

——等古物追考（續上一七四、錦所）

女帝及童帝の御——（續下一ノ四五五、松

竹）

御——之外不出入朱雀羅城等門事（續上一

七、錦所）

田舎女の——（正上一四二、南留三一）

靈空 ——といふ僧に二人あり（正下六九〇、

兎小九ノ二七六）

靈驗 尾端串浦社の——（續下一ノ二五、閑

耕）

靈元院 ——疫癘和歌の事（正下九一八、閑

窓四）

知食大變事（正下九一八、閑窓五）

靈夢 「ユメ」夢ヲ見ヨ

醴泉（正上三六三、傍廂一〇七）

冷泉爲綱 の苦吟（正下九七二、大海一五）

冷泉流（正下一〇四八、消閑二五）

令條 の書新古の差異（續上五二〇、蒼梧）

令法（續上五五九、織錦）

恰野集（續下一ノ八〇五、難江）

●レウ

蓼太 俳人雪中庵——の逸事（正上九五、假

世四八）

了然尼（續下二、四九〇、柳墮）

療法 錢を吞みたる時の——（續下一ノ一七

〇、閑次）

毒蛇の噛みたる時の——（正下九九〇、多

波二三）

蜂に刺れたる時の——（續下一ノ一七一、閑

次）

針を吞みたる時の——（續下一ノ一七〇、閑

次）

蛇の毒を消す——（續下一ノ一七〇、閑次）

まむしに刺れたる時の——（續下一ノ一七

一、閑次）

蜈蚣に刺れたる時の——（續下一ノ一七一、

閑次）

虫耳の穴に入りたる時の——（續下一ノ一

七〇、閑次）

雷に震死の時の——（續下一ノ一七一、閑

次）

「チレ」治療ヲモ見ヨ

料理 柳に鞠、雪に銜といふ——（續下一ノ

一六三、柳筆）

料理茶屋 の沿革（正上二二〇三、蜘蛛二

〇）

——の事（續中二三四二、いそ山）

●レキ

曆林問答 といふ書（正下三三一、續昆六

三）

●レサ



## ●リケ

—と道理との辯(正下二〇、梅叢二〇)

## 李崎雜詠

(續下一ノ六〇七、難江)

## 俚諺

(正下一一八、世事三)

## ●リツ

## 立志

(續上一〇三、年山)

## ●リテ

## 里程

(正上一八〇、茶筆二四)

## ●リム

## 鱗角筆

(續下二ノ四八六、柳隨)

## 輪鼓

(續中五七四、骨董)

## 輪囷

(續下一ノ七〇七、難江)

## 綸言

—如汗(續上三七九、醋中)

## 龍膽

(續下二ノ四八五、柳隨)

## 客齋

(正下八七五、花月七二)

—と儉約(正下三八、梅叢六〇)

## 林和靖

(正下四三二、畫譚三〇)

## ●リヤ

## 諒闇

(續中九五九、後松)

## 良友

僧—か強記(續下一ノ三六、閑耕)

## 良家

(正上一五三、南留五一)

## 良雪

(續中一〇八七、近世)

## 良暹法師

の歌(續上二六二、梅日)

## 領家

(續上八八〇、松落)

## 領玄寺

日長山—(續上二〇五、南向)

## 令義解

の論(續中九二〇、後松)

—缺本考(續中一二八、比古)

## 兩國橋

—畔の景況(正上二三四、都手)

(三)

## 梁年

(續下二ノ四九〇、柳隨)

—と云ふ考(續下一ノ三九〇、燕居)

—の義、當—(續上二五六、梅日)

## 略領

「ラク」落首ヲ見ヨ

## ●リヨ

## 龍

「リウ」龍ヲ見ヨ

## 旅行

「タヒ」旅ヲ見ヨ

## 旅宿

(續中一三三六、いそ山)

## 旅人

(續中一三四二、いそ山)

## 綠林

「タウ」盜賊ヲ見ヨ

## 呂后

—千夫の相(續下一ノ六七九、難江)

## ●リリ

## 驪龍珠

(正上七一二、桂林五五)

## 哩々囉々

(續下二ノ四九二、柳隨)

## ●ルイ

## 類聚國史

—考(續中一三一、比古)

## 類聚名義抄

の古抄本(正下九三、並京下)

## 一八

## ●ルシ

## 婁宿

(續下一ノ七七〇、難江)(續下二ノ三)

## 〇八、柳隨)

## ●ルス

## 留守所

(續下二ノ五一三、梅筆)

## ●ルリ

## 瑠璃

(正上八二九、昆陽六七)

## ●レイ

## 禮籛

(續上四〇四、醋中)

裸體 裸形の圖(正上二二三、茶筆六九)

●ラチ

らちもなき といふ事(續中六八九、後松)

●ラテ

螺鈿 (續上五六七、織錦)

●ラフ

蠟 僧家に用ふる一の字(正上八八二、昆陽  
一六四)

蠟樹

(正下三〇六、續昆一七)

●ラヘ

ラヘイカ といふ樂器(續下一ノ四八七、筠  
庭)

●ラム

蘭 一花譜(正上二〇〇八、鋸屑四〇)  
一の名(正上一四〇、南留二七)

爛柯

の故事(正上六三六、善庵二)

亂曲

一又亂舞(正上一六一、南留六四)

亂世

世亂のもと(正下九七七、多波一)

世の中の亂るゝ始(正下九八二、多波一〇)

勇猛なる人は一の實(正下九九七、多波

三五

藍尾

(續上二二、年山)(續上一六八、錦所)

一の字義(續上三一〇、梅日)

●リウ

龍

一骨(正上八八〇、昆陽一六一)

一畫(正下四一九、畫譚七)

龍雲禪師

のいへる事(續上八四四、松落)

龍宮

の糸卷(續下一ノ五二〇、筠庭)

龍華寺

駿州一の庭(正上四六四、玄同  
上四三)

上四三)

龍燈

一全國(正上四七七、玄同上六五)  
(續下二ノ四八七、柳隨)(正上九一七、  
輜軒三三)

輜軒三三)

龍頭

一鶴首(續下一ノ六三六、難江)

龍尾硯

(續下二ノ四八七、柳隨)

龍尾道

(續下二ノ四八八、柳隨)

龍麟月硯

(續下二ノ四八七、柳隨)

柳芽隨筆

の序(續下二ノ二四七、柳隨)

一の跋(續下二ノ二六六、柳隨)

劉安生

(續中一〇八五、近世)

劉聰

(續下二ノ四九一、柳隨)

劉松年

(正下四三七、畫譚三八)

琉球

一恐西土(正下三一八、續昆三八)

一の小說(正下一五四、世事六五)

一貢使(正上八〇七、昆陽二三)

一使の歌(續下一ノ三四五、燕居)

流行

時々の一一と煙草(正下八一三、雪萍  
一〇〇)

流頭日

(正上六九〇、桂林六)

留獄

(正下三四六、續昆九〇)

隆達節

(續下二ノ七九、足薪)(續下二ノ  
四九五、柳隨)

●リカ

利害

(正下八八三、花月八五)

●リキ

力貪

(續下一ノ三一〇、燕居)

●リク

理窟

(正下八五〇、花月三〇)



●ライ

らいしやう簾 (正上一三一、南留一一)

「ユミ」号ヲモ見ヨ

雷 いかつち、なるかみ(正上七四二、圓珠二)

黄裳賦—公(續下一ノ三八五、燕居)

—公を食ふ(正下三〇一、續昆九)

死後爲—(正上八六五、昆陽一三五)

落雷(續下一ノ四六、閑耕)

—に震死の時の療法(續下一ノ一七一、閑

次)

—齋をとるといふ事(正上一七二、茶筆一)

雷魚 (正上四四八、玄同上二七)

雷鶏 (正上四四八、玄同上二七)

雷獸 (正上四四八、玄同上二七)

—の圖(續下一ノ一七二、閑次)

雷鳥 (正上四四八、玄同上二七)(正上九九

一、鋸屑一三)

越山鵝(正上九〇一、輜軒六)

雷の間 (正下二八九、家屋一三九)

雷除 赤もろこし、青酸漿(正上一二二八、蜘蛛

糸四五)

來迎賣 (續上六九八、還魂)

●ラウ

らうとう の本字(正上一三一、南留一一)

郎 の字(正上一〇五九、茅窓八三)

廊下 (正下二三七、家屋三四)

馬道(續中六八三、後松)(續中四二四、比

古)

廊沓脱 (正下二三六、家屋三二)

朗詠 (正上一七一、獨語二九—三

二)

朗詠集 (續上六四六、れさめ)

老子 の道(正上一一七六、春波)

—の理(正上一八八、茶筆二九)

老衰 (正下八七六、花月七四)

勞症 の祈願夫婦塚(續下二ノ三〇九、柳隨)

狼藉 文化三年正月夜中の物驗(正下五七五、

兎小九ノ七八)

狼狽 (續上三八三、醋中)

牢漚 の義(續下二ノ九三、柳記)

浪人 の廉恥(續下一ノ四二、閑耕)

●ラカ

羅漢 —像(正上六九〇、桂林六)

羅漢洞 曹前園—(正上九一五、輜軒二

八)

●ラク

洛 の字(續上一八一、錦所)

落花生 の種類(正下三五一、續昆九七)

落欵 (正下四三八、畫譚三九)

落首 略頌(正上六九五、桂林一八)

●ラサ

羅齋 (續下二ノ三一〇、柳隨)

●ラシ

羅紗 (正上八一六、昆陽四三)

羅城門 綱—の禁札(正下五七一、兎小

九ノ七二)

●ラセ

羅井女 (續中一〇八八、近世)

●ラタ

七、雨窓二九

——は一萬石の器量(正上六四五、善庵一

五)

●ヨタ

夜鷹

「イウ」遊女ヲ見ヨ

夜鷹

といふ鳥(正上三四)、務廂六六)

依田貞鎮

偏無爲居士(續下二ノ四一一、柳

隨)

●ヨチ

餘地

物事——の大切なる事(正下八六三、花

月五一)

輿丁

の服(續中六五一、後松)

●ヨツ

世繼物語

(續上三一、年山)

四ッ竹

(續下二ノ一八五、柳筆)

四の緒

「ヒソ」琵琶ヲ見ヨ

四ッ谷

の名稱起源(續上一八九、南向)

●ヨト

淀の水車

(正上一二三〇、春波二二)

●ヨネ

米

とコメ(正上七五一、圓珠一九)

米饅頭

金龍山——(續中四七五、骨董)

●ヨハ

よはゝり草

(正上一三八、南留二五)

●ヨヒ

宵

(續上三九一、酎中)

●ヨフ

呼子鳥

(正上一四四、南留一四四)(續中

一〇〇、比古)(續下一ノ二六六、年々)

鳩鳥(正上九八七、鋸屑七)

夜船

(續下一ノ三四五、燕居)

●ヨマ

四間

(正下二七七、家屋一一三)

●ヨミ

讀合

古物渡(正上九一、北邊一〇五)

●ヨメ

嫁が君

(續下二ノ二二九、柳筆)

●ヨモ

與望都

伊勢——(續下二ノ二二五、柳筆)

蓬壺(續上五六六、織錦)

夜もすがら といふ詞(正上七三、北邊七

四)

四方山

といふ詞(續上八三八、松落)

●ヨリ

よりて

といふ事(續上六六五、れさめ)

よりべの水

(續中二四五、比古)

寄掛

(續上三五五、梅日)

寄障子

(續下二ノ五〇九、梅筆)

寄枕

(正上一〇五二、茅窓七一)

●ヨロ

鎧

着——次第(續中八八七、後松)

着初祝文の事(續中六九一、後松)

威毛跋(續中八七二、後松)

着初(續中八二三、後松)

明忠 着初々催(續中八七六、後松)

酒井京兆 着初(續中八七〇、後松)

鐵直垂

(續中八八九、後松)(續上七七二、

松落)



「茄子(續上三三七、梅日)」

「に冥土(續中一〇三八、烹雞)」

「の妙童菩薩の事(正下一〇五一、消閑三二)」

二)

奇——(正下六三三、兔小九ノ一八〇)

行素——常滿(續下一ノ一五九、閑次)

盧生が——(續上六四三、れさめ)

一覺(續上二六一、梅日)

南柯——(續下一ノ三七八、燕居)

「現(正上八〇、北邊八六)」

「はあやしきもの」論(正下一〇四七、消

閑二三)

「は五臓のわつらひ(續上三四三、梅日)」

胸と置手——惡(續下一ノ三八七、燕居)

我不復——見周公(續下一ノ二三八、年々)

算——なりとて事を爲すべからず(正下三八

二、訓淺九)

夢合 (正上三三二、傍廂五三)

夢野 (續上二〇三四、河社)

●ユヤ

湯屋 「フロ」風呂ヲ見ヨ

●ユラ

ゆらのと 和歌に見えたる——の地(續上一

〇五、年山)

●ユル

由留木 の里(正下八〇〇、雲華七九)

餘綾郡 のよみ方(正上一五四、南留五三)

●ヨ

夜 「よ」「よる」「よひ」(正上七四七、圓珠

一〇)

代 世と——との差別(正上五四六、善庵一七)

(續上五〇九、蒼梧)

●ヨウ

ようでう 「フエ」笛ヲ見ヨ

用銀 (正上八四八、昆陽一〇三)

用心 何事によらず——が肝要(正下三七八、

訓淺一)

●ヨク

慾情 財欲(正上一一八二、春波一〇八)

欲は貪、無欲は富(正上一一二一、春波四)

大欲は無欲に似たり(正上一一二九、春波

一九)

●ヨコ

よこざん といふ流行言(續下二ノ二二〇、

柳記)

●ヨサ

預參 (正上一一五六、南留五六)

●ヨシ

蘆 「アシ」を——といふ事(正上一一三八、南留

二五)

吉川惟足 ——が歌(續上七三、年山)

吉野山 の櫻(續下一ノ一〇、閑耕)

吉野山 とい小唄(續下二ノ一七、足薪)

吉原遊廓 吉原の貧編笠(正上九三三、假

世一七)

舊吉原雨中のさま(續中四六七、骨董)

吉原雀 (續下二ノ一五四、柳筆)

吉村又右衛門 井可兒才藏(正上二六

ゆかりの色 (正上三〇五、傍廂七)

「ムラ」紫ナモ見ヨ

糒 (續中六六九、後松)

●ユキ

雪 をハダレといふ(正上七五六、圓珠二九)

—水を肥料とす(正上八一四、昆陽三八)

—墮指(正上一〇五、北邊一二八)

雪に衝 といふ料理(續下二〇六、柳筆)

雪の卒 (正下一三三、世事二九)

雪の古道 紀行 (續下一〇二三、閑次)

行合の空 (續上一〇二八、河社)

●ユケ

之 といふ字(正上八一五、昆陽三九)(續上

二三三、梅日)

●ユケ

弓削道鏡 を弓削法皇といへる事(續中七

一九、後松)

●ユシ

湯嶋 本郷 (續上一九五、南向)

由旬 (續上九四、年山)

●ユス

柚 の漬様(正上八四、北邊九三)

●ユツ

ゆづ といふ詞(正上八四、北邊九二)

●ユテ

弓手 矢手(正上九八四、鋸屑二)

●ユト

湯殿 (正下二五二、家屋六四)

由土利 (續上九一七、河社)

●ユナ

湯女 「フロ」風呂ヲ見ヨ

●ユフ

木綿 (續下一ノ六八、閑耕)

夕 と朝と(續下一ノ二〇三、年々)

夕顔 源氏物語——覆屋(續下一ノ五七六、難

江)

夕ざれば といふ詞(續下一ノ二五〇、年々)

夕立 と雪と(正上九八〇、閑秋二六)

夕月夜 (續下一ノ六一、難江)

夕附日 (續下一ノ六一、難江)

夕豆都 (續下一ノ二、閑耕二)

湯船 (正下二五二、家屋六四)

●ユマ

湯卷 (續上八一八、松落)

●ユミ

弓 をタラシヌアツサと云ふ(正上七五八、圓

珠三二)

—の握を巻様(續中六一七、後松)

他人の弓を見るを斟酌すべき事(續中六〇

一、後松)

石 (正上七〇一、桂林三一)

槻 (續下一ノ六七、閑耕)

弓立 (續上九六九、河社)

弓町 本郷 (續上二〇三、南向)

弓の間 (正下二八八、家屋一三七)

弓矢 を調度といふ事(續中六〇二、後松)

弓矢取 の稱(正上一五五、南留五五)

●ユメ

ゆめ といふ詞(續上二九三、梅日)

夢 をかべといふ(正上七三七、圓珠五一)



山橘 (正上四九一、支同下一六)(續上八八、

年山)(續下一ノ六六九、難江)

山多和 (續上九〇八、河社)

山祇 (正上七八二、圓珠七四)

山鳥金太夫 (續下一ノ五四五、筠庭)

山猫 虎を——といふ(正下一八〇、世事一

一〇)

山のかひ といふ詞(續中一ノ三七〇、燕

居)

山人 (正下八八八、花月九五)

山姫 (續上二四四、梅日)

山吹 榊棠花(正下八九〇、花月九八)

河瀬——(續上一〇二〇、河社)

山吹の里 (續上二〇四、南向)

山邊赤人 (續上二九、年山)

山牡丹 (正上四九一、支同下一六)

山女 (續下二四四、梅日)

山守 (續上八八八、松落)

山本晴幸 の明眼(續上三五八、傍廂九八)

山百合 をサキといふ(正上七四九、圓珠

一五)

大和小學 (正上二〇一、世事四九)

大和物語 (正上九二七、河社)

倭歌 (續上七六〇、圓珠三六)(正下八四一、

花月一五)

倭建命 の名の唱(續中五七、比古)

倭日向氏日向彦八綱田 の名の唱(續

中五九、比古)

●ヤム

やんちや坊 (續下二ノ二七、足薪)

●ヤモ

守宮 (正上三九三、傍廂一五八)

●ヤヨ

やよ といふ詞(正上三一九、傍廂三〇)

●ヤラ

やらぬ といふ詞(續上五六五、織錦)

野郎 男子を——といふ(續下二ノ九七、柳

記)

●ヤリ

鎗 (續中六〇一、六三三、後松)

一の根源(續中四四二、比古)

一の由來(正上一〇五八、茅窓八一)

鯨尾(正上三四八、傍廂八〇)

一の名義と時代(正上三二二、傍廂四七)

一を持せ召具する事(續中六〇一、後松)

鎗の間 (正下二八五、家屋一三一)

遣戸 (續中六八五、後松)

遣水 (正下二四八、家屋五五)

●ヤレ

破續薄様 (續下一ノ四五四、松竹)

●ユア

湯淺常山 (元祿)のかける書を見て思へる

う(續上八四三、松落)

●ユイ

維林禪師 の詩(續下一ノ三九三、燕居)

●ユウ

雄略天皇 の皇后(續上八五、年山)

●ユカ

柳瀬美仲 歌人——(正上四〇〇、泊々一)

柳樽 (續下一ノ五一六、筠庭)

柳に鞠 といふ料理の名(續下二ノ一六三、

柳筆)

柳の花 龍爲樂大路(正上一〇八、北邊一

三三)

柳橋 考(正上三八七、傍廂一四八)

柳原家 紅梅古樹事(正下九三〇、閑窓

二六)

書府の事(正下九三〇、閑窓二七)

天明火災後小佛數多現れし事(正下九三一、

閑窓二九)

中筋敷地の事(正下九三一、閑窓二九)

に盲女を入れざる事(正下九三〇、閑

窓二六)

猶靈神事(正下九三〇、閑窓二六)

念誦堂の事(正下九三〇、閑窓二五)

柳を植る事(正下九二九、閑窓二五)

柳原光綱 牡丹を愛す(正下九四三、閑

窓五〇)

胡籐 「エヒ」瓶ヲ見ヨ

●ヤネ

家根 (續中六八四、後松)

●ヤノ

石磐石 (正上八二六、昆陽六一)

●ヤハ

鉄掃帚 (續下一ノ七〇七、難江)

●ヤフ

藪 といふ名(正上七八六、圓珠八二)

流鏑馬 問答(續中七六四、後松)

●ヤヘ

八重櫻 (正上七七三、圓珠五七)(續上一

一〇、年山)

「サク」櫻ヲモ見ヨ

●ヤホ

やば といふ俗語の本字(續下一ノ二五〇、年

々)

八百日集 の話(正上四二三、泊々四〇)

八百屋お七 の實説(正下二二六、世事一

六)

の歌舞伎(續上七〇〇、還魂)

○ヤマ

山 といふ語の意(正上一三八、南留二四)

山あみ染 (正上二八八、雨窓六一)

山岡俊明 明阿彌の傳(正上九二五、假世

四)

一生不寐の話(正上四一八、泊々三二)

山鹿素行 の歌(正上九四二、假世三二)

山口 といふ牡丹(續下二ノ一五八、柳筆)

山國川 豐後の——の勝景(正上二二〇、

茶筆八一)

山崎闇齋 の嚴格(正上九五二、假世五二)

山崎龍女 (續中一〇八四、近世)

山下廣内 の上書(正下一〇七一、梧拾九)

山城國 はヤマキの國と云ひたりし事(續

上七五五、松落)

山菅 (續上八七、年山)

山田龜子 (續上九二、年山)

山田のおしね (續下一ノ七四三、難江)

山田の曾富騰 (正上六六、北邊六一)



ノ一五五、閑次

厄年 (續上四八七、蒼梧)

疫病 (正上一二〇四、蜘蛛三二)

疫病神 (正上一〇七四、茅窓一〇八)

送疾鬼(續上二七三、梅日)

夜光壁 (正上五六、北邊四五)

●ヤコ

矢聲 (正上九九一、鋸屑一三)

●ヤサ

やさしき うつくしき(續上八一、年山)

●ヤシ

屋敷 (正下二九〇、家屋一四〇)

爺嬢 の石像(續下一ノ三一、燕居)

鐵 石(正上三三五、傍廂五八)

鐵石 石簪(正上八二六、昆陽六一)

社 (正上一五一、南留四七)(正上七七七、圓珠六三)(續下一ノ八、閑耕)

「シム」神社ヲモ見ヨ

屋代弘賢 弘法大師——を論ず(正上一二

五二、後言四一)

●ヤス

泰姬 徳川光圀の室——の詩歌(續上八九、一〇四、年山)

●ヤセ

瘦ッぽち ヤセ法師(續下二ノ二九、足薪)

●ヤリ

耶蘇教 天主教の禁(正下一〇二八、多波八六)

天主教破られて佛法自ら滅却す(正下一〇九五、梧拾四九)

切支丹懼るべきにあらず(正上一一七三、春波九三)

●ヤタ

家臺店 (續下一ノ五二四、筠庭)

矢立 (續上二四〇、梅日)

八咫鏡 (續上三八二、醋中)

「サン」三種神器ヲモ見ヨ

●ヤツ

奴 (續上八二九、松落)

一なヤツコと訓ず(續下一ノ三三四、燕居)

奴詞 ——、六法詞、奴俳諧(續下二ノ四二、足薪)

奴の小萬 (續中一〇八八、近世)

八橋 三州——(續中三九八、比古)(續下一〇八、閑次)(續下一ノ二五、閑耕)

八花前鏡 (正上一二二、北邊一五五)

●ヤト

宿引 (續中一三四〇、いそ山)

寄生木 なボヤ又ホヨといふ(正上七四六、圓珠九)

●ヤナ

柳箱 (正上九八六、鋸屑五)(續上八八七、松落)(續下二ノ五二五、梅筆)

柳 の木(正上一四四、南留三四)

堤の——(續上八四二、松落)

一に數種ある事(正上二二四、茶筆七〇)

御(正上八九四、昆陽一八四)

一のいとなみ(續上一〇一七、河社)

一枝貫魚圖(續下二ノ四九〇、柳隨)

柳澤淇園 (續中一〇八一、近世)

もやし 野菜瓜蔬類の——(續下一ノ三八)

八、燕居)

母屋 (正下二三一、家屋二二)(續上八四六、

松落)

模様 丸づくしの——(續中五〇六、骨董)

判し物——(續下一ノ五三五、筠庭)

●モリ

杜 の字(續下一ノ八、閑耕)

森川許六 (續中一〇八八、近世)

護良親王 (正下九四九、人名五)

●モロ

もろ歌 (續下二ノ五三三、梅筆)

もろた船 (正上七五七、圓珠三一)

諸かつら 二あり(正上七七一、圓珠五

五)

諸江仁右衛門 (正上九四〇、假世三〇)

諸差繩 (續下一ノ四二五、松竹)

諸白 (正下八三九、昆陽八八)

●ヤウ

洋 の字義(正上八四〇、昆八八九)

羊角風 (續下一ノ一〇六、閑次)

羊羹 (正上六六四、善庵四八)

養玉院 (續上二〇八、南向)

養子 (續中六六二、九八一、九八三、後松)

罽——(正上一二六、南留四)

養仙院 (續上八五、年山)

養老瀧 (續上六二八、ねさめ)

陽九陰六 (正上八二五、昆陽六〇)

陽溝 (續上一ノ四一〇、燕居)

楊枝 猿屋の——(續下二ノ二三二、柳筆)

別齒織(續下一ノ三六五、燕居)

楊柏民 (續中一〇八五、近世)

楊名介 (正上九四九、假世四五)(正上六

七、北邊六三)(續上六五八、ねさめ)(續

上七九、年山)

夜雨亭 (續下一ノ三七〇、燕居)

●ヤカ

屋形 (正下二七五、家屋一〇九)

——といふ文字(續上八九〇、松落)

野干 狐を——といふ(正上一五六、南留

五六)

●ヤキ

やきもち 嫉妬を——といふ(續下二ノ二

二六、柳筆)

野氣 (正上八八二、昆陽一六四)

●ヤク

やく といふ俗語(續下二ノ二二六、柳筆)

藥醫門 (正下二七八、家屋一一四)

藥師 (續上三八四、酣中)

——堂(正上二四二、都手一七)

——の縁日(正上一五〇、南留四六)

宵、夕 (續下二ノ二三七、柳筆)

下野國 (正下一三八、世事三八)

樂珎布 (正下三五三、續昆一〇二)

樂籠 (續下一ノ五二九、筠庭)

樂玉 (續上三五九、梅日)

譯語 (正下一〇二六、多波八三)

譯文笠蹄 に臨寫摹寫の義を衍る(續下一



和漢同義の——(續下一ノ六四、閑耕)

物吉 (續下二ノ五〇九、梅筆)

●モヒ

もひ 水な——といふ(正上七五四、圓珠二五)

盤な——又まりといふ(正上七六〇、圓珠三五)

モトリ

主水司 (正上七五四、圓珠二六)

●モフ

喪服 いろといふ物(續下一ノ二七一、年々)

●モミ

紅葉 といふ詞(續下一ノ七三九、難江)

の詞(正下七九七、雲萍七三)

品々(續下一ノ二〇二、年々)

爲媒妁(續下一ノ七七五、難江)

●モム

門 韓一井圖(正下二六二、家屋八四)

——を閉るは忌はしき事(續中八九二、後松)

門院

——號の事(續中六九二、後松)

門下

——といふ字(正下三八四、訓淺二一)

門戸 (正下二六二、家屋八三)

門戸具

——種々(正下二六五、家屋九二)

門子

の字義(正下三四一、續昆八二)

紋

薄金の——(續下二ノ一二七、柳記)

輪寶(續下二ノ四九二、柳隨)

多遲氏用虎枝——因縁の事(續中七一三、後松)

松

文覺上人

——荒行の畫(續下一ノ二五七、年々)

年々

文字

(續中一二二、天朝)

——を省くならばし(續上五三七、織錦)

の位置(正下一〇二五、多波八一)

硯の面に——を書く事(續中六二〇、後松)

の五品(正上九五、北邊一二二)

阿蘭陀——(正上八一〇、昆陽三〇)

からざまにかきたる——の讀やう(續上七六七、松落)

六七、松落

外國にて作れる——(續下一ノ九七七、閑耕)

文章得業生

(續下一ノ四四〇、松竹)

問答

——と論議の別(正上一二八、南留六)

問註所 (正下二七七、家屋一二二)

文德實錄

の誤説(續中一〇五七、亭雜)

主水

の訓(正上一三五、南留二〇)

匆

の字(續上三五七、梅目)

——の字義(續上四二七、蒼梧)

●モメ

木綿 (正上一一六〇、春波七一)

●モモ

桃

の木邪鬼を避く(續上九一一、河社)

桃園天皇

の御學問(正下九二二、閑窓一三)

三

——の御翰事(正下九二三、閑窓一三)

——恩顧の事(正下九二三、閑窓一三)

百敷

といふ歌語(續下一ノ二四二、年々)

大内を——といふ(正上七五七、圓珠二九)

百千鳥

といふ物(正上七四七、圓珠一二)

(續下一ノ六六、閑耕)(正上一〇三九、茅窓四九)(續上八〇、年山)(續中四二一、比古)(續下一ノ六六八、難江)

比古(續下一ノ六六八、難江)

比古(續下一ノ六六八、難江)

●モヤ

木牌 (正上九〇八、轆軒一七)

目代 (正上一五六、南留五六)

●モシ

文字 「モン」文字ヲ見ヨ

●モス

鴟 百舌鳥(正上一〇三九、茅窓四九)

一の異名(續上九一七、河社)

鴟の草莖 (正上一二〇、北邊一五四)(續上二四四、年山)

●モセ

もせ 野庭等の——といふ詞(正上

八七、北邊九八)

●モタ

もたぐ——といふ詞(正上七八四、圓珠七七)

もたひ浦——考(續下一ノ二二、閑次)

●モチ

もちの木坂 (續上二〇〇、南岡)

餅——をカチンといふ(正上二八〇、雨窓五

一)(續下一ノ九五、閑耕)

鏡(續上八八五、松落)

小兒載——略式(續上四九〇、蒼梧)

一粥枝(續中七八五、後松)

餅花 目黒の——(續中四七七、骨董)

餅屋 の木馬(續下一ノ五二一、筠庭)

辰摺——石(正上一〇五五、茅窓七六)

しのふ——(正上五一、北邊三六)(正上七二

八、細道八)(續下二ノ一一〇、柳記)

しのふ——のもちの事(續上五五二、織錦)

望月玉蟾 (續中一〇八一、近世)

●モテ

玩具 輪鼓(續中五七四、骨董)

●モト

木居宣長 海野幸典——を語る(正上二二

三四、後言九)

元結 文七——(正下一九二、世事一三二)

——、文七——の名義、はね——(續中一二

〇八、歴世)

●モノ

もなかの月 (續上八五、年山)

●モノ

ものか——又ものとはいふ詞(續上七九

五、松落)

ものゝふ さむらひ(續上八六九、松落)

ものゝふの八十氏(正上一四五、南留三七)

ものゝふのやたの——(續上一〇三一、河

社)

物 物頭、物前などの——の意味(正上一五〇、

南留四七)

物 は兩全ならず(正上一二一九、春波二)

物争 (續下一ノ五九五、難江)

物忌 (正上三九七、傍廂一六七)

物頭 者頭(續上一六九、錦所)

物語 古——(正上四八、比邊三二)

——草紙の類を見るべき心得(續下二ノ五

二五、梅筆)

——文の詞(正上七〇、北邊六八)

物の上手 (正上七〇、北邊六九)

物の名 (續上一五、年山)

——相あたらぬもの(正上一三九、南留二

五)



めざし といふ小兒の髪(續中一一五四、歷

世)

垂碧と——と同じ(正上七五九、圓珠三四)

「カミ」髪ヲモ見ヨ

●メシ

めしうど 昔の妾の事を——といふ(續上

八三〇、松落)

飯 買(正上八一五、昆陽三九)

栗(正上四九、北邊三三)

小漬(續下二ノ五一六、梅筆)

飯釜 の贅(正下七七〇、雲萍二九)

飯櫃 からかれの——(續下二ノ一一六、柳

記)

飯盛 (續中一一三三九、いそ山)

目白 の名由來(續上二〇五、南岡)

●メタ

馬道 「ラウ」廊下ヲ見ヨ

●メツ

珍らしき事 (正上五三、北邊四一)

●メテ

めてたし ．かたじけなく、かしくの義(正

上一四四、南留三六)

馬手刺 (續中六〇六、九〇〇、後松)

「タウ」刀劔ヲモ見ヨ

●メト

めとにけつり花 (續中四二四、比古)

●メヌ

眼貫 (正上九八五、鋸屑三)

腕ぬき(續下一ノ四九〇、筠庭)

●メミ

目見 御移替ニ付御——(續中一二二九、遊

藝)

●メム

免官 見當、見免、見當免、免所居官(續下

一ノ八一三、難江)

面廊 (正下二八九、家屋一三八)

●メラ

めらう といふ詞(正上一三八、南留二四)

●メレ

馬寮御監 (續上三八八、醋中)

○モ

裳 (正上八二九、昆陽六七)

上下一の辯(續下一ノ五七二、難江)

喪 中の事(續中八九五、後松)

一解(續下一ノ二〇五、年々)

●モア

茂庵白 といふ牡丹(續下二ノ一五六、柳

筆)

●モウ

蒙古 (正下三〇一、續昆九)

●モカ

帽額 引様の事(續上一ノ四三〇、松竹)

布の——(續下一ノ二二一、年々)

最上川

●モク

木香花 (正上八九四、昆陽一八四)

木魚 といふ佛具(正下一四七、世事五四)

木像 起原(續下一ノ三八七、燕居)

村井春壽

(正上九四八、假世四三)

村田春海

の譏話(正下三九八、訓淺三四)

——萬葉評言(正上四二一、泊々三七)

織錦齋遇吟五十概圖速吟(正上四二一、泊

々三八)

織錦齋三傑を評す(正上四二二、泊々三九)

村田龍亭

(續中一〇八六、近世)

村松喜兵衛

の辭世(正下一三、梅叢一八)

紫

(正上一〇七、茅窓一〇五)

ゆかりの色(正上三〇五、傍廂七)

紫根(續下一ノ二六八、年々)

紫色問答(續中七一九、後松)

紫式部

(續上八三、年山)

——の見解(正上八二、北邊八九)

紫水

と赤菟(續下二ノ一〇一、柳記)

紫の一本

(續中三八二、比古)

連

(正上五二六、玄同下七四)

ムロ

ひろのをしね　むろのたれ、むろのはや

わせ(續下一ノ七四三、難江)

室咲の花

(續上五四八、織錦)

室の木

(正下三二七、續見五六)(續下一

ノ六六九、難江)

室の八島

(正上七二五、細道二)(正上九

九一、鋸屑二)(續下一ノ一〇八、閑次)

●メ

眼

「め」と「まな」、「正上七四四、圓珠六)

●メイ

名士

享和初年に死せる——(續上五四三、織

錦)

名刺

名紙(正上八六六、昆陽一三七)

名物

延寶頃江戸の——(正上九三一、假世

二四)

迷信

朔日器の敗るゝを忌む(續下一ノ三六

六、燕居)

よりべの水(續中二四五、比古)

命世才

孟子書題——(續下一ノ三七三、燕

居)

●メウ

妙圓

——尼井——石地藏圖(正上五七二、玄

同下一四六)

妙立和尚

の傳井詩歌(續下一ノ一六六、閑

次)

茗荷

(正上三一四、傍廂二一)

夫婦塚

勞症祈願——(續下二ノ三〇九、柳

隨)

草馬

(續上一五九、錦所)

●メカ

目隠葺

(正下二五七、家屋七五)

牝瓦

(正下二五七、家屋七一)

●メク

めぐり

菜を——といふ(續上三四〇、梅

日)

めぐる法師

(續下二ノ二九、足薪)

目比へ

「ニラ」にらめくらチ見ヨ

目黒

——新寺(正上一一三〇、春波二二)

目黒餅

(續中四七七、骨董)

●メサ



武藏鏡 續中一四七、比古)

——さすが(續下一ノ六七、閑耕)

武藏野 (續上六三七、れさめ)

武佐升 「マス」樹ヲ見ヨ

●ムシ

蟲 なうじともいふ(正上七四七、圓珠一〇)

蟲屋の——(正下八六四、花月五四)

——を捕ふる法(續下一ノ一七二、閑次)

植物の——(正上三六八、傍廂一一五)

——耳の穴に入りたる時の療法(續下一ノ一

七〇、閑次)

虫の巢 (正上九〇三、轡軒八)

虫のたれ絹 (續中五七二、五八六、骨董)

(續下二ノ二八、柳記)

虫除 齋を行燈につりて——とす(正下一八

二、世事一一三)

無盡 頼母子(正下一九三、世事一三三)

武者小路實陰 の咏歌(正下九七四、大海

一七)

武者所 (正下二七七、家屋一一一)(正上

一六〇、南留六四)

寧 の字をムシロと訓む論(續中六六、比古)

薙 一種々(續中六七一、後松)(續上八四八、

松落)

●ムス

むすこ ——又むすめといふ詞(續下一ノ

五七一、難江)

むすびの神 (續下一ノ五七一、難江)

結び文 (正上一四九、南留四四)

●ムチ

鞭 の取柄(續下一ノ四一六、松竹)

——の取柄包様(續下一ノ四三四、松竹)

無住法師 の歌(正上三八四、傍廂一四二)

●ムツ

陸奥 (正上一三三、南留一五)

——郡數考(續中二九三、比古)

——人の愚直(正上一一五八、春波六八)

陸奥 考(續下一ノ五六九、難江)

六の緒 「コト」琴ヲ見ヨ

●ムテ

むてつばう といふ詞(續下三ノ二八、柳記)

●ムナ

棟上 ——の式并真如堂縁起——圖(續上二

八三、梅日)

棟瓦 ——古圖(正下二五七、家屋七一)

棟門 (正下二六二、家屋八四)

●ムニ

無人島 (正上九〇四、轡軒九)

●ムネ

棟上 「ムナ」棟上ヲ見ヨ

胸の守 昔女の——(續下一ノ五一三、筠

庭)

●ムヘ

牟倍 といふもの(續下一ノ六五、閑耕)

●ムミ

無名抄 ——後撰の沙汰(續上一〇一四、河

社)

●ムラ

村 を名と云ふ(續下一ノ三〇、閑耕)

——の戸數(正下三〇四、續昆一五)

宮 (正下二二、家屋二)

宮木 (正下二あり(正上七六三、圓珠四一))

宮人 (續上九六七、河社)

宮本武藏 (續中一〇九〇、近世)

明阿法師 (墓(續上六〇一、織錦)

明神 (續下二ノ五三二、梅筆)

名神と (續上八二二、松落)

明善堂討論記 (正下六八三、兎小九ノ二

六五)

冥加 (續下一ノ八二六、難江)

名田 (續下一ノ一五九、閑次)

名目 (の事(續下一ノ八一九、難江)

名聞 (を好む僧の罪(續下一ノ一七四、閑次)

三燒野 (續下二ノ二二六、柳筆)

三宅石庵 (の鶴學問(正上九四九、假世四五)

都 (遷(捷見(續下一ノ五五七、難江)

都のつと (といふ事(續上八九二、松落)

都鳥 (續上二一九、年山)

造 (正上五三〇、玄同下八〇)

風雅 (正下八三九、花月一二)

●ミヨ

三善清行 (の訓(續下一ノ四〇、閑耕)

の尺牘評(正上五二一、玄同下六五)

三好正慶 (續中一〇八八、近世)

●ミロ

彌勒 (といふ年號(正上九三二、假世一六)

●ミワ

三輪山 (を御諸山といふ(正上七五二、

圓珠二一)

●ムカ

向火 (の解(正上七〇五、桂林四〇)

昔 (の世は諸事すぐれたる事(正下八七二、花

月六八)

の威儀(續中四六三、骨董)

の人の質朴(續中四六三、骨董)

蜈蚣 (をむかてといふ(正上五七、南留五七)

と毘沙門(正上九八八、鋸屑九)

に刺れたる時の療法(續下一ノ一七一

閑次)

●ムキ

無木 (續中五〇九、骨董)

麥 (正上八三九、昆陽八七)

賜一種(正上八三三、昆陽七五)

一節(正上八三四、昆陽七七)

麥粉 (の餅(正上九七五、關秋一七)

麥飯 (にうむ(正下八一二、雲萍九九)

牟義都首 (汲水(續上一五八、錦所)

●ムク

無官大夫 (正下一〇一八、多波六九)

●ムコ

智 (の字(續下一ノ三三五、燕居)

養子(正上一二六、南留四)

といふ詞(續下一ノ五七一、難江)

●ムサ

鼯鼠 (といふもの(正上九八七、鋸屑六)

武藏國 (二十四郡と云ふ事(續上一九

七、南向)

武野古戰場記(正下八〇三、雲萍八三)



三)

源爲朝

の祠(正上九九七、鋸屑二二)

源範賴

の墓井東光寺蒲樓(正上六一八、玄

同下二一九)

源義家

將士の心を勵す(正上五一三、

玄同下五二)

源義經

の改名(續上一八一、錦所)

の祠(正上九九七、鋸屑二二)

の笈(正上七一三、桂林五七)

敵を知て味方を知らず(正下三六九、我

宿一六)

の反齒(正上三八六、傍廂一四七)

義經記(正上一八五、茶筆二三)

源義朝

が父を弑せし餘殃(續下一ノ四三、

閑耕)

源賴朝

の一族(續下一ノ四三、閑耕)

殘墨(正上六九二、桂林一一)

の文(正上一四二、南留二九)

源賴政

上(續上一二〇、年山)

●ニシ

峰立和

奇人——(正上一一四八、春波五

二)

●ニノ

菱

(續中九〇二、後松)

——問答(續中八〇三、後松)

美濃紙

(續上一八三、錦所)

美濃の家苞

の難(續上六〇二、總錦)

——の誤解(續下一ノ三二九、燕居)

身の分

安分無求(續上五〇、年山)

安限知止足之道の教(正下三九六、訓淺三

一)

分限相應こそ長久の術といふ説(正下二〇、

梅叢三〇)

●ミフ

壬生

といふ事(續上六一九、ねさめ)

壬生忠岑

の墓(正上一二九、南留八)

三淵大和守

が事(正上二九〇、雨窓六七)

●ミミ

耳

のさとなる藥(正下八五八、花月

四四)

耳塚

——垢解墨沫(續下一ノ三四〇、燕居)

次)

耳の垢取

(正下五一、兎小八ノ一〇五)

(續中四七七、骨董)

耳はさみ

(正上一〇四、北邊二二六)

耳環

(正下四二三、畫譚一四)

蚯蚓

——鳴かず(續上二五六、梅日)

蚯蚓書

(正下一九六、世事一三七)(續下

一ノ三二三、燕居)

●ミム

明

——朝米穀の量(正上一六二、南留六七)

民夷

(續下一ノ五五、閑耕)

民家

(正上八六一、昆陽一二六)

民部省圖帳

(續中二八三、比古)

振子

の義解(正上八二九、昆陽六八)

三室

(續下一ノ六九〇、難江)

●ミモ

みもる

水番(正上七八四、圓珠七七)

●ミヤ

彌陀 — 名號印(續上二七七、梅日)

— の手糸(正下一四五、世事四九)

三谷五平 (續中一〇九〇、近世)

靈のふゆ 又みたまふりといふ事の考(續中四三四、比古)

御手洗川 の名(續下一ノ六八三、難江)

●ミチ

道 造(正上八三一、昆陽七一)

道の師 (正上五二六、玄同下七四)

陸奥 「ムツ」陸奥ヲ見ヨ

御帳 (續中六八四、後松)

●ミツ

みつはくむ — 「みつはさす」といふ詞

(續中一五四、比古)

水 — なもひといふ(正上七五四、圓珠二五)

權(正上八六九、昆陽一四三)

水滴 (續中一三〇六、天朝)

水鏡 — 解題(續中一三四、比古)

水莖 筆を — といふ(正上七四四、圓珠五)

ふみな — 又玉梓といふ(續中一二七四、天

朝)

水潜 (正上九二九、假世一一)

水草 に紛はしきもの(正上三六九、傍廂一

一七)

水谷琢元 碁の能手 — の嚴正(正上九四

五、假世三九)

水足平之允 の奇才徂徠を驚かす(正上九

五一、假世四九)

水帳 は御圖帳なり(正上一三一、南留一二)

水手 (續中一二六四、天朝)

「アミ」蘆手ヲ見ヨ

水鳥 小さき — (續上五三二、織錦)

水の行方 の跋(正上九四五、假世三八)

水船 (續下一ノ五三九、筠庭)

瑞籬 (正上七五一、圓珠一九)

瑞穂國 といふ名(正上八二一、昆陽五一)

三がひとつ といふ事(續上七九、年山)

三日坊 (續下二ノ二八、足薪)

三ツ物 — 四つ物七つ物等の事(續上四

八〇、蒼梧)

躬恒集 (續上九三一、河社)

滿ればかくる といふ事(正上一一八〇、

春波一〇五)

●ミテ

みての宮 (正上五九、假世六四)

●ミト

みとのまくはひ といふ詞(正上一四二、

南留三一)

●ミナ

みなしご草 (續上九一七、河社)

南方刀美神社 — 二座考(續中五九、比

古)

南庭 (正下二四五、家屋四九)

南の星 (續上五四九、織錦)

湊田 (續上九六八、河社)

水無川被 (續上一四二、年山)

三七日 の法事(續下二ノ五二七、梅筆)

源實朝 の眞影(續下二ノ五二八、五四二、梅筆)

— 大船を造りし事(正上一九七、茶筆四



記

三浦義明 三浦大介戦死の歳(續下一ノ四)

三、閑耕)

●ミオ

みを といふ詞(續中六四、比古)

漆標 (續上一五、年山)(續下一ノ一六二、閑

次)

●ミカ

みかど 「テン」天皇ヲ見ヨ

みかはやうど (正上三六一、傍廂一〇三

味方 の本字(續上七七二、松落)

三河國

原因(正下一〇九〇、梧拾四〇)

三河武士兩度天下を領したる事(正下一〇

八九、梧拾三九)

未加夜木 (續上九一七、河社)

密柑 孟(續上二三八、梅日)

●ミキ

みき 「サケ」酒ヲ見ヨ

砌 (正下二三六、家屋三二〇)(續上八五〇、松

落)

見きり (續上八九二、松落)

●ミク

美草 考(續上五八三、織錦)

三熊思孝 (續中一〇八四、近世)

が櫻花の寫生(正上九五五、假世五七)

御厨所 (正下二五一、家屋六二)

●ミコ

箏女 巫舞(續上八二五、松落)

御輿岡 北野 (續上五六六、織錦)

尊 一と命の別(正上八三、北邊九二)

●ミサ

渚鳥 (續上八七、年山)

山陵 (續中四四五、比古)(正上九一一、輜軒

二二)(續下一ノ一九、閑耕)

堺に 多し(正下九八八、多波二〇)

●ミシ

見し とよみし歌(續上二四六、梅日)

未進 (續上八八一、松落)

●ミス

御簾 のかけ様(續中六八一、六八五、後松)

「スダ」簾ヲモ見ヨ

●ミセ

店 柳(續中五六九、骨董)

見せばや草 といふ草名語(正下九三四、閑

窓三四)

●ミリ

みろ 御衣を——と訓む事(續上六六六、れさ

め)

みそなはず 看行を——とよむ(續下一ノ

六七五、難江)

味噌 を焼く器(續下一ノ五二五、筠庭)

味噌汁 の効能(續下一ノ一七五、閑次)

味噌屋 の看板(續下二ノ五二三、筠庭)(續

下二ノ六三、足薪)

溝 一又うなて(正上七五九、圓珠三五)

晦日の月 (續下一ノ三七四、燕居)

晦日掃 (續上二三〇、梅日)

●ミタ

——莫驚圖障解(正下八四、遊京下二)(續上五八四、織錦)

——には似つかはしからぬ事(續下一ノ六

二二、難江)

——の漢字と假字(續下一ノ六九二、難江)

——莊子相通の論(正下一〇三七、消閑六)

——なる無心所著のうた(正下一〇五一、消

閑三二)

古——の序(續上二八、年山)

萬葉抄 (正下八八、遊京下八)

萬葉類林 (續下一ノ一四七、閑次)

萬多親王 (正上六九八、桂林二三)

萬度 (續下一ノ五二二、筠庭)

祭禮の——(正上一二二四、蜘蛛五六)

萬人講 ——千人講(續上三三五、梅日)

漫吟集 の序(續上四四、年山)

蝮蛇 に刺れたる時の療法(續下一ノ一七一、

閑次)

饅頭 のゆ(續上二七〇、梅日)

金龍山米——(續中四七五、骨董)

曼多羅 御修法の——(續下二ノ五二四、梅

筆)

真名咋 (續中四三七、比古)

●マメ

まめ といふ詞(續下二ノ九二、柳記)

●マモ

守扎 (續下二ノ五一八、梅筆)

胸の守(續下一ノ五一三、筠庭)

●マヤ

雨下 (正下二五五、家屋七〇)

●マユ

眉 眉のき、齒くろめ(續上八、年山)

女の——をさる事(續下一ノ二二四、年々)

繭 獨——(正上九〇八、輜軒一六)

●マリ

まり 「モヒ」盤ヲ見ヨ

鞠 手——(續中五八二、骨董)

毬杖 (續中五二〇、骨董)

「タキ」打毬ヲモ見ヨ

●マル

丸緒 の付様(續下二ノ五二〇、梅筆)

丸屋 (正下二五九、家屋七九)

丸山 本郷——附近の名目(續上一九四、南

向)

圓山應舉 (續中一〇九一、近世)

●マワ

麻黄 (正上六四七、善庵一九)

●ミア

みあらか といふ古語(正上七五一、圓珠

一八)

御生 といふ事(續上一五六、錦所)(續上五

六四、織錦)

●ミイ

木乃伊 ——考(續下一ノ七三二、難江)

●ミウ

三浦淨心 の卒年并其著書(續下二ノ八五、

柳記)

三浦爲春 と其著大笑記(續下二ノ八五、柳



——の圖(續下二ノ五四三、梅筆)  
 マツカウブチ 火燵又竈の縁を——といふ(續下  
 一ノ五一八、筠庭)

待乳山 の常燈(續下二ノ一一七、柳記)

●マテ

まで 左右を——と訓む(續上三四〇、梅目)

馬刀 ——と其漁法(續中七四、比古)

萬里小路 のよみ方(續下一ノ六、閑耕)

●マト

窓 櫛形——(續中八四四、後松)

窓錢 (續下二ノ一八三、柳筆)

纏 (續中九〇〇、後松)

●マナ

まな とかな(正上一六二、南留六八)

學ひ といふ語の解釋(續下一ノ七二六、難  
 江)

●マニ

まに といふ詞(續下一ノ七〇五、難江)

まに—— まに、まにの別(正上七  
 四七、圓珠一一)

●マネ

招く ——又チクといふ詞(正上七五六、  
 珠二九)

眞根子 といふ名(續下一ノ四〇、閑耕)

●マハ

魔法 (正上一八一、春波一〇七)

廻廊 (正下二三七、家屋三四)

●マヒ

眞人 (正上五二五、玄同下七一)(正上五圖  
 八、玄同下七六)

●マヘ

前田邸 と水戸邸との間垣(正下一〇八二、  
 梧拾二八)

前田加賀守 の律義(正下一〇七七、梧拾  
 二〇)

前田慶二郎 の文學(正上二〇二、茶筆五  
 一)

前田綱紀 の修養(正下一〇七九、梧拾二  
 三)

文武の道に篤かりし事(正下一〇八〇

梧拾二四)

——書薪貸借の書簡(正下一〇八〇、梧拾二  
 五)

前立物 龍頭の——(續中八九〇、後松)

●ママ

眞間繼橋 (正上一三八、南留二三)

繼母 (正上六六二、善庵四四)(續上一四二、  
 年山)

●マミ

猫 と云ふ獸(正下四七二、兎小八ノ三九)

——穴(正上一四六、南留三九)

——穴考(續下一ノ二八五、年々)

●マム

卅 の字(續中八四七、後松)

萬 の字(續上三九二、酣中)

萬葉集 ——傳來(續下一ノ七一〇、難江)

——古本(續下二ノ五一七、梅筆)

——は勅撰ならず(續上六〇、年山)

——の訓をしる事(正下一〇五九、消閑四  
 六)

摩訶石 (續上三一、梅日)

●マシ

まし といふ詞(正上三九三、傍廂一六〇)

禁厭 厭厭凶夢未札事(正下九二七、閑窓二)

僧尼の巫術をなす事(續上八七〇、松落)

大分青馬 (續上五九八、織錦)

●マス

ます 穂のすゝき (續下一ノ一四六、閑次)

枅 藥(正上八七二、昆陽一四七)

銅 (續下二ノ四二七、柳隨)

武佐 (正上六四五、善庵一六)

増鏡 解題(續中一三五、比古)

益田池 (續上一〇二二、河社)

の銘(正上七九六、昆陽三)

升屋祝阿彌 (正上一二〇三、蜘蛛二〇)

●マゼ

馬銚 (續上三八二、醋中)

●マヂ

町 坊、舍(正上四七二、支同上ノ五七)

町田清興 物語(續上六一三、織錦)

町火消 人足和睦の話(正下五四一、兎小九ノ一七)

町屋處 (正上八三一、昆陽七一)

待油 (續上一六八、錦所)

待遠 といふ詞(續下一ノ六六〇、難江)

間違草 といふ植物(正下五三二、兎小九ノ一)

麻娘々 抱瘡神を——といふ(續中一〇三六、烹糴)

●マツ まつにもかゝる といふ語の格(續下一ノ五九三、難江)

松 といふ名(正上七八〇、圓珠七〇)

松蔭日記 といふ書(續下一ノ七六三、難江)

松卯 マツカサ の異名(續下一ノ一七八、閑次)

松風 といふ菓子(正上六六四、善庵四八)

松風 須磨の——が結びし帯(正上九三三、假世一七)

松皮紙 (正上七九八、昆陽七)

松平一心齋 の豪氣(正上二二八、蜘蛛四七)

松平定信 魯船に下したる——の信牌(正上二七二、春波九二)

松平信綱 三智の事(正上八〇一、昆陽一三)

松永貞徳 の舊蹟并柿園の事(續下一ノ三二、閑耕)

松の花 (正上三六三、傍廂一〇七)

松虫 ——と鈴虫(正上三一二、傍廂一九)

松本奉時 (續中一〇八六、近世)

松山鏡 (續中一一〇九、歷世)

松浦佐用姫 の石になりたる事(正上三二八、傍廂四七)(續上六四二、れさめ)

抹額 (續下二ノ五三三、梅筆)



——の論(續申九一四、後松)

●マ

間 (正下二六七、家屋九四) (正下二八九、家

屋一三九) (續上八四七、松落)

●マイ

黛村 (正上八八二、昆陽一六五)

味諦 といふ字義(正上八六六、昆陽一三六

●マウ

孟軻 孟世機を斷つ事(續上六四八、れさめ)

論(正上一八九、茶筆二九)

孟子 (書名) ——を載せる船覆没すと云ふ説

(正上六九四、桂林一六)

書題命世才(續下一ノ三七三、燕居)

忘想 心を靜めんとして反て 浮ぶ(續下

一ノ一九二、閑次)

盲人 ——色を知る(正上九七六、閑秋一九)

申上 書狀に用ふる——の字(續下一ノ三〇

八、燕居)

申文 (續下一ノ四一七、松竹)

●マカ

籬 (正下二六一、家屋八一)

まがき、ついち(續上七九五、松落)

勾峽 (正上一六〇、南留六三)

●マキ

間木 ——考(續上二九九、梅日)

蔣繪 金泥畫漆(正上八三二、昆陽七四)

卷向山 を穴師の山といふ(正上七五八、

圓珠三三)

●マク

まくり といふ小兒の藥(續下一ノ三六八、

燕居)

楣 (正下二六六、家屋九一)

枕詞 ——又冠辭(正上六二、北邊五四)

枕草子 (續上八七四、松落)

——と李義山の雜纂(續下一ノ二二〇、年

々)

——にうまき物はの條を補ふ(續下一ノ二

四五、年々)

枕橋 二つ並へし——(正上九四一、假世三

二)

鮪 と眞黒(續下一ノ二四五、年々)

●マケ

まけ といふ詞(續下一ノ五七二、難江)

鬚 「カミ」髪ヲ見ヨ

●マコ

孫 といふ名稱(正上七七八、圓珠六七)

——曾孫(正上七四五、圓珠八)

孫廂 (正下二三六、家屋二九)

誠 (正下八五一、花月三二)

——といふの説(正下三一、梅叢四八)

——は戀情より出づ(正下七七二、雲萍三一)

搔背把 (正上六九八、桂林二三)

●マサ

まさか ——とたいか(續上五九九、織錦)

麻沙 ——考(正上八六六、昆陽一三六)

政子 の淫亂(正上一三〇、南留一一)

砂子 ——いさこ、すなで皆同じき事(正上

七四六、圓珠九)

頗 をホコダチといふ (正上七五五、圓珠二六)

酸漿 かち (正上七五〇、圓珠一六)

—— を吹ならす風 (續中五六四、骨董)

●ホム

本書籍を——といふ (正上八九三、昆陽一八三) (續上八七三、松落)

本卦 (續下二ノ三八二、柳隨)

六十一を——と稱する事 (續下一ノ四五、閑耕)

本草和名傳抄 の論 (續中三七〇、比古)

本所 の名稱 (續上一九六、南向)

—— の侍 (續上一四一、年山)

本多家 の家風 (正上二六二、雨窓二〇〇)

本多忠籌 の行狀 (正上二七七、雨窓四六)

本多善光 (續下二ノ三八四、柳隨) (續上六三四、れさめ)

本陣 貴人の旅泊を——と稱する事 (續上四二一、蒼梧)

本朝 といふ名稱 (正上一五七、南留五八)

本朝世紀 といふ書 (續上一四二、年山) (續上一八〇、錦所)

—— 考 (續中一七六、比古)

本朝續文粹 と其撰者 (續下一ノ七五〇、難江)

本納 上總の——と橘姫 (正上一三一、南留一二二)

本河彌光悅 の行狀 (正上九三四、假世一九) (正上九四五、假世三九)

本のまゝ 誤字等ある時に——と書き添ふる事 (正上一一〇、北邊一三六) (續上八七四、松落)

本命 (續下二ノ三八一、柳隨)

五命 (正上六三七、善庵三)

盆石 の歌 (續上一一九、年山)

譽津部 (續下一ノ二九三、年々)

梵天國 といふ諺 (續下二ノ七三、足薪)

●ホヤ

火屋 といふ器 (續下一ノ五二八、筠庭)

保屋 ——考 (續下二ノ三九八、柳隨)

穢屋薄 (正上九九八、鋸屑二四)

●ホラ

螺貝 ——を吹ける始井熊王丸所持の—— (續下二ノ三八五、柳隨)

●ホリ

ほりこてふ といふもの (正下六二〇、兎小九ノ一五七)

決入工 ホリシタキ (續下一ノ四五四、松竹)

堀かね井 武藏國なる—— (正下一〇五三、消閑三五)

堀川館 (續下二ノ三九二、柳隨)

堀秀政 が家士の事 (正上二五九、雨窓一五)

捕虜 に對する兩將の舉動 (正下一〇七三、梧拾一二)

●ホロ

ほろく 「コム」虛無僧ヲ見ヨ

ほろく ——又ほとるといふ詞 (續下一ノ五八七、難江)

母衣 (續下二ノ三八六、柳隨)



楠 儲の—(正上一五五、南留五五)

步障 の考(續上四一四、蒼梧)

圍春 一寸法師——(續下二ノ一五、足薪)

●ホリ

蔓椒 (正上八三三、昆陽七五)

細殿 (正下二三七、家屋三四)

細長 (續下一〇一〇、後松)(續下二ノ三八

四、柳隨)

祿賜 (續中一〇一三、後松)

長女着 (續中一〇一一、後松)

童男童女着 (續中一〇一一、後松)

女房小褂の上着用 (續中九九六、後松)

—宮(續下二ノ三九五、柳隨)

●ホタ

ほた の考(續下二ノ四〇四、柳隨)

菩提水 (續下一ノ三九七、燕居)

根 (正下二六六、家屋九一)

牡丹 は古よりあり(正下三二五、續昆五二)

古いふ——は藪柑子なり(續下一ノ六六九、

難江)

—の歌詩(續上六五、年山)

—雜考(續下二ノ一五九、柳筆)

本朝愛 事(正下九四三、閑窓四九)

—の名種々(續下二ノ一五六、柳隨)

牡丹餅 の名義(續下一ノ三三五、燕居)

—と萩の餅(正下一九〇、世事一二七)

螢 胸形の—(續中四八一、骨董)

螢草 鴨頭草「ツキ」月草ヲ見ヨ

●ホツ

發句 「ハイ」俳諧ヲ見ヨ

發語 (續上三八九、醋中)(續下一ノ一七、閑

耕)

沒骨 寫生——(正上八七二、昆陽一四八)

拂子 の賛(正下七九七、雲萍七三)

堀田正俊 の金言(正上一九八、茶筆四四)

●ホテ

布袋和尚 に四人あり(正下一〇四四、消閑

一八)

●ホト

ほとけよし といふ日(續下二ノ五二四、柳

筆)

ほとろ といふ詞(續下一ノ三八四、燕居)

—又ほろいといふ詞(續下一ノ五八七、難

江)

杜鵑 郭公をホトイギスと讀む事(正上一六

三、南留六九)

—してのたをさ(正上七八六、圓珠八一)

—の鳴き聲(正上三四一、傍廂六八)

禁中に—なし(正下九二三、閑窓一五)

—と呼ぶ鳥(續中一〇〇、比古)

—の歌(續下一ノ二二七、年々)

佛 善人稱——(續上三三七、善庵)

「フツ」佛ヲ毛見ヨ

●ホネ

骨接 —の法(續上六四六、ねさめ)

●ホノ

ほのけ は烟なり(正上七五二、圓珠二〇)

●ホヒ

穂日命 (續下一ノ八二六、難江)

●ホホ

ホウラツカ 阿闍陀の蜜漬 (正上八三)

二、昆陽七三

朋友 友とするに悪きものとよきもの (正上

一一二六、春波一四)

奉公人 出がほり (正下一三三、世事三〇)

泡齋念佛 (續下一ノ五四三、筠庭)

北條氏 略語 (續下一ノ六八六、難江)

——代々肖像 (續下二ノ三九六、柳隨)

北條氏長 (續下二ノ四〇二、柳隨)

北條時頼 の微行 (正上五二〇、玄同下六

四)

北條泰時 僧を説破す (正下三六二、我

宿)

謀判 (正上一二六、南留二)

蓬平 畫家 (續中一〇八六、近世)

蓬萊 熊野を——といふ (正上一五〇、南留

四五)

鳳輦 (續中七七〇、後松)

●ホカ

水器 (續下一ノ五一七、五二九、筠庭)

步行 行步種々 (續中六六〇、後松)

●ホケ

僕 奇特なる寺僕 (正下八二一、雲萍一一四)

庄林隼人介が事 (正上二五五、雨窓九)

「チウ」忠僕ヲモ見ヨ

僕逆 (續下一ノ三九七、燕居)

北瓜 (正下三五五、續昆九七)

北肉山人 (正上九三六、假世二三)

北面 (續下二ノ五一八、梅筆)

幞頭 (續下二ノ三九四、柳隨)

●ホケ

慕景集 莫京集、慕景集 (續下一ノ

五六八、難江)

法華經 の卷數 (正下一六三、世事八〇)

新舊 (續下二ノ三九六、柳隨)

鉦 (續下二ノ三九三、柳隨)

反故 (續下二ノ三八四、柳隨)

反故染 (續下二ノ三八四、柳隨)

矛鏃 根源 (續中四四〇、比古)

●ホサ

菩薩 (續下二ノ四〇四、柳隨)

——號 (續上一五五、錦所)

●ホシ

星 の圖 (正上一二二八、春波一八)

——隕天文みだるといへる事 (續上八八八、

松落)

——隕如雨 (正上四四一、玄同上七)

日中見 (正上八九三、昆陽一八三)

六惑の說 (正上一八二、茶筆一七)

慧 (正下六二九、兎小九ノ一七三)

慧と惑 (正上一一六八、春波八四)

月に九曜 (正上三七九、傍廂一三四)

魁圖 (續上三六五、三六六、梅日)

彦 (正上七四五、圓珠七)

諸観測 (續下一ノ一〇二、閑耕)

二一の影を盟に映す事 (續下二ノ五二〇、梅

筆)

星月夜 (續下一ノ六一一、難江)

星祭 (續上八二四、松落)

神社の (正上三四八、傍廂八一)



●ヘミ

へみ 「ヘミ」蛇ヲ見ヨ

●ヘム

片 の字(續上一六九、錦所)

扁額 (續中六八二、後松)

六波羅寺——(正上一〇二二、茅窓一九)

徒然草に門に——かくるをうつと云ふ事

(續上六二〇、れさめ)

金字——(續下一ノ三三一、燕居)

——を書くに禁忌ある事(續下二ノ五一〇、

梅筆)

書——忌丙丁日(續上三九七、酣中)

勅額之事(續下二ノ五三六、梅筆)

降伏の勅額(正下八六四、花月五三)

三井寺の——(續下一ノ一四〇、閑次)

辨慶 武藏坊——(續下一ノ三九、閑耕(正

上一三一、南留一一)

——が性質(正下一〇四五、消閑二一)

——千人斬有據(續下一ノ四一〇、燕居)

——義經を打て難を遁れし事(續下一ノ四

〇、閑耕)

辨財天——の縁日(正上九九六、鋸屑二

〇)

柳原家——の事(正下九三〇、閑窓二七)

辨當 (續下二ノ一四二、柳記)

變災 變革(正上二二七、茶筆七七)

大風大水を知る(正下一三一、世事二五)

灰零(正上三三七、傍廂六二)

市中灰降る(正上一二〇五、蜘蛛二三)

肥前國に火の降りし事(正上一七三、茶筆

三)

白毛降下(續中一三一九、遊藝)

偏衫 (續下二ノ四一二、柳隨)

偏袒右肩 (續下一ノ二三三、年々)

偏傍 (正上一〇五四、茅窓七四)(續上三九

八、酣中)

偏無爲居士 「ヨタ」依田貞鎮ヲ見ヨ

篇什 詩を——と云ふ(續下一ノ三八九、燕

居)

篇付 (續下一ノ六一五、雞江)

遍昭 僧——(續下二ノ四〇八、柳隨)

——の墳(續下一ノ二〇、閑耕)

偏綴 (續下二ノ四一一、柳隨)

反閉 (正上一五七、南留五九)(續下二ノ四

一七、柳隨)

●ヘヤ

部屋 (正下二九〇、家屋一四一)

●ヘラ

へらこ (續下二ノ四一〇、柳隨)

可坊 (續下一ノ三三二、燕居)

●ヘリ

へりぬり 「エホ」烏帽子ヲ見ヨ

●ホ

歩 距離の——(正上八二七、昆陽六三)

●ホイ

ほいたけ棒 (續中五二七、骨董)

ほいと 佐渡方言非人を——といふ(續中

一〇二六、烹雞)

焙爐 の義(續下一ノ三二八、燕居)

●ホウ

平仲 良文なり(續下二ノ五六五、雞江)

平人 (續下二ノ四〇八、柳隨)

平禮 の讀み(續下二ノ四一三、松竹)

秉燭翁 「ヒト」秉燭翁ヲ見ヨ

瓶笙 釜の沸たつ音を——といふ(續下二ノ四二一、柳隨)

幣帛 「マサ」幣帛ヲ見ヨ

●ヘウ

豹 の名(正上二四〇、南留二七)

表裝 襖具(續下二ノ四二二、柳隨)

書畫の——(正下四四〇、畫譚四三)

瓢箪 瓢と箪とは別物(正上三九一、傍廂二五五)

瓢箪町 (續下二ノ四〇八、柳隨)

漂流 人の話(正下八五八、花月四四)

入歸國(正下七一七、兎小一〇ノ四五)

唐山 紀文(正上一八一、茶筆一六)

●ヘカ

へかかう めかかう(正上一二七、南留五)

●ヘキ

壁虎 蠅取蜘蛛を——といふ(續下二ノ七一、足薪)

辟窠 (正下三二六、續見五三)

●ヘリ

へそくり錢 (續下二ノ四〇六、柳隨)

●ヘタ

下手 (續中三九八、比古)

●ヘチ

糸瓜 (續下二ノ四一〇、柳隨)

●ヘツ

ノ觀 (續下二ノ四二二、柳隨)

ノ貫 茶師——利休を嘲る(正下七五五、雲萍三)

別當 (續下二ノ一一五、柳記)

牧の長を——といふ(正上一三二、南留一一)

●ヘナ

竈 「カマ」竈ヲ見ヨ

平秩東作 の放言(正上九三八、假世二六)

●ヘナ

へなたり 貝の——(續下二ノ四〇五、柳

隨)

●ヘニ

臙脂 生——(正下三四一、續見八二)

尼が——(續下二ノ三三、足薪)

おまんが——(續下二ノ三三、足薪)

臙脂繪賣 (續中四七八、骨董)

●ヘビ

蛇 へみ、おろち(正上七五〇、圓珠一六)

クナナハ(正上七八四、圓珠七八)

一化爲蛇(正下五六二、兎小九ノ五四)

一遣ひ(續下二ノ一五、足薪)

一昇天(正上一七七、茶筆一〇)

一の崇(正下五八三、兎小九ノ九二)

雙頭——(正下五六四、兎小九ノ五七)(正下

八九二、花月一〇二)

兩頭——並圖(正下四八一、兎小八ノ五五)

一の毒を消す療法(續下一ノ一七〇、閑次

(正下九九〇、多波二三)

盃中——(正上一一七、北邊一四九)

孩子——を殺す(正上三一、傍廂一七)



芙蓉 畫工——の談話（正下三九八、訓淺三

四）

不養生 —— 中第一の戒（正下四〇五、訓淺

四五）

●フユ

冬籠 ——、夏籠（續下一ノ二九一、年々）

●フク

ぶり／＼ ——といふ玩具（續中五二三、骨董）

降りみ降らずみ （續下一ノ三八六、燕

居）

振分髪 （續中一一六二、歴世）

「カミ」髪ヲモ見ヨ

●フル

ふるとし ——の義（正上三〇五、傍廂六）（續

上五六〇、織錦）

●フレ

觸れ ——といへる詞（正上八四一、昆陽九二）

武烈天皇 —— 御謚名（正上三五六、傍廂

九三）

●フロ

風呂 ——といふ事（續下一ノ二八二、年々）

湯浴する事を風呂に入ると云ふ事（續下二

ノ五一九、梅筆）

水湯（續下二ノ五一六、梅筆）

錢湯 —— 始（續中四七一、骨董）

行水船（續中四七二、骨董）

—— 懷鼻祖（續中四七二、骨董）

湯錢、—— 屋（續中五七九、骨董）

—— 屋の看板（續下一ノ五二二、筠庭）

湯女（續中一一三一、歴世）

湯女の繪圖（續中一〇九五、歴世）

風呂吹大根 （續中四七四、骨董）

●ヘイ

塀 （正下二六一、家屋八二）

塀中門 （正下二三八、家屋三五）

兵 ——の義（正上八四一、昆陽九〇）

兵書 —— 今の世の武士の兵家の書を讀む心得

（續上八九三、松落）

兵仗 （續中九二〇、後松）

兵法 —— 兵の道（正下八五〇、花月二九）

兵學者流の論（續中八二三、後松）

兵馬 ——といふ古の官（正上一四一、南留三〇）

駢邑 （續下一ノ三四八、燕居）

米價 （正下八七一、花月六五）

室町時代の——（正上八三八、昆陽八五）

慶安頃の——（正上八三一、昆陽七一）

米餅搗 ——「シト」米餅搗ヲ見ヨ

平家物語 （正上二二六、茶筆九一）

眞字 ——（正下八五、遊京下四）

——の誤（續上五〇、年山）

—— 歌撰果に違ふ（續上一〇一九、河社）

—— 作者（續下二ノ四〇六、柳隨）

——の作者并琵琶に合せて語る事（正上一

一二九、春波二〇）

——を語る濫觴（續下二ノ五二二、梅筆）

平他字類抄 ——といふ書（正上六九六、桂林

一九）

平治亂 ——の始末（續下一ノ七六八、雞江）

きりくすと云ふ(續下二ノ一一九、晏

記)

龍頭—圖(正下二四七、家屋五二)

樓—の名(續下二ノ一六〇、柳筆)

—のさむばし(續下一ノ三二五、燕居)

## ●フヒ

不備 書牘の結尾に——と書く事(續上三三

四、梅日)

## ●フホ

父母 —に事ふ(正下一〇一五、多波六四)

哀々—生我劬勞(正下四〇七、訓淺四九)

## ●フミ

文 を玉つさといふ(正上七四八、圓珠一三)

水莖、玉章(續中一二七四、天朝)

—學ふ事(正下八七五、花月七三)

文塚—(續下一ノ三三三、燕居)

文月淺間記 の作者(正上九五三、假世五

二)

## ●フム

文學 文運の厄(正下一〇七一、梧拾一〇)

加賀—の盛事(正下一〇八〇、梧拾二四)

江戸時代の—(正上九四九、假世四五)

文具 の神名(正上六九七、桂林二二)

文化 改元—(續下一ノ二七二、年々)

文士 吾國—の才學(正下一〇二〇、多波

七三)

吾國—の書ける書物(正下一〇二二、多

波七六)

文章 文作るに心得あり(續上五六二、織錦)

近き世に文よくかきたる人(續上五六三、織

錦)

逢意—の模範(續中一三三一、遊藝)

豐水君の—の論(續中七一四、後松)

文椽 (正上一五〇、南留四五)

文書 の封字(續上三二三、梅日)

—袋(續中八五九、後松)

文臺 (續中二三〇七、天朝)

—の筥(續上八五三、松落)

社頭の—(續上六、年山)

長柄橋柱の—(續下二ノ五一〇、梅筆)(正

上九九九、鋸屑二六)

文鎮 (續中一三〇七、天朝)

「ケフ」夾竿ヲモ見ヨ

文武 の備(正下三七一、我家二一)

分金 「ジシ」磁石ヲ見ヨ

分限 「ミノ」身の分ヲ見ヨ

分疏 の字義(正上八四四、昆陽九五)

分別 —無き者におぢよとの説(正下七一、

梅叢四五)

分娩 「シツ」出産ヲ見ヨ

種 (續中八一〇、後松)

墳墓 大古—の制(正下一九九、墳墓一)

鹿人の—(正下二〇三、墳墓七)

庶人の墓碣(續下一ノ九二、閑耕)

少女の—石碑(正下二〇三、墳墓九)

備中古—(正上九一六、輜軒三〇)

墓中買地錢(續上三七三、梅日)

高潮が庭の—(續上五四七、織錦)

粉本 (正下四四三、畫障四九)

## ●フヤ



佛法を盛になす事(正下一一〇五、梧拾六六)

佛は王法を説かず(正下一〇二、七多波八四)

#### 佛經

を嫌ふ(正上一一二九、春波一九)

金泥寫藏經(正上八〇二、昆陽一五)

#### 佛事

中陰に——をせざる事(續下二ノ五二五、梅筆)

#### 佛舍利

の辯(正下三二、梅叢四八)

#### 佛書

はつまらぬ事のみ多し(正上一一四九、春波五三)

#### 佛像

鐵佛木佛妖(續下一ノ三三八、燕居)

大津繪の——(續中四九九、骨董)

土中出現黄金佛(正下五八一、兎小九ノ八九)

#### 木中

に佛像あらはる(正下一八二、世事一八二)

大和宇智川——(正下八四、遊京下一)

#### 佛國曆象編

といふ書(正上一一三三、春波二六)

#### 佛足石

(正上八三三、昆陽七六)

#### 佛頂

僧——(續中一〇八八、近世)

#### 佛法僧

(續上一〇三二、河社)

鳥(正上一〇一五、茅窓七)(正下四一九、畫譚九)

の鳥歌のみし事(正下一〇三六、消閑五)

#### 物價

建長以來の——(正上八五一、昆陽一〇八)

室町頃の——(正上八三八、昆陽八五)

#### 筆

(續中一二九〇、天朝)

——をミツクといふ(正上七四四、圓珠五)

——を長く用ふる事(正下八三九、花月一一)

松筆(正上一〇〇八、鋸屑三九)

筆のすさびの序(正上一六八、茶筆一)

——の誤(續下一ノ三九一、燕居)

#### フト

ふとゐ川 更級日記中にある——(續下一ノ一九、閑次)

#### 不動堂

なふどん堂といふ(續下一ノ六、閑耕)

#### フナ

鮒(正上九九〇、鋸屑一一)(續上二一七、庖丁二一七)

——といふ名(正上七七六、圓珠六三)

#### 船幽靈

(正下一七三、世事九七)

#### 船木

地名考(續下一ノ一五、閑耕)

#### 船

の起原(續下一ノ七八五、難江)

——の名(正上九八七、鋸屑六)

水——(續下一ノ五三九、筠庭)

——をしる事(正下八三四、花月三)

庭池の——(正下二四七、家屋五一)

醉——(續上二九二、梅日)

——の名を何丸といふ事(正上三八五、傍廂)

一四五)(續上四二二、蒼梧)

——に三本の帆柱を禁ぜられたる趣意(續下一ノ七八三、難江)

居風呂——行水——(續中四七二、骨董)

藤原秀郷　の傳の附會(續下一ノ一三五、閑

次)

藤原秀衡　が棺を擡ぐ(正上一四三、南留

三三)

——其五子を評す(正下七七九、雲萍四三)

藤原不比等　を近江の人なりと思へる事

(續下一ノ三七、閑耕)

藤原保昌　——夜陰大風の歌の考(續上三

四九、梅日)

藤原行成　の歌の事(續上三四九、梅日)

藤原藤房　の諧謔僧文觀を嘲る(正下三六

三、我宿七)

——の歌(續上一三七、年山)

藤房門　の開かざる事(正下九六八、大海

七)

婦女　婦人の圖(正下四三六、畫譚三六)

妃、夫人、嬪(正下九五五、准后一〇)

怪き小女の事(正下四九六、兎小八ノ七九)

婦人不稱行狀(正上八〇六、昆陽二一)

——不識字(續上三六一、梅日)

婦德の大概(續下一ノ七六二、難江)

唐畫の女の足(正下四二二、畫譚一三)

今時の女の名(正上一四二、南留三二)

古き——の名(續上七一、年山)

——は嗜を專一とすべし(正下七五七、雲

萍六)

——は酒を飲まずと云ふ事(續下二ノ五三

二、梅筆)

女貧家(續上四六、年山)

——の眉剃る事(續下一ノ二二四、年々)

——の刀劍(續中七一六、後松)

婢女の續麻(正上一一五九、春波七〇)

——の煙草喫みたる(正上七二〇、思草九)

——の名におの字を冠らしむる事(續下一

ノ六七四、難江)

——の武術に達する事(續中七一六、後松)

——のふり(正下八三五、花月四)

——のもとに男來る時の事(續中六八二、後

松)

——の世なれて有と無とは初て逢へる男の

## ●フツ

佛　心にしらるゝ事(續下一ノ六二七、難江)

四)

拜——(續下一ノ三六七、燕居)

——の神號(續上六六六、れさめ)

陳繼儒——を天下の大養濟院とす(正下一〇

二七、多波八五)

愚將——に迷ひて死恥をさらす(正下三六八

我宿一六)

佛教　(正下八三九、花月一一)

日本佛法の起(正上一一五一、春波五七)

佛道(正上一一五二、春波五九)

佛道の極意(正上一一七四、春波九六)

我國の佛道(正上一一二七、春波一六)

佛法八宗(正上二一〇、茶筆六四)

佛道を啗る文(正下一〇二七、多波八四)

佛者と莊子(正上一一五九、春波六九)

佛の教は學ぶべからず(正上一一三一、春

波二三)

—の歌の優劣(續上一〇二四、河社)

近世諸名家 —の歌(正上四二三、泊々四

一)

—歌等類(正上四六四、玄同上四三)

節づけ

の名目(正下一五三、世事六三)

伏原宣通

の恩遇(正下九二二、閑窓一二)

伏見

の里(續下一ノ九、閑耕)

普請

—作事(正上三四三、傍廂七二)

不審紙

(續下一ノ三八〇、燕居)

●フス

ぶす

毒な—といふ(正上一三八、南留二

五)

襖

織—(續中七二五、後松)

●フセ

風情

は彼我何れにかある(正下八一四、雲

萍一〇一)

布施紅

といふ牡丹(續下二ノ一五六、柳

筆)

不宣

書狀の結尾に—と書く事(續上三三

四、梅日)

●フリ

蕪村

謝—(續中一〇八九、近世)

●フタ

ぶたご

(續上一七三、錦所)

譜第

(正上一六三、南留六九)

舞臺

(正下二四九、家屋五六)

葡萄

(正下四一八、畫譚六)

双子

雙生合體(正下六三九、兎小九ノ一九

〇)同追記(正下六四一、兎小九ノ一九二)

二鞘

(續下一ノ五九四、難江)(續上一三九、

年山)

二村山

尾州—(續下一ノ一〇八、閑耕)

二荒山

の訓(續上一〇二二、河社)

—を補陀落又日光とする事(正上一四一、

南留二九)

●フチ

ふじ衣

に二あり(正上七六四、圓珠四二)

—を藤の花によせてよめる(續上九一二、

河社)

藤

—の花の季(續上一〇三四、河社)

—の花の比喩(正下八九〇、花月九八)

藤井高尙

の姓並松の屋の號(續上七五九、

松落)

藤井孝作

崎人—(續下一ノ一七九、閑

次)

藤井懶齋

が讀書餘吟(正上四一二、泊々

二二)

藤袴

なうこといふ(正上七四五、圓珠六)

藤原

の都(續上一〇二〇、河社)

藤原氏

の姓氏考(正上五三四、玄同下八

六)

藤原兼實

—藤原俊成贈答(續上一六、年

山)

藤原鎌足

—、鎌子(續上九〇八、河社)

大職冠像並印(正上一〇七四、茅窓一〇九)

藤原季仲

(正下一〇四五、消閑二〇)

藤原惺窩

—小傳並肖像花押(正上一〇

二一、茅窓九)

—幽棲の地(正上九三六、假世二三)

藤原經房

(正上五七九、玄同下一五九)



夏の衣(讃文)(續中六七九、後松)

戎服無禁(續中八一二、後松)

更衣(續下一ノ四四〇、松竹)

更衣(着白衣事)(續中六一五、後松)

上首、重首、入紐、長紐(續中八一〇、後松)

松)

汗衫のふみ(續下一ノ四二二、松竹)

童女汗衫(續中九九五、後松)

汗衫襖袴(續中六二二、後松)

汗衫等の縫縫(續中九八三、一〇〇七、後松)

汗衫着次第(續中着〇〇五、後松)

汗衫二品考(續中一〇〇二、後松)

入道の(續中六二五、後松)

僧(續中六〇二、後松)

武家(續中八一三、八一五、後松)

婦人(續中八一四、八一五、後松)

復讐(といふもの)(正下九九七、多波三五)

少年敵討並詞の助太刀(正上二八三、雨窓

五五)

「アカ」赤穂義士ヲモ見ヨ

覆水已難收(といふ語)(續下一ノ四一〇、燕居)

居)

覆面(續上二三九、梅日)(續下一ノ四九三、筠庭)

筠庭)

古體(續下一ノ四九四、筠庭)

女の(續下二ノ二〇二、柳筆)

福德(といふ年號)(正上八五〇、昆陽一〇七)

福原の都(正上九一、北邊一〇五)

福原五岳(續中一〇八二、近世)

福引(續上二八三、梅日)

福祿壽(正上二四七、南留四〇)(續下一ノ三〇八、燕居)

福王雪峯(畫家)(續中一〇八六、近世)

袋(諸)(正上二〇〇七、鋸屑三八)

袋棚の圖(正下二八四、家屋一二一)

●フケ

武家(家作)(正下二六九、家屋九九)

冠服の費を惜む(續中六七七、後松)

傳奏(續下二ノ五一七、梅筆)

普賢嶽(燒出)(正上一七五、茶筆六)

●フコ

封戸(正上一五四、南留五四)(正下二九八、續昆四)

續昆四)

人數、稻員の事(續中七一三、後松)

富國法(十二條)(續中九七三、後松)

●フサ

扶桑(上總下總の名は)に因める事(正上一三一、南留一二)

扶桑集(といへる書)(續中一七五、比古)

扶桑樹(正上六八九、桂林五)

●フシ

武士(ものゝ又さむらひ)(續上八六九、松落)

落)

北面を忌む事(續中六〇二、後松)

武臣(准后の始)(正下九五二、准后六)

富士山(と)の掄(正上一四三、春

波四三)

の高さ(正下一七八、世事一〇七)

登山の記(續下一ノ一〇九、閑耕)

の歌(續上三九、年山)

占風舞(續下一ノ三五九、燕居)

夫婦 の道(正下八九五、花月一〇六)

の別(續上四三、年山)

に禮あるべき事(正下七五六、雲萍四)

●フエ

笛 といふ名(續上七六五、松落)

横(續上一八三、錦所)

ようでふ(續下一ノ七八、閑耕)

和(續上七六六、松落)

なこちくといふ(正上三九二、傍廂一五

六)

三郎か(正上一五〇、南留四五)

の息に三つの品あり(正上九四三、假世

三六)

●フカ

不孝 の報(續下二ノ四七、閑耕)

舞樂 (續中七九五、後松)

樂名に鹽の字を附する義(續上四〇四、酣

中)

の臬面(續下一ノ四九三、筠庭)

の名不審(續下二ノ一〇一、柳記)

濱松侯若君 の詞(續中九一三、後松)

深草元政 (正上一二六四、春波七九)

の詠歌(正下一〇七三、梧拾一二)

深草少將 百夜車の事(續中七七〇、後

松)

深除 の義(續上四〇〇、酣中)

といふ式(續下一ノ七二八、難江)

深剪(續中一二六一、歷世)

「カミ」髪ヲモ見ヨ

深仁親玉 の叡敏(正下九二六、閑窓一九)

石龍芮 といふ草(續上六〇〇、織錦)

●フキ

吹上 の名稱起源(續上一八七、南向)

●フク

ふぐり 隱囊(續中四三〇、比古)

鞆(正八四〇、昆陽九〇)

「イン」隱囊ヲモ見ヨ

鯁 一を食する風(續上二六七、梅日)

婚禮に一を川ひす(正上九九八、鋸屑二四)

不具 (續上三三四、梅日)

不虞の備 (正下八五四、花月三七)

武具 三變(續中八二一、後松)

服忌 (正上六六三、善庵四六)

令の案(正上九九八、多波三六)

「キフ」忌服ヲモ見ヨ

服色 (正上九九九、鋸屑二五)

の論(續中六三九、後松)

の制(續中六五一、後松)

問答(續中七一九、後松)

服制 古今の公服(正下九八六、多波一六)

冠服復古の事(續中六八七、後松)

生衣(續中六七九、後松)

朝服(續中八一三、後松)

薄朝服(續中六八九、後松)

衣を六位も着る事(續中六〇七、後松)

有襦無襦衣の事(續中六九九、後松)

黄衣の事(續中七二二、後松)

衣單の色目(續中八〇九、後松)

夏の衣(續中六七七、後松)

平屏 中門の圖(正下二三八、家屋三六)

平門 (正下二六五、家屋九一)

褶 (續下一ノ五七二、雞江)

●ヒリ

比輪錢 (正上八五五、昆陽一二五)

●ヒル

蛭 といふ名(正上七八四、圓珠七七)

蛭子 「エヒ」惠美須チ見ヨ

晝寢 坊(續下二ノ二七、足薪)

晝飯 (續下二ノ八八、柳記)

●ヒレ

鰯板 (正下二六一、家屋八一)

●ヒロ

廣縁 (正下二三六、家屋二九)

廣澤池 (正上七五八、圓珠三二)

廣敷 (正下二八九、家屋一三八)

廣瀨神 (續上一〇三三、河社)

廣庭 (正下二四五、家屋四九)

廣橋伊光 (正下九四二、閑窓四八)

廣廂 (正下二三六、家屋二九)

廣間 (正下二八八、家屋一三七)

○フ

ふ 物の生る地をさしてーと詞む(續下一ノ

八、閑耕)

武 の字をトラと訓む(續上二五五、梅日)

符 土地のーの字(正上八三二、昆陽)

●フイ

布衣 (續下二ノ四〇三、柳隨)

輔 の事(續上六三〇、ねさめ)

不一 書讀の終りに書くーといふ文字(續

上三三四、梅日)

●フウ

封 書狀等に用ふるーの義(正上一〇七三、茅

窓一〇七)

風雅 の争(續下一ノ四〇〇、燕居)

の戲謔(續下一ノ三七一、燕居)

風氣 は西南より東北す(正上八五〇、昆陽

一〇六)

風月常新 の出所(續下一ノ三八九、燕居)

風之 俳諧師九十九庵ーの話(正上九五八、

假世六二)

風説 道のうへに異説をなす(正上一九三、

茶筆三五)

風俗 寛永の江戸ー(正上一二一九、春波

一)

明暦以前の江戸ー(正上一二七〇、春波

八八)

大小十文字(續下一ノ四九〇、筠庭)

慶元年間の實素(續下一ノ九一、閑耕)

國々のー(續下一ノ八三三、雞江)

「ニン」人形ヲモ見ヨ

風帶 (正下四四〇、書譚四四)

風鳥 といふもの(正上一一五四、春波六一)

風來山人 「ヒラ」平賀源内ヲ見ヨ

風流祭 (正下七二二、兎小一〇ノ五六)(續

中七七二、後松)

風鈴 (續中七七二、後松)

井ーの詩(續下一ノ一五八、閑次)



病氣 — のおこる事 (正下八九四、花月一〇五)

— をくすいといふ (續中三二四、比古)

中熱の事 (正下八四六、花月二三)

病苦は處刑と同じ (正上一二七一、春波九〇)

精勤病目癒ゆ (正上一一八五、春波一一五)

五)

脚氣、腫滿 (正上八六五、昆陽一三三)

風邪流行 (正上一二一九、蜘蛛四八)

安永以來の流行風邪 (正下五四六、兎小九ノ二七)

應聲虫の病 (續下一ノ一九〇、閑次)

奇疾 (正下五一四、兎小八ノ一一〇)

文政五年の奇病 (正上一九八、茶筆四五)

奇病の評 (正下四七二、小兎八ノ三九)

口出薰病 (續下一ノ三九八、燕居)

奇病牛聲を發す (續下一ノ四九、閑耕)

拍子木 (續下一ノ三三一、燕居)

評定所 (正下二七七、家屋一一二)

評定文 の寫 (正上一一七、昆陽四四)

平仄 (正下一一七、世事一)

平等院 (續下二ノ四二一、柳隨)

— 建立匡房の記憶 (正下一〇三四、消閑一)

屏風 (續上五六四、織錦)

枕 — の本義 (續中一一七三、歷世)

百花香 (正下三二〇、續昆四一)

百子帳 (續上一八二、錦所)

百姓 の義 (續上八二九、松落)

百人一首 定家卿 — の事 (續上五五、年山)

— 古今集の訓 (正下一〇六一、消閑四八)

爲家のかゝれたる — (續上七五八、松落)

百如律師 の法語 (續下一ノ九九、閑耕)

百萬塔 金塗塔 (續上四〇一、酣中)

白蓮の交 の義 (續下二ノ三二九、柳隨)

●ヒヨ

馮永功 (續上二六八、梅日)

氷文 (正下三二〇、續昆四一)

●ヒラ

ひらかけ 「ケタ」下踏ヲ見ヨ

平泉 奥州 — 古城趾 (正上七三二、細道一四)

平緒 服御々 — (續中六五一、後松)

平賀源内 風來山人の文 (正上九三八、假世二六)

世二六)

— の浮世評 (正上九二八、假世九)

風來山人自讃 (正上九三五、假世二二)

平九節 (續下二ノ一二〇、柳記)

平澤氏 古筆鑑定 — 略譜 (續下一ノ七五七、雄江)

七、雄江)

平敷 (續中六八一、後松)

平田篤胤 に関する後言の誤解を辯ず (正下九〇一、鳥お二)

下九〇一、鳥お二)

聖德太子 — を罵る (正上一二二九、後言一)

一)

平野社 (續下一ノ二六三、年々)

— 可爲源氏々神事 (續上一五六、錦所)

火之夜藝速男神

(續上五九七、織錦)

曾孫

(正上七七九、圓珠六)

火の用心

(正上二三二、南留一三)(正上

一〇〇六、鋸屑三七)(續上六四五、ねき

め)

●ヒハ

琵琶

を四ツの緒といふ(正上七五〇、圓珠

一七)

の轉軫(正上一二八、南留六)

の風香調(正上一三六、南留二二)

和琴の名器(續下二ノ五二五、梅筆)

琵琶行

— 攷異及略解(續下一ノ六四五、

難江)

琵琶笛

(正下五一四、兎小八ノ一一〇)

火箸

(續下一ノ五一七、筠庭)

火鉢

桐火桶(續下一ノ五一七、筠庭)

しかみ—(正上九四〇、假世三〇)(續下

一ノ五一八、筠庭)

檜皮

— 屋(正下二五七、家屋七五)

●ヒヒ

響灘

(續上七四、年山)

被風

披風圖説(正上三〇八、傍廂一一)

●ヒフ

比比臣女

子とろく(續中五六四、骨董)

美福門院

— 號(續上一六六、錦所)

碑文

武州東光寺古—(正上六一八、玄同下

二二九)

「イシ」碑文ヲモ見ヨ

●ヒヘ

引倍木

(續下一ノ四四八、松竹)

●ヒマ

日待

(正上六九五、桂林一七)

●ヒム

ヒンドスタント國

の交易(正下三五四、

續昆一〇三)

頻伽鳥

(正下一八一、世事一一二)

貧窮

— 問答の歌(正上二二二、北邊一五

八)

— は語道の妨(正下四〇〇、訓淺二七)

貧しき家に子多かる(正上九八〇、關秋二

六)

貧富

貧富の論(正上一二二四、春波一一)

貧乏神

窮鬼に逢ひたる話(正下六三五、兎

小九ノ一八四)

鬢ざし

といふ物(續中一一九四、歷世)

鬢付

「カミ」鬢の油ヲ見ヨ

鬢幅

(續中六一一、後松)

鬢頬

(續中六一一、後松)

鬢みの

といふ物(續中一一九六、歷世)

擯榔毛車

(續中六〇七、後松)

●ヒメ

ひめ初

(續上七一、年山)(正上三〇二、

傍廂一)

●ヒモ

ひも鏡

の義(續下一ノ二六六、年々)

干魚

(續上二一九、庵丁

●ヒヤ

ひやうし

といふ物の考(正下五九二、兎小

九ノ一〇八)全圖説(正下四五七、兎小八

ひたー(續中六八〇、後松)

睡孔 睡子の事(正下八九三、花月一〇四)

秉燭翁 の像(正上七〇四、桂林三九)

火取 (續下一ノ五一七、筠庭)

獨狂言 (續下二ノ三五、足薪)

獨法師 (續下二ノ二九、足薪)

●ヒナ

雛 古製圖(續中五三六、骨董)(續下一ノ五三二、筠庭)

土一圖(續中五四五、骨董)

土焼一(續下一ノ五三二、筠庭)

唐土鑄人(續中五四二、骨董)

大狸一、町一、奴一(續下二ノ六三、足薪)

伊勢一(續上四四八、蒼梧)(續中五三九、骨董)

一の姿、古昔の一(正上三二五、傍廂四)

ひいこ(續上八六六、松落)

一の枕、折敷の圖(續中五四六、骨董)

一の枕に給を用ふる事(續下二ノ六三、足薪)

天和貞享頃の一人形圖(續中五八四、骨董)

室町時代一の圖(續中五三七、骨董)

姫瓜一(續中五四七、五八七、骨董)

一の名義、一の假名(續中五三〇、骨董)

一衣(續中五三五、骨董)

一使(續下一ノ五三一、筠庭)(續中五四五、骨董)

一の調度(續中五三五、骨董)

一の蛤貝(續上六九五、還魂)

雛草(續中五四八、骨董)(續下一ノ五三三、筠庭)

一の繪櫃(續下一ノ五三〇、筠庭)(續中五四二、骨董)

後の一(續中五四七、骨董)

雛遊 (續中六一〇、後松)(續中五四〇、骨董)

一の始(續中五三三、骨董)

子の日の一(續中五七七、骨董)

雛合 (續中五三三、骨董)

雛賣 (續下二ノ六三、足薪)

雛 鳥のひいなといふ名(正上七八四、圓珠八七)

非南留別志

の作者并自序(正下六四一、冤小九ノ一九四)

美男かつら (續中一二〇一、歷世)

●ヒニ

非人 (續中一〇二六、烹雞)

「コシ」乞食ヲモ見ヨ

●ヒネ

火鼠 (正下四二〇、畫譚九)

●ヒノ

日野 諸國——といふ地名(正上一五二、南留五〇)

日野資朝 の日記(續下一ノ二一六、年々)

日ノ神 の天岩戸にこもり給ひし事(正上一六一、南留六五)

火井 「セキ」石油ヲ見ヨ

火ノ國 一名號考(續中三三二、比古)

火ノ車 といふ隱語(續下二ノ二二六、柳筆)



直垂 (續中八一、後松) (續下一ノ六六四、

難江)

はるひたれ (續上七七二、松藩)

考付紙 (續中八二五、後松)

の袴 (續中九一四、後松)

錦 (續中八六九、後松)

常陸 常陸國の——といふ義 (正上一三一、南

留一二)

額 といふ名 (正上七八〇、圓珠七一)

ひたひ又ぬか (正上七五五、圓珠二六)

額直 元服 (續中八八七、後松)

### ●ヒチ

ひちかさの雨 の辯 (續下一ノ一六二、閑

次)

ひちちか の義 (續下二ノ九七、柳記)

脇卷 ひちまき又くしろ (正上七五九、圓珠

三五)

### ●ヒツ

ひつぢ 「オロカオヒ」を——といふ (正上

七四九、圓珠一五)

羊 の和名 (正上一四〇、南留二七)

以「易牛」 (續中一〇五六、烹雜)

瑟瑟女 織田 (續中一〇八四、近世)

匹夫 匹如身後 (正上一四六、南留三八)

### ●ヒト

人 を仁といふ事 (續上六六四、れさめ)

「をしる事 (正下八九一、花月一〇〇)

「をせむる (正下八七一、花月六七)

「を評する (正下八五九、花月四五)

「の天降りしといふ語 (正下六四八、兎小

九ノ二〇六)

「の勢ひ (正下八八二、花月八四)

「の心 (正下八九六、花月一〇九)

「の評 (正下八九六、花月一一〇)

「兩全を得ざる事 (續中六八九、後松)

「の性 (續下一ノ二三五、年々)

人間波瀾の片影 (續下一ノ五七、閑耕)

「は萬物の靈 (正下三六〇、我宿三)

「は忠孝を盡すが故に萬物の靈たり (正下

八一七、雲萍一〇七)

「の所長を擇ぶべき事 (正下三七、梅叢五

八)

「は獸に及ばず (正上一一四八、春波五〇)

輪奈にかゝる人間 (正上一一二〇、春波三)

人間感 (正上一一四二、春波三九)

「は移り易し (正上一二三九、春波三六)

保元平治以前——を殺すを嗜ます (續下一ノ

四、閑耕)

人麿社 「カキ」柿本人麿ヲ見ヨ

人丸秘抄 といふ書の辯 (續下一ノ五六八、

難江)

轍ヒトツ 「シモ」しもやけヲ見ヨ

一番 ヒトカハリ、ヒトツガヒ (正上一五六、

南留五七)

一ツ書 物を——と云ふ事 (續下一ノ一四

〇、閑次)

一節截 (續下一ノ六二四、難江)

單衣 單重 (續下一ノ四五二、四四八、松竹)

「衣 (續中六八〇、後松)

## ●ヒカ

檜垣 (正下二六一、家屋八二)

檜垣寺 服部南郭—瓦の記(正上四二三、泊々二五)

比カケ

蘿 (正上七四五、圓珠八)

東 極東正上九一八、輜軒三四

日金山 の眺望(正下八六二、花月五〇)

水上山 鷹餌鼈龜禁制(續上二八二、梅日)

彼岸 (正下一三四、世事三一)(續上一四、年山)

—の說(正上六五〇、善庵二四)

## ●ヒキ

ひき 「ヒイ」蟲負ヲ見ヨ

ひきまた 「シウ」祝儀ヲ見ヨ

疋 金何(續上八七七、松落)

引差繩 (續下一ノ四二五、松竹)

引墨 (正下九六、世事一三九)

引付衆 (正下三二三、續昆四八)

引雨 (續上四二三、蒼梧)

旗紋—の字義(續上四七六、蒼梧)

慕肌 (續下一ノ二五〇、年々)

慕目鏡 (正上三二七、傍廂四五)

比興 といふ詞(正下一六八、世事八八)

## ●ヒク

比丘尼 勸進—繪解(續中五四九、骨董)

蜩 (續下一ノ六三八、難江)

日暮小太夫 說經淨瑠璃の太夫—(續下二ノ一三〇、柳記)

被官 (正上一五六、南留五六)

## ●ヒケ

鬚髯 懸—(續上六八〇、還魂)

—なぞる事(續下二ノ五三二、梅筆)(正上一四七、南留四〇)

髯籠 (續中六三一、後松)

鬚男 (續中四六九、骨董)

## ●ヒコ

肥後國 の名物(正下八一、雲萍九九)

彦八 (ンシ)辻話ヲ見ヨ

日高日子 天津彦穗々杵尊(續上三八三、醋中)

## ●ヒサ

ひさご花 「カミ」髪ヲ見ヨ

瓢 (正上九八六、鋸屑五)

瓠葛 (正上七八二、圓珠七四)

廂 と母屋(續下一ノ二九一、年々)(正下二

三六、家屋二)(續上八四六、松落)

## ●ヒシ

菱川師宣 (續中一〇八三、近世)

聖—の字の和訓(續下一ノ三六七、燕居)

## ●ヒセ

肥前國 に火の降りし事(正上一七三、茶筆三)

## ●ヒタ

ひたゝけ といふ詞(續上五六〇、織錦)

飛驒 (續中八三二、後松)

飛驒ノ工匠 といふ名(續上八五〇、松落)

—(續下一ノ六七二、難江)

飛驒ノ三枝 (正上四八二、玄同下一)

直柄のひさご といふ器(正上三八九、傍廂一五二)

拾一〇

林羅山

林家學風(正上三五六、傍廂九五)

勅補正御書(續下一ノ三九八、燕居)

丈山を訪ひし時の句(正上九四九、假世

四六)

●ハラ

薔薇

の花を以て惡臭を避く(正上一〇

〇五、鋸屑三五)

腹赤

(續上二二三、庖丁)(續中三一、比古)

腹卷

着用人品(續中八二二、後松)

胴丸着る事(續中八八八、後松)

桶(洗中八五五、後松)

板

難波にてはらへする事(續上八六四、松

落)

僧にを負する事(續下二ノ五二九、梅

筆)

佛事になする事(續下二ノ五二三、梅

筆)

原峴陵

(續中一〇八五、近世)

原出甲斐

(續下二ノ三三二、柳隨)

原虎胤

美濃守(續下二ノ三四六、隨柳)

原武太夫

の退隱(續中一三三〇、遊藝)

婆羅門僧正

の傳(續下一ノ一六五、閑

次)

●ハリ

針

を吞みたる時の療法(續下一ノ一七〇、

閑次)

の身に立てぬけかゝるを抜く藥(續下

二ノ三三一、柳隨)

針さし

(續下一ノ五二〇、筠庭)

針宮

(續下一ノ五二〇、筠庭)

針袋

(續中七一三、後松)

●ハル

春

は嬰なり(正上一三三二、南留一四)

春

「ハッ」初春ヲモ見ヨ

春の夢

を構ふ事に用ふる事(正上七六二、

圓珠三九)

●ヒ

緋

の色(續上一〇二六、河社)

櫻

モ又はカヒ(正上七五八、圓珠三一)

日

を忌むの愚(正下七六二、雲萍一五)

●ヒア

火あぶり

「ケイ」利罰ヲ見ヨ

●ヒイ

最負

といふ字(正上六七、北邊六二)

ひき、ひきノ、ひいき(續下一ノ六六〇、

難江)

—といふ言葉はいふまじきと云ふ説(正

下一四、梅叢一四)

●ヒウ

火燧袋

(正上一四五、南留三七)

●ヒエ

日吉神社

の變遷(續下一ノ三二、閑耕)

日吉山王

(續下一ノ八〇八、難江)

稗詩

(續下二ノ二二七、柳記)

●ヒオ

ひをりの日

右近の馬場の——(續中二三

〇、比古)



蛤 婚嫁の饗禮<sub>ヲ</sub>を用ふ(正上九九八、鋸屑

二四)

濱名橋 (續下二ノ三二六、柳隨)

— 丈尺(續上九一五、河社)

濱主 伶人——(續上一九、年山)

濱松待從 思——君十三夜詞(續中九三八、

後松)

濱藻 をナノリツといふ(正上七五八、圓珠

三二)

濱床 (續中六八四、後松)(續下二ノ三二九、

柳隨)

●ハム

判 (續中一二七〇、天朝)

板 「ケイ」利詞ヲ見ヨ

板額 は醜女に非ず(續上三二八、梅日)

版位 石の——(續上一二八、錦所)

盤繪 「ハン」變繪ヲ見ヨ

盤溪禪師 の宏徳(正上九四〇、假世三〇)

盤石 の義(續下一ノ三一七、燕居)

盤繪 (續下二ノ三四九、柳隨)

——は盤繪なり(續上一七七、錦所)

——の泡(續下二ノ五二〇、梅筆)

繡——之圖(續下二ノ五四一、梅筆)

輓歌 の意義(續下一ノ一五四、閑次)

番衆 (正上一五四、南留五二)

番町 ——の名より六まである所由(續上

一八八、南向)

番頭 手代な——といふ(正上六五〇、善庵

二四)

絆切 (續下二ノ三三八、柳隨)

范睢 を范雎と誤る事(續下一ノ六三二、難江)

幡隨意上人 (續下二ノ三四五、柳隨)

幡隨院長兵衛 の墓(續下二ノ三四五、柳

隨)

半時庵淡々 「ダン」淡々ヲ見ヨ

半臂 (續下二ノ三三四、柳隨)

——色目(續中八一、後松)

——以下之事(續中六四〇、後松)

——と引倍木(續下一ノ四五五、松竹)

——の着様(續下二ノ五一六、梅筆)

——の句(續下二ノ三三七、柳隨)(續下二

ノ五一六、梅筆)

殿上人——の事(續中六九七、後松)

公卿殿上人の——(續下一ノ四五五、松竹)

般若 鬼女な——といふ(正上六五一、善庵

二七)

斑女扇 の故事(續下一ノ七五九、難江)

萬里和尚 ——古詩(續上一九八、南向)

葉室頼瀧 と橋本實文兩卿の似通ひ(正下

九六八、大海七)

●ハモ

葉守神 (正上七四、北邊七五)

●ハヤ

はやたづ 川な——といふ(正上七四三、圓

珠四)

はやる といふ詞(續上八七八、松落)

早足 (續下二ノ三四四、柳隨)

早馬所 問屋場な——といふ(續中一三三

五、いそ山)

早川八左衛門 の善政(正下一〇七一、梧

花ぞめ 二あり(正上七六五、圓珠四四)

花の兄 梅花を——といふ(續上六五二、れ

さめ)

花の宴 (續中九八八、後松)

花のしぐれ (續上一〇二九、河社)

花の露 (續下二ノ三三四、柳隨)

花見 (續下二ノ三四一、柳隨)

——の畫賛(正下七九七、雲萍七三)

花山 僧正遍昭の舊蹟——(續下二ノ三四三、

柳隨)

纏頭 (正上七九、北邊八三)

鼻紙袋 の始(正上一二〇〇、蜘蛛一六)

鼻血 ——止の古塚(正下八〇四、雲萍八六)

鼻捻 といふもの(續下二ノ五一〇、梅筆)

放出 の事(續中六八三、後松)

長者坊略圖(正下二四〇、家屋三八)

英一蝶 (續中一〇八九、近世)

——の晩年(正上九二六、假世五)

英湘雲 (續中一〇八四、近世)

## ●ハニ

土師連 (正上一五九、南留六〇)

匣 (正上九八四、鋸屑一)

## ●ハハ

母 をも、又いろは(正上七七八、圓珠六七)

繼——と前家子との話(正下一四、梅叢一〇)

母子草 (續上九一三、河社)(正上七七四、

圓珠五九)

柞 (正上七五六、圓珠二八)

馬場殿 (正下二四三、家屋四五)

馬場信房 (續下二ノ三四六、柳隨)

## ●ハヒ

蠅 はへといふ名(正上九八九、鋸屑九)

——と蚊(正上九七二、關秋一三)

這入 はひりといふ詞(正上三九六、傍廂一

六五)

## ●ハフ

はふり の義(續下一ノ四九二、筠庭)

法 と云ふもの(正下九八六、多波一六)

——を用ふるの斟酌(正下九九八、多波三

六)

法親王 ——准三宮の始(正下九五二、准

后六)

——の事(續中六九二、後松)

法住寺 の古跡(續下一ノ三二、閑耕)

法隆寺 ——の寶物(續上三九〇、酣中)

——金堂藥師像銘并釋迦像銘(續下二ノ二

五四、柳隨)

法律 律學の事(續中六三八、後松)

律十卷(續上三八五、酣中)

律書有無の利害(正下九九八、多波三六)

法王塚 ——、法王嶽(正上一三八、南留

二三)

搏風 (正下二五四、家屋六七)(續下二ノ四

八四、柳隨)

——の古圖(正下二五四、家屋六七)

韓 ——(正下二五四、家屋六七)

千鳥 ——(正下二五四、家屋六七)

飯匙蟲 (續下一ノ七〇、閑耕)

祝園森 (續上七八〇、松落)

## ●ハマ

初午 (正上一〇四五、茅窓五八)

——祭(正上九九五、鋸屑一九)

初午おろし といふもの(續下一ノ五二五、

鶏庭)

初鯉 (正上一二一九、蜘蛛四七)

初春 のけしき(續下一ノ二六五、年々)

初穂 (續上九一五、河社)

神に奉るものを——といふ(續上八六〇、松

落)

初雷 (續上二二九、梅日)

八角井 (續下二ノ三三二、柳隨)

八卦 「ウラ」ト箴ヲ見ヨ

八講會 (續上五〇八、蒼梧)

八朔 (續上二二六、庖丁)

——の禮、尾花の粥(續上一三八、年山)

——御馬の下賜(續下一ノ四三〇、松竹)

——の白小袖(正下一三五、世事三二)

八子 (續上三八七、醋中)

八處諱處 (續下二ノ三三八、柳隨)

八處御靈 (續下二ノ三三八、柳隨)

八丁堀 (續上二〇九、南向)

八徳 といふ函(正上七〇七、桂林四四)

服部高保 が非選要抄及辭世の歌(正上四

一七、泊々三〇)

服部南郭 (續中一〇八九、近世)

——小豆飲と鬼の首の紋(正上九三二、假

世一六)

——謝安に似たり(正上九四八、假世四三)

——の尺牘并詩(正上九三九、假世二八)

法被 絆切(續下二ノ三三八、柳隨)

●ハト

鳩杖 (續上三九六、醋中)(續下一ノ六八〇、

難江)

鳩部屋 遊女の居間(續下二ノ二四〇、柳

筆)

服部 (續下一ノ六〇四、難江)(正上一三三、

南留一六〇)

●ハナ

はなだ草 (續下一ノ七〇二、難江)

はなだの帯 龍馬樂石川中にある——(續

下一ノ七〇二、難江)

はなから (續下二ノ三三三、柳隨)

はな吹秋 の義(續上二六四、梅日)

はまなげ といふ遊戯(續下二ノ三五二、柳

隨)

花 といふ名(正上七八〇、圓珠七一)

所によりて——といふ名の異る事(正上八〇

四、昆陽一八)

古へ——といへるもの(正上三二三、傍廂三

七)

花卉の品評(續下一ノ二七八、年々)

花の雨風(正下八五六、花月四一)

落——の事(正下八七七、花月七六)

花扇 の文使(續下一ノ一二二、閑次)

花瓶 (續中六七四、後松)

花崎神社 増上寺境内——(續下一ノ七二、

閑耕)

花さくら に二あり(正上七六五、圓珠四

五)

花園天皇 御讀書(續上一八〇、錦所)



鐵賣 (正上一二九三、蜘蛛四)

●ハリ

梲ハリ のよみ(續下一ノ四五〇、松竹)

●ハタ

ばたハタ といふ異物(正上一七三、茶筆)

筆)

畑 といふ名(正上七八一、圓珠七三)

畑六郎左衛門 の妻(正下七九九、雲萍七六)

畠 圖をはたけと訓む(續下一ノ七、閑耕)

畠中頼母 (正上九四六、假世四〇)

旗 といふ名詞(續下一ノ七五九、難江)

乳付のハタ(續下二ノ四八四、柳隨)

一、馬標、まとい、笠符(續中九〇〇、後松)

松)

蠶幡、隊幡、小幡(續中九〇一、後松)

幡幢 といふもの(正上七八六、圓珠八一)

肌 中古赤ハタを恥し事(續下一ノ二五四、年々)

促織虫 (正上一三三、南留一六)

裸坊 (續下二ノ二八、足薪)

旅籠 ハタゴ、ヨリ、スリ(正上三二四、傍廂四〇)

ハタゴ

ハタゴといふもの(正上七八四、圓珠七八)

秦都理 といふ人(續下一ノ七〇八、難江)

●ハチ

はちぶさる、人に思みきはる、を

—といふ(正下一二二、世事八)

八 我國にて一の數を尊ぶ事(正下九七九、多波四)

波四)

八葉の車 (續下二の三三四、柳隨)

八十の翁 琴唄梅ヶ枝にある—も戀に腰

をそらいたといふ事(續下二ノ一八二、柳筆)

筆)

八丈絹 (續下二ノ三三二、柳隨)

八丈島 (正上九九七、鋸屑二二)

八條氏 —墓井系圖(續下二ノ三三一、柳隨)

隨)

八人藝 (續下二ノ一〇七、柳記)

八幡宮 八幡祭(正下八九一、花月九九)

八幡座 胃の—(正上一二八、南留七)

八里半 「サツ」甘諸ヲ見ヨ

八龍日 (續上三〇二、梅日)

蜂 すがり(續下一ノ七、閑耕)

備前國尺所村の奇—(正上一八四、茶筆二二)

—に刺れたる時の療法(續下一ノ一七一、閑次)

閑次)

—馬を整したる事(正上二一九、茶筆七九)

九)

九)

蜂須賀氏 阿波侯の行蹟(正上一一六四、春波七八)

波七八)

鉢肴 (續下一ノ五一五、筠庭)

鉢敲 (續下一ノ五〇五、筠庭)(續下一ノ五三、閑耕)

三、閑耕)

鉢卷 (續下一ノ四九五、筠庭)

●ハツ

はづかし —、やさし、かたじけなし等

皆同じ心なり(正上七四七、圓珠一〇〇)

はつき の本字(續上一七三、錦所)

●ハケ

刷毛 (正下四四一、盡譚四五)

化物 (續上八八九、松落)

●ハコ

箱 (正上三二九、傍廂四八)

箱入娘 (正下一八八、世事一二四)

箱棟 (正下二五四、家屋六八)

箱根山 箱根路(續上七八〇、松落)

羽子板 圖説(續中五二六、骨董)

信濃國——の圖(續中五八五、骨董)

坡谷庵 (正上九二四、假世一)

筐柳 (續上九一六、河社)

●ハサ

バサル獸 圖説(正上二〇一一、茅窓二四)

(二四)

挾板 (續下一ノ五一九、筠庭)

挾竹 (續下一ノ五一九、筠庭)

挾箱 古體(續下一ノ五一九、筠庭)

●ハシ

はじく といふ詞(續中四四三、比古)

はしたなし (續下一ノ三一二、燕居)

はしたもの (續上八三〇、松落)

はし船 (正上七五七、圓珠三一)

箸 逆饅口の(續下一ノ二七四、年々)

——ヒ作法(續下一ノ四三五、松竹)

箸折り鏡の兄弟 (續下二ノ九一、柳記)

箸塚 大和國の(續下一ノ一九、閑耕)

橋 (正下二四六、家屋五一)

橋場 の名の起り井附近の名蹟(續上一九五、南向)

南向)

武藏國——の里(續上六二六、ねさめ)

橋廊 (正下二三七、家屋三四)

櫨 —の木より蠟を製するの始(續下二ノ三

四八、柳隨)

階 (正下二三六、家屋三二)

階隱 (正下二三六、家屋三二)

——の間(續中六八三、後松)

麻疹 (續下一ノ二五九、年々)

派刺 (正下三五一、續見九七)

鶴 (續下一ノ六七一、難江)(正上三五、北邊

八)

柱 (正下二三一、家屋二二)

柱寄 (正下二三二、家屋二二)

●ハス

はすはもの (正下一二〇、世事七)

蓮 十二時(正上八九三、昆陽一八三)

千葉(正上九〇五、輜軒一二)

蓮なは 考(續下一ノ五九五、難江)

蓮葉 ——に食を盛りし事(續下二ノ三三

四、柳隨)

●ハセ

芭蕉 庭景草(正上一〇八六、茅窓一二九)

雪中——の圖(正下四二五、盡譚一九)

芭蕉 桃青(續中一〇八九、近世)

長谷川禹功 (續中一〇八二、近世)

長谷川宗哲 (續下二ノ三四一、柳隨)

長谷川等胤 (續下二ノ三四一、柳隨)

長谷川等伯 (續下二ノ三四一、柳隨)

長谷川光芳 (續下二ノ三四一、柳隨)

泊瀬寺 (正上七二、北邊七二)

は風 二あり(正上七六四、圓珠四三)

伯太彦伯太姫 (續上九一四、河社)

袴 の色々(續中九〇九、後松)

大口の製の袴袴の事(續中七一八、後松)

表の下のより大口を見する事(續中七一七、後松)

大口色目、表一色目(續中八一、後松)

表(續中七七八、八〇九、後松)

襦褌(續下二〇三八、柳隨)(續上一七三、錦所)

奴の色(續中六五〇、後松)

緋の(續中八一、後松)

大口(正上一五九、南留六一)(續中七一八、八〇九、八一、後松)(續下一〇二五一、年々)

革(續中八〇三、後松)

袴着 の事(續中一一五九、歷世)

秤 以一斤爲二斤(正上八七〇、昆陽二四四)

# ●ハキ

はきにあげて といふ詞(續下一〇五九〇、難江)

榛 とはりの木(正上七六五、圓珠四五)

萩 二あり(正上七六五、圓珠四五)

萩野澤之丞 (續下二〇四、足薪)

萩の餅 (正下一九〇、世事一二七)

萩焼 茶碗(正上七〇七、桂林四五)

# ●ハク

はぐ といふ詞(續中四四三、比古)

はくやう の字(續下一〇七八、閑耕)

貌 食夢(續上三八〇、酣中)

白幽子 隠者 異傳(正上六〇五、玄同下二〇〇)

白龜 年號(續中三二五、比古)

白山 越州の(正上九九八、鋸屑二五)

白紙 (續上八八二、松落)(續下二〇五三一、梅筆)

白心 (續中一〇八七、近世)

白丁 (續中六二三、後松)(正上一二七、南留五)

白田 (續下二〇三三、柳隨)

白文 (續上三八四、酣中)

白樂天 劉禹錫唱和(正上二二四、茶筆八七)

白鹿和尚

の狀(正下一〇四四、消閑一九)

伯夷叔齊 (續上三七九、酣中)

伯顔 渡梅嶺詩(正下三三六、續昆七一)

博奕 (續下一〇七九、閑耕)

なはくやうと訓む(續下一〇七八、閑耕)

の嚴禁(正上一一四六、春波四八)

博徒 無學の話(續下一〇二五七、年々)

羽倉在滿 眞蹟(正上三四九、傍廂八三)

の碑(正上四〇二、泊々六)

羽黒山 出羽(正上一三一、南留一二)

馬喰町 景況(正上二三八、都手一一)

齒黒め 「カネ」鐵漿ヲ見ヨ

薄命 人の書きたるもの(正下七九七、雲萍七四)

破瓜 二説あり(續下一〇三二六、燕居)



沛艾 馬にカン強きを——といふ(續上三八)

三、酣中(續下二ノ三三〇、柳隨)

輩行 (續下一ノ二三〇、年々)

賣茶翁 の狂歌(正上一一四九、春波五三)

灰匙 (續下一ノ五一八、筠庭)

# ●ハウ

パウゾウ 「サウ」雜煮ヲ見ヨ

茆 の字(正上八八〇、昆陽一六一)

袍 (正上八〇七、昆陽二二)(續中七八四、後

松)

無位の——(續下二ノ五二一、梅筆)

四位五位の——の色(續上五三五、織錦)

雲雀御(續中九四二、後松)

方圓 の字義(正上八四一、昆陽九〇)

方忌 (續下二ノ三四一、柳隨)

方麴 の字義(正上八六七、昆陽一三七)

方言 (正下一五七、世事六九)

盛岡地方の——(正下一五七、世事七〇)

大和國の——(正下一五七、世事六九)

佐渡にて乞食をホイトといふ(續中一〇二

# 六、烹雜

方齋念佛 (正下一四六、世事五一)

方丈 (續下一ノ六六三、雞江)(續下二ノ三

四三、柳隨)

方便囊 (正上八〇六、昆陽二〇)

房官 (續上一六九、錦所)

望遠鏡 (續下一ノ二〇二、閑次)

望鄉碑 の義(續下一ノ一五九、閑次)

箒木 (正上三二〇、傍廂三二)

保元之亂 の顛末(續下一ノ七六七、雞江)

茅柴 の義(續上二二八、梅日)

茅窓漫錄 ——自叙(正上一〇一〇、茅窓

上)

庖瘡 の神(續中一〇三六、烹雜)

——忌貝(續上三六四、梅日)

——のまじなひに留守といふ事(續中六八

九、後松)

——神を麻娘といふ(續中一〇三六、烹雜)

庖丁 (續下二ノ一〇〇、柳記)

庖丁正宗 (續下二ノ三五二、柳隨)

榜示 の正字(正上一五六、南留五六)

帽子 (續中九一二、後松)

坊主 といふ名(正上三一八、傍廂三〇)

茶堂——掃除——(正上一五九、南留六

二)

坊門 (續下二ノ三三三、柳隨)

防の津 薩摩國——(正上一五四、南留五

三)

放免 (續下二ノ三四七、柳隨)

——付掲名介(正上六七、北邊六三)

——のつけ物(續下一ノ二二一、年々)

訪問 人の方に行きて心得ありたき事(正上

九七八、閑秋二三)

# ●ハエ

はえ 月日の蝕を——といふ(續中三九、比

古)

# ●ハカ

羽織 (續下二ノ三五四、柳隨)

蝙蝠——の圖(續中四六六、骨董)

# ●ハカ

のら 田畑の事を——といふ(續下一ノ六、

閑耕)

●ノリ

乘輿 の論(續中六五一、後松)

●ノレ

暖簾 柿——(續下二ノ二三七、柳筆)

●ノロ

のろし といふ俗語(續上六三〇、れさめ)

狼烟 烽火(續中六七〇、後松)

●ハ

齒 義齒は入齒の事(續下一ノ九七、閑耕)

——のうくと云ふ字(續下一ノ三五四、燕居)

——の強きを誇れるものゝ事(正下八五五、花

月三九)

わけ——を佛堂へ納むる事(續上二五八、梅

日)

●ハイ

拜 詞といふ(續上七八九、松落)

拜賀 (正上六四一、善庵一〇)

高倉中納言——次第の内不審(續下一ノ四

一六、松竹)

拜禮 ——宴會之別(續中六三七、後松)

俳優 の位地(正上二一、獨語三四)

天明中の——(正上一二二〇、蜘蛛五〇)

俳諧 ——論(正下一〇五一、消閑三二)(正

上九——一二、獨語一四——一九)

——は俳諧なり(續上三六九、梅日)

選俳句贈賞物(續上三六二、梅日)

和歌藏案の發句(續下一ノ三七四、燕居)

——の心をとれる歌(正上四二六、泊々四

五)

過奢罪人の俳句(續下一ノ一八四、閑次)

也有の發句(正上二一四八、春波五二)

平秋東作の發句(正上九三七、假世二四)

何某が——(續下一ノ三四四、燕居)

芭蕉其角反古懸物(續下一ノ三六五、燕居)

感情の發句并盜賊句を感ず(正上二八四、雨

窓五七)

芭蕉が角大師の句(正上九四五、假世三八)

其角がおくり火や定家の煙十文字の句(續

下二ノ一二二、柳記)

初雪の句(續中四八二、骨董)

雪の日やの句故事に符合す(續下一ノ三八

八、燕居)

冠附、三笠附(正上九——一二、獨語一四

——一九)

俳人 各俳人ハ其名ノ下ニ掲グ

隼人 (正上一六〇、南留六三)

——の狗吠(續中五二、比古)(續下二ノ五

一五、梅筆)

梅雨 (正下一三〇、世事二五)

——のよみ(續上一六、年山)

敵雨(續下一ノ五六九、難江)

——の諸名(續下一ノ八〇三、難江)

入梅、出梅(正上八二四、昆陽五八)

梅窓筆記 の序(續下二ノ五〇四、梅筆)

梅嶺和尚 ——燈を消して寐の(續下一ノ

四一、閑耕)

拈華微笑 (正上六五九、善庵三九)

●ネヲ

寝られぬ夜 の煩悶(正上九七〇、関秋九)

●ネリ

練歩 (正上九九三、鋸屑一六)

●ノ

の と「に」と近し、又「な」と近し(續下一ノ八二〇、雞江)

野 の本義(續上七五六、松落)

●ノウ

能樂 の起原(正上一六〇、南留六三)

昔の——(續下一ノ七八、閑耕)

御能拜見(續中一三三一、遊藝)

觀世一代能(正上二六四、雨窓二五)

——の伎は體を守り練るにあり(續下一ノ一九一、閑次)

能書

手かき、又は手をよく書くといふ事(續上三七九、酣中)

農具

に「コ」とよぶもの多し(正上九八五、鋸

屑三)

農事 農のふり(正下八七一、花月六六)

産農の事(正下八七四、花月七一)

老農の事(正下八七三、花月七〇)

●ノキ

櫓 といふ名稱(正上七七七、圓珠六六)

●ノコ

残りの雪 の辯(續下一ノ六三七、雞江)

●ノサ

のさばる といふ詞(續下一ノ三四九、燕

居)

荷前<sup>ノサキ</sup> (續中一八七、比古)

●ノシ

熨斗 (續上二一九、庖丁)

熨斗葺 (正下二五七、家屋七五)

熨斗目 ——腰の論(續中六一二、後松)

●ノセ

能勢河内守 の犯直(續中一三一七、遊藝)

●ノタ

野田玉川 (續下一ノ二六、閑耕)

●ノチ

後悔大將 のよみ方(續下一ノ五七八、雞

江)

後瀬 (續上八二、年山)

野路篠原 地名考(續下一ノ一一、閑耕)

●ノツ

祝詞 ——宣命等曲節(續上一六五、錦所)

●ノテ

野寺 (續下一ノ一四、閑耕)

——の歌(正上二一七、茶筆七五)

●ノト

咽喉が乾く といふ諺(續上六九二、還魂)

能登瀬川 (續下一ノ二四、閑耕)

●ノノ

野々宮定基 の逸事(正下九七〇、大海一

〇)

●ノミ

墓の息天へあがる といふ諺(續上二六

八、梅日)

●ノラ



三〇、梅筆(續中六八三、後松)(續下一ノ四九八、柳隨)

鐸 —を奴利氏(續中一四四、比古)

ぬりて、ぬて(正上七五九、圓珠三三)

●ヌル

ぬる 助辭——とつるとの別(續下一ノ七三四、難江)

●ネア

根合 の事(續中六一九、後松)

●ネキ

禰宜 —といふ名(正上七七七、圓珠六五)

葱 (正上一四七、南留四一)

葱吹 小兒の——といふ遊戲(續上三二九、梅目)

●ネコ

猫 —といふ名(正上七八一、圓珠七二)(正上一六〇、南留六四)

—の説(正上三六六、傍廂一一二)

ねこまの和名考(正下四七二、兎小八ノ三九)

九

—を飼ふ法(正下七七〇、雲萍二八)

—虎相似(正下五〇一、兎小八ノ八九)

—の忠(正下八六七、花月五九)

不捕鼠猫(續下一ノ三八一、燕居)

—老婆に化く(正下六八二、兎小九ノ二六三)

三)

猫の蚤取 (續中四八〇、骨董)

猫又橋 の名稱(續上一九四、南留)

●ネヤ

ねざめの床 (正下八八八、花月九四)

●ネス

鼠 よめが君(續下二ノ二二九、柳筆)

鼠の嫁入 (正下一八七、世事一二二)

●ネチ

ねちわけ髪 (續下二ノ一五〇、柳筆)

捻重 (續下一ノ四五一、松竹)

●ネツ

根付 クワラ(續下一ノ五二二、筠庭)

●ネノ

子の日 中の——(續下一ノ一四五、閑次)

—遊(續下一ノ二六六、年々)

—燈心(續下二ノ二二四、柳筆)

●ネハ

ねば —といふ脚結(正上三七、北邊一二)

●ネム

ねんごろ れも、ろ(續上六〇一、織錦)

年賀 —又は追福の勸進(續下一ノ四四、閑耕)

神官驗者年賀のさま(正上九七六、關秋一)

九)

年號 元年(續下一ノ二七二、年々)

我國暫く唐の——を用ゐし事(正上八五九、昆陽一二四)

漢土異——(正上一〇三七、茅窓三六)

年忌 (正上三六九、傍廂一一七)

井厄年(續上四八七、蒼梧)

—法事延引の事(續下二ノ五二〇、梅筆)

—の取越(續下二ノ五二二、梅筆)

## ●ニヨ

如意 — 圖説(正上三〇七、傍廂一〇)

如意寶珠 (續下二ノ三六八、柳隨)

如是我聞 (正上一四七、南留四一)

如大尼 「チヨ」千代能ヲ見ヨ

女院 — 准后の始(正下九五二、准后五)

女房 (續上九五、年山)(續上三〇五、梅日)

— の名の事(續中六九二、後松)

— 神拜法(續上一七二、錦所)

— 上髪(續下二ノ五二六、梅筆)

— 當今 — 職員事(續中七〇六、後松)

## ●ニラ

にらめくら 目比(續中五六八、骨董)

葦山 伊豆國 — (正上四六二、玄同上四〇)

## ●ニワ

仁王 長榮山三門の — (續下二ノ三六三、柳

隨)

## ●ヌ

凵 の字(正上一四六、南留三八)

## ●ヌエ

鶴 の字(續下二ノ四九五、柳隨)

鶴付毛朱(正上六三七、善庵三)

## ●ヌカ

ぬかり 塗の字を — とよむ(正上七五四、

圓珠二四)

ぬかつき虫 (續下二ノ四九九、柳隨)

額 ひたひ、又ぬかと讀む(正上七五五、圓

珠二六)

糠 の價(續下二ノ五〇〇、柳隨)

## ●ヌキ

脱きかへて とつかへる例(續下一ノ七四

三、難江)

貫鉢の神 (續下二ノ五〇〇、柳隨)

貫鞘 (續下一ノ四一三、松竹)

貫簀 — 掛様(續下一ノ四四九、松竹)

## ●ヌケ

暖鳥 (續上二八九、梅日)(續下一ノ三三七、

燕居)

## ●ヌサ

幣 幣帛(正上七一、桂林五五)

幣袋 (續中八五五、後松)

## ●ヌタ

ぬため (續下二ノ五〇二、柳隨)

## ●ヌノ

布 の價(續下二ノ五〇二、柳隨)

布帽額 (續下二ノ四九八、柳隨)

## ●ヌヒ

奴婢 今の百姓は昔の — なり(正上一五三、

南留五一)

## 縫箔屋

— の印に松(續下二ノ六八、足薪)

## 縫殿寮

— 有磁石事(續上一七八、錦所)

## ●ヌホ

## 奴僕

— の失言(正上一一八〇、春波一〇五)

## 瓊矛

— の訓(續上九〇七、河社)

## ●ヌマ

## 沼津繪

(續下二ノ五〇一、柳隨)

## ●ヌリ

塗籠 (正下二四二、家屋四四)(續下二ノ五

●ニヘ

石首魚

(續中三二、比古)

●ニホ

にほふ

といふ字(正上一三二、南留一四)

——といふ詞(續上一〇二九、河社)

句

と蕨(續上七四、年山)

鳩の海

(續下一ノ一六二、閑次)

日本紀

大日本紀(續下二ノ五一六、梅筆)

——日本書紀考(續中五、比古)

——の點は後世よりつけたり(正上一三〇、

南留一〇)

——及古事紀傳の訓(續下一ノ二七九、年

々)

——竟宴歌の注(續下一ノ八二三、難江)

——に作云々池とある(續下一ノ二九二、年

々)

——は全き和訓にあらず(正上一三四、南

留一七)

——年曆考(續中一三、比古)

日本紀略

といふ書(續下一ノ七六一、難

江)

日本見在書目錄

の著者(續下一ノ七一

七、難江)

日本後記

の偽書(續上四二、年山)

日本人

——は長息なり(正上八六一、昆

陽一二六)

——を吳の泰伯の後なりといふ説(正下九

七八、多波三)

——は獸肉を食せず(正下九七九、多波四)

——と異國人との優劣(正下三六六、我宿

一一)

●ニマ

二萬の里

備中國——(正上九一三、輜軒

二五)

●ニム

人形

浮世——(續下一ノ五三二、筠庭)

柳原家古——の事(正下九三二、閑窓三〇)

作泥孩兒(續下一ノ三六六、燕居)

人形原

久留米の——(正上九〇六、輜軒

一四)

人魚塚

(續下一ノ二二、閑耕)

人相

——者事(正下九四二、閑窓四八)

——見石龍父子(正上一一四六、春波四八)

人參

の價(正上八二七、昆陽六四)

——有毒(正下三二〇、續昆二四)

——和名考并詩歌(正上四九五、支同下

二二)

人情

——各有好惡(正上一二八四、春波一

一三)

人聞菩薩

(續下二ノ三六四、柳隨)

人面瘡

(正上二二四、茶筆八八)

妊娠

——偽便(續下一ノ三二八、燕居)

小石を——のまじなひとす(正上三七四、傍

廂一二五)

胡蘿蔔

(正下三〇三、續昆一二)

——を煎じて藥としたる話(正上三七一、傍

廂一二〇)

仁德天皇

——御製(正上三四、北邊六)

仁和寺兒法師

——徒然草にある——(正上

六二〇、支同下一九五)



## ●ニチ

## 二重折

の事(續中六〇九、後松)

## 日遙

僧——の傳(正下一八四、世事一一六)

## 日蓮宗

の一種(正上一六二、南留六六)

派(續下二ノ三六八、柳隨)

## ●ニツ

## 日記

といふ事(續中六七五、後松)

## 日光山

(正上七二六、細道二)

——と二荒山(續下一ノ八三七、難江)

## 日光御社參

(續下二ノ三五五、柳隨)

## 日蝕

日月の蝕をハエといふ(續中三九、比古)

古)

金鑑食(正上八八五、昆陽一七一)

## ●ニテ

## 二條家

——、冷泉家兩流(正下一〇四八、

消閑二五)

## ●ニニ

## 二八丸秘抄

といふ書(續下一ノ五六八、難江)

江)

## ●ニノ

## 二のきれ

愚なる者の異名を——といふ

(續下二ノ三二、足薪)

## 二宮氏

(續下二ノ三六四、柳隨)

## ●ニハ

## 庭

(正下二四五、家屋四九)

——生(續上九四七、河社)

——つくり(正下八七八、花月七七)

——つくり(續中六九九、後松)(正下八四九、

花月二八)

土御門里内小御所——作事(正下九二四、閑窓

一六)

## 庭忌草

「ハセ」芭蕉ヲ見ヨ

## 潦

(正下八四二、花月一七)

## 鶏

(續上二二〇、庖丁)

——をハタ、鳥又カケといふ(正上七四三、圓

珠四)

——の雄(正上五四、北邊四一)

——一足の——(正下六三九、兎小九ノ一九一)

時をつくる——の能なれ(正上九三一、假

世一四)

## 二番

愚なる者の異名を——といふ(續下二

ノ三二、足薪)

## ●ニヒ

## 新堀山

江戸日暮里の舊名——(續中一〇

二一、烹雞)

## ●ニフ

## 丹生川

——考(續下一ノ五六二、難江)

## 入身

(續下一ノ三二三、燕居)

## 入水の格物

——するといふ事(正下一〇

〇五、多波四八)

## 入唐

(續上六四五、わざめ)

——といふ語(正上一五四、南留五三)

——して名を得し人々(續下一ノ三六、閑

耕)

## 入道

——の事(正上一六〇、南留六三)

——の後魚食の事(續下二ノ五一五、梅筆)

祝髮——之式(續中六二六、後松)

——服制(續中六二五、後松)

## 入梅

「ツユ」梅雨「バイ」梅雨ヲ見ヨ

## 入木

といふ淵源(續下一ノ三八一、燕居)

●ナウ

名和長年

——が約束の松(正下八二〇、雲

澤一一三)

●ニ

に「と」の別(續下一ノ七三六、難江)(正

上一〇、北邊一三七)

——と「な」と同意に通ふ例(續下一ノ七四〇、

難江)

瓊

の字を「に」とよむ事(正上一四五、南留

三六)

●ニイ

二位の尼

平清盛の室——(續下二ノ三六

四、柳隨)

●ニカ

二階御厨子

(續中六二七、後松)

二合

(續中八二〇、後松)

似顔繪

(正上三一九、傍廂三二)

●ニキ

にきはひ草 と云ふ書の著者(續下二ノ三

六四、柳隨)

二禁

(續上五六六、織錦)(續上九五、年山)

(續上一八四、錦所)

●ニク

にくるべ を釋迦牟尼佛とかく事(正上一

四五、南留三六)

肉

(續上三九二、醋中)

肉食

——は穢なりや(續下一ノ二〇七、年

々)

雞を食ふまじき事(續上七九四、松落)

肉生

の製法(正上八二五、昆陽五九)

憎きもの

(正上三〇九、傍廂一三)(正上

九六九、關秋九)

二月堂

奈良——の茶筌(正下七七五、雲萍

三六)

●ニケ

逃水

武藏國——(正上三七二、傍廂一二二)

考(續下一ノ三八二、燕居)

二絃

——圖説(正上一〇六〇、茅窓八五)

●ニシ

虹 虹霓(正下五一四、兎小八ノ一一〇)

念

の字(續上三九七、醋中)

西風

(正下八七五、花月七二)

西陣

(續下二ノ三六八、柳隨)

西洞院時成

の聰明(正下九七〇、大海一

一)

錦

の價(續下二ノ三六六、柳隨)

車形、菱形、霞——(續上九二七、河社)

錦の浦

(續上一〇一五、河社)

錦の旗

(續下二ノ三六六、柳隨)

二十四孝

(正上八九四、昆陽一八五)(正

下一二三、世事一二)(續上六五七、れき

め)

二十八宿

(續上一〇三三、河社)

二十六夜

の考(續下一ノ三三三、燕居)

●ニセ

修

の字(續下一ノ六四六、難江)

●ニリ

二足三文

(續中五〇三、骨董)

社参不着 (續中八四八、後松)

夏——皆具(續中六三〇、後松)

男女の——(續下二ノ五二六、梅筆)

布——(續下二ノ四九七、柳隨)

武家——着例(續中八六三、後松)

直仁親王——蹴鞠御堪能の事(正下九二四、閑窓一五)

直會 (續上五二四、蒼梧)

わが大神の御饌なく竈殿の——といふ米の

事(續上八六三、松落)

●ナマ

なまじひ (續上八一、年山)

海鼠 (正下一九〇、世事一二七)

●ナミ

波 殺濤(正上七九八、昆陽七)

並河五一郎 の父(正上九四四、假世三六)

並木 (續上四二〇、蒼梧)

道中の——(正上八六五、昆陽一三三)

●ナム

南無 の字義(正上三一四、傍廂二二)

南柯夢 「ユメ」夢ヲ見ヨ

南華 愚者の異名を——といふ(續下二ノ三二、足薪)

南化和尙 の狂詩(正上九四一、假世三二)

南廷 といふもの(正上八一九、昆陽四八)

南天燭 (正上一三四、南留一八)

南北朝 の事(續下一ノ八三五、難江)

南嶽 銀を——といふ(續下一ノ六一三、難江)

男倡 の美(正上九三九、假世二八)

男女 (續上七六二、松落)

男少女多(正上一六二、南留六六)

男子化爲女子(續下一ノ五一、閑耕)

變生男子(正下六一〇、兎小九ノ一四〇)

男房 (續上九五、年山) (正上一五七、南留五七)

納戸 (正下二四二、家屋四三)

納戸構 (續中七二四、後松)

難波宗達 の早足(正下九七四、大海一八)

軟舞 ——、健舞(續下一ノ三九〇、燕居)

●ナモ

名もしるし 定家の——の歌(續上一〇二三、河社)

●ナラ

なら茸 の中毒(正下五七一、兎小九ノ七二)

奈良 ——を平城とかく事(正上一三六、南留二〇)

——庭簾(續中五一、骨董)

檜 とカシハは同物(正上七五六、圓珠二八)

檜崎景忠 (正上二〇〇、茶筆四九)

檜しば (續上八九三、松落)

●ナリ

業平天神 (正上一二八、南留七) (續上一〇二、南向)

●ナル

南留別志 と云ふ隨筆(續下一ノ二八五、年々)

々)

東海談に——と云ふ書のこと(續上六三三、ねさめ)



軒二六(正下二〇、墳墓)

那須宗高 扇的(正下八四九、花月二八)

●ナリ

謎 (續下一ノ九四、閑耕)

なぞ(正上二〇四、北邊二二八)

内院に弄ばせ給ひしなぞ(文字(正下九

七三、大海一六)

●ナツ

夏 日の七快(正下七九七、雲萍七四)

夏神樂 (續上九〇五、河社)

夏草 冬虫(正下三四八、續昆九三)

夏衣 (續下一ノ二七〇、年々)

夏の御内衣(續中九一五、後松)

夏衣 といふ牡丹(續下二ノ一五九、柳筆)

夏の雨 夏雨金(續上二五九、梅日)

馬の脊を分くる(續上二六〇、梅日)

夏の鶯 (續上一四四、年山)

夏の虫 (正上七四四、圓珠五)

夏の雪 (正下九四〇、閑窓四四)

名次山 角の松原(續下一ノ一二、閑

耕)

●ナテ

撫子 (正上七四二、圓珠三)

冬の(正上三二七、傍廂二七)

「トコ」常夏ナモ見ヨ

●ナナ

七草 付其唱、爪(續上二九六、梅日)

歌遊之序(續中八五二、後松)

粥(正上一三三、南留一六)

七くり湯 (正上九一〇、輜軒二〇〇)

七小町 (續下一ノ五八二、難江)

七子鞘 (續下一ノ五九四、難江)

七枝刀(續上一三九、年山)

七不思議 甲州及馬喰町の(正下五〇

三、兎小八ノ九一)

七相<sup>オフスグ</sup>菅 萬葉集中の歌(續中四五〇、比

古)

不斜 といふ詞(正上一四六、南留三八)

●ナニ

浪花鉦 といふ書(正上九五三、假世五三)

浪花五人男 (正上九四七、假世四三)

難波海 (續上九七七、河社)

難波村 (正下三五四、續昆一〇三)

●ナヌ

名主 庄屋(續上八八〇、松落)

●ナノ

なのりそ藻 (正上七五八、圓珠三二)

七日 忌歸歸上二九五、梅日)

名乗 「シン」人名ナ見ヨ

●ナハ

那波道圓 (正上三七二、傍廂二二二)

繩<sup>ナハ</sup>抜け 又繩たらし、繩切りの藝(續

下二ノ一五四、柳筆)

繩床 (續下一ノ六七二、難江)

●ナフ

魚群<sup>ナフ</sup> シヨナフラ(正下七八〇、雲萍

四五)

●ナホ

直衣 の色(續中六五〇、六〇九、後松)

院中 納言以上不憚(續中八三〇、後松)

長山霽子 (續上七六、年山)

長柄橋 (續上九一四、河社)(續上一〇三、

年山)(續上八五一、松落)

轅 の論(續中六五一、後松)(續下一ノ一四三

七、松竹)

一の濫觴(續下一ノ四四六、松竹)

一柱文臺(續下二ノ五一〇、梅筆)

中井源左衛門 豪商 (正上一二二四、

春波一一)

中人 (正下一六二、世事七八)

中江藤樹 (正下一七九、世事一〇八)(續

下二ノ四三六、柳隨)

熊澤蕃山贈答歌(續下一ノ一九三、閑

次)

中河 (正上一一三、北邊一四三)

中神 「ゴン」金神ヲ見ヨ

中嶋正佐 —の講義(正上九四四、假世三

七)

中洲 天明頃—の繁昌(正上一一九五、蜘蛛

六)

中臣祓 の大意(正下一〇四七、消閑二五)

中庭 (正下二四五、家屋四九)

中院通茂 —の歌(續上八八、一一九、年

山)

七十賀(續上五、一一、年山)

通躬を教訓す(正下九七二、大海一三)

雷鳴を好む(正下九六八、大海六)

中御門天皇 —笛御堪能の事(正下九一

八、閑窓五)

押小路寛岑の和歌を感ず(正下九二一、

閑窓一〇)

中山貞藏 の傳(正上二二一、茶筆八三)

中ゆひ (續上八一八、松落)

●ナキ

渚 を波隈とかく事(正上七四八、圓珠一四)

長刀 といふ名稱(正上七七七、圓珠六五)

「タウ」刀劔ヲモ見ヨ

●ナク

泣く 血に—と云ふ事(續下一ノ九六、閑

耕)

無くてよき物 と有てよき物(正上九七

八、閑秋二三)

●ナケ

長押 (正下二三二、家屋二三)

—、敷居(續上八四六、松落)

●ナコ

名子浦 越中—、宗貞親王の遺跡(續下

一ノ二四、閑耕)

名古屋帶 (續中四八三、骨董)

「ガヒ」帶ヲモ見ヨ

和難祓 —除之次第(續上四五六、蒼梧)

●ナサ

菜さう といふもの(續中二五二、比古)

●ナシ

梨 、ありのみ(正上七五二、圓珠二一)

梨木坂 の名稱(續上一九四、南向)

●ナス

茄子 の害(正上一一八五、春波一一四)

熊 —を忌む(正上一八六、茶筆二五)

那須碑 (續上九、年山)(正上九一三、轅

●トリ

とりん坊 (續下二ノ二三、足薪)

酉 の訓(續上三九〇、酎中)

鳥 といふ名(正上七七六、圓珠六三)

—の言葉(正上九〇七、輜軒一五)

通—語女話(正下九三三、閑窓三二)

—の群(正上二〇六、茶筆五七)

—獸の鳴く聲(續下一ノ二七一、年々)

飼—の教習(續下一ノ六一、閑耕)

—柱(正上一七六、茶筆九)

—羽變文(正上三六〇、傍廂一〇二)

物の枝に—を付くる事(續下二ノ五一八、梅

筆)

鳥居 (正上三八二、傍廂一四〇)

鳥おどし の序(正下八九九、鳥お一)

—後書(正下九〇八、鳥お一四)

鳥貝 (正下一八一、世事一一)

鳥邊野 の古碑(正下八〇四、雲萍八五)

取替早物語 (續下一ノ九二、閑耕)

度量衡 度量權衡(續下一ノ七二〇、難江)

尖量、平量(正下三四七、續見九一)

●トロ

泥 泥の如く酔ふ等の—の字(續下一ノ三一

五、燕居)

泥 ウヒゲ、コヒゲ、ヒゲリコ、ドロ皆同じ(正

上七五四、圓珠二四)

泥坊 といふ詞(續下二ノ二九、足薪)(正下

一六八、世事八九)

—の名義(續下一ノ三三九、燕居)

「タウ」盜賊ナモ見

●ナイ

内侍所 假置—於念誦堂事(正下九一六、

閑窓一)

内親王 —准三宮の始(正下九五二、准后

四)

内損 といふ俗語(續上二七七、梅旦)

内大臣 —左大臣の次下(續上九〇八、河

社)

内藤義概 の歌(續上二一九、年山)

内官 (續上五六六、織錦)

●ナカ

なかつかみ 豹を—といふ(正上一四〇、

南留二七)

ながらへ といふ詞と文字(正上三二二、傍

廂三六)

長井庄 (續上一九五、南向)

長圍爐裏 (正下二八八、家屋一三六)

長柄之間 (正下二八八、家屋一三七)

長岡 舊都—の遺趾(續下一ノ二五、閑耕)

長崎 —の柱餅と幸木(續中五一二、骨董)

長袖 (續下二ノ五三三、梅筆)

長局 (正下二九二、家屋一四五)

長門浦 (續下一ノ一七、閑耕)

長寐坊 (續下二ノ二七、足薪)

長野采女 (續上七三、年山)

長櫃 (續下一ノ五二九、筠庭)

長町竹石 (續中一〇八六、近世)

長屋 (正下二九〇、家屋一四〇)



外文 (續上一七九、錦所)

都府樓 (續下二ノ四三〇、柳隨)

●トホ

とはさき (續上五三二、織錦)

遠侍 (正上一二四一、南留三〇〇)(正下二七六、

家屋一一〇)

遠江 の國の名(正上一六二、南留六七)

——の道記(續上五九、年山)

遠山猿平 (正上九七五、關秋一九)

十市 大和國——(續下一ノ六二五、難江)

●トマ

苦屋 (正下二五九、家屋七九)

●トミ

とみに といふ詞(續上五四三、織錦)

富阪 ——の名稱(續上一九四、南向)

富澤町 ——の朝市(正上二三三、都手二)

富突 (續下二ノ四三四、柳隨)

●トム

とんだ茶釜 (續下二ノ四二八、柳隨)

頓 の字義(正下三四一、續見八二)

頓首 といふ字の印(續下二ノ四三〇、柳隨)

頓智 粟田察笛師の——(續下一ノ一二三、閑

次)

頓的 ——又頓敵といふ詞(續下二ノ一三一、

柳記)

蜻蛉 ——をトンボウといふ(正上一四九、南

留四五)

玉蜻考(續中九一、比古)

豚兒 (續下一ノ三四八、燕居)

●トモ

巴 の字(正上一〇〇六、鋸屑三七)

——の紋(續下二ノ四三五、柳隨)

鞆袋 (續下二ノ四三五、柳隨)

供侍 (續上七四〇、下馬)

●トヨ

豊崎文庫 の尙書(正下九〇、遊京下一二)

豊臣秀吉 の説(正下五九八、兎小九ノ一

一九)

——の目の光(正上三九一、傍廂一五五)

——の奥方(正上二五一、雨窓三)

——の割粥(正上二六六、雨窓二七)

——の眞容圖(正上七〇〇、桂林二九)

評 (正下一七八、世事一〇六)

豊國社再興の議(正下一〇九一、梧拾四三)

——の慘酷(續下一ノ四三、閑耕)

——の書(正上八三七、昆陽八三)

自稱太閤(續下一ノ七九四、難江)

豊浦寺 (續上九七六、河社)

土用 (正上一四三、南留三三)(續下二ノ五

一五、梅筆)

●トラ

とられん坊 ——ととりん坊(續下二ノ二

三、足薪)

寅 ——に刁の字を用ひたる(續上五四三、織

錦)

虎 (續下二ノ四二六、柳隨)

——の名(正上一四〇、南留二七)

手飼の——(正下一八〇、世事一一〇)

書——不成類猫といふ諺(續下一ノ三五六、

燕居)

年男 (續下二ノ五三一、梅筆) (續下二ノ四

三三、柳隨)

年玉 (續下二ノ四二六、柳隨)

年のは といふ詞 (正上一一四、北邊一四

五)

刀自 (續下一ノ一三三、閑次)

の字源(續中三一九、比古)

考(正上一四四、南留三四)

泥鰯 (正上九八九、鋸屑九)

圖書集成 といふ書 (正上七〇六、桂林四

三)

トス

十筋右衛門 といふ事(續上七一四、還魂)

(續下二ノ三七、足齋)

トリ

屠蘇 (續下二ノ四二三、柳隨) (續下一ノ六

六四、雞江)

に鳥類を加ふ(正上三三一、傍廂五二)

の居の字を屋に作る(續下一ノ三四四、

燕居)

トチ

とちめん坊 (續下二ノ二八、足齋)

戸帳 (正下二三五、家屋二九)

の圖(正下二三五、家屋三〇)

トツ

凸 の字(正上一〇一一、茅窓二〇)

咄嗟 (正上八六五、昆陽一三五)

突鼻 (續下二ノ五二九、梅筆)

トテ

度牒 (正上一四一、南留二九)

の寫(續下一ノ一四〇、閑次)

トト

と、 「ウオ」魚ヲ見ヨ

鳥取造 (續下一ノ二九二、年々)

トナ

となめき (續下二ノ四二八、柳隨)

都那豎 (續下一ノ三四四、燕居)

トネ

舍人親王 のよみ方(續上一四三、年山)

トノ

殿 (正下二二二、家屋三)

殿 一と様(續下一ノ二五九、年々)

宿直物 (續上八〇、年山)

トハ

鳥羽希聰 (續中一〇八六、近世)

鳥羽三右衛門 が字訓(正上九三〇、假

世二二)

鳥羽僧正 覺融(續下二ノ四二四、柳隨)

トヒ

とびやうし の本字(正上一五六、南留五

六)

鳶 の子の巢立(正下八七六、花月七四)

一物を攫む(續下一ノ三一六、燕居)

鵲瓦 (正下二五七、家屋七一)

鵲尾 (續中八四六、後松)

問屋 (續上四二二、蒼梧)

問屋場(續中一三三五、いそ山)

トフ

とふひ 烽火を といふ(正上一三九、南

留二五)

の詠歌(續上一、年山)

の和文(續上四七、年山)

西山の賦并序(續上七五、年山)

哀悼の歌(續上九七、年山)

の歌(續上一二〇、年山)

の儉德(正下一〇七〇、梧拾七)

水戸中納言の圖書と加賀宰相の華本(正下

一〇八〇、梧拾二五)

## 徳川吉孚

徳川光圀の嫡孫(續上三二、

年山)

## 徳川吉宗

求萬里鏡於異國語(正下九

三八、閑窓四二)

の儉德(正下一〇七〇、梧拾八)

奥女中の美なるを選びて暇を給ふ(正

下一〇八三、梧拾三〇)

着服の質素(正下一〇八三、梧拾二九)

## 徳川頼宣

の廻町邸造營(正下一〇六七、梧

拾三)

子孫の繁衍并儉德(正下一〇六七、梧

拾四)

## 徳政

(正上七九九、昆陽九)(續上四七二、蒼

梧)

害民(正下三一六、續昆三四)

は亂に近し(正下九九三、多波二八)

## 徳口

(續下二四三五、柳隨)(續上五〇六、

蒼梧)

## 土偶

瓦偶人(正上七〇三、桂林三六)

## 土官

(正下二九八、續昆四)

## 木賊

(續下二四二八、柳隨)

劉の事(正上二六四、雨窓二五)

## 讀書

の用心(正上八八一、昆陽一六二)

の益(續中一〇五九、寒雜)

の心得(正上五二、北邊三八)

史類を讀むに可心得事(正上一九四、茶筆

三七)

は流水の如し(正上一三三九、春波三

五)

## 讀書燈

(正上一二三、北邊一五九)

## 毒水

(正上九五、北邊一一一)

## 毒木

(正上三四〇、傍廂六七)

## トケ

### 時計

といふ言葉と文字(正上六四六、善庵

一七)

## トコ

どこも地藏 鎌倉の

(正上一一六一、春

波七三)

## 床

(正上七四四、圓珠五)

## 床間

(正下二八二、家屋一一一)

## 常夏

(正上四四、北邊二四)

## 常世國

(續上六五、年山)

## 心太

(續下二四二八、柳隨)

太凝菜(正上一三三、南留一五)

## トサ

## 都祭堂

といふもの(正上八一四、昆陽三

八)

## 土佐日記

(續上一三五、河社)

の異本(續上五四六、織錦)

## トシ

## 年

はたち、みそぢ、よそぢなど云ふ「ち」の

字(正上一四四、南留三六)



兔園小説　の解題并會合諸子の略傳（正下

四四六、兎小首）

●トオ

十列　（續中七五七、後松）

十列馬　（續上九一五、河社）

●トカ

蜥蜴　（正上三九三、傍廂一五八）

——といふ名（正上七八四、圓珠七七）

十團子　字都山の——（續下二ノ三〇、足

薪）

捐トカミ　（正下二六六、家屋九一）

●トキ

時刻　——の名くさく（續下一ノ二七五、年

々）

——は人のうへにあり（正下七五五、雲萍

三）

時の貝　（續下一ノ三四三、燕居）（續上二七

八、梅目）

時の鐘　——の數（正下一七〇、世事九二）

（正上一四九、南留四三）

時もり鐘鼓をうつ事（續上八八八、松落）

菟裘賦　の事（正上八〇六、昆陽二一）

常盤草　（續下二ノ四二八、柳隨）

常盤橋　——舊名を大橋と云ふ（續上二〇

八、南向）

●トク

德　——を修む（正上一一八二、春波一〇八）

德川氏　——略語（續下一ノ六八八、難江）

——軍法（續下一ノ七八四、難江）

——天下久安の三箇條（正下一〇六九、梧

拾六）

德川氏　（水戸家）——邸に西湖のうつしあ

り（續下一ノ七八七、難江）

——三十五万石の事（續下一ノ八三一、難

江）

德川家康　關東八州神祖御領（續下一ノ七

八四、難江）

——臨終の言（正下一〇六六、梧拾二）

——は大賢八九分の地位（正下一〇七一、梧

拾一〇）

——僧を用ゐて儒者に代ふ（正下一〇七一、梧拾九）

——武徳の第一（正下一〇七二、梧拾一二）

——閨房の正しき事（正下一〇七二、梧拾

一二）

——三成の召捕はれたるを見る（正下一〇

七四、梧拾一四）

——福分充分ならざる所以（正下一〇七五、

梧拾一七）

——寛仁の徳（正下一〇七六、梧拾一七）

——天下草創の功の重なるもの（正下一〇

八四、梧拾三〇）

——の代駿河にて儉約の事（正上二五〇、

雨窓一）

德川忠長　駿河大納言（續下一ノ七八三、

難江）

——の秩祿（續下一ノ八〇七、難江）

德川綱吉　——學を好む（正下一〇七九、梧

拾二三）

德川光圀　西山（續上四、年山）

出居 (正下二七八、家屋一一三)

ト

止 の字を登の假字に用ふる事(續中二四九、比古)

戸 某—といふ地名(正上一三一、南留一三)

トイ

土井利勝 の睿智(正上一八五、春波一

一三)

トウ

とうくたらし 機樂の—(正上一六

〇、南留六三)

とうれんば (續下二ノ四三〇、柳隨)

洞 洞變の—の字(正上八六八、昆陽一四

〇)

東海 僧 傳(續中一〇八八、近世)

東海道 — 國名聯(正上七一、桂林五四)

東海談 稱號に付き—の辭説(續下一ノ

二二一、年々)

東宮 —と春宮の別(續下一ノ六九七、難

江)

東光寺 武州—古碑(正上六一八、玄同

下ノ二一九)

東關紀行 の事(續上六三九、ねさめ)

東谷山人 の傳(續中一〇九〇、近世)

東湖禪師 の歌(正上一一四九、春波五三)

東西南北 の和訓(續上四二九、蒼梧)

東大寺 南都—寶物(續下二ノ四二五、柳

隨)

東坡巾 (續下一ノ三五九、燕居)

膝英瓊 大久保彦左衛門(續中一〇八七、近

世)

膝景龍 (續中一〇八五、近世)

膝若冲 (續中一〇八一、近世)

童謠 慶長頃の—(續下二ノ一一一、柳記)

齊明紀 推釋(續中三三八、比古)

童形 といふ字(正上一四八、南留四二)

董九如 (續中一〇八三、近世)

燈火 (續下一ノ五二五、筠庭)

燈明油 (續下二ノ四二八、柳隨)

燈籠 切子—(續上六九一、還魂)

燈籠庵 (正下八〇四、雲萍八四)

燈籠踊 の古圖(續中四八二、骨董)

關化 (續下一ノ三五一、燕居)

銅版 (正上六四八、善庵二一)

銅佛 禁—(正下三〇二、續昆一〇)

銅脈先生 — 病中の和韻(正上九四六、假

世四〇)

豆腐 (續下二ノ四二九、柳隨)

以—爲號(正下三三一、續昆六三)

華藏院 (續下二ノ一二二、柳記)

おかべ、— 田樂、— 上物(續中五七八、

骨董)

— 紅葉(續中四七〇、骨董)

胴丸 (續中八八七、後松)

棟梁 (續上三九三、醜中)

— の字(續下一ノ三一八、燕居)

登蓮法師 (續下二ノ四二六、柳隨)

トエ

の生物(正上一五五、春波六四)

天竺 南 (續下一ノ四〇六、燕居)

天竺德兵衛 (正上二二八、茶筆九五)

天竺物語 抄 (正下六六七、兎小九ノ二三七)

天平感寶 といふ年號(正上八一〇、昆陽二九)

天麩羅 の初(正上一二〇一、蜘蛛一八)

天滿節 井天滿八太夫の事(續下二ノ一二九、柳記)

天滿宮 渡唐天神(續下二ノ五三五、梅筆)

渡唐天神の像(正下四三三、畫譚三二)(續下ノ三四、閑耕)

天神壽盛將事(正下九二六、閑窓二〇)

渡唐天神才學の事(正下九二六、閑窓二二)

綱しき天神(續上六四三、ねさめ)

水鏡の天神の像(續下一ノ三五、閑耕)

「スカ」菅原道真ヲモ見ヨ

天祿 (續下一ノ四七)、筠庭)

天皇 追號天子(續下一ノ六七六、難江)

みかど(正上一五三、南留五〇)

天王寺 の額(續下一ノ一四〇、閑次)

田阿子 (正上九三六、假世二二)

田樂 豆腐の(續下一ノ五三四筠庭)(續中五七八、骨董)

田樂法師 の曲(續下一ノ五三五、筠庭)の圖(續下一ノ七八、閑耕)

田地 の高(正上一五五、南留五四)

田粟 (正下三二七、續昆五五)

殿下 の尊稱(續上四六一、蒼梧)

殿上人 (續下一ノ二四二、年々)

點畫 (正下四一六、畫譚二)

點心 (續下二ノ五二三、梅筆)

點圖 (續中八二四、後松)

今の(續下一ノ二二五、年々)

傳國璽 「サン」三種神器ヲ見ヨ

傳説 は誤多し(正下三六六、我宿一一)

傳奏 慶長以來之次第(續上四八三、蒼梧)

梧)

傳通院 江戸の開基(正下一〇五三、治

閑)

傳通院 家康の生母 殿(續下一ノ七五六、難江)

六、難江)

傳符 (續中八三二、後松)

轉矢氣 の字義(正上六四二、善庵一一)

轉注 說(正下九五七、轉注二)

纏頭 「ハナ」纏頭ヲ見ヨ

典樂寮 の現任(續下二ノ五一、梅筆)

●テモ

手もすま といふ詞(正上八〇、北邊八五)

●テラ

寺院 (正上七七六、圓珠六三)(正下九八八、多波二〇)

多波二〇)

を瓦葺といふ(正下一四〇、世事四二)

黃藥真言天台の制(正上一六〇、南留六三)

六三)

普佛寺の建立廣人なる事(續下一ノ九八、閑耕)

耕)

寺島梅里 (續中一〇九〇、近世)

●テリ



●テニ

てにをは といふ事(正上二二八、南留六)

通の——(續下二ノ六三四、難江)

雲ゐればといふ——(續下一ノ六六、閑耕)

●テハ

出羽 の三山(正上七三四、細道一八)

●テフ

柴 の字(續下一ノ一五四、閑次)

蝶夢集 の序跋(續上八八、年山)

●テヘ

てへれば ——「者」の字義(正上八五五、昆陽一一五)

●テホ

手本 (續中二二七二、天朝)

●テム

てんこちなし といふ詞(續上六五四、れさめ)

でんばう といふ詞(續下一ノ三二四、燕居)

天 に任する事(正下八三四、花月四)

天氣 晴雨の事(正下八八〇、花月八〇)

夕月に晴雨を占ふ事(續下一ノ一〇六、閑次)

老婆處を替へて——を見誤る(續下一ノ一〇五、閑次)

天癸 の字義(正上六四一、善庵一〇)

天狗 (續上七六八、松落)(正上六七二、善庵五九)(正上六九六、桂林二〇)(續下一ノ七三、閑耕)(續上一四〇、年山)(續中一〇四八、烹雞)(正下一〇四五、消閑二二)

百日荒行して——に化す(續下一ノ七四、閑耕)

天愚孔平子 (正上一二七一、春波八九)

天災 「ヘン」變災ヲ見ヨ

天子 の稱(續上二八四、年々)

天神 國津神にあらざるを——といふ(正上一五六、南留五六)

「テン」天満宮ヲ見ヨ

天神七代 の神號(續下二ノ五三六、梅筆)

——地神五代(正上一〇〇、鋸屑二七)

天神文言 (續上六六五、れさめ)

天井 (正下二三一、家屋二二)

——と承塵との別(續上八四八、松落)

格 (正下一四二、世事四三)

天守 城の——は天主なる事(正下一〇九四、梧拾四八)

天主教 「ヤソ」耶蘇教ヲ見ヨ

天知る地知る といふ語(續上二六六、梅日)

天台産主 ——代々(續下一ノ八二九、難江)

天道 天の大道を知る者(正上一一六〇、春波七一)

天道松 豐後國崎の——(正上四八九、玄同下ノ一三)

天智天皇 ——上天の説(續下一ノ三八、閑耕)

天地 ——圓体(正上八四六、昆陽一〇〇)

——の始終(續上一三七、年山)

——の中水の傾あり(正上一一五一)

——は停滯を嫌ふ(正下七九九、雲萍七七)

●テウ

晁有輝 (續中一〇八五、近世)

彫刻 綴工(正上一〇八〇、茅窓一九)

銚子 付兩口(續中六六三、後松)

長柄 (續上三九七、醋中)

潮州 韓文公の左遷ありし——といふ地(正上二七八、茶筆一一)

趙子昂 ——、微明のかき添(正下四三八、書譯三九)

朝鮮 國初の主(續下一ノ一六、閑耕)

儀物服用(正下三一、續昆二六)

鼈甲(續中一一三〇、歷世)

諺文(正上八一、昆陽三四)

朝鮮語 鐘、盡(正上一四九、南留四五)

朝鮮人 の説(正上二〇三、茶筆五二)

來聘(正下三〇三、續昆一四)

朝拜 (續中六一〇、後松)

調度 (續中六〇二、後松)

きそく(續下二ノ一六七、柳筆)

調度掛 (正上九八五、鋸屑二)

手水鉢 船形(續下一ノ五四〇、筠庭)

超波 俳人——の奇行(正上九三〇、假世一)

●テカ

手かき (續中一二三六、一二四三、天朝)

能書を——又は手をよく書くといふ事(續上三七九、醋中)

手紙 (續下二ノ九五、柳記)

●テキ

剔齒織 は今のわかやうじ(續下一ノ三六五、燕居)

狄仁潔 ——論(正下八六一、花月四九)

●テク

でくる坊 (續下二ノ三〇、足薪)

天吞絲 蟲絲(正上八六八、昆陽一二九)

●テシ

手下 に属す(續下一ノ三四三、燕居)

手品 繩たらし、繩わけ(續下二ノ一五四、柳筆)

あや竹、綾織(續下二ノ一七六、柳筆)

●テツ

てづ、 の義(正上二二四、北邊一六一)

鐵樹 「ジュ」樹木ヲ見ヨ

鐵石軒吉久 (正上九三四、假世一九)

鐵槌傳 (續下一ノ七五三、難江)

鐵鏞 ——三推(正上八二八、昆陽六五)

鐵砲 (續下一ノ七六五、難江)

——始めて渡りし事(續上四二七、蒼梧)

飛銃(正下三一七、續昆三五)

鐵砲鍛冶 ——國友を名乗る事(正上三七五、傍廂一二七)

鐵砲之間 (正下二八八、家屋一三七)

●テナ

手なし ——といふ詞(續下二ノ一一七、柳記)

手習 (正上九四、北邊一〇九)(續中一二三二)

二

からの小兒——はじめ(正上三九三、傍廂一五九)

一五九

手習草紙 (續下一ノ三八〇、燕居)

旋風 —、風録(正下七八〇、雲萍四五)

衝風人に傷くる事(正上二七八、茶筆一一)

聾 の話二條(正上三一八、傍廂二九)

●ツメ

爪 —に紅をさす事並に—の垢といふ事(續上二九七、梅目)

爪かくし (續下一ノ五一、筠庭)

爪判 (正上六九五、桂林一七)

爪彈 —に指の字を用ふ(續下一ノ三七八、燕居)

●ツヤ

津屋 (續中一三三五、いそ山)

●ツユ

露 と雫(續上一〇三、年山)

露草 「ツキ」月草ヲ見ヨ

露こき —、露けき、露けしといふ詞(正上七六八、圓珠四九)

露霜 といふに二あり(正上七七〇、圓珠五二)

露の五郎兵衛 付彦八(續下二ノ二、足

薪)

梅雨 (續下一ノ五六九、難江)

●ツラ

垂氷 をタルヒといふ(正上七五一、圓珠一九)

●ツリ

釣殿 (正下二四八、家屋五五)

●ツル

つる 助辭—とぬるとの別(續下一ノ七三四、難江)

鶴

とタツと同物(正上七四三、圓珠三)

—の血、鶴を愛して國を亡す(續上一二二〇、應丁)

鶴の脛 といふ形容(正上七七、北邊八〇)

鶴場 小石川—名稱起源(續上一九四、二〇四、南向)

劔 タチをツルギといふ(正上七五九、圓珠三四)

弦鳴 (續下一九九、年々)

絃めそ (續下一ノ六六五、難江)

橡

—考(續下一ノ六六五、難江)

●ツレ

徒然草 兼好法師—の評(續下一ノ二二〇、年々)

●テ

で にてとある場合に—の字を用ふる事(續下一ノ九九、閑耕)

手

以—加額(續下一ノ七一九、難江)

●テイ

定家の煙 其角がなくり火や—十文字(續下二ノ一二二、柳記)

定氏の社 の字義(續上一八〇、錦所)

貞佐 俳人—(續下一ノ五〇、閑耕)

貞操 —花卉に感通す(續下一ノ四九、閑耕)

貞徳 「マツ」松永貞徳ヲ見ヨ

鄭成功 —傳碑(正上六七五、善六六)



堤 の柳(續上八四二、松落)

堤榮長 — 妾蔵女語(正下九三八、閑窓)

四一)

鼓 わやみといふ名詞(正上一六〇、南留六

三)

擊—求亡子(續上三九四、醋中)

鼓鉢 (續下一ノ五一五、鋤庭)

疏瓦 (正下二五七、家屋七一)

●ツト

つとむ —、つとめてといふ詞(續下一ノ

六九四、雞江)

●ツナ

頭腦酒 (續下一ノ三八七、燕居)

海嘯 の話(續下一ノ四五、閑耕)

弦音にて を豫知す(正上九二四、假世

二)

●ツノ

角下諸大夫 (續上一八二、錦所)

●ツハ

つはもの の義(續上七七二、松落)

鐙 (續上六六二、ねざめ)

燕澤碑 (正上六九三、桂林一四)

惡疽 ツハリといふ詞(續下一ノ五六九、雞

江)

●ツヒ

つひゆ —といふ語(續下一ノ五六九、雞江)

費 —といふ事(正下八九四、花月一〇四)

●ツフ

圓川 (正上九二〇、輜軒三八)

●ツホ

つぼく —といふ玩具(續下二ノ一四三、柳

記)

壺 壺と壺の相違(正上一三三、南留一六)

壺鏡 (續中七八五、後松)

壺厨子 (續中六二七、後松)

壺碑 (正上八九九、輜軒一)(續下一ノ二五、

閑耕)(續下一ノ二二八、年々)(續上一〇、

年山)(正上七三〇、細道一一)

多賀城碑(續下二ノ二五八、柳隨)

局 (正上一三三、南留一六)(續上五七、年山)

上—、下—(續下一ノ八〇五、雞江)

局おり (續下二ノ二三九、柳筆)

●ツマ

妻 の字義(續下一ノ七〇八、雞江)

—の名稱(續下一ノ二九六、年々)

—の事のみをさして妻子といへる(續上五

四〇、織錦)

—の心ばへ(正上九七八、閑秋二二)

子ある人後妻を娶るの利害(正上一一八六、

春波一一五)

妻戸 (正下二三三、家屋二五)(續中六八二、

後松)

—古圖(正下二三四、家屋二七)

妻有 —の郷(正上八六五、昆陽一三四)

孀迎舟 (續下一ノ五九〇、雞江)

抓格子 (正下二五四、家屋六七)

●ツミ

つみの御牧 (續下一ノ三七七、燕居)

●ツム

紬 ツムギといふ訓(正上八一四、昆陽三九)

長半——縮縮——(續下二ノ二〇九、柳筆)

なんば——なまり——はうろく——麻

——夏——(續下二ノ二一〇、柳筆)

丸——人丸——はくそ——花染——

ひも——細——(續下二ノ二一一、柳筆)

おくそ——岡崎——もつこ——も

かく——紫——(續下二ノ二一二、柳筆)

端午——(續中五五一、骨董)

ほあて——(續下一ノ四九八、筠庭)

手ばそ——(續下一ノ五〇〇、筠庭)

おくそ——(續下一ノ五〇二、筠庭)

つくねん坊 (續下二ノ二八、足薪)

### ●ツク

つくねん坊

つくも髪 (正上三五五、傍廂九二)

百年にひとせたらぬ——云々 (續中四三

一、比古)

机

——文臺 (續中一三〇七、天朝)

筑紫磐井

——墓 (正下二〇一、墳墓)

筑紫紀行 (續上二九八、梅日)

筑紫觀音寺 (續下一ノ一八、閑耕)

筑紫琴 (續下一ノ四七六、筠庭)

筑紫箏 (續正上一三六、南留二一)

筑波山 (正上一三一、南留一二)

繕綿 (續下二ノ五〇九、梅筆)

梅筆)

### ●ツケ

附紙 (續下一ノ三八〇、燕居)

### ●ツコ

つごもり (晦日を——といふ) (正上一三四、南留一七)

### ●ツシ

辻 (と云ふ字) (續下一ノ九七、閑耕)

辻が花 (といふ染模様) (續下二ノ一七二、柳筆)

辻話 (を彦八といふ) (續下二ノ三、足薪)

厨子 (三品) (續中六二七、後松)

厨子棚 (續下一ノ五一七、筠庭)

津島渡 (といふ無稽の記) (續下一ノ一六、閑耕)

耕)

### ●ツタ

頭陀袋 (は唐の方便囊の遺制か) (正上八〇

六、昆陽二〇)

津田北海 (續中一〇九〇、近世)

### ●ツチ

つち (とは神の事なり) (正上一三四、南留一

六)

つちゝか (といふ詞) (續下二ノ九七、柳記)

つちはう (萬葉集わが宿におふる——云々

(續上六〇〇、織錦)

土雲 (土蜘蛛) (續上一〇一三、河社)

土廂 (正下二三六、家屋二九)

### ●ツツ

つゝ (といふ詞の附く事) (續中四三二、比古)

つゝしむ (といふ詞の意) (正上一四〇、南留

二八)

つゝら鞘卷 (續中六一八、後松)

無恙 (續上三九九、醋中)

躑躅 (の流行) (續下二ノ四八、足薪)

ツ

つ の濁音續下一ノ二九五、年々

—の字(續上一〇一三、河社)(正上一二九、南留八)

ツイ

ついひより ねり壁(續下一ノ二八四、年々)

對句 (續上一八、河社)

衡立 —さうじの事(續中六八五、後松)

築塙 (正下二六〇、家屋八〇)(續上七九五、松落)

松落

追雛 (續中五〇、比古)(續上六六四、ねざめ)

め

追福 年賀又は—の勳進(續下一ノ四四、閑耕)

耕

追捕使 (正上一三九、南留二六)

ツウ

通天 の讀(續下一ノ四二二、松竹)

ツエ

杖 かぜ(續下二ノ五三六、梅筆)

圓位上人の(正上三三〇、傍廂四九)

ツカ

つかうまつる (續上六〇一、織錦)

つかはるゝ (正上三三四、傍廂五八)

塚 (正下三二四、續昆五〇)

古—を發く事(續下一ノ二四九、年々)

樛木 —考(續下一ノ二七六、年々)

遣し —被遣(續下一ノ七四三、難江)

津輕笛 (正下一八七、世事一二二)

ツキ

月 (正下八三三、花月二)

—のことは(續中八七八、後松)

晦日の(續下一ノ三七四、燕居)

視—占水旱(續上二六三、梅日)

もなかの(續上八五、年山)

上弦下弦の缺くる方(續下一ノ二、閑耕)

月草 鴨跖草(續下一ノ七〇二、難江)(正上七四九、圓珠二五)

露草(續上五三四、織錦)

月岡雪昇 (續中一〇八七、近世)

月の輪

貉、狸、熊の(正下五〇一、兎)

小八ノ八七

月花 —を賞す(正上九六五、閑秋一)

月待 (正上六九五、桂林一七)

月見 月を見る説(正上二二七、茶筆九二)

八月十五夜(續下二ノ三二六、柳隨)

葉月十五夜、九月十三夜をめで初し古昔(正下一〇五一、消閑三一)

仲秋月の曇晴(續下一ノ一〇三、閑次)

桃花鳥 (正上一四四、南留三五)

次文 (續下一ノ四一七、松竹)

頭巾 おもり、おぼろ、おとがひ

、赤、赤裏、置、(續下二ノ二〇四、柳筆)

かます、皮、紙、ともこも

(續下二ノ二〇五、柳筆)

奇特 (續下二ノ二〇六、柳筆)

氣儘、毛、く、いり、忍、し

、ろ (續下二ノ二〇七、柳筆)

氣儘 (續下一ノ四九九、塙庭)

唐、旅、大黒、長、投



——の論(正下八五六、花月四〇)

中宮 (續下一ノ七四六、難江)(續下二ノ四八三、柳隨)

——の始(正下九五四、准后九)

中華 ——、華夏の稱(續下一ノ三、閑耕)

中間 (續下二ノ四七三、柳隨)

中秋 の月(正上一七三、茶筆三)

中謝 (續上三九二、酣中)

中將姫 の名(正上一五〇、南留四五)

中旬 (續下二ノ五一八、梅筆)

中書 といふ書(正下三八四、訓淺一一)

中段之間 (正下二八五、家屋一一一)

中門 (正下二三七、家屋三五)

中門廊 ——、釣殿(續中六八一、後松)

中鵠 (續下一ノ七八五、難江)

中和節 (續下二ノ四七八、柳隨)

重言 の略さぶり(正上三二一、傍廂三三)

重箱 (續中五〇二、骨董)(續下一ノ五一五、筠庭)

●チヨ

如 の字(正上九九九、鋸屑二五)

詭 古今集作者中女の名——(正上三一七、傍廂二八)

徴 を印と云し事(續下一ノ三一七、燕居)

千代女 ——の發句(正上一一四八、春波五〇)

千代能尼 (續下二ノ四七八、柳隨)

如大尼の詠試(續下一ノ一七四、閑次)

千世の松取 (續下二ノ五二六、梅筆)

千世萬代 (續上二九一、年々)

勅額 ——(「ン」寫額ヲ見ヨ)

勅勸 ——、勅許(正上三七六、傍廂一二九)

勅畫 (續中九、比古)

勅使 (續中六七三、後松)

勅筆 の事(續下二ノ五三六、梅筆)

勅書 (續中八三七、後松)

著書 萬葉假名に記したる——(正上一二三九、春波三六)

九、春波三六

——は和語に記すべし(正上一一三八、春波三四)

波三四

「シヨ」書籍ヲモ見ヨ

貯蓄 財を貯ふる人の愚(正下九九五、多波三二)

●チラ

散しふくさ (續下二ノ一二六、柳記)

●チリ

ちりとちり ——、あんだ(續下二ノ九三、柳記)

塵取輿 (續下二ノ四八二、柳隨)

縮緬 (續下二ノ四八四、柳隨)

●チレ

治療 應急 法八則(續下一ノ一七〇、閑次)

——の事(正下八八五、花月八八)

おそはれたるもの——(正下一七二、世事九四)

「レウ」療法ヲモ見ヨ

●チワ

千話 (續下二ノ四七六、柳隨)

●チヨ

地黃煎 (續下一ノ五七三、筠庭)

地黃煎 (續下一ノ五七三、筠庭)

茶臺 柄杓を——とす(續下一ノ五三八、筠庭)

茶の湯 (續下二ノ一一〇、柳記)

茶道(正上六一九、獨語九——四)

——と俳諧(續下一ノ八五、閑耕)

——の本意(正下七九〇、雲萍六二)

——論(續中六〇七、後松)

本非茶(正上八九五、昆陽一八六)

茶なつたる主人の得意(正下一一二二、心

双一四)

茶禮に心得がたき事(續下一ノ八五、閑耕)

——の益(續下一ノ八五、閑耕)

境界のまゝなるが茶道(續下一ノ八五、閑

耕)

賓主ともに應ぜざれば茶の道に非ず(正下

七九四、雲萍六九)

茶と香(續下一ノ八四、閑耕)

茶道の書數種(續下二ノ四六八、柳隨)

茶の實 (正上八八二、昆陽一六五)

茶香 (正上一一九二、蜘蛛一)

茶升 (續下二ノ四三九、柳隨)

茶屋 「レウ」料理茶屋ヲ見ヨ

帳 一、平敷(續中六八一、後松)

帳簿 ——の帳の字(續上三〇三、梅日)

帳を計簿とす(續下一ノ四〇九、燕居)

帳絨のいはひ(續下一ノ三四九、燕居)

帳臺 (正下二四一、家屋四一)

——問答(續中七二四、後松)

長歌 「ウタ」歌ヲ見ヨ

長康星 (續下一ノ二、閑耕)

長恨歌 (續下一ノ六四二、難江)

——の繪(續上五五九、織錦)

長者教 (續下二ノ五〇、足薪)

長者池 (續上一九五、南向)

長者坊 ——略圖(正下二四〇、家屋三八)

長上 といふ名(續上八七〇、松落)

長壽 延齡は、このまじきもの(正上三一九、傍

廂三一)

長松軒 ——惟翁傳(續上一〇七、一四四、

年山)

長生殿 ——不老門の畫(續下一ノ一四三、

閑次)

貞觀政要 承兌の跋ある——(正下三三九、

續昆七八)

定西法師 (正上八五四、昆陽一一四)

提燈 (續中七七二、後松)(續中四八六、骨董)

——の本字(正上一六三、南留六八)

魚腦 ——再考(續中五七九、骨董)

ふら ——(續下一ノ五二六、筠庭)

行燈 ——(正上三七八、傍廂一三三)

張南本 (正下四二四、畫譚一六)

張文相 の書(正上八九二、昆陽一八一)

張良 の隱遁(正上二〇九、茶筆六二)

町人 の無禮怪我のもと(正上九四二、假世

三四)

### ●チユ

注 ——朱にて書く(續上三九七、醋中)

注釋 ——に無益の引書(續下一ノ二六二、年

々)

忠孝 ——の事(正下八三五、花月五)

●チマ

棕 (續上二一四、庖丁)

●チミ

「タン」端午ヲ見ヨ

●チム

持明院家 (續下二ノ四八〇、柳隨)

●ぢんない

といふ器 (續下二ノ四七四、柳隨)

隨)

●狎

ちん大 (正上三四六、傍廂七八)

●珍書考

—— 解題 (續下一ノ六五四、難江) 評言 (正上一九九、茶筆四六)

●陳德澤

(續下二ノ四八三、柳隨)

●陳彭年

宋の—— 綽號 (正上五五一、玄同 下一二二)

●陣法

の論 (續中八二二、後松)

●陣羽織

(續下二ノ四七七、柳隨)

●チメ

●地名

—— の變遷 (續下一ノ六、閑耕)

—— の文字と其故事 (正上一八五、茶筆二 三)

—— に尾といふ字 (正上一六〇、南留六四) 岸和田、岩和田等——にある和田といふ字 (正上一三八、南留二三)

題名は等しく下の地の稱異なるもの (續下 一ノ一〇七、閑次)

の濫稱 (正下四三四、畫譚三三)

●チヤ

●ちやんく

——、おけし、はんかふ (續中 一一五八、歷世)

●茶

(正下八六八、花月六〇)

——の始 (續下一ノ一六九、閑次)

——を喫するの始 (正上八〇三、昆陽一六) (續 中六〇七、後松)

——の本 (正上九九四、鋸屑一八)

——の徳 (續下二ノ四六七、柳隨)

——一串 (正上八七三、昆陽一五〇)

——と煙草 (續下一ノ一七六、閑次) (續上一 四二二) (正上一六二、南留六七)

雨——前 (續下一ノ三三六、燕居)

造—— (正下三五七、續昆一〇七)

——並茶具を打枝に付る事 (續下二ノ五一四、梅筆)

——の價 (續下二ノ四六六、柳隨)

——の害毒 (正上一一八五、春波一二四)

——の歌、——の詩 (續下二ノ四六九、柳隨)

●茶字

——の切 (正上二九三、雨窓七一)

●茶釜

(續下二ノ四七一、柳隨)

●茶炕

江家次第に載せたる—— (續下一ノ二 六三、年々)

●茶式部

聚樂茶亭の—— (續下二ノ四七五、柳隨)

●茶室

(正下二五〇、家屋六〇) (續下二ノ四 四〇、柳隨)

●茶人

——系圖 (續下二ノ四六二、柳隨)

●茶神

(續下二ノ四七五、柳隨)

●茶杓

(續下二ノ四六八、柳隨)

●茶筌

奈具二月堂の—— (正下七七五、雪萍 三六)

●茶筌賣

(續下二ノ一一八、柳記) (續下二 四七〇、柳隨)



●チク

ちくさ

江

——は月草(續下一ノ七〇二、難

竺庵和尚

(續下一ノ二七五、閑次)

知久氏

——家旗(續下二ノ四七九、柳隨)

地口

——變じて語路となる(正上九三五、假

世二〇)

地火爐

「コタ」火爐ヲ見ヨ

畜生谷

(正上一六二、南留六六)

智光法師

の傳(續下一ノ一三四、閑次)

●チケ

地下祭

(續下二ノ五二七、梅筆)

●チコ

兒

の髪(續下二ノ四七九、柳隨)

地獄

極樂——の繪(正上三四九、傍廂八四)

畫屏風(續中七七六、後松)

變相圖(正下四二二、畫譚一二)

●チカ

地差

(正上八二九、昆陽六七)

智藏

釋——(續下一ノ一三二、閑次)

地藏

——菩薩(續下二ノ四八二、柳隨)

妙圓石

圖(正上五七二、玄同下一四六

六——(續下二ノ三一二、柳隨)

どこも——(正上一一六一、春波七三)

●チシ

地子錢

(續下二ノ四七六、柳隨)

地震

——せざる家(正上一七四、茶筆五)

地震口

——、地震の間(正下二八九、家屋

一三九)

智者

——は善事をすべき事(續上八九五、松

落)

智仁勇

——三幅通(續下一ノ七五四、難

江)

●チリ

馳走

——といふ詞(正上八三六、昆陽八二)

●チチ

ちゝくり合

——といふ俗語(正下一六九、世事

九〇)

ちゝら糖

(續下二ノ一一九、柳記)

父

(正上七七八、圓珠六六)

秩父

の下言(續下一ノ三六二、燕居)

●テツ

乳付

(續下二ノ四三九、柳隨)

地圖式

(正上八二三、昆陽五一)

●テト

地頭

領家と——(續上八八〇、松落)

得分(續下二ノ四八一、柳隨)

持統天皇

大行天皇(正上三六七、傍廂一一

四)

御製(續上四〇、年山)

千年山

(續上一三五、年山)

千鳥ざし

——といふ料理(續下二ノ一六三、柳

筆)

●チノ

茅輪

(續下二ノ四七五、柳隨)

●テハ

ちはや

——といふ衣(續下二ノ四八四、柳隨)

千葉氏

——系圖(續下二ノ四八三、柳隨)

武州石濱

——文の考(續上二〇三、南向)

千葉寺

(續下二ノ四八四、柳記)

一八

多武峯

——墓(續上九一五、河社)

田村將軍

の塚(續下一ノ二〇、閑耕)

田村明神

(正下七五六、雲萍五)

膽力

——を練る事(正下八九三、花月一〇三)

●タメ

溜池

事跡合考に——の事(續上六三八、れざめ)

多米宿禰

——本系帳考(續中三〇三、比古)

●タモ

多門

(續上三八二、醋中)

●タヤ

田安

といふ名稱(續上一八七、南向)

●タラ

たらし

「ユミ」号ヲ見ヨ

太郎次郎

焼亡に——と云し、と(續下二五二五、梅筆)

帶

の訓(續上九一二、河社)

●タル

樽

斗——、角——、太鼓——、酒海(樽下

一ノ五一六、筠庭)

兵庫

(續下一ノ五一七、筠庭)

樽人形

(續下一ノ五一六、筠庭)(正下一八六、世事一二〇)

垂木

(續中六八六、後松)

垂氷

——なたるひとよむ(正上七五一、圓珠一九)

達磨

蘆葉——(正上六八九、桂林五)

渡江

(正上五九五、玄同下一八五)

達磨大師

(續下一ノ三五八、燕居)

●チ

ち

し、つ、すの濁音(續下一ノ二九五、年々)

ぢ

としな——といふ事(正上二四四、南留三六)

血

——を合す(續下二ノ四七六、柳隨)

●チウ

晝三

寶曆四年——の遊女の數(續下二ノ四八五、柳隨)

銚石門

(正下二八〇、家屋二一九)

忠僕

——伊平佐平傳(正上二〇三、茶筆五三)

●チカ

近松門左衛門

(續下二ノ四七四、柳隨)

二)

力革

(續下二ノ四七九、柳隨)

力瘤

肉飛(正上八〇九、昆陽二七)

●チキ

ちぎり

(續下二ノ四八四、柳隨)

知己

(正上二二三、茶筆八七)

知行

(續下二ノ四八二、柳隨)

の定め方(正上三六四、傍廂一〇七)

千木

——、鏝木(正上三八一、傍廂一三九)

八

玉まく葛 といふ詞(續中七八、比古)

手枕の塵 (續上一〇二七、河社)

卵 の四角(續下一ノ三七三、燕居)

「なかにこ」といふ(正上七八四、圓珠七八)

給ひ —と云ふまじき様思はるゝ處に—

といへる、みづからの上に給ふといへる

(續下一ノ八二九、難江)

賜ひ —と被賜との別(續下一ノ六九五、難江)

江)

●タミ

民 —をアオヒトクサといふ(正上七五七、圓珠三一)

「の愁(續上七〇、年山)

上の力(正下八九二、花月一〇一)

亂世の「の苦し(續下一ノ二七四、年々)

田道將軍 の碑(正上二二〇、茶筆八〇)

●タム

反

(續上三九〇、酎中)

一段の二字を交へ用ひし例(正上八六一、昆

陽一二六)

反田の令(正上八四一、昆陽九二)

端 —匹(正上一五四、南留五三)

短歌 「ウタ」歌ヲ見

短冊 (續下一ノ一三九、閑次)(續上七八三、松落)

短慮 國守の—(正下八二〇、雲萍一一一)

談議 といふ意(正上一五六、南留五七)

湛空上人 の歌(續下一ノ一五一、閑次)

道神 (正上九九二、鯨屠一五)

團子 といふ文字(續下一ノ二二三、年々)

端午 菖蒲胃再考(續中五七八、骨董)

裏家葺菖蒲事(續中八二三、後松)

執智所三ヶ年不葺菖蒲事(續中八二三、後松)

粽 (續上二二四、庖丁)

幟 (續上四二三、蒼梧四二三)(續下二ノ五二二、筠庭)

宵人形 (續中四六六、骨董)

茅卷馬 (續中五一、五五〇、骨董)

飾兜(續上一三八、年山)(續上四二三、若梧)

端午頭巾、袈裟、小人形鬘、并考(續中五五一、骨董)

の遊戲(續中五五二、骨董)

團取 大將を—と云ふ(正上一三一、南留

檀使 (續中七一三、後松)

探請 といふ詞(續下一ノ三六〇、燕居)

丹前 —風、勝山(續下二ノ二八九、柳筆)

摸樣、紋、元結、節、編

笄、島(續下二ノ一九二、柳筆)

帶、結の帶、あたま、雪踏

(續下二ノ一九三、柳筆)

立髪六方(續下一ノ三八〇、燕居)

丹波起 (續下二ノ一三一、柳記)

淡々 俳人半時庵—(正上九五四、假世五

四)

潭帖 —を砲石とす(正下一八四、世事一

百三十五



とろめん——染分——(續下二ノ一二)

五、柳記)

桑染——(續下二ノ一二六、柳記)

へち馬の皮袋(續下二ノ四二二、柳記)

紫革——(續中五〇五、骨董)

茶毘師——(正上三六一、傍廂一〇三)

鹿火屋——(續上一三〇、年山)

平景清——一目兩勇并偽目(正上五一八、玄同

下六一)

平兼盛——歌(續上二六二、梅目)

平清盛——の説(正下五九八、兎小九ノ一一

九)

平實方——の案(正上七二九、細道九)

平實盛——が甲錦(正上七三七、細道二三)

平重衡——(正上五八五、玄同下一六九)

平語本三位重衡とある本の字(續下一ノ九

九、閑耕)

平重盛——小松内府(正下八五五、花月三八)

(正上五八五、玄同下一六九)

——墓(正上九一九、輜軒三七)

育王山金渡しの事(續中三六〇、比古)

溺死(正上七〇四、桂林三九)

平時頼——臨終の頌(正下一〇四〇、消

閑一一)

平教經——の評(正下三七二、我宿一八)

平宗盛——の評(正下三七二、我宿一八)

平門將——か舊壘(正下八〇二、雲萍八三)

●タフ

塔——仁和帝の陵の——(續上五四五、織錦)

答拜——(續中六三六、後松)

田文——(正上九〇九、輜軒一八)

●タ水

髻さし——の起立(續中一一九一、歴世)

——の沿革(正上二二七、蜘蛛四四)

●タマ

たまづさ——といふ遊び事(續上六五八、れざ

め)

たまひ——、たまふ(續上六〇一、織錦)

玉——古は——を寶とせり(正上一五三、南留五

二)

玉蜻——考(續中九一、比古)

玉桂——(續上九一七、河社)

玉川主膳——に二あり(正上七七二、圓珠五四)

玉川主膳——歌舞伎役者——(續下二ノ五六、

足薪)

玉川千之丞——歌舞伎役者——(續上七一九、

還魂)

玉川毒水——(正上一〇〇二、鋸屑三〇)

玉づさ——書狀を——といふ(正上七四八、圓

珠一三〇)(續中一二七七、天朝)

玉造小町——盛衰記(續下一ノ五八二、

難江)

玉津島——(續上一三四、年山)

玉出島(續上七七九、松落)

玉野——妓女——(正下七八三、雲萍五〇)

玉の浦——(續下一ノ一五、閑耕)

——の名保昌朝臣與からず(續下一ノ二二

六、閑次)

玉はゝき——(續上八二、年山)

玉ほこ道——といふ詞(正上一六三、南留六

たはれぐさ——起稿のゆゑよし（正下九七七、多波一）

——

跋（正下一〇三）、多波八九

烟草（續下一ノ七三二、難江）

——の用ひ方（正下三二〇、續昆四二）

——の煙（正上七一六、思草一）（續下二ノ

一一〇、柳記）

時々の流行と——（正下八一三、雲萍一〇

〇）

刻——な絲烟と稱す（正上七九八、昆陽八）

かくろへ——（正上七二三、思草一三）

木袋（續下一ノ五二五、筠庭）

——の付ざし（續下二ノ一九四、柳筆）（正

上七二〇、思草八）

——の調度（正上七二四、思草一四）

——の毒（正上二一八三、春波一一）

——火の過（正上七二三、思草一三）

——の評（正上七二四、思草一四）

——の別名、產地、傳來、禁制、烟管受取

渡の禮、蠻人烟管の圖（正上一〇六七、茅

窓九七）

野路の——、花かげの——（正上七二六、思

草二）

夕庭の——、くはへ——、れさめの——、病

牀の——（正上七二七、思草三）

雪の夜の——（正上七二八、思草四）

宴席の——（正上七一九、思草六）

老後の——（正上七二〇、思草七）

與ある折の——、山がつの——（正上七二

二、思草一一）

田子木工の——（正上七二三、思草一二）

烟草入（正上七一九、思草六）（續下一ノ

五一三、筠庭）

——屢ざし——（續下一ノ五一四、筠庭）

烟草盆——種々（續下一ノ五一五、筠庭）

俵の字（正上九八五、鋸屑三）（續上六五四、

れさめ）

●タヒ

たびかへす——といふ事（續下一ノ四五四、松

竹）

鯛（續上二一八、庖丁）

——の説（續下一ノ二三六、年々）

——の名（正上七八、圓珠七）

鉈尾（續上三九一、酎中）

旅貴人の——（正下八六三、花月五二）

——の具（續中八九一、後松）

ひとりのよき道連（續下一ノ一二六、閑

次）

——の日記（續中八八五、後松）

——の日なみ（續中七三七、後松）

——住居の名残（續下一ノ二三九、年々）

——かな文の旅路の日記（續上八七二、松落）

舟路のすさび（續上五七五、織錦）

旅行古今異同辨（續上四二七、蒼梧）

旅鳥（續下二ノ一五三、柳筆）

旅頭巾（續下二ノ二〇九、柳筆）

足袋（續中八四〇、後松）

杏——奉書——（續下二ノ一二三、柳記）

絹——彌郎組（續下二ノ一二四、柳記）

袋——運齋——、織——、水——、紺——、

手綱 の論(續中六一六、後松)

厚總(續下一ノ四一五、松竹)

厚總軼(續下一ノ四二三、松竹)

の紋(續下一ノ四一四、松竹)

位階に據て——に等差ある事(續下一ノ四

一四、松竹)

手綱染 (正下一九一、世事一二九)

●タテ

楯 (正下二七六、家屋二一〇)

立部 (正下二六一、家屋八三)(續中六八五、

後松)

立砂 (正下二三六、家屋三三)(續上一八五、

錦所)

立物 —— 錠(正下三三〇、續昆六〇)

他天 物部系圖の他天動の大楯(正上一四九、

南留四四)

帶刀 のよみ方(正上一四五、南留三七)

建部凌岱 (續中一〇八二、近世)

伊達政宗 —— 遠圖の志并詩(正上一九六、

茶筆四一)

●タト

たとひ ——、たとへ、たとふるといふ詞

(續下一ノ七一五、雞江)

●タナ

棚 (正下二八三、家屋二二一)(續中五六九、

骨董)

古代一の圖(正下二八五、家屋二二一)

棚板 の圖(正下二八三、家屋二二一)

七タ

の字(正上八四、北邊九二)

とたなばた(續下一ノ六一四、雞江)

七遊(續下二ノ五一九、梅筆)

といふ文字をたなばたとよみならへる

(續上五五二、織錦)

に牛女交會の説(續下一ノ二、閑耕)

の歌(續上一〇一五、河社)(正下一〇

五二、消閑三四)

乞巧奠の歌にかしつる糸をよめる事(續下

二ノ五二七、梅筆)

七夕踊

(續上七〇七、還魂)

●タニ

だに ——といふ詞(續上八四〇、松落)(續下二

ノ八二七、雞江)

谷風 力士——(正上九五〇、假世四七)

谷く、 の義解(續上八一、年山)

谷左仲 (正上九五〇、假世四七)

谷村 ——及鎌倉海道(續上一九六、南向)

●タヌ

狸 貉一の牝牡(正下五〇一、兎小八ノ八七)

古一の筆跡(正下五二二、兎小八ノ一二六)

老一書畫譚餘(正下五二五、兎小八ノ一三

〇)

の腹鼓(正下八二六、雲萍一二三)

狸汁 (正上九七三、閑秋一五)

●タネ

種柿 ——といふ戲(續下一ノ三三、燕居)

●タノ

頼母子講 (正下一九三、世事一三三)

●タハ

たはれを (正上九七九、閑秋二四)



(續上四一〇、醋中)

田心姫タマリ (續上一〇二三、河社)

●タサ

太宰春臺

——の實義(正上九四六、假世四〇)

——門下の人品(正上九四八、假世四四)

日本信陽太宰純(續下一〇一九九、年々)

——の性行(正上九四六、假世四〇)

太宰帥

(續上五五八、織錦)

●タシ

山車 祭の——(續下一〇五二一、筠庭)

多檄島 (正下二九九、續昆五)

太政大臣

——列次(續中六六二、後松)

任——詔書(續下一〇四三六、松竹)

太上天皇

不踐帝位爲——事(續中六九三、後松)

●タス

助 の義(正上七八四、圓珠七七)

●タタ

たゝか といふ詞(續上五九九、織錦)

たゝらめ の花(續上五九九、織錦)(正上三六四、傍廂一〇八)(續中六九、比古)

(古)

たゝら山 森岡城下——(續下一〇二六、閑耕)

(耕)

墮胎 (正上一〇三、北邊一二五)

只野眞葛 (正下六五四、兎小九ノ二一六)

疊 (續上八四九、松落)(續上六六六、ねさめ)(正下二六九、家屋九八)

昔の——(續下二〇一〇三、柳記)

——の縁(正上五三三、北邊四〇)

疊詞 (續下一〇八一、難江)

●タチ

たちひの花

(正上七四九、圓珠一五)

館 (正下二七六、家屋一一〇)

太刀

「タウ」刀劔ヲ見ヨ

太刀掛

(續下一〇四三八、松竹)

橘

——大柑子、小柑子(續上一八三、錦所)(續上八七、年山)

——歌(續上九一七、河社)

盧(續下一〇六四、閑耕)

橘の紋 瓶子に——(續下一〇五一六、筠庭)

(庭)

橘逸勢 の訓(續下一〇四〇、閑耕)

橘千蔭 が歌(續上五三七、織錦)

富小路殿より——に贈られし尺牘(正上四一九、泊々三五)

一九、泊々三五)

歌論(正上四二〇、泊々三六)

卯花の歌(正上四二〇、泊々三六)

橘直枝 狐つきを叱す(正上四一八、泊々三三)

々三三)

多治比 以——改丹墀(續中七二五、後松)

●タツ

捷 の字解(續下一〇三二五、燕居)

田鶴 (正上七四三、圓珠三)

立田川

(續下一〇六九〇、難江)

立田姫

——佐保姫(續下一〇二六二、年々)(續下一〇三九二、燕居)

龍田神 廣瀬神(續上一〇三三、河社)

韃靼國

(正上三三九、傍廂六六)

高砂の爺嬢 (續下一ノ三七八、燕居)

高島拙齋 嘲 詞(續中一〇一五、後松)

高瀬舟 (正下二九八、續昆四)(續上六四

八、れさめ)

高田敬輔 (續中一〇八八、近世)

高田馬場 (續上一九一、南向)

高殿 (續上八四二、松落)

高輅 神代記にある——の訓(續上九〇七、河

社)

高久嵩谷 (續中一〇八七、近世)

高松重季 の語(正下九三八、閑窓四〇)

高山彦九郎 の孝心(正上九五九、假世六

四)

多賀城碑 「ツホ」靈碑ヲ見ヨ

結政 (續上一七九、錦所)

●タク

打毬 ——次第(續中八三〇、後松)

瀧澤馬琴 の傳(正上一二一二、蜘蛛三七)

焚火の間 (正下二八九、家屋一三九)

●タク

たくらだ 愚なる者の異名を——といふ

(續下二ノ三二、足薪)

托 の字(正上八二四、昆陽五八)

手扶 といふもの(正上三五五、傍廂八五)

拷繩 (正上七六八、圓珠四九)

●タク

竹 —の簀(正下一八八、世事一二四)

——の切節のたまり水(續下二ノ一二七、柳

記)

竹馬 (續中四六四、骨董)

少女 ——に乗りて遊びし古風(續中一一九

九、歷世)

竹植日 栽竹日異名(續下一ノ三三七、燕

居)

竹垣三右衛門 の陰徳(正下一〇七一、梧

拾一〇)

竹田機關 (續下一ノ三四六、燕居)

竹杖 (續中八五七、後松)

竹取物語 (續上九一八、河社)

竹屋殿 の事(續中六五五、後松)

武市兄弟 (正下五〇八、兎小八ノ九九)

武隈の松 (正上七二九、細道九)

武田信玄 の知言(正下七、梅叢八)

——の歌亡國の讖をなす(正下一〇六六、梧

拾二)

武内宿禰 (正上二〇六、茶筆五八)

——の三百歳(正上一三一、南留一一)

——の名の唱(續中五八、比古)

茸狩 松 ——(續下二ノ五一〇、梅筆)

筥 (正下三二五、續昆五二)

國府寺 ——(正上二八九、雨窓六五)

多氣窓の螢 といふ書(續下一ノ一六四、閑

次)

●タク

紙鳶 (正上一二二六、蜘蛛四三)

章魚 (續下一ノ七〇、閑耕)

——を章擧と書す(續上二一九、庖丁)

蛸薬師 (正下八七七、花月七六)

多胡碑 (正上九一四、輜軒二七)(正下三

三六、續昆七二)(續下二ノ二五八、柳隨)

太刀といふ名(正上七七七、圓珠六五)

古の太刀(續中九〇〇、後松)

野太刀(續中八七一、後松)

蒔繪の太刀(續下一ノ四三四、松竹)

金覆輪の太刀(續中六九七、後松)

兵庫鐔太刀(續下二ノ四一六、柳隨)

古刀(正上七〇六、桂林四一)

腰刀製作寸法(續中六一八、後松)

腰刀(續中七五九、後松)

腰刀に鰐なき事(續中六〇六、後松)

成島氏腰刀等間(續中八六三、後松)

馬手刺(續中六〇六、後松)

長柄刀(續下一ノ四九〇、鎗庭)

打刀(續中七六〇、後松)

鐔刀(續中八九九、後松)

小刀、脇差、細太刀

細太刀(續下二ノ三九六、柳隨)

小刀(續中九〇〇、後松)

脇差(續中八九九、後松)

脇指の寸(正上一四三、南留三三)

短刀問答(續中八二九、後松)

脇差小刀の研く月(正上九三二、假世一五)

△雜

腰刀の柄(續中八三二、後松)

刀の柄をまく事(續中六六九、後松)

七子鞘(正上一一六、北邊一四七)

刀の筭(續中九〇〇、後松)

刀劔問答

難——井意見(續中九五二、後松)

刀鑪工

(續上二七二、梅月)

當色

(續中六二三、後松)

盜賊

眞の盜人(正上一二二五、春波二三)

——を綠林といふ(續下一ノ六二三、難江)

警婦殺——(正下七二七、兎小一〇ノ六)

六

——縊死なとめし事(正上二〇七、茶筆五)

九

捕賊與西土(正上八〇七、昆陽二三)

——を追ふに心得べき事(正上一八二、茶筆一八)

盜才(正上三五七、傍廂九七)

——入りたる時の心得(正上二一四、茶筆七)

二

——の名目種々ありと云ふ説(正下一二、梅叢一六)

塘報(正上八二〇、昆陽五一)

太字女

——、手左女(續中三二二、比古)

●夕力

鷹(正上七七六、圓珠六三)

鷹飼(續中一四一、比古)

鷹子(續上九七五、河社)

鷹司兼熙

——の潔癖(正上九六六、大海四)

鷹の虫

の比喩(正下八九五、花月一〇六)

高尾

——の死の論(續中一一八四、歷世)

高角山

——楠本人鷹が舊蹟——(續下一ノ二三、閑耕)

高砂の尾上

といふ語(續中四三八、比古)

(續上八九二、松落)



臺盤 — の事、續中六八四、後松

所(正下二五一、家屋六二)

臺灣 — の征服(正下三五五、續昆一〇四)

退廳 — 西土宰相 — の時刻(正上八六五、昆陽一三四)

對屋 — (正下二三七、家屋三四)(續中六八二、後松)

瑠瑠 — な班なしに作る起立(續中一一二七、歷世)

●タウ

田植唄 — (續下二ノ八四、柳記)

陶淵明 — の琴(正下四三二、畫譚三〇)

陶工 — 五郎太夫(正上九三七、假世二五)

唐音 — (正上三四二、傍廂七二)

—— なしる事(正下一〇五八、消閑四四)

—— を學ぶの難(正下一〇二一、多波七四)

—— を能くする者必しも詩作に巧ならず(正下一〇二〇、多波七三)

—— の練習(正下一〇二一、多波七五)

唐畫 — の女の足(正下四二二、畫譚一三)

唐詩選 — 唐詩鼓吹と——(正下一〇一八、多波七〇)

唐人 — の殘忍(續下一ノ四、閑耕)

唐商 — (正下二九八、續昆三)

唐招提寺 — の遺物(正上二二八、茶筆九五)

—— 金堂之圖(續下二ノ五四四、梅筆)

唐船 — の禁を如何にすべきか(正下九八五、多波一五)

唐土 — もろ、この風儀(正下九八〇、多波六)

—— を學びて其眞を失ふ(正下一〇〇八、多波五二)

踏歌 — 考(續中二五五、比古)

蕃椒 — の功能(正下七六二、雲萍一四)

道晃法親王 — の白川の宮(正下九六六、大海四)

道成寺 — 傳説(正下一四〇、世事四一)

道服 — (續中七八一、八五三、後松)(續下二ノ四三一、柳隨)

道理 — さとき者多くは——を盡さず(續中七八一、柳隨)

上五六六、織錦)

道了權現 — (正上六七一、善庵)

道路 — 路の曲る所を行く心得(續下一ノ一七六、閑次)

刀圭 — の名義(正上一〇六一、茅窓八六)

刀劍 — (正上六八九、桂林四)

—— 名義(正上三四二、傍廂七二)

—— 昔は鑄ものなりし事(續下一ノ八〇九、難江)

女の — (續中七一六、後松)

刀子 — (正上八四一、昆陽九一)(續中八九八、後松)

刀子緒 — (續中九四五、後松)

作刀記并序 — (正上一一七で、春波一〇〇)

—— は身の守なる事(續上七七三、松落)

古の — (正上一六二、南留六七)

太刀 — (續下一ノ五七四、難江)(續中八九九、後松)

—— 後松)

太刀をつるぎと云ふ(正上七五九、圓珠三)

四)

太陽 日輪の空氣なる色(正上一一三九、春波三六)

波三六)

太牢 (正上一五九、南留六一)

大角 小角考(續上五二七、蒼梧)

大神樂 (續下一ノ四六三、筠庭)

大學寮 料(正上一五五、南留五五)

大機和尚 佐賀泰長院(正上一一九九、春波五二)

春波五二)

大行 天皇稱例(續中九五六、後松)

先帝を——といふ(續上三八〇、醋中)

「チト」持統天皇ヲモ見ヨ

大工 といふ名(正上三〇九、傍廂一五)

少工(續上七六五、松落)(續下一ノ六

七一、難江)

大慶 又は珍重といふ語(正上一三八、南留二四)

留二四)

大根 には消食消毒のもの(續下一ノ三七

八、燕居)

大根おろし 下總のがりくおろし(續下

一ノ五二五、筠庭)

大黒天 (續下二ノ五三〇、梅筆)

大人 うし、ぬし(續下一ノ二八二、年々)

大人國 (正上三七七、傍廂一三一)

大常 (續上三八八、醋中)

大嘗會 (正上八〇七、昆陽二三)(續中九

八八、後松)

大抵(續上四五七、蒼梧)

再興の事(正下九一六、閑窓一)

大樹 將軍家を——といふ(正上五五〇、玄

同下一一〇)

大食 大食會(正上二二一、茶筆六六)

大醺 (續下一ノ四〇五、燕居)

大唐 とかける事(正上一四七、南留四一)

大塔宮 (正上三五三、傍廂八八)

大畜良之二世 といふ卦(正上八八七、昆

陽一七三)

大典和尚 相國寺(正上二二五、茶筆

七三)

大納言長親 耕雲千首(續上四一、年山)

大夫 一の稱(續下一ノ二四一、年々)

神の宮人な——といふ事(續上七六五、松

落)

大佛 洛東 殿回祿の事(續上四四四、蒼

梧)

大佛錢 (續下一ノ一六〇、閑次)

大明神 (續上八二二、松落)

大名 一の心がけ(正上一二二五、春波一

二)

の物語(正下八六〇、花月四七)

諸一の妻子を江戸に置く事(續下一ノ八

二〇、難江)

大目 小目(續下一ノ七〇六、難江)

大文 差別(續上一七二、錦所)

大文字屋市兵衛 (正上九五六、假世五

八)

代官 (正上一六一、南留六四)

代匠記 の序(續上二〇、年山)

體矢 (正上一五五、南留五五)

怠狀 (續下二ノ五二四、梅筆)

臺所 (正下二五一、家屋六二)

蘇東波

——が墨竹(正下四三七、畫譚三)

七)

硯蓋銘(續下一ノ四〇九、燕居)

卒塔婆

(正下二〇二、墳墓)

鉄塔婆(正上六九三、桂林一二)

宇治拾遺物語にある大——の事(續上六四

七、れさめ)

●ソノ

園神

——、韓神(續上一〇一六、河社)(續上二五八、錦所)

園基衛

の素行(正下九七〇、大海一一)

蕎麥

(續下一ノ七二〇、難江)

の價(正上八四〇、昆陽八九)

二八——(正上六六七、善庵五二)

蕎麥喰神社

の辨(續下一ノ一三、閑耕)

●ソフ

素服

(續中九六五、後松)

●リヘ

そへに

といふ詞に三義あり(續下一ノ六、

閑耕)

●リム

そむかれなくに

(續上一〇二二、河社)

ソソチウエイヌル

(正下三三二、續昆

四四)

孫子旗

(正上八三四、昆陽七九)

尊卑

和漢——の論(續中六三八、後松)

●ソメ

蘇迷魯山

の歌(正下一四二、世事四四)

染紙

(正下三〇二、續昆一〇)

染木正信

(正下五〇〇、兎小八ノ八七)

染裝束

(續中八〇九、後松)

染物

千彌染(續下二ノ一四四、柳記)

飾磨の搗染(正上九九六、鋸屑二二)

染分足袋

(續下二ノ一二五、柳記)

●ソモ

そもく

といふ語(續下二ノ一四〇、柳

記)

●ソヤ

そやし豆

(續中八〇、比古)

●ソラ

そら

(續上一〇一三、河社)

そら頭巾

(續下二ノ二〇九、柳筆)

●ソリ

橋

——、かじき(正上三三四、傍州五六)

そろ松

が事(續下二ノ二一九、柳筆)

●ソロ

曾呂利新左衛門

——自譚贊(正下一七

八、世事一〇六)

●タ

田

春——を祭る事(續上八六〇、松落)

●タイ

太爲爾歌

——考(續中九〇、比古)

太子傳

(續下二ノ二六一、柳隨)

太平

の化(續中九七二、後松)

太平記

(續下一ノ七三七、難江)

の劔卷(續上三五二、梅日)

參考——年歴不合(正下七一六、兎小一〇

ノ四四)



一八五、茶筆(二三)

素馨花 (正下六四九、兎小九ノ二〇八)

●リキ

そぎ葺 (正下二五九、家屋七九)

●ソク

測 (の字(續下一ノ八三八、難江))

俗語 (起原(正上二九——三二、獨語一七

——一九)

俗語 (正下一二〇、世事六〇(正下一六七、

世事八八)

唐土——(續上二六四、梅目)

俗舞 (正下三四七、續昆九〇)

俗文 (の誤(續上六四六、れさめ)

素書 (續上二八六、梅目)

續江戸砂子 ——に後拾遺郭公の歌の事

(續上六六五、れさめ)

續錦繡段 (續下一ノ六五二、難江)

續千載集 (の歌(續上一二三、年山)

續紫 (續上一七七、錦所)

續世繼 (一名今鏡(續中二九〇、比古)

束帶 (續中六四〇、後松)

束帛 (續下一ノ四〇六、燕居)

●リシ

訟訴 (哀訴と要訴(正下九九三、多波二八)

落物したる主と拾ひたる者と曲直裁判(正

下二四、梅叢三七)

素食 (續上二八六、梅目)

十代田 (正上九一一、蟬軒二二)

●リセ

素性法師 ——秀逸のうた(正下一〇五二、

消閑三四)

素性集(續上九三二、河社)

租税 (斤税(續上一五五、錦所)

貸税(正下一九三、世事一四三)

過獨減租(正下三四九、續昆九五)

昔の——(續下一ノ一四九、閑次)

楚石大師 (胡秋碧畫の——像(正下四三五、

畫譚三五)

狙仙 (續中一〇八四、近世)(正上九五四、

假世五四)

●リソ

そゝのかす (といふ本字(續下一ノ三三六、

燕居)

そゝや (續上六六四、れさめ)

●リテ

袖 (くゝり(續下二ノ一六五、柳筆)

袖ぐるみ (續下二ノ一六四、柳筆)

袖書 (續上八八二、松落)

袖頭巾 (續下二ノ二〇八、柳筆)

袖ノ浦 (正上九九二、鋸屑)

袖判 (續中八四九、後松)(續下二ノ九五、

柳記)

袖單 (續上一七二、錦所)

袖ふくりん (續下二ノ一六四、柳筆)

●リト

外侍 (正下二七六、家屋一一〇)

外の濱 ——は外國の意(正上一三七、南留

三二)

外の濱 (陸奥——(正上四五七、玄同上三

一)

讀様(續下一ノ四五六、松竹)

宣命紙 (續下一ノ四五一、松竹)

先生 (續下一ノ二八二、年々)

先王 (續下一ノ二七一、年々)

穉代 (續下二ノ五一、梅筆)

旃檀は二葉より香し (正下一八一、世

事一二)

煎茶 — 點鹽(續下一ノ四〇〇、燕居)

煎し物賣 (續下一ノ五三八、筠庭)

洗馬池 (正上八一四、昆陽三八)

籤符 (續上一六六、錦所)

泉涌寺 (續下一ノ七五八、難江)

●セメ

せめて — といふ詞(正上一二四、北邊一四四)

●セヤ

施藥院 (續下二ノ五一、梅筆)

●リ

そ — の字(正上一三六、南留二一)(續上六六

三、れさめ)

熊襲、蝦夷、木曾等の一は夷なり(正上一

三七、南留二一)

蘇 (續上三九四、醋中)

●ソウ

贈位 御 — 之日文(續中八六一、後松)

惣右衛門 — といふ事(續下二ノ三七、足薪)

總龜 — といふ書(正上八二、昆陽六七)

總國風土記 (續中二八一、比古)

總門 (正下二六二、家屋八四)

宗祇 — 名月の晴冥の發句(正下一〇四八、

消閑二六)

髭(續下二ノ二二四、柳筆)

宗祇の蚊屋 — といふ諺(續中五一二、骨董)

(續下二ノ二三、柳筆)

宗廟 — の稱(續上一五九、錦所)

増上寺 — の寺號(正下一〇五四、消閑三六)

僧服 (正下四二一、書譚一一)

紫衣、香衣(正上一二八、南留七)

僧侶 — の異名(續下二ノ一一七、柳記)

醉僧の圖の始(正下四二二、書譚一三)

今の僧といふ者(正上一一三〇、春波二一)

今の世の俗僧(正下一一九、心双七)

當世釋氏(續下一ノ三九七、燕居)

濫りに僧たらしむべからず(正上一二四五、

春波四六)

名聞を好む — の罪(續下一ノ一七四、閑

次)

— の行狀今昔相違の事(續上八〇四、松

落)

僧位本位相當の事(續中七二一、後松)

僧位俗位相當の事(續中六九〇、七二、後

松)

●ソカ

そが菊 (續上六七、年山)(續中三八一、比

古)

曾我兄弟 — 名論(續中六〇三、後松)

— の復讐(正上三〇三、傍廂四)

曾我蕭白 (續中一〇九一、近世)

曾我物語 (正上一三二、南留二三)(正上

婕妤 (正上七九八、昆陽八)

●セミ

蟬 一の名(正上一四〇、南留二七)

蟬 一(正上八八四、昆陽一六九)

蟬折 の髪(續下二ノ二三四、柳筆)

●セム

疝 (正上八一七、昆陽四四)

疝 の字(正上八〇八、昆陽二六)

仙 の字の訓(正上一四〇、南留二八)

仙術 冷謙が——(續下一ノ三七六、燕居)

仙女 瀧州の——(正下六五〇、兎小九ノ二〇九)

〇九

仙洞 (正上一五七、南留五九)

錢 の字(續下一ノ一五四、閑次)

膳 蝶足の——(續下一ノ五一五、筠庭)

膳所 (正下二五一、家屋六二)

遷鶯 (續下ノ三七五、燕居)

善惡 世の中の——(正下九八二、多波九)

善不善によりて壽夭の延促ある事(續下一ノ四六、閑耕)

善人惡人盛衰天壽の解(正下四二、梅叢六)

六

善人と惡人(正上一一五八、春波)

善人を佛といふ(續上三三七、梅日)

善光寺如來 (續上六六七、ねさめ)

の文書(續下二ノ五二四、梅筆)

禪學 (正下八六二、花月五〇)

禪意(正下八六九、花月六二)

前驅 (正下八八八、花月九四)

前句附 (正上九——一二、獨語二四——一九)

一九

前栽 (續下一ノ二五〇、二六三、年々)

戰國時代 の嘶の事(正上二六〇、雨窓一七)

錢五七 (正下三三五、續昆六九)

錢糧 といふ事(正上八六九、昆陽一四二)

錢湯 風呂の始(續中四七一、骨董)

「フロ」風呂ヲモ見ヨ

千載集 の序(續上六四、年山)

千字文 (正上八九、北邊一〇二)(正上八〇)

九、昆陽二七)(續上三七九、醋中)(續下

二ノ二五〇、柳隨)

注——(續下二ノ四七六、柳隨)

常照寺藏——(續上六三二、ねさめ)

千秋萬歲 (續下一ノ五五、閑耕)

の圖(續下一ノ一二七、閑次)

千田庄兵衛 本所石原——の石像(正下六

一六、兎小九ノ一五一)

千度小路 (續下二ノ一〇四、柳記)

千度稜 (續上八六一、松落)

千年飴 (續上六七二、還魂)

——賣七兵衛(續下一ノ五三八、筠庭)

千年山八境 の記(續上一〇六、年山)

千本通 (續下二ノ五一七、梅筆)

千松鬘 (續下二ノ二三六、柳筆)

千彌染 (續下二ノ一四四、柳記)

千利休 教訓の事(正上二六六、雨窓

二七

淺草寺 「アサ」淺草寺ヲ見ヨ

宣旨 問答(續中六一四、後松)



七歳未満の女子——に諱可記哉否の事（正

下二〇七、墳墓一五）

石油

草生水火井（正上九〇〇、輜軒二）

薛廣德

（正下九八九、多波二一）

赤錢

「セニ」錢ヲ見ヨ

赤猫齋

（續中一〇八六、近世）

赤壁賦

文公廟碑說（正上二二五、茶筆九

〇）

炙選

（續上三八三、酎中）

釋奠

（正下三三九、續昆七八）（續下二ノ二

五四、柳隨）

鵲鶴

——考（續中三九一、比古）

●セケ

世間

（續下一ノ六三五、難江）

世間雀

（續下二ノ一五四、柳筆）

女衞

（正下一六一、世事七七）

●セシ

軟障

（續中六八六、後松）

●セセ

手々甲

（正下一五六、世事六八）

瀬々慢

（續上一七八、錦所）

●セタ

勢多折

（續上一七七、錦所）

●セツ

節會袍

（續下二ノ五一〇、梅筆）

節句

五——（續中七六一、七六七、後松）（續

上八八五、松落）

節序交賀（正上七九八、昆陽七）

節序の賣物（正下一三三、世事二九）

節儉

「ケン」儉約ヲ見ヨ

節分

（續上六五三、ぬさめ）

——に菓木なうつ事（正上二〇八、茶筆六

二）

——の豆（續上二二七、庖丁）

節用集

最初の——（正上六九六、桂林一

九）

折角

といふ語（正上一五七、南留五七）

說經

（正上一二七——一九、獨語二九——三

二）

攝關

——列次（續中六六二、後松）

——家養皇子（續中六六二、後松）

攝家

——准三宮の始（正下九五二、准后三）

雪隠

（續下一ノ九五、閑耕）

雪踏

（續下二ノ八九、柳記）

毛

（續下二ノ二二五、柳筆）

殺生石

（正上七七七、細道六）

切腹

——起源（續中八四〇、後松）

——次第（續中八四一、後松）

——の介借（續中八四二、後松）

●セト

旋頭歌

（續上一四、年山）

異體

（續上一〇二五、河社）

●セニ

金錢

——を呑みたる時の療法（續下一ノ一

七〇、閑次）

赤錢（正上八五九、昆陽二二二）

「クロ」貨幣ヲモ見ヨ

●セフ

妾

——をメシウドといふ（續上八三〇、松

落）

姓細書事(續上一八三、錦所)

不知姓(續下二ノ五三二、梅筆)

無位も姓戸を稱する事(續中七一七、後松)

今の世の——(正上一四〇、南留二七)

二つかされたる——(正上一四二、南留三

一)

苗字となれる——(正上一三二、南留一三)

世にことなる苗氏稱號(續下一ノ一〇八、閑

次)

勢至菩薩 (正下八〇七、雲萍九〇)

井田 (正下三五五、續昆一〇四)

青特 時代違の話をする事を——といふ(正

上九五〇、假世四七)

青碌 (正下三二九、續昆五八)

●セウ

小學 (正下三五四、續昆一〇二)

小工 (續下一ノ六七二、難江)

小齋 —— 木齋差別(續上一七〇、錦所)

小尺 (正上六七〇、善庵五八)

小説 皇國にては——にも雅文を用ふ(續下

一ノ六三三、難江)

小兒 —— の早熟(續下一ノ五二、閑耕)

—— の玩具(續上八六七、松落)

七歳兒詩(正上八五四、昆陽一一三)

—— を愛するにバアといふ(續中五六四、

骨董)

—— 剔首(正上八七七、昆陽一五六)

—— 育て難き時(續上三〇〇、梅日)

—— の手あて(正下一二八、世事二二)

—— 叙位(續中九八四、後松)

神童石川爲藏詠歌(正下五三七、兔小九ノ

一〇)

多田の奇童(正下一〇六、遊京下ノ四〇)

小人國 (正上三七七、傍廂一三一)

小瑟 —— の圖(續下一ノ四七六、筠庭)

小筆策 (續上七六六、松落)

小便所 (正下二五三、家屋六五)

消閑雜記 —— の序(正下一、消閑一)

—— 跋(正下一〇六五、消閑五七)

少工 (續上七六五、松落)

少納言 —— の少を小とも書く(續下一ノ

一三九、閑次)

少目 (續下一ノ七〇六、難江)

紹智 —— 香爐を火いけとす(正下八〇四、雲

萍八六)

詔勅 —— 式(正下三三四、續昆六八)

●セカ

悴 —— といふ詞(正上九八四、鋸屑一)

—— の本字(正上一四一、南留三〇)

●セキ

咳嗽 —— の高さを自負と云ふ事(續下一ノ

九六、閑耕)

關板 (正下二五八、家屋七六)

雪下園 (續中一〇八五、近世)

石敢當 (正上六八八、桂林一)

石指 —— 上野國より堀出せし——の圖、同別錄

(正下五九一、兔小九ノ一〇五)

石磬 (續下一ノ一五七、閑次)

石炭 (正上九〇六、輜軒一三)

石塔 —— 起原(正下二〇四、墳墓一一)

清少納言 (續上四六、年山)(續上九二六、河社)

——の古墳(續下一ノ二、閑耕)

清煩惱 の義(續下一ノ一五九、閑次)

清吏司 (正上八六六、昆陽一三六)

清涼殿 (續上四〇〇、酣中)

清和源氏 ——繁榮の理(正下一〇六六、梧拾一)

拾一)

清和天皇 (續中九五〇、後松)

聖賢障子 紫宸殿——(正下四二八、畫譚二三)

二三)

聖像 (正下四二二、畫譚一一)(續下二二五、柳隨)

五四、柳隨)

聖人 の教釋迦の教(正上一一六二、春波七五)

五)

——の樂(正下八五二、花月三三)

——に異相あり(正下一〇四四、消閑一九)

西湖 ——の圖(正下四三一、畫譚二八)

——のうつし水戸邸の圖にありといふ事

(續下一ノ七八七、難江)

西洋畫談 の序(續中一〇七四、西畫)

西王母 西域地名(續下一ノ五、閑耕)

成功 (續下一ノ二二九、二三〇、年々)

生死 (正上一一八六、春波一一五)

生前死後の理(正下四、梅叢三)

死は實、生は虚(正上一一六〇、春波七二)

死生に心なければ反て死せず(續下一ノ六九、閑耕)

九、閑耕)

生兒 傳生子、花生子(續上一四一、年山)

生徒 机上持水碗の罰(續上三一七、梅日)

政治 (正下八九三、花月一〇三)

政と教(正下一〇一一、多波五七)

國家良國(正上一一〇、茶筆六五)

大織冠以前の——(正上一四五、南留三七)

儒者の國政をとやかくいふ事(續上八七一、松落)

松落)

——上和漢兩國の難易(正下一〇七四、梧拾一五)

拾一五)

國家の亂敗は欲の一字に在り(正下一一〇四、梧拾六三)

國政は神事をむねとせし事(續上七五五、松落)

善政天地に感應す(正下一〇七二、梧拾一)

一)

御代官の善政(正下一〇七一、梧拾一〇)

政を良くする人は行實ありて慈悲深かるべし(正下一〇一一、多波五八)

——

政事要略 ——缺本考(續中一二八、比古)

姓氏 苗字(正上一六一、南留六四)

姓名稱謂(正上五二四、玄同下七〇)

苗字を賜る定(續上五六三、織錦)

僧の——(正上六六六、善庵五二)

人道醫師など——を名のる事(正上一二六、南留三)

南留三)

——ありて苗字なきは京貫の人(正上一四〇、南留二七)

〇、南留二七)

「カバ子」の訓(正上五三一、玄同下八一)

除氍(正上八七六、昆陽一五五)

尸(正上一五〇、南留四七)

——文字不盡一(續下七七三、難江)



一の訓(續上一八三、錦所)

松煙一の始(正上八三三、昆陽七六)

阿爾陀一(正上八三二、昆陽七三)

李家一摸(續上三七〇、梅日)

朝鮮一(正上六九二、桂林一〇)

古梅園一諸(續上三五九、梅日)

墨色 (續下一ノ八三八、難江)

墨引 (正下一九六、世事一三九)

封に墨をひく事(續上八八三、松落)

物の結び目に墨を引く事(續中一三二二、天朝)

墨引薪 (正上三二八、傍廂四六)

炭 一、糖煨(正上九八九、鋸屑一〇)

桷 <sup>スシキ</sup> (正下二五三、家屋六六)

隅田川 (正上六六一、善庵)(正上三一、傍廂一七)

の櫻餅(正下六一六、兎小九ノ一五〇)

伊勢物語古意に——を注したる誤の事(續上六二六、ねさめ)

角頭巾 (續下二ノ二〇七、柳筆)

住吉 住の江(正上七五七、圓珠三〇)

舊蹟(續下一ノ一一九、閑次)

住吉潮干 (續下二ノ五三〇、梅筆)

住吉神社 住吉四社(續上一〇三四、河社)

葦 の二種(續下一ノ二二三、年々)

●スム

寸大臣 (續下二ノ五三〇、梅筆)

酔むつかり (續下二ノ九四、柳記)

●スメ

すめらぎ ——とみかど(正上二三五、南留一九)

●スラ

すら ——、たに、すへといふ詞(續下一ノ八二七、難江)

●スリ

すり 須利、波太古(正上三二四、傍廂四〇)

摺扇 (續下二ノ二二三、柳筆)

摺木坊主 (正下一一九、世事五)

摺盆 摺迫(正上九八六、鋸屑五)

●スル

駿河國 名義(續中四〇八、比古)

の植木(續上六〇一、織錦)

駿河大納言 「トク」徳川忠長ヲ見ヨ

駿河の海の濱つゝら (續下一ノ七八一、難江)

●セイ

性の善(正下八七三、花月六八)

人の一(續下一ノ二三五、年々)

性靈集 の訓み方(續下一ノ一五三、閑次)

整 の大字(續下二ノ八六、柳記)

星嶽山人 畫家——(續中一〇八四、近世)

正氣歌 文天祥——と石徂徠が擊蛇笏の銘(正下一一〇五、梧拾六五)

清狂 畫家——(續中一〇八六、近世)

清光寺 醫王山——(續上二〇三、南向)

清華 准三宮の始(正下九五四、准后八)

清淨 鹽湯してものを清むる事(續上八六三、松落)

## 硯

(續中一三〇一、天朝)

洗(續上三九八、四〇四、酎中)

瓦(正下三五七、續昆一〇八)

鄒瓦研(續下一ノ四七一、筠庭)

澄泥研(續下一ノ四七二、筠庭)(正上一〇

三一、茅窓三五)

風足一の銘(續上六二、年山)

劉基(續下二ノ四九三、柳隨)

新作の一試筆の事(續下二ノ五一三、梅筆)

一の蓋の銘(正上六九七、桂林二二)

## 硯箱

(續上八三五、松落)

## 硯蓋

(續中五〇二、骨董)(續下一ノ五一五、

筠庭)

## ●スタ

## すた／＼坊主

(續下二ノ一四四、柳記)

## 簾

一のめかう(正上九八六、鋸屑五)

翠簾條々(續下一ノ四三〇、松竹)

翠簾(正下二三四、家屋二六)

「ミス」御簾ヲモ見ヨ

## ●スツ

## 酢筒

(續下二ノ一五二、柳筆)

## 鼈

一の執念(續下一ノ六九、閑耕)

## 鼈料理

鼈屋の看板(續下一ノ五二五、筠庭)

## ●スト

## 崇徳天皇

讃州遷座(正上五〇、北邊

三五)

## 簀戸門

(正下二七九、家屋一一八)

## ●スナ

## すな

は淳和院の略稱(續下一ノ八、閑耕)

## すなはち

又やかて(正上七五六、圓

珠二七)

## 砂子紙

(正上七〇五、桂林四一)

## 登

の字(續上三八九、酎中)

## ●スネ

## 臍當

立擧之事(續中七一〇、後松)

## ●スノ

## 簀子

(正下二三六、家屋三二)(續中六八五、

後松)(正上九九三、鋸屑一六)

## 簀縁

(正下二三六、家屋三二)

## ●スハ

## 諏訪湖

一の氷(正上九九二、鋸屑一四)

## 諏訪神社

南太刀美神社二座考(續中五九、

## 楚割

比古)(正上九九〇、鋸屑一二)

## ●スヒ

## 地爐

(正上九八六、鋸屑五)(續下一ノ五一

七、筠庭)

## 吸物

(續下二ノ五三四、梅筆)

## ●スヘ

## 垂髪

昔一の様(續中一一七二、歷世)

## ●スマ

## 須磨琴

「カミ」髪ヲモ見ヨ

## 須磨寺

(續下一ノ一二三、閑次)

## 須磨寺

櫻の制札(正下一〇三四、消

## 閑二)

## 相撲

(續中六七〇、後松)(續中九八八、後松)

## 人布曳

(續中七六一、後松)

## 赤裸

になる事(續下一ノ七九、閑耕)

## ●スミ

## 墨

(續中一二九八、天朝)(續上二四〇、梅日)

數寄 (續上六五二、れさめ) (續下一ノ七四

ハ、難江)

數寄屋 園 (正下二五〇、家屋六〇)

數寄屋下駄 (續下一ノ八一、柳筆)

透鞍覆 (續下一ノ四二六、松竹)

透渡殿 (正下二三七、家屋三四)

●スケ

すくろ 萬葉中——略説 (續下一ノ五八一

難江)

宿世燒 (續中五六九、骨董)

宿彌 (正上五二五、玄同下七二)

連 (正上一四四、南留三五)

少名毘古那神 の御名義 (續中五六、比古)

村主 (正上五三〇、玄同下七九)

●スケ

スゲ 檜柱 (正上九九三、鋸屑一六)

菅笠 (續下一ノ四九八、五〇一、筠庭) (續

下二ノ二一、足薪)

●スコ

双六 の詞 (續下二ノ一〇五、柳記)

淨土——次耶——治郎紋揚枝、道中——

(續上六八一、還魂)

●スサ

素盞鳴尊 進雄 (正上四三八、玄同上二)

——の韓地經略 (正下九七八、多波三)

●スシ

鮓 (續下一ノ七〇二、難江) (續下一ノ三九

ハ、燕居)

蛇 (續下一ノ三七〇、燕居)

●スス

鈴 (正上七五九、圓珠三三)

古 (正上七〇八、桂林四六)

古——附鈴の長歌 (續下一ノ一五五、閑次)

ゐりで (正上七五九、圓珠三三) (續中一四

四、比古)

「サナ」佐那伎チモ見ヨ

鈴木平左衛門 の三絃 (續下二ノ一三二、

柳記)

鈴之間 (正下二九二、家屋一四五)

鈴間下 (正下二九二、家屋一四五)

鈴虫 (續上七六一、松落) (正上八六、北邊九

六) (正上三二二、傍廂一九) (續上一九、年

山)

數珠 (正下一六四、世事八二)

手形念珠 (正下一六四、世事八二)

二連 (正下一六四、世事八二)

いらたかの—— (正下一六四、世事八二)

芒 の名 (續上七五六、松落)

鱸 (續上二二七、庖丁)

煤拂 新造亭三ヶ年不拂煤 (續中八二四、後

松)

涼船 (續下二ノ一六〇、柳筆)

雀 (續下二ノ一五三、柳筆)

——の字 (續下一ノ六四、閑耕)

宮 (續下二ノ一五三、柳筆)

軒の—— (續中五六七、骨董)

——のほいと (續下一ノ一七八、閑次)

湯鳴根生院群 (續下一ノ三四二、燕居)

——の子詞 (續下一ノ六三、閑耕) (續下二ノ

一四一、柳記)



衣様の事(續中六九六、後松)

に眞紐垂頭の二あり(續上一七七、錦

所)

さよみ(續上六三四、ねさめ)

ケ長(續中九八四、九九八、後松)

はしり(續下二ノ三五三、柳隨)

水魚の交 といふ事(續下一ノ三六九、燕

居)

水獄 (正上六四九、善庵二二)

水滸傳 (續上六三三、ねさめ)

の諺名(正下一二三、世事二二)

像賛(正上六一〇、玄同下二〇八)

水仙山 (正上三六五、傍廂一一〇)

水馬 (續中六七〇、後松)

瑞巖寺 奥州松島(正上七三一、細道

二二)

瑞龍軒 が女兒(正下七三八、兎小一〇)

八四)

西瓜 (正上三八七、傍廂一四九)

は——のうまみを持つ(正下七六二、雲

萍一四)

隨身太刀 (續中八七一、後松)

隨身所 (正下二四五、家屋四八)

隨筆 (續下一ノ二〇九、年々)

●スウ

數 ニッ六ッ八ッ等の字義(正上一三八、南留

二四)

●スエ

末の松山 (續下一ノ二六、閑耕)(正上七

三〇、細道一一)

居風呂船 (續中四七二、骨董)

●ス力

すがり 「ハチ」蜂チ見ヨ

すがる 鹿を——といふ(續中一五九、比

古)(正上七四二、圓珠一)

光儀 の訓(續上九〇八、河社)

姿見橋 (續上一九二、二〇四、南向)

菅沼藤四郎 (正下八二二、雲萍一一四)

菅原道眞 ——の像(正上一四六、南向三

九)

——の歌(正上七〇〇、桂林二八)(正上一

〇〇七、鋸屑三九)

菅神の寢(續下一ノ三四、閑耕)

——の詩(續下一ノ三六五、燕居)

——書寫涌出品(續下二ノ五一八、梅筆)

——自筆の像(正下四三三、畫譚三二)

巢鴨 附近の名稱(續上一九四、南向)

●スキ

すきもの 好色人(正上三六二、傍廂一〇

四)

杉 (正上七八〇、圓珠七〇)

封——爲王(續下一ノ三八一、燕居)

杉扇 (續上四〇四、酣中)

杉下駄 (續下二ノ一八〇、柳筆)

杉戸 (正下二八四、家屋一一二)

杉野意仙 (正下七九五、雲萍六九)

杉本望一 (正上九五二、假世五〇)

杉湯 (續上二六一、梅目)

杉横目扇 (續下二ノ五三二、梅筆)

——圖(續下二ノ五四三、梅筆)

——いくちよばと云(續下二ノ九八、柳記)

白川 の秋風(正上九六六、關秋三)

白川家 の神道(續下二ノ五三七、梅筆)

白川關 (正上七二八、細道六)

——井梶原景季が歌(正下一〇五四、消閑三

七)

白木杖 (續中八五七、後松)

白洲 (正下二八九、家屋一三八)

白鳥の池 (續上二〇五、南向)

白波 ——付綠林(續下一ノ六二三、難江)

白根山 (正上一一六一、春波七二)

白拍子 なかぞふる(正上一二五、南留一)

新羅鐘 ——井元世ノ銅馬(正上九一六、輜

軒三一)

不知火 (續中三三二、比古)

虱先生 宇都宮由的を——といふ(正上九

四九、假世四六)

●シリ

しりくめ繩 (續中五〇、比古)

しり暗い觀音 といふ諺(續下二ノ一七

六、柳筆)

後言 といふ詞(正上五一、北邊三七)

後言 序(正上一二二六、後言一)

尻鞆 釵に——を入る事(續中七一七、後松)

●シレ

白物 といふ事(正上一〇〇六、鋸屑三七)

●シロ

城 (續上三七九、醋中)

——築(正上八八四、昆陽一六九)

唐土の——(正下一〇一七、多波六七)

古今居——の沿革(正下一〇九一、梧拾四一)

堀地得——壘(正下六四七、兎小九ノ二〇三)

試鹵 (正上八六八、昆陽一四〇)

白うるり (續中七八、比古)

白襖袴 (續下一ノ四一三、松竹)

白帷子 (續中六一一、後松)

白酒 (正下三五四、續昆一〇二)

三——(正上八三九、昆陽八八)

——黑酒(正上三〇九、傍廂一四)(續上八

三、年山)

白染圍爐 (正上八六八、昆陽一三九)

白鼠 (續下二ノ一三三、柳記)

●シワ

しわん坊 (續下二ノ二七、足薪)

●ス

ス 片假名の——の本字(正上一三六、南留二

〇)

洲 の字(正上九九九、鋸屑二五)

●スア

素足 ——とばだし(續下二ノ二二〇、柳記)

●スイ

垂 の字(續上三八〇、醋中)

垂加翁 (正上九五二、假世)

粹 といふ詞(正下一六八、世事八九)

透垣 (正下二六一、家屋八一)

帥干 (續下一ノ四五匹、松竹)

水干 ——上下、附葛袴(續下一ノ四五四、松

竹)

からやうは唐人の眞跡かもて學ぶに在り

(正下一〇一〇、多波五七)

持明院家と飛鳥井家の筆法(正下九七二、大

海一四)

書目

見在——錄を寫して奥に書つてたる  
(續中一三七、比古)

日本見在——(續下二ノ五三六、梅筆)

春波樓藏——(續中一〇七八、西畫)

書林

(續下一ノ三五〇、燕居)

稱謂

(續下一ノ六〇二、難江)

稱呼

人を呼ぶに昔は何かし、そといひし事  
(續上七九五、松落)

稱名の事(續中七一六、後松)

稱譽

——も程を過れば德を失ふ(正上七三、  
北邊七三)

鐘虺

(正下四二四、畫譚一六)(正下六三一、  
兎小九ノ一七六)(正下三三一、續見六

四)(續上四二三、蒼梧)

松花堂

の繪(正上九二九、假世一〇)

松竹梅

(正下一七九、世事一〇九)

松林山人 (續中一〇九一、近世)

剩闕 (續中九八〇、後松)

昇殿 一日——を聽る事(續下二ノ五一五、梅  
筆)

乘馬

——上覽の説(續中八七九、後松)

勝敗

——不由多少之談(正下五八四、兎小  
九ノ九四)

勝負

——あることは早く切上ぐるを能しと  
す(正下三八一、訓淺六)

諸葛監

(續中一〇八三、近世)

諸葛綿帶

の衰辭(正下三九八、訓淺三四)

諸大夫

(續下一ノ二八八、年々)

諸分店卸

一名浪花鉦の作者(正上九五三、  
假世五三)

暑氣

(續上二七七、梅日)

大暑

(正上八三五、昆陽八〇)

燭

(正上八九二、昆陽一八一)

燭臺

(續下一ノ五二六、筠庭)

食

の音(續下一ノ六三三、難江)

食器

(續下一ノ五二九、筠庭)

食物

一片の乾餅を三年喰ふ(正上一一六二、  
春波七四)

職

職

——と役との區別(正上一六〇、南留六二)

職田

位田(正上一五一、南留四八)

續日本紀

——を撰む次第考(續中一二三、  
比古)

比古

——の中なる年代曆といふものの事(續中  
四五六、比古)

四五六、比古)

——の中なる古き錯亂の文(續中八一、比  
古)

古)

助寫

のたぐひ(正上七八、北邊八一)

所司代

(續上三八九、醋中)

所帶

の箴(正下七九七、雲萍七三)

徐太室

が非(續下一ノ三六九、燕居)

序破急

(正上一三八、南留二五)

唱文師

(續下一ノ五五、閑耕)

初花

(續下一ノ四五、閑耕)

●シヲ

しられぬ

の詞(續上一二二、河社)

白魚

魃條魚(正上八三三、昆陽七六)



法中——の始(正下九五三、准后八)

殉死 (正上一八二、春波一〇九)

禁——(續中六二九、後松)

順德天皇 の(所)(續中一〇二九、烹雜)

順禮 京——、江戸——(續下二ノ四〇、足

薪)

——歌を諷ひて御陵を築く(續下一ノ一三

九、閑次)

——三拾三所の觀音(續下一ノ一三八、閑

次)

順禮がるた (續下二ノ四二、足薪)

——考證(續下二ノ一八一、柳筆)

巡方の帶 殿上人——を用る例(續中六九

〇、後松)

巡衛 六位藏人——(續中六六〇、後松)

●シエ

如 をシクと訓す(續下一ノ三二四、燕居)

如木 (正上一五九、南留六一)

恕 の字(正下一〇一五、多波六四)

書 寫——有式(續下一ノ六四九、難江)

韓人の——(正上六九一、桂林八)

男手、女手(續上一一九、蜘蛛四)

女筆、女文(正上三五五、傍廂九三)

能書筆を撰まず(續下一ノ三二四、燕居)(正

下一三七、世事一九五)

「シユ」手蹟ヲモ見ヨ

書院 (正下二八〇、家屋一一九)

——上段(續中八七五、後松)

——造(正下二八一、家屋一二一)

書家 ——の何流(續下一ノ四〇八、燕居)

書畫 ——展覧の用意(正上九三五、假世二

〇)

——謂掃(續下一ノ三二三、燕居)

書齋 (續中一三二一、天朝)

書籍 ——沿革(續下一ノ六二八、難江)

——の名をつくる事(續上五三四、織錦)

——を惜むあらはし(續上五三二、織錦)

——を本といふ(續上三〇一、梅日)

宋板の——(正上一三九、南留二七)(續下

二ノ二六三、柳隨)

西洋印書(正上八四六、昆陽九七)

變書の事(正下八八一、花月八二)

水漬書冊(正下三二一、續昆四四)

古刻本(續下二ノ二六〇、柳隨)

書を讀むは身を修むるの爲と云ふ説(正下

三三、梅叢五二)

書狀

——御座候の誤用(續上六四六、れざめ)

——の末に不備と書く事(續上三三四、梅

日)

——文字死活(正上二二六、茶筆九一)

松雲與清正——(正上八四六、昆陽一〇〇)

佐藤大道翁へ遺す——の下書(續中一三三

一、遊藝)

焚——(續上三五三、梅日)

書法

——草字より眞字に直したがへ(正上三九

五、傍廂一六二)

二字同字重りたる——(續下二ノ三五五、柳

隨)

渡世——と眞の——（正上一一七五、春波

九七）

修學寺——八景（續上一三四、年山）

修行——の詞（正下七九七、雲萍七三）

修羅（續上一二六、梅日）

夙——といへる族（續下一ノ五六、閑耕）

宿院（正上九九六、鋸屑二一）

宿紙（續上一八三、錦所）

——の讀方（續下一ノ四五〇、松竹）

熟紙（正下四四一、畫譚四五）

酒菜（正上一一六二、春波七五）

酒色（正下八五五、花月三八）

酒中花（續下二ノ五一、足薪）

酒顛童子（正上六一四、玄同下二二五）

——が首塚（續下一ノ一九、閑耕）

壽山和尚（正上一一二七、春波一六）

壽命——壽算（正上五五八、玄同下一二三）

——は養生にあり（正下四〇四、訓淺四四）

——の長短（正上三一五、傍廂二三）

遊樂と長生法（正下八〇八、雲萍九三）

夢想國師の長命法（正下七七四、雲萍三四）

養老長壽（正下七二七、兎小一ノ六四）

老婆長命を欲して多辯を止む（正下八二六、

雲萍一二二）

珠子（正上八六八、昆陽一四〇）

手蹟——手のよしあしの論（正上三四五、傍廂

七六）

尊圓氏の筆法を難するの非（正下一〇一〇、

多波五六）

道風佐理行成の——（續上五六一、織錦）

道風書（正上六五、北邊五九）

能書筆を撰ます（續下一ノ三二四、燕居）

王羲之が筆法（正下一〇五七、消閑四三）

俊賴の——（續上一二七、年山）

我國の——（續中一二三、天朝）

「シヨ」書ナモ見ヨ

出世間（續下一ノ六三五、雞江）

出產——赤子を祝ふ（續上三二七、梅日）

八歳の兒子を産む（續下一ノ三九四、燕居）

免娠解婉（續下一ノ三五六、燕居）

裏服内子を生む（正上八七四、昆陽一五一）

婦女產石像（正下六〇九、兎小九ノ一三七）

八歳の女子の子を産みし時の進達書（正下

四八一、兎小八ノ五三）

腰抱（續下二ノ五三四、梅筆）

出陣（續中九七八、後松）

出梅（正上八二四、昆陽五八）

出母（正上八四九、昆陽一〇五）

叭咀——の驗（正下一七四、世事九九）

術書（正下四四二、畫譚四七）

種痘（正上一一六九、春波八七）

需頭——の字義（正上八六六、昆陽一三七）

須彌山（續上六九九、還魂）

春庵（續中一〇八五、近世）

春畫（續上二三九、梅日）

——起原（續下一ノ三六三、燕居）

笈中——（續下一ノ三九八、燕居）

春波樓——藏書目錄（續中一〇七八、西

畫）

准三宮（正下九五〇、准后二）

牙一木(續中六九八、後松)

尺 (續上三九〇、醋中)

尺度 (續下一ノ七二〇、難江)

大尺、小尺(正上六七〇、善庵五八)

鐵尺(續上八七五、松落)

律衣尺(續下二ノ四九三、柳隨)

魯版尺(續下二ノ三〇六、柳隨)

阿蘭陀尺(正上八二六、昆陽八二)

阿蘭陀尺圖(正下二九九、續昆四)

尺八 (續下一ノ六二四、難江)

一の笛(續上三一、年山)(正上三〇六、傍

庸八)

ジヤタカウシヤクカク

捺拾捺拾 (といふ文字)(續下一ノ八〇〇、難江)

鷗鷺 (斑香)(正上八八五、昆陽一七〇)

爰風輪轉(續下一ノ三五七、燕居)

若芝 (續中一〇八五、近世)

拘子定規 (といふ事)(續下二ノ七三、足薪)

赤口神 (正上一五〇、南留四五)

寫生 (の似貌)(續下二ノ五二九、梅筆)

借錢 (の利を懼れて天の理を恐れず)(正下八

〇一、雲萍八〇)

蕘直 (といふ語)(續下一ノ四〇三、燕居)

石塔 (といふ祈禱の業)(續下一ノ二七三、年々)

蛇之助 (といふ隠語)(續下二ノ一八四、柳筆)

娑婆 (世界)(正下三七九、訓淺三)

舍利 (正上八四四、昆陽九六)(正上一〇二

五、茅窓二四)(正上七一二、桂林五五)

赦令 (正上八一七、昆陽四三)

●シユ

玄ゆる扇 (續下二ノ二二一、柳筆)

朱 (正上八〇七、昆陽二三)

朱戸 (正上八三九、昆陽八八)

朱子學 (四書由來)(正上一〇一七、茅窓九)

朱舜水 (碑陰)(續上五八、年山)

朱竹 (紫竹、雪竹、方竹)(正下四三六、畫

譚三七)(續下一ノ三一四、燕居)

樹衣 (正上八八三、昆陽一六六)

樹木 毒 (正上三四〇、傍廂六七)

奇樹(正上二一八、茶筆七七)

鐵樹(正上八二〇、昆陽五〇)

主従 (正上一五四、南留五三)

「シユ」主殺ヲモ見ヨ

主殺 (一の罪の連坐)(正下九九七、多波三五)

主殿 (正下二二八、家屋一三)

儒學 (儒佛論)(續中八九六、後松)

儒佛の道(續上八〇六、松落)

復古學の譜(續下一ノ五九八、難江)

朱子學四書由來(正上一〇一七、茅窓九)

に新舊の二義ある事(續下二ノ五一、

梅筆)

儒者 腐儒唐様を好みし事(正下五八五、兎小

九ノ九五)

俗士時務を知らず(正下一〇一二、多

波五九)

篤實の——須藤健十郎(正下七六八、雲萍

二五)

一の愚(正上一一六一、春波七三)

一の剃髮(正上一六三、南留六八)



——に就て屋代問答(續中六四四、後松)

屋代異見(續中九四三、後松)

明石入道殿御——(續中九一九、後松)

束帶——(續中六四一、後松)

童——(續中八一九、後松)

宿直——(續中一〇〇七、後松)

宿往の——(續中六四一、後松)

日野大納言單衣用意(續中六七八、後松)

御車副——(續中六七七、後松)

無位直綴(續中七二三、後松)

諒闇——(續中八六〇、後松)

諒闇の——に就て内藤氏之申狀(續中八五

六、後松)

諒闇の——に就て成島氏之申狀(續中八五

五、後松)

令以前の——(正上一四六、南留三九)

武家四位五位——の論(續中六四九、後松)

足利家贈官位——(續中八六〇、後松)

享保朝鮮來聘着御——(續中八四八、後松)

御廟參詣の着御(續中八五六、後松)

將軍宣下——(續中七七九、後松)

彦根中將——(續中六七八、後松)

紅葉山御參詣一員——(續中六七六、後松)

柳營御遊の日——(續中六七七、後松)

柳營御服(續中六七二、後松)

柳營御服已下之論(續中六四九、後松)

昌貞尼——の隱棲(正下七二二、雲萍三二)

聖德太子——の評(正上一八三、春波

一一〇)

——片岡山に飢人に遭ふ(續下一〇一七五、

閑次)

阿彌陀如來と——の御贈答の書簡(續下一

一五二、閑次)

聖武天皇——時代の諷刺(續上九七〇、河

社)

——菊の御歌(續上一〇二六、河社)

——の顯文(續上五四四、織錦)

商人——京——を京烏といふ(續下二〇一五三、

柳筆)

菖蒲胃「ダン」端午ヲ見ヨ

省文(正下一六九、世事九一)

樞編——魚腦の——(續上三六七、梅日)

釋迦——の遺言(正上一一四七、春波五〇)

——の教と盜僧(正下三六三、我宿五)

聖人の教と——の教(正上一一六二、春波

七五)

釋萬葉集——の跋(正上九六、年山)

沙玉集——(續上六六、年山)

沙子——(正下二〇三、續昆一一三)

沙錢——(正上八五六、昆陽一一七)

沙尾錢——(正下三〇二、續昆一一)

沙彌——(正上一四五、南留三八)

沙美浦——(續下一〇一二〇、閑次)

沙門島——(正上八八五、昆陽一六九)

砂金——(正下二九七、續昆一一)

笏——(續下一〇六六二、難江)

——に一位の木を用る事(續下二〇五二〇、梅

筆)

神の宮人の——をとる事(續上八五九、松落)

服御々——(續中六五〇、後松)

生涯 一生は一睡の夢（正上一一六六、春波

八〇）

象海和尚 師の諫を用ゐずして遷化する

（續下一ノ四一、閑耕）

彰考館 （續上一二一五、年山）

別館の記（續上一一七、年山）

別館紅葉宴の序（續上一一六、年山）

唱更圖 （續中七三、比古）

唱平 （續上一六七、錦所）

上落 （續下一ノ六五二、難江）

上卿 （續下一ノ二四二、年々）

上戸 （續上二六九、梅日）（續上八八四、松

落）

上手 下手（續中三九八、比古）

上書 僧徒の（正上八四二、昆陽九三）

上疏 （正上八〇八、昆陽二五）

上大人 （正下三一七、續昆三七）

上段之間 並申殿、下段、落間（正下一三

一、家屋二八五）

上落 小（續下一ノ七八五、難江）

上林下若 東鑑にあるといふ事（續上

六〇二、織錦）

將棋 （正上三六四、傍廂一〇八）（續上一一

五、年山）

挾 飛（續上二四四、梅日）

五將（正上六三六、善庵一）

將軍家 准三宮の始（正下九五三、准

后七）

の移替（續中一三三一、遊藝）

還御の時待間（續中八八〇、後松）

將軍塚 （正上九九五、鋸屑一九）

の鳴動（續下一ノ三一、閑耕）

性空上人 （正上一一五四、春波六一）

正月 （續下一ノ五六九、難江）

流行 （續上三四七、梅日）

下重之次第（續中六五〇、後松）

正念坊 が起請と辭世の歌（正下七六五、雲

萍二〇）

掌故文學 いとへる官（正下一〇〇一、多波

四二）

障子 （續下二ノ一〇三、柳記）（續上八四七、

松落）（正下二三三、家屋二四〇）（續下二ノ

五一四、梅筆）（續中六八五、後松）

障子上 （正下二四一、家屋四一）

尙齒會 （正上三九五、傍廂一六三）

尙書 （正下三八四、訓淺一一）

精進 （正上一一七四、春波九五）

の意義（正下一〇八八、梧拾三七）

以 物摸魚味形（續上一六九、錦所）

精舍 （正上九九二、鋸屑一五）

猩々 （正下四三一、畫譚二八）

猩々緋 （續下一ノ三四三、燕居）

祥瑞 （正上七一〇、桂林五〇）

人圭如瑞（正上五〇五、玄同下三九）

詳月 の文字（正上一三八、南留二五）

裝束 昔の（續下一ノ一五〇、閑次）

關東御 復古之事（續中九三九、後松）

帛御 （續上一七〇、錦所）

する次第（續中六四〇、後松）

に就て桐原問答（續中六四八、後松）

## ●シメ

しめつけ島田 (續中五八四、骨董)

しめり茶磨 (續下二ノ一二、足薪)

自鳴鐘 (正上六四六、善庵一七)

## ●シモ

下河邊長流 (小傳并歌(續上五一、年山)

——歌集(續上四四、年山)

下臺所 (正下二五一、家屋六二)

下野花 (正上三五七、傍廂九六)

下局 (續下一ノ八〇五、難江)

下屋 (正下二五三、家屋六五)

試目 (正下四三八、畫譚四一)

霜月 (正上六四六、善庵一八)

戦豚<sup>シモヤク</sup> (續下一ノ三八二、燕居)

## ●シヤ

じやう ————ばい、あま(正上一五〇、南留

四六)

しやのく衣 (續下二ノ一四〇、柳記)

しやらくさし ————といふ詞(續下一ノ四〇

〇、燕居)

邪 ————を守る(正下八一〇、雲萍九六)

謝庵 (續中一〇八六、近世)

車佑 ————の字義(正上八三一、昆陽七二)

車軸 ————雨(續上三四一、梅日)(續上三四

四、梅日)

淨 ————の字の訓(續上六三二、ねさめ)

淨衣 (續中六一六、後松)

淨土雙六 ————の色目(續下二ノ五三五、梅筆)

淨味七郎兵衛 釜師 ————(正下七八一、雲

萍四六)

淨瑠璃 (正上一二二九、春波一九)

———雜考(續下二ノ七一、足薪)

———の評(正下一五〇、世事五九)

———大夫の流派(正上一二二九、春波二〇)

———節(續下二ノ六九、足薪)

———節の起源(續上六九〇、還魂)

梵天國、六段目(續上七〇四、還魂)

關の月の ————(正上一二三三、蜘蛛五四)

春駒の ————(正上一二二一、蜘蛛五二)

高尾の ————(正上一二三三、蜘蛛五四)

江戸の ————(正上一二二二、獨語一九

———(三三)

京の ————(正上一二二二、獨語一九

———(三三)

難波の ————(正上一二二二、獨語一九

———(三三)

## 筌

菊鷹と云ふ ————(正下九七三、大海一五)

## 情

———の山口(正上一五八、南留五九)

———和漢合意(正上二二二、茶筆八三)

———有非 ————(正上三九二、傍廂一五七)

## 庄

———(正上一五三、南留五〇)

## 錠

———の字(續下一ノ八三四、難江)

## 莊家

———(續上八八〇、松落)

## 生姜

———生薑(正上三一四、傍廂二二)

———一斤(正下三一九、續昆四〇)

———不撤 ————の語(正下二〇六、茶筆五八)

生姜酒 (續上三二六、梅日)



みやこを必みるべき事（續中六八六、後松）

——造（正下二二九、家屋一四）（正下二三

〇、家屋一六——二二）

宸殿與——同訓列儀（續上五一八、蒼梧）

人世 は樂は輯睦に在り（正下七八三、雲萍

四九）

眞率 （續下二ノ三一、燕居）

眞理 （正上七二、北邊七一）

身代 身帶をよくする傳法（正下七七五、雲

萍）

鎮鏝屋 ——の金魚（續下二ノ一八四、柳

筆）

之邊 シノホリ （續上三九八、酣中）

人名 文不識（續下二ノ三四八、燕居）

——考一卷（正下九四五）

古の賤き者の名（正上一四一、南留二九）

人の名に鷹をつくる事の考（正下一〇五六、

消閑四〇）

源内、平内、太郎作、五郎作（正上一四八、

南留四二）

古人の——を慕ふ（正上一五〇、南留四六）  
賜一字（正下三二三、續昆四八）（正上八三

六、昆陽八一）

石田三成等のよみ（正上六五二、善庵二七）

孔子、阿彌陀、相知、伊尹と云ふ邦人の名

（續下二ノ四〇、閑耕）

惡を以て名を附らる（續中一〇五六、烹雜）

同じ名（續下一ノ五八二、難江）

一益の訓（正上六五二、善庵二七）

名乗（正上一二五、南留一）

名の下に官をいふ（正上一五〇、南留四七）

古書の文字による——（正上一五〇、南留四

六）

男女の名昔やうにつくはひがことなる事

（續上八七一、松落）

親王御名（續下一ノ四四三、松竹）

實名を音にて唱ふ（正上三七〇、傍廂二一

八）

何左衛門何右衛門といふ事（續上七六四、松

落）

戯にも大臣名を忌嫌ふべき事（續下二ノ五

三〇、梅筆）

市人稱官名、古き女の名（續上七一、年山）

在名（正上二〇九、茶筆六三）

實名を字音によぶ事（續下一ノ二六四、年

々）

何鷹何彦（續下一ノ二〇〇、年々）

俗名（續下一ノ二三〇、年々）（正上六六六、

善庵五一）

通稱の説（正上二〇九、茶筆六三）

今時の女の名（正上一四二、南留三二）

名字（續上七六三、松落）

梶原平三、猪俣小平六（正上一六〇、南留

六四）

郎（續上三一九、梅日）

名用之字（正上八二二、昆陽五三）（正下三

〇〇、續昆七）

名乗を反す事（正上一四八、南留四二）

古代の呼名（正下七四一、兎小一ノ八八）

針妙 （續下二ノ一四四、柳記）

神事 (續下一ノ二〇四、年々)

——には音楽をなさしりし事(續上八二三、

松落)

神璽 (正上一二六、南留四)

神社 陰形を——の傍に置く事(續下二ノ二

八四、柳墮)

——にては前をおはすまじき事(續上七八

七、松落)

神階(續下二ノ五三五、梅筆)

神位(正上三二六、傍廂四四)

神借位(續上一六〇、錦所)

——の位階(正下一四四、世事四八)(續下一

ノ九八、閑耕)

神前にて經を讀む事(續上六五九、ねさめ)

神儒佛 —— 三道の教(續上八〇〇、松落)

神書 (正上三三、北邊四)

神道 (正上一三三、南留一五)(正上一二五

二、春波五九)

——獨語(續下一ノ五六六、難江)

日本大法は——なり(正下三六〇、我宿一)

吉田家の——(續下二ノ五三七、梅筆)

神託 ——に曰(正下三六一、我宿三)

山宗神記なる小兒の——の詞(續中三二八、

比古)

神帳 (續下一ノ三二三、燕居)

神農祭 (正上一〇八〇、茅窓一一九)

神罰 (正上三三三、傍廂七三)

神佛 (正下八四七、花月二五)

——をわろがむもの、我儘(正下一二二三、

心双一六)

——の感應は誠心誠意あるに在り(正下八

二五、雲澤一二一)

神武天皇 —— 御製(續上七、年山)

神靈 (正下四六四、兎小八ノ二五)

由利郡 ——(正下五八〇、兎小九ノ八七)

人國志 (正上一一三九、春波三六)

人才 三國人傑(正上二〇一、茶筆五〇)

人事 (正上八二八、昆陽六五)

人日 (續上三九六、酣中)

進士 ——の登第を遷駕といふ(續下一ノ三

七五、燕居)

進士太郎 (正上一四一、南留二九)

親子 親の切諫(正下九八九、多波二一)

親の子をおもふ恵(正下八二〇、雲澤一一

二)

兒を失ひ憂色なし(正上一二二、春波

四)

邪慳の親(正下七二四、兎小一〇ノ六一)

柳を投げて ——の縁を斷(續中一一三四、歷

世)

親王 —— 一品二品三品之事(正下九五二、准

后三)

——代判官代等の類(正下九五五、准后一

二)

——の班次在三公之下(續下一ノ八一〇、難

江)

——御名(續下一ノ四四三、松竹)

寐所 (正下二四一、家屋四二)

寐殿 (正下二二九、家屋一四)(續中六八〇、

後松)

—の起源(續中一一八二、歷世)

「カミ」髪ヲ見ヨ

島津氏 薩摩 家中の野郎(正上二七二、

雨窓三七)

島沼 秋田(正上四六〇、玄同上三六)

●シミ

清水 —といづみ(正上七五〇、圓珠一七)

清水天民 (續中一〇八五、近世)

●シム

しんまく 物を始末する事を—するとい

ふ(正下一六七、世事八八)

臣 森—の末路(正下一一〇五、梧拾六一)

忠—(正下四五、梅叢七二)

仁 名君—心之事(正上二九四、雨窓七四)

電光石火の—(正下一一〇八、梧拾七一)

專言の—(正下一一一〇、梧拾七三)

—は衆善の統宗なり(正下一一二、梧拾

七七)

二人爲—(正下一一二、梧拾七五)

—は親愛の義なり(正下一一四、梧拾八

〇)

—者愛の理心之徳(續下一ノ三二六、燕居)

安—利—(正下一一一、梧拾七六)

仁義 (正上一四〇、南留二八)

新安手簡 —の序跋(續上四七五、蒼梧)

新國史 —考(續中一六九、比古)

新修鷹經 (續中一四〇、比古)

新島 (正上一七五、茶筆七)

新撰集 (續下一ノ六五二、難江)

新撰字鏡 (正上六九六、桂林一九)

新撰姓氏錄 本編抄本考(續中三〇八、比

古)

新讀古今集 —の序に就て(續上六五、年山)

新勅撰集 —作者の誤(續上一四〇、年

山)

—雜体を雜部になさめたる(續上一〇三

三、河社)

新筑紫笥 (續下一ノ四七三、筠庭)

新筑波集 宗祇が—の撰に就て落書(正

上九四一、假世三二)

新編集 (續下一ノ六五二、難江)

新發意 「シホ」新發意ヲ見ヨ

心越禪師 (正上九三五、假世二一)

心學 —と孔子の學(正下一一〇八、梧拾

七〇)

心敬僧都 —井に玄的の發句(正下一〇

四九、消閑二八)

心喪 (續中八九六、後松)

津介 (正上八七七、昆陽一五六)

宸翰 柳原家所藏の—(正下九一七、閑窓

三)

宸殿 —與寢殿同訓別儀之事(續上五一八、

蒼梧)

信僞 (續上八〇三、松落)

信士 (正上六四三、善庵一三)

蜃氣樓 (續上六三六、れさめ)

神皇正統記 —賴朝を罪せず(續下一ノ

一二九、閑次)

神官 神主(正上一二九、南留八)(正上一五

六、南留五七)(續上七八六、松落)



集 (正上七七五、圓珠二九)

拾芥抄 — 撰者(續下一ノ七六二、難江)

水戸黃門 — を以て國學者を試む(續下一

ノ一三八、閑次)

時服 葵草の——下賜(續中一三二八、遊藝)

時分 — といふ詞(正上八六七、昆陽一三七)

指腹 — の字義(正上八四〇、昆陽九〇)

詞不可疑 — といふ書(正上三七九、傍廂一

三五)

十牛圖 (續下一ノ四二二、燕居)

十五夜 「ツキ」月見ヲ見ヨ。

十三回忌 (續下二ノ五三五、梅筆)

十三紅 (續下二ノ一五九、柳筆)

十三夜 九月——をめで初し古昔(正下一〇

五一、消閑三二)

十字 (續中七六四、後松)

十二ヶ月 — 水名(正上六四一、善庵九)

——和名(正上一六四、南留六九)

十二支 — に鳥獸の名をつけし事(續上六二

五、れさめ)

十二段 — 附芝居(正上一二二九、春波二

〇)

十二天 佛祖寺——像(正上七〇六、桂林四

三)

十二單衣 — といふ裝束(續上九、年山)

十二門 (續上三八一、酣中)

十八大通 (正上一一九六、蜘蛛九)(正上

一二二〇、蜘蛛四九)

十曜 (正上三七九、傍廂一三四)

十四番歌合 (續中九九〇、後松)

十六むさし (續下二ノ六七、足薪)

四分袴 (續下二ノ一四四、柳記)

什物 (續上三八一、酣中)

詩文 — 長短(正上二二七、茶筆九三)

——名題(正上二二七、茶筆九二)

爲——有三多(續下一ノ三七六、燕居)

●シホ

しほる — 、ふなる(續上二〇一八、河社)

鹽井 (正上九〇一、蟬軒五)

鹽竈明神 (續上九一六、河社)

——鐵燈籠(正上七〇九、桂林四八)

鹽辛 鯉鯪(續下一ノ三八七、燕居)

鹽草 — 、葛考餘附(正上四八四、玄同下五)

鹽尻 (續中四二九、比古)(續下一ノ二二〇、

年々)

鹽推神 (續中四四四、比古)

鹽湯 (續中四三〇、比古)

鹽屋長次郎 (續上六七七、還魂)

潮干 住吉 (續下二ノ五三〇、梅筆)

新發意 (正上一四四、南留三八)(續上三八

九、酣中)

四品 (續上五五五、織錦)

●シマ

しま繪 (正下四三九、畫譚四二)

玄まつ鳥 (正上七五六、圓珠二八)

鳥 庭の——(正下二四五、家庭四九)

鳥織 (正上三九五、傍廂一六二)

鳥左近 が事(正上二八九、雨窓六五)

鳥臺 (續下二ノ五一〇、梅筆)

鳥田畠 (續下二ノ四四、足薪)

桑シトキ (續中三四三、比古)

米餅シトキ搗 姓氏錄に——と書る人名の訓(續中三四三、比古)

茵シトネ (續下一ノ四三九、松竹)

蔀 (正下二三三、家屋二六)(續中六八五、後松)

倭文シトリ (正上八三三、昆陽七五)

●シナ

支那 ——の字數(正上一一六三、春波七七)

支那人 ——の礫石數戸數(續下一ノ九七、閑耕)

——不知算(續下 三〇八、燕居)

品川 の名の起(續上一八八、南向)

——のやどり(續下一ノ二〇二、年々)

指南針 の用(正上八二四、昆陽五八)

●シノ

玄の、は草 (正上九七七、閑秋二二)

玄のぶ といふ詞(續下一ノ六五七、難江)

(正上七六四、圓珠四三)

士農工商 (續下一ノ三三四、燕居)

不忍池 (續上六五〇、れさめ)

忍か岡 (續上一九五、南向)

——考(正下一〇五三、消閑三五)

忍草 (正上七四四、圓珠五)(續下一ノ六七、閑耕)(續上三二、年山)(續上五五三、織錦)(正上七四四、圓珠五)(正上七七一、圓珠五五)

忍頭巾 「ツキ」頭巾ヲ見ヨ

忍提打 ——と紋所(正下八一三、雲萍一〇二)

忍辰摺 「モザ」辰摺ヲ見ヨ

詠詞 (續中二一一、比古)(續中九五九、後松)

●シハ (正上七四九、圓珠九)

柴垣節 (續下二ノ一九七、柳筆)(續上七二四、還魂)

芝 地名——の名の起(續上一八八、南向)(續上一九九、南向)

芝居 和漢の——(正上二一、獨語三四)

——の文(正上九三八、假世二六)

芝屋隨筆 の誤謬(續下一ノ三九一、燕居)

支配 (正上八六七、昆陽一三八)

四拜拍手 (續下二ノ五二一、梅筆)

●シヒ (深き教育(正下七九二、雲萍六五)主僧の——と惡僧の悔悟(正下七八二、雲萍四八)深き主僧の話(正下八一九、雲萍一一〇))

慈悲心鳥 (續下一ノ六二、閑耕)

椎玄ば (續上八九二、松落)

椎茸たば といふ髪(續中一一九〇、歷世)

四百四病 (續下一ノ三六九、燕居)

四百餘州 (正上一〇六七、茅窓九六)

唐土 (正上二二三、茶筆八六)

試筆 年始の——(續下二ノ五一六、梅筆)

褶 の辨(續下一ノ五七二、難江)

●シフ

三日替(正上一二二一、蜘蛛五一)

芝石 (正上九〇七、輜軒一四)

芝屋隨筆

芝配

四拜拍手

●シヒ

慈悲

慈悲心鳥

椎玄ば

椎茸たば

四百四病

四百餘州

唐土

試筆

褶

●シフ

機シタウツ の訓(正上一四七、南留四〇)

下襲 —— 色目尻長短(續中八一、後松)

—— 着用法(續中四二二、松竹)

—— に就て貞丈の説を駁す(續中六八八、後松)

松)

—— のきぬ(續中六二二、後松)

—— の證例(續中六五一、後松)

柳御 —— (續中六四二、九四三、後松)

—— 色之論(續中六五〇、後松)

色々 —— (續中六四九、後松)

下衣 —— はあらはす可からず(續中七一八、後松)

後松)

下結 —— の事(續中六七八、後松)

下袴 童女 —— (續中七一八、後松)

下裳 「ヒラ」襦ヲ見ヨ

下谷 —— の名稱(續上一九五、南向)

紫檀 —— 、桐、松の價(正下三四八、續昆九

三)

拵游 (續中五〇九、骨董)

自墮落先生 (正上九二六、假世五)

●シチ

七音 (正上八一六、昆陽四二)

七架 —— 地圖式(正上八二三、昆陽五五)

七賢人 (正上三五七、傍廂九六)(正下一二三、世事一二)

七顛八倒 (續下一ノ三五三、燕居)

七福人 打出小槌、白鼠(正下四三三、書

譯三一)

四智圖明 (續下一ノ七五七、難江)

紙帳賣 (續下二ノ一七三、柳筆)

慈鎮和尚 の新古今松をしくれの歌(續下

一ノ五九一、難江)

七里けつぱい といふ俗語(正上一四九、

南留四五)

●シツ

靜前 —— が勇氣(正上三五二、傍廂八六)

靜巖屋 (續下一ノ一八、閑耕)

漆器 (正上九八五、鋸屑三)

桂葉くりく (續中七一三、後松)

實檢之間 (正下二八七、家屋一三五)

實檢窓 (正下二八七、家屋一三五)

十指 を一婆羅密といふ事(正上一四九、南留

四四)

十炷香 (續下一ノ七八七、難江)

質素 儉素は財用匱窮せざるを以て足れりと

す(正下一一〇三、梧拾六二)

—— なるものは榮へ汰侈なる者は衰ふ(正

下一〇八三、梧拾二九)

質撲 下民の——(正上一一六〇、春波七一)

疾病 鹿島社にて唄ふ——除のうた(正下七

七〇、雲萍二八)

●シテ

してのたをさ (續中一一〇、比古)

師弟 門下生の奇才(正上一一七二、春波九

一)

一師聞うして萬弟道に迷ふ(正下三六二、我

宿六)

●シト

機 (正下四二三、謠譚一四)

一色目(續中八一、後松)



花月六

史官紀 (續中一八一、比古)

●シケ

死刑 昔は少し(續上八九四、松落)

試創石 (續下一〇三二、燕居)

●シコ

玄ころ頭巾 「ツキ」頭巾ヲ見ヨ

市語 (正上七一三、桂林五七)

●シン

玄、いま、といふ詞(正上四七、北邊二九)

玄、じま御遊 (正下七五七、雲萍六)

穴 の字(正上一二五、南留二)

穴人 (正上八〇九、昆陽二七)

獅子 一、狛犬(續上七七四、松落)(續下

ノ四六五、筠庭)

獅子 一、雷の圖(正下四一九、畫譚八)

一に牡丹(續下一ノ四六八、筠庭)

獅子舞 (續下一ノ四六〇、筠庭)

四至 (正上八〇四、昆陽一七)

四事 一、三利(續下一ノ一六九、閑次)

四十九日 (續下二ノ五二八、梅筆)

四十七言 (續上六六五、れさめ)

四十二の物争 (正下一九二、世事)(續下

一ノ八二五、難江)

蜺 黄痕と(續下一ノ一七九、閑次)

史生 一の讀(續下一ノ四五六、松竹)

磁石 (正上一二五五、春波六三)(正上九一

〇、輜軒二〇)

分金(正上八八五、昆陽一七〇)(正下三〇

五、續昆一六)

侍從 一名目(續下一ノ四三八、松竹)

脂燭 の詩(續下二ノ五一九、梅筆)

●シセ

四姓 (正上一五七、南留五八)

四聲 (正上二一九、茶筆七九)

皇國詞の平上吉(續下一ノ二二三、年々)

一をさしたる古書(續下一ノ二二四、年

々)

一の發音と詩作(正下一〇一九、多波七

一)

辭世 一は笑ふべし(續下一ノ一八四、閑

次)

一の代作(續下一ノ一八五、閑次)

村松喜兵衛の (正下一三、梅叢一八)

「ウタ」歌「ハイ」俳諧ヲモ見ヨ

死生 「セイ」生死ヲ見ヨ

四少三安 一の養生(續下二ノ九九、閑

耕)

慈善 衣類を襲きて饑人を救ふ(正上九三一、

假世二三)

自然齋 の歌(正下五八八、兎小九ノ一〇

一)

●シリ

四足門 一、同妻(正下二六四、家屋八五)

●シタ

したがひのつま (續下一ノ六〇〇、難江)

四大 五行(續上八四六、松落)

四大橋 (正上三七四、傍廂一二六)

支唐禪師 一の博識(正上九四〇、假世

二九)

●シエ

絲煙 (正上七九八、昆陽八)

慈圓 「シチ」慈鎮和尚ヲ見ヨ

●シオ

ををる ——とまほるの誤(續上一〇一八、河社)

字音

の清濁(續下一ノ二二四、年々)

——は唐土を學ぶの外なし(正下一〇二三、多波七八)

紫苑

(正上七四五、圓珠七)

——の名(正上一四〇、南留二七)

枝折 (正上一〇五四、茅窓七五)

●シカ

鹿 (正上七四二、圓珠一)

——なすがる又かせざともいふ(續中一五九、比古)

——の生血を吸る(正上一一三三、春波二五)

——のちがへ(續中一六六、比古)

かひろと啼(續下一ノ三一一、燕居)

肩拔(續上九〇七、河社)

冬の——(續上一一〇、年山)

さな(續上八三三、松落)

鹿笛 (續下一ノ一九二、閑次)

寺家 (正上一五九、南留六二)

齒牙 「ハ」齒ヲ見ヨ

字鏡集 ——解題(續中一〇〇、比古)

詩學唐韻 (正上八一六、昆陽四一)

志賀瑞翁 (續下一ノ四四、閑耕)

●シキ

史記 ——を作りし本意(正下三九四、訓淺二七)

雛<sup>シキ</sup> (正上七八二、圓珠七四)

敷居 (正上二二三、茶筆六九)(續上八四六、松落)

色紙 ——形(續上七八二、松落)

——形寸法(續下二ノ五一四、梅筆)

——形に名を書さる事(續下二ノ五三六、梅筆)

筆

色紙釜 (正下八四一、花月一五)

式子内親王 ——歌(正下一〇〇〇、鋸屑)

二七

式年 (正上六六一、善庵四三)

敷皮 泥障を——に用ふ(續中六一七、後松)

敷島の道 「ウタ」歌ヲ見ヨ

敷砂 (續上一八五、錦所)

敷臺 (正下二八九、家屋一三八)

四季施 ——といふ文字(正下一三四、世事三二)

四季色目

——序之事(續中七一三、後松)

鳴立澤 (正上六六五、善庵四九)(續下一ノ七二七、難江)

食籠 (續下一ノ五一五、五二九、菊庭)

檜 (正上六五六、善庵三四)(續下一ノ六二七、難江)

闔 (正下二六六、家屋九一)

執行 (正上一三五、南留一八)

絲金 (正上八一五、昆陽四〇)

●シク

肅拜 (續上一五九、錦所)

時雨 (正上三一六、傍廂二五)(正下八三六、

—のかき様(正上一四九、南留四四)

—の俗語と俗意(正下一〇一八、多波七〇)

桐葉—(續下一ノ三六九、燕居)

一句(正上一八六、茶筆二四)

—語に白字を用ふる説(正上二二八、茶筆九四)

四)

吾國人—作の杜選(正下一〇二〇、多波七三)

三)

—人の説(正上二二八、茶筆九四)

唐—鼓吹と唐詩選(正下一〇一八、多波七〇)

〇)

律—の章法と古—の段落過句(正下一〇一八、多波七〇)

八、多波七〇)

死

老と—(正上一二二六、春波一四)

—地觸穢ある事(續上四七四、五〇三、蒼梧)

梧)

太后皇后崩薨(續中七五九、後松)

—につく歸するが如し(續下一ノ一八四、閑次)

次)

日々に死に近よるを知らず(正上一二二七、

春波一六)

老耄死を思はず(正上一二八七、春波一七)

七)

●シヤ

慈愛—その道を得ざれば—も民の苦病(正下一〇〇〇、多波四〇)

下

●シイ

詩歌—(正下一〇一八、多波六九)

—の語(正上二二九、茶筆九七)

—語勢強弱(正上二二二、茶筆六七)

—のあはれ(正下三六二、我宿四)

—同轍(續下一ノ三五二、燕居)

—免姦通罪(續下一ノ三六八、燕居)

—一首二首(續下一ノ三二九、燕居)

—深情詩にありや歌にありや(正上一〇〇八、

鋸屑四〇)

—賈島が詩定家の歌(續下一ノ三四九、燕居)

—箴刺—(續中一〇四三、享雜)

—寺院—「テラ」寺院ヲ見ヨ

●シウ

州—(續上三八一、酣中)

—軍(正上八九二、昆陽一八一)

洲—の字(正上九九九、鋸屑二五)

周易家語—序(正上七九五、昆陽二)

周髀—(正下二九八、續昆三)

祝儀—ひきまた(正上一三九、南留二五)

蹴鞠—の伎(續下一ノ八一、閑耕)

—鞠場に植うる樹(續下一ノ八三、閑耕)

—鞠の掛り(正下二五〇、家屋六〇)

—鞠の壺(正下二五〇、家屋六〇)

—鞠庭(正下二五〇、家屋六〇)

—の時扇の指やう(續下二ノ五一五、梅筆)

筆)

—の時僧杵を履かざる事(續下二ノ五三三、梅筆)

三、梅筆)

秋月—僧—(正下四二七、畫譚二)

秋色櫻—(續上六九六、還魂)

獸肉—を喰ふ事(續下一ノ七九七、難江)

—我國人は—を忌む(正下九七九、多波四)

聚分韻略—三重韻(正上八一九、昆陽四九)



小夜中山 (續下一ノ六〇六、難江)

●サヨ

佐用姫 (續下二ノ一五八、柳筆)

●サラ

さられん坊 (續下二ノ二九、足跡)

皿 一、鉢(正上九八五、鋸屑四)

様子(續下二ノ六二、足跡)

銅壘(續上三一七、梅日)

沙羅雙樹 (續下一ノ七五八、難江)

更科山 (正上七五八、圓珠三三)

晒賣 (續下二ノ一七三、柳筆)

●サリ

砂利 小石を——といふ(續下一ノ二五一、年々)

々)

●サル

さるぼう といふ器(續下一ノ五一七、筠庭)

庭)

猿 (正上七四三、圓珠四)

果然(正上九〇二、駒軒七)

トの孝養(續下一ノ五九、閑耕)

白一賊をなす(正下六八〇、兎小九ノ二六〇)

〇)

一與巨蛇闘(正下六一九、兎小九ノ一五六)

猿樂 (正上四八、北邊三二)(續下一ノ五三

一、梅筆)(正上一六、獨語二六)(續上八

九一、松落)

絲篋といへる——(續中五六三、骨董)

猿蟹合戦 (續中五〇九、骨董)

猿冠者 (續下一ノ三五四、燕居)

百日紅 猿滑(正上七四、北邊七五)

猿郎達樹(續上三五〇、梅日)

猿橋 曲橋、藤橋、籃渡(續下一ノ二八、閑耕)

耕)

猿丸太夫 (續上三〇、年山)

——の歌(正上一〇〇九、鋸屑四二)

——集續上九三三、河社)

猿屋 の楊子(續下二ノ二三二、柳筆)

●サワ

佐脇嵩之 (續中一〇八七、近世)

佐脇嵩雪 (續中一〇八七、近世)

●シ

子 利子の一の字(正上八六二、昆陽一二九)

(正下一〇一七、多波六八)

陰陽一、呪禁一、針一等は官名なり(正

上一四二、南留三二)

小兒の——(正下一八五、世事一一八)

深情——にありや歌にありや(正上一〇〇八、

鋸屑四〇)

——を説きて道に志す人に喩す(正下三、梅叢

一)

——の八流に歌行吟嘆あり(續下一ノ三九九、

燕居)

園樓の——識(續下一ノ三八七、燕居)

賈島が——定家の歌(續下一ノ三四九、燕居)

——を篇什と云ふ(續下一ノ三八九、燕居)

詩の一二字に同母字を用ふ(正上二二三、茶

筆八七)

——の韻と平仄(正下一〇一九、多波七〇)

三元 (續上三二〇、梅日)

三國大守 (續下一ノ八〇四、難江)

三山歌 (續上五九二、織錦)

三舟亭 蓮池侯——之詞(續中八二四、後松)

三十六歌仙 ——を拜殿に掲ぐる事(續下二ノ五三二、梅筆)

三十六人集 (續上一九、年山)

——總論(續上九三〇、河社)

——にもれたる歌人(續上一〇二三、河社)

——古抄本(正下八九、遊京下一二)

三十七日 「ミナ」三十七日ヲ見ヨ

三種神器 (正上一二六、南留四)(正下九七八、多波二)

——を傳國璽といふは臆説なり(續上二一、年山)

三寸叔 (正下三二八、續見五七)

三星圖 福祿壽(正下四三二、畫譚二九)

三智 (正上八〇一、昆陽一三)

三重韻 (正上八一九、昆陽四九)

三條小六 (續下二ノ二三〇、柳筆)

三代實錄 (續中一二九、比古)

——誤説(續中一〇五七、烹雜)

三代格 ——缺本考(續中一二八、比古)

三條西實隆 の強記及和歌(正下九六六、大海三)

三德 (續下一ノ五一四、筠庭)

三人法師 舞詞の——(正上一四八、南留四二)

三年坂 (續上一九九、南向)

三方 (續下二ノ五一六、梅筆)

三番叟 (續下一ノ七七一、難江)

三伏一向 (續下一ノ六一一、難江)

三部神道 (正下一〇四七、消閑二四)

三脈 の法(正上三七五、傍廂一二八)

山家の記 朴翁居士——(續上一〇七、年山)

山槐集 (續下一ノ六五三、難江)

山水 觀——亦如讀書(續下一ノ九九、閑耕)

——畫(正下四一五、畫譚二)

山王 ——靈聖(正下五〇〇、兎小八ノ八六)

——祭禮(正上一二二三、蜘蛛五五)

參議 (續下一ノ二九〇、年々)

三四位宰相無差別(續中八七三、後松)

散禁 (正上七八、北邊八三)

散所 隨身(續上一八一、錦所)

散木 の義(正上八七、北邊八一)

散米 (續上七八八、松落)

散藥 (正上八四九、昆陽一〇四)

珊瑚樹 (正上八二九、昆陽六七)

椒魚 (正上九八九、鯉屑九)

算袋 (續上四〇五、酎中)

産婦 ——横に臥す(續下一ノ六七五、難江)

——綿かつぐ(續下一ノ六七六、難江)

侍 「フシ」武士ヲ見ヨ

侍烏帽子 (正上一二七、南留四)

侍所 (正下二四五、家屋四八)

●サメ

さめ馬 (正上一四五、南留三六)

●サヤ

澤倉 詞の上より地名の變遷(正上一四六、南

留三九)

澤田川 (續上九七〇、河社)

澤田東江 か家の集會并南畝の狂詩(正上

九六二、假世六九)

多湊風流 (續中一〇二二、烹雞)

●サヒ

錆 と云ふ字(續下一ノ四〇八、燕居)

左筆 (續上一七八、錦所)

左比の里 賽の河原(續下一ノ一六、閑耕)

●サフ

サフラム花 (正上一〇四四、茅窓五六)

雜司谷 の名稱並沿革(續上一九三及二〇

一、南向)

——鬼子母神(續上二〇一、二〇八、南向)

雜色 (續中六二三、後松)(續上四八〇、若

橘)

雜色所 (正下二四五、家屋四八)

雜舍 (正下二五二、家屋六五)

雜袍 の名目初りの事(續中六九〇、後松)

雜炊 骨董羹(續下一ノ三五六、燕居)

雜蓑 ——なバウヅウといふ(續下二ノ五一

六、梅筆)

●サヘ

さへ といふ詞(續上八四〇、松落)(續下

ノ八七二、難江)

佐部乃加美 (續下一ノ七九五、難江)

●サホ

佐保姫 (續下一ノ二六二、年々)(續下

ノ三九二、燕居)

●サミ

三味線 (正上一四七、南留四二)(正上二

二——二〇、獨語一九——三三)(正下

五三、世事六三)(續下一ノ四七八——四

八七、筠庭)

——古製(續中五〇三、骨董)

——の琴(續上七六六、松落)

——と蛸に血を狂はす(正上九五二、假世

五二)

——古體(續下一ノ四八二、筠庭)

——四弦(正上一〇〇一、鋸屑二八)

——傳來(續下一ノ四八一、筠庭)

●サム

さんがら節 (續下二ノ一八七、柳筆)

さんぐ といふ俗語(正上一五六、南留

五七)

さんばらぐ 掻拾掻揚(續下一ノ八〇〇、

難江)

盞 の容量(正下三二〇、續昆二四)

三合 といふ災歲(續下一ノ二七二、年々)

三竿 の義(續下一ノ三四九、燕居)

三宮 の事(正下九五〇、准后一)

三郡 (正下二九九、續昆五)

三槐集 (續下一ノ六五三、難江)

三官館 (續下二ノ一六、足薪)

三教 (續上三九四、醋中)

撒 の字義(正上八四〇、昆陽八九)

攢 の字(正上八二六、昆陽六三)

釋迦、孔子、老子(正上一二七六、春波九

八)



座敷 (正下二六六、家屋九三)

棧敷 (續上八五〇、松落)

差繩 の打機(續下一ノ四二四、松竹)

—のかけ機、並結び機(續下一ノ四二六、松竹)

指貫

淺黄 (續上一七二、錦所)

—下活緒名稱(續下一ノ四四八、松竹)

當時使用の —の色目(續下一ノ四五四、松竹)

竹

—の幅(續下一ノ四一三、松竹)

●サス

さすが 武藏鎧 —といふ事(續下一ノ六七、閑耕)

七、閑耕)

●サセ

座禪 —看經の時却て忘想思慮浮ぶものなり(續下一ノ一九二、閑次)

リ(續下一ノ一九二、閑次)

●サタ

砂糖 —の沙の字(正下三二七、續見五四)

—品類(續下一ノ三九六、燕居)

定吉稻荷 (正下五三三、兎小九ノ三)

貞朝親王 —善打劔語(正下九四二、閑窓四八)

窓四八)

貞行親王 令失明給事(正下九二五、閑窓一八)

一八)

●サツ

雜色 「サフ」雜色ヲ見ヨ

薩摩 の薩の字(續上三九〇、醋中)

—の風土(正上二二〇、茶筆八二)

薩摩白 といふ牡丹の發句(續下二ノ一五九、柳筆)

九、柳筆)

甘藷 —の効用(正上一〇三〇、茅窓三三)

—の栽培(正上八七三、昆陽一四九)

八里半(續下二ノ三三一、柳隨)

●サテ

扱 (續下一ノ三二三、燕居)

扱もその後 (續下二ノ一一一、柳記)

●サト

佐渡 —の事(續中一〇二二、烹雜)

佐藤庄司 が舊蹟(正上七二九、細道八)

里村玄的 の發句(正下一〇四九、消閑二

八)

里村昌琢 —全昌程の奇句(正下一〇五〇、消閑三〇)

〇、消閑三〇)

●サナ

さな —といふ農具(正下八〇九、雲萍九四)

四)

佐那伎 鐸考(續中一四四、比古)

●サヌ

讃岐學校 (續下二ノ二五四、柳隨)

●サネ

實方中將 「タヒ」平實方ヲ見ヨ

●サノ

佐野源左衛門 謠曲 —(續中一三一九、遊藝)

遊藝)

佐野善左衛門 —田沼山城守を斬る(正上二二〇六、蜘蛛二五)

上二二〇六、蜘蛛二五)

●サハ

生飯 —又散飯(正上三六三、傍廂一〇六)

鯖 後三條天皇—頭を嗜み給ふ(正上七九八、昆陽七)

昆陽七)

さげ尼 (續上二九三、梅日) (續下二ノ五)

一九、梅筆)

(續上二二八、庵丁)

鮭 酒

(正上九七〇、關秋一〇)

「をみき」と云ふ(正上七五三、圓珠二二)

「は三獻なるべし(正上一四五、南留三七)

(續上八八三、松落)

「うるおうな(正下一〇八、遊京下四三)

「つくる水(正下八五八、花月四三)

「加水(續上三五九、梅日)

食時の中に「を飲むを中酒といふ(續下二

ノ五一四、梅筆)

「に酔ふたふりを侍酒といふ(續下一ノ三

七八、燕居)

凶年に「を造る事を減す(續上六四九、ね

さめ)

黒「(正上三〇九、傍廂一四)(續上八三、年

山)

蠻「(正上八九四、昆陽一八五)

齒木分杯(續下一ノ三四五、燕居)

齒木分杯(續下一ノ三四五、燕居)

狂藥(續下一ノ三六九、燕居)

古人罰「の法(正下七九七、雲萍七四)

嗜「(正上五四、北邊四一)

「の爛を嘗る(續下一ノ三四七、燕居)

酒客 大酒(正上二一一、茶筆六六)(正下八

〇九、雲萍九三)

大酒大食會(正下七一九、兎小一二ノ二五)

酒のむ人(正上三八四、傍廂一四三)

酒食欲の誠(正下三、梅叢一)

酒筒 「サ、酒筒ヲ見ヨ

下緒 (續中九四五、後松)

下髮 (正上七〇六、桂林四三)

下輩の「(續中一一八〇、歷世)

下針 射法(續上二三四、梅日)

●サコ

さごぞい といふ寶引(正上一一九三、蜘蛛

四)

左近局 — 集(續上八八、年山)

●ササ

サ、ツベリ

といふ語(續下二ノ一六五、柳

筆)

さゝなみ 玉葉集の「ら風あらし」にと

いへる歌に就て(續上七四、年山)

篠 (續上九六六、河社)

篠船 (續上二三六、梅日)

篠波 (續上九六八、河社)

捧 といふ字(正上七八四、圓珠七七)

狹々波 といふ地名(正下三二八、續昆五六)

酒筒 (續下一ノ五三〇、筠庭)(續下二ノ一

五二、柳筆)

雀部 — はサ、イベ(正上一五一、南留四

七)

座不冷所 (正上八五〇、昆陽二〇七)

小好男 (正上七四四、圓珠五)

筵摺り — の圖(續下一ノ五〇四 — 五

〇六、筠庭)

●サシ

さしもぐさ の説(正下一四一、世事四二)

砂紙 (正下三二九、續昆五九)

匙 の訓(續下一ノ三二九、燕居)

匙 の訓(續下一ノ三二九、燕居)

孟臺 (續下一ノ五一五、筠庭)

佐川田喜六 の名歌(正上二五三、雨窓六)

——の評(正上二五三、雨窓六)

酒帘 (續下一ノ五二二、筠庭)

——の説(續下一ノ三二四、燕居)

酒幣(續上二四七、梅日)

堺 由分由介(正上六九五、桂林一七)

彭百川 (續中一〇八一、近世)

月代 (續上九、年山)

額 (續下二ノ二三四、柳筆)

——の痕(正上二二七、南留四)

武家 (正上一〇二三、茅窓二二)

唐犬額(續下二ノ二三五、柳筆)

### ●サキ

鷺足 (續上二四八、梅日)

鷺草 (正上三七三、傍廂一二四)

菖 考(正上四八四、玄同下五)

前張 (續上九六七、河社)

### ●サク

さくさめのとじ といふ事(續中二一八、

錯 の字(續上三〇五、梅日)

薊 (正上八一〇、昆陽二八)

朔花 俳人——(續下一ノ二二七、年々)

朔旦 ——冬至之議(續上四四五、蒼梧)

眞下垂 (正上三四六、傍廂七九)

佐久間洞巖 (續中一〇八九、近世)

佐官 (續上三八四、酣中)

櫻 (正上八三二、昆陽七三)(續下一ノ二二

三、年々)

——の短命(正下九八二、多波九)

淺黄——(正上三四、北邊七)

火——(正上一〇〇三、鋸屑三三)

——の本色(續上七四、年山)

武州東光寺の蒲——(正上六一八、玄同下二

一九)

壬戌年の——(續下一ノ一〇七、閑次)

山越邑の——(正上九九六、鋸屑二一)

櫻井山興 (續中一〇八六、近世)

櫻戸 (續上一一九、年山)

櫻人 (續上九七五、河社)

櫻町天皇 ——爲聖主事(正下九一九、閑

窓七)

——右中將重熙彈正少弼氏榮等の事(正下

九三、閑窓一一)

——被尋水火事於神祇道事(正下九二〇、閑

窓八)

——大に驚かせ給ふ(正下九六七、大海五)

——被爲造竹臺事(正下九二〇、閑窓八)

——愛典侍資子事(正下九二〇、閑窓九)

——和歌御堪能事(正下九二二、閑窓一三)

——御時被修記録所事(正下九二〇、閑窓

九)

——聞食笛聲令賜和歌於故殿事(正下九二

一、閑窓一一)

櫻餅 隅田川——(正下六一六、兎小九ノ二五)

石榴風呂 (續中四七三、骨董)

左官 泥工を——といふ(正上三〇九、傍廂一

五)

### ●サケ



一の音(正上五七、北邊四六)

一のすがいき(正上一三七、南留二三)

一曲傳來(續下一ノ四七三、筠庭)

一柱斐之圖(續下二ノ五三八、梅筆)

草庵集 の評(續下一ノ一六三、閑次)

草架 (正上八二三、昆陽五五)

一地圖式(正上八二三、昆陽五五)

草根集 と後水尾院(正下九七〇、大海九)

草紙 (續中三八九、天朝)(續上八七三、松落)

落

草書 (續上四〇二、酣中)

草穰 (續下一ノ三六七、燕居)

草木 花色(正上一〇〇三、鋸屑三三)

食 葉法(正上八五七、昆陽一一八)

身體同訓考(正上五〇一、玄同下三二)

草履 (續下一ノ五〇八、筠庭)

くひ(續下一ノ五〇九、筠庭)

草履下駄 (續下二ノ一八一、柳筆)

早雲寺 箱根一の什物(續上二〇六、南

向)

造花 別春が(續下二ノ六〇、足薪)

梅の 一に鳩をつけさくくるおもむき(續上四七八、蒼梧)

上四七八、蒼梧

糟鶏 (續中八四七、後松)

曹源院 畫賛(正上一九七、茶筆四二)

莊子 (正上一九二、茶筆三五)

葬式 (正下九八八、多波二〇)

喪葬和論(續中九五七、後松)

假葬(續下一ノ三一七、燕居)

古の (正上一六二、南留六七)

掃地坊 (續下二ノ二八、足薪)

想夫憐 (續下一ノ六八一、難江)

桑門 (續上一〇一八、河社)

藏吏 一は葉市す(正下九九八、多波三六)

●サオ

さをしか 「シカ」鹿ヲ見ヨ

さをとゝし といふ詞(正上一一七、北邊

一四九)

棹 を「カイ」又「サオ」とよむ(正上七五三、圓

珠二三)

●サカ

神 (正上一〇〇一、鋸屑二九)(正上六五六、善庵三四)

善庵三四

神前に一を立つる事(續上八二五、松落)

一を神休とする事(續下二ノ五三五、梅筆)

逆木柱 (續下一ノ一九一、閑次)

逆手 (續中四一二、比古)

坂田藤十郎 (續上六九二、還魂)

坂迎 加茂村の (正下七四〇、兎小一〇

ノ八七)

嵯峨天皇 一芹河行幸(續上七七八、松

落)

一の御名(續上一〇一六、河社)

盃 大(正上三九四、傍廂一六一)

大一波が打(續下一ノ三一九、燕居)

鯛饅頭(續下一ノ一八九、閑次)

一を疊へしたむ(續下二ノ三六、足薪)

和田一類の河宴せし(續下一ノ六八、閑

耕)

——尊卑(續下一ノ四〇四、燕居)

寒翁が馬 といふ譬喩(正下九九七、多波三四)

在京日記 (續中七二六、後松)

細工 (續下一ノ六七二、難江)

細馬 (正下二九七、續昆一)(正上一四三、南留三三)

留三三)

細蟻 と云ふ虫(續下一ノ四〇五、燕居)

財貨 ——を用ふる道難し(正下九九六、多波三二)

三二)

釵子 「カミ」髪飾「カム」簪ヲ見ヨ

先便 (續上一八二、錦所)

宰相 (正上八〇五、昆陽一九)

——大夫(續下一ノ二四一、年々)

中書尙門下を——といふ(正下三八四、訓淺二一)

淺二一)

歲實 (正下三五二、續昆九九)

才智 ——の辨(續下一ノ一七三、閑次)

佛說智慧才(續下一ノ一七三、閑次)

才女 三——詩歌(續下一ノ三五二、燕居)

賽河原 (續下一ノ三三五、燕居)

采配 慶(續中八九一、後松)

幸木 といふもの(續中五一二、骨董)

采拂 (正上四九、北邊三三)

采覽異言 ——跋文(正上一一五六、春波六四)

四)

催馬樂 (續上九七〇、河社)(正上一〇〇、北邊一二〇)(正上一七一、獨語二九三二)

——の名目(續下一ノ七七、閑耕)

——の中歌曲にとるべきもの(續下一ノ九〇、閑耕)

——に葛城の歌(續上六五〇、れさめ)

——の樂曲にあふもの多し(續下一ノ七七、閑耕)

閑耕)

——のはやし(續下一ノ二二四、年々)

崖微 (正下四四三、畫譚四八)

祭禮 夜祭歌舞の禁制(續下一ノ一四八、閑耕)

殺禮 (續下二ノ五〇九、梅筆)

●サウ

さうじみ といふ詞(續上八八一、松落)

相 の字(續下一ノ八三八、難江)

相印 (續下一ノ八三八、難江)

相笏 (續下一ノ八三八、難江)

相手板 (續下一ノ八三八、難江)

相府蓮 (續下一ノ六八一、難江)

相觀 (續中六七二、後松)(正下八六〇、花月四七)

——論(正下八六三、花月五三)

觀相觀人相(續下一ノ三二二、燕居)

釵難の相(正下八四九、花月二九)

象 (正下四二〇、畫譚一〇〇)

——臺覽——於内院事(正下九一八、閑窓六)

——廣南國貢——事(正下九一八、閑窓五)

象嵌 ——の字(正上一五六、南留五六)(正上七〇九、桂林四九)

象牙 ——の櫛(續中一一二二、歷世)

箏 (正上一一五、獨語二五)(續下一ノ四七三、筠庭)

子守歌 (正下八八、遊京八)

古文書 郡山藩中の——(續中六七三、後松)

松)

佛像腹籠の——(正下六三五、兎小九ノ一

八三)

●コヤ

午夜 (正上八一六、昆陽四二)

●コヨ

曆 古——(正下三三九、續昆七九)

三島——(續下二ノ五一、梅筆)

元文五年——のはし書(正下四八〇、兎小八

ノ五二)

の上段を中段といふ(續下一ノ二〇六、

閑耕)

本朝——法沿革(續上四九三、昔梧)

夜間——を見る事を忌む(續下一ノ二〇六、

閑次)

●コラ

孤老 (續上三五一、梅日)

●コリ

行李 「カウ」行李ヲ見ヨ

伍兩 (續下一ノ三五九、燕居)

戸令 ——應分條考(續上五五六、織錦)

——處分之法(續中八四二、後松)

五離日 (續上三〇二、梅日)

五倫 といへるもの(正下一〇二七、多波八

五)

●コレ

惟喬親王 (續上九一三、河社)

——のおはしませし地(續下一ノ二一、閑

耕)

惟仁親王 (續上九一四、河社)

是則集 (續上九三九、河社)

●コロ

ころもくび (正上七五〇、圓珠一六)

語路 (正上九三五、假世二〇)

庫路貞 (正上八五七、昆陽二二〇)

五六のはら 源氏物語に見えたる——(正

上二二八、南留六)

五郎太夫 陶土——(正上九三七、假世二

五)

小六の宮 (續下二ノ二三〇、柳筆)

小六節 (續下二ノ二三〇、柳筆)

衣手 (正上七四四、圓珠五)

●サ

さ の辨(續下一ノ七四二、雞江)

●サイ

さいさぶ ——の解(續上九七一、河社)

戈 の字(正上六四九、善庵二三)

災異 我國の——と祥瑞(正下九八二、多波一

〇)

西院 ——の略語(續下一ノ八、閑耕)

西行法師 ——佛道を知らず(正上一一五

五、春波六三)

西寺 ——古印(正上七〇一、桂林三二)

西淨 (正下二五三、家屋六五)

左右 ——を「まて」とよむ(續下二ノ五一二、

梅筆)



狛犬 (續下一ノ四六七、筠庭)(續上七七四、

松落)(續上四〇〇、醋中)

狛高房 (正下九七三、大海一五)

小町踊 「オト」踊ヲ見ヨ

小松天皇 —の御舉止(續下一ノ一三六、

閑次)

小松百龜 (正上九二七、假世一〇)

●コム

後水尾天皇 —被任往事分官事(正下九

一九、閑窓七)

●コム

婚姻 (正上一二八〇、春波一〇五)

—の和歌(續上一五、年山)

童女婚嫁(續中八四八、後松)

—無禮並制服(續中八一二、後松)

婚嫁(續中六五七、後松)

居父母喪嫁娶事(續中六九五、後松)

異母兄弟の—(續下一ノ二四七、年々)

—の費を減節すべき事(正下一〇九九、

梧拾五六)

婚禮 新婦綿帽子(續上二三七、梅日)

—用向附産(續中八一五、後松)

—の時の被(續下二ノ五二一、梅筆)

姫君後達無用意(續中八五四、後松)

—に蛤を用ゐる簾を用ゐず(正上九九八、

鋸屑二四)

—簪取に横目扇を忌む(續下二ノ五三二、

梅筆)

金剛樹 (續上六五〇、れざめ)

金剛談 (正下九〇九、金剛一)

金神 (正上一〇八四、茅窓一二六)

金毘羅 —の靈驗(續下一ノ一九三、閑

次)

虛無僧 (續上三九九、醋中)(續下一ノ五

三、閑耕)

—の沿革(續下一ノ五〇三、筠庭)

—定法(正下五一五、兎小八ノ一一三)

ほろく(續下一ノ五八七、難江)

献立 食櫛(正下三〇一、續毘九)

渾天 —の説(正上一七四、茶筆五)

近藤登之助 の暴慢(正下一〇八一、梧拾

二六)

魂魄 (續下一ノ七七六、難江)

昆陽漫錄 の序(正上七八八、昆陽一)

紺屋の白袴 といふ諺(續中四六三、骨董)

(續上六五四、れざめ)

●コメ

米 (正下三一八、續毘三七)

—糯(正上一一八〇、春波一〇六)

—奇(正下三三二、續毘六三)

—穀は國の基(正下一五八、世事七)

—を染る事(續下二ノ五二六、梅筆)

—に譬て五倫の道を喻す(正下四八、梅叢

七七)

松前大福(正下五九四、兎小九ノ一一二)

供大人一考(正下六五〇、兎小九ノ二二〇)

「ヘイ」米價ヲモ見ヨ

●コモ

こもる の漢字(正上一四四、南留三六)

子持聖 (正上三七、北邊一一)

箸折り鏡の兄弟(續下二ノ九一、柳記)

鵜の目鷹の目(正下一一九、世事六)

牛は牛連れ(正上一一七六、春波九九)

咽元過れば燧忘る(正上一一九、春波二)

瓜の蔓に茄子はなし(續下一ノ三八〇、燕居)

居)

●コニ

小西行長 — 龍虎の印(正上七〇二、桂林三四)

林三四)

●コノ

近衛家 — 御小櫃(正下九七四、大海一七)

— 第庭の事(正下九二五、閑窓一七)

近衛家熙 — (正下九一九、閑窓七)

近衛信尋 — 三宅亡羊に給はりし歌(正下九六七、大海五)

下九六七、大海五)

木花 — は梅に非ず(正上一〇六二、茅窓八七)

八七)

●コハ

後花園天皇 — な後小松院第二の皇子とする事(續中六〇九、後松)

する事(續中六〇九、後松)

小法師 (續下二ノ一二一、柳記)

小早川隆景 (正上一九四、茶筆三八)

●コヒ

鯉 (續上二一七、庖丁)

老(正下八八七、花月九二)

戀 逢ふものみと云ふものかは(續下一ノ二二一、年々)

二二一、年々)

小檜垣 (正下二六一、家屋八二)

小日向 (地名)の名の起り(續上一八九、南向)

南向)

五華和尚 (正上六九四、桂林一六)

●コフ

鵠 (續上二二〇、庖丁)

五風十雨 (續下一ノ三七〇、燕居)

國府臺 (正上三九〇、傍廂一五〇)

古文孝經 「カウ」孝經ヲ見ヨ

●コホ

こぼし塚 といふ地名(續下一ノ二二〇、閑耕)

耕)

五木 (續上三一二、梅日)

氷 (續上二一五、庖丁)(正上七四五、圓珠七)

七)

臥し得魚(續下一ノ四〇六、燕居)

氷献上 (續下一ノ七八七、難江)

小堀政一 遠州具足注文の消息(續中八四九、後松)

九、後松)

郡山藩 — の古文書(續中六七三、後松)

蟋蟀 (正上三七五、傍廂一二七)

●コマ

高麗 もろこし(續上八三九、松落)

獨樂 (續下一ノ四〇一、燕居)(續下一ノ九四)

四)

ままつふり(續上五三五、織錦)

駒 「ウマ」馬ヲ見ヨ

駒形 の鯉(續下二ノ一四、足薪)

— の蟹(續中四八一、骨董)

駒木根正次 (續下一ノ一一九、閑次)

駒込富士 — 來歴(正下五一九、兎小八ノ一二二)

ノ一二二)

駒場野 — の詞(續中八五四、後松)

牛頭天王 (正上一五一、南留四八)

●コテ

基手の錢 (續下二ノ一四三、柳記)

小照明神 (續上六四五、れざめ)

●コト

こと といふ語(正上一五九、南留六一)

ことなし草 (シノ忍草ヲ見ヨ)

事 といふ字(正上八五五、昆陽一一五)

事始 正月——(正上三三三、傍廂五五)

粹 の字(正上一四六、南留三八)

琴 (續上七六五、松落)

一徽(續下二ノ四七六、筠庭)

和一(正上七五〇、圓珠一六)

仁智(續上三二八、梅日)

阮簾(續下一ノ四七八、筠庭)

一手法(正上一三七、南留二二)

琴曲 ——の變格(正上一二〇二、蜘蛛一九)

後藤基次 (正上一九七、茶筆四二)

後鳥羽天皇 ——の御製(續上一八、年山)

(正上一〇〇〇、鋸屑二七)

子種石 (續上三〇九、梅日)

子とろく——といふ遊(續中五六四、骨董)

「イウ」遊戯ヲモ見ヨ

言葉 ——どがめ(正下八三五、花月五)

——の遠近(正上一一九、北邊一五二)

——の延約(正上七八、北邊八二)

——の緩急(正上七七、北邊八〇)

——の死活(正上一〇五、北邊一二九)

古き——田舎に遺る(正上一二八、南留七)

時代の——(續上一〇一五、河社)

——の斟酌(正上八六、北邊九五)

壽 (正上一五九、南留六一)

古き——(續上六六二、れざめ)

大佛を云し——(續上二ノ一〇四、柳記)

畫餅(續下二ノ三二〇、燕居)

茶にする(續下二の四七〇、柳隨)

膝とも談合(續下一ノ三四七、燕居)

針の薙に座す(續下一ノ三四六、燕居)

兒啼を止むる——(正下一五六、世事六八)

唐人は浴せず(正下一七二、世事九六)

重荷に小附(續下一ノ二六二、年々)

あがり鮓(續下二ノ一三六、柳記)

お乳母に日傘(續中五三〇、骨董)

大欲は無欲に似たり(正上一二二九、春波

一九)

歌人は居なからにして名所を知る(正下一

一八、世事三)

天窓隠して尻隠さず(續下一ノ三一五、燕

居)

朝觀音に夕藥師(續上四八一、蒼梧)(續下

二ノ一三七、柳記)

光陰矢の如し(正下一一九、世事五)

帯に短し褌に長し(正上一二四、北邊一六

〇)

滿れば欠くる(正上一二八〇、春波一〇五)

身を捨てこそ浮む瀬もあり(正下八一、雲

萍九七)

藪に香の物(正下六二八、兎小九ノ一七二)

杵に絃(續下二ノ一九四、柳筆)

顔色土の如し(正上三四八、傍廂八一)



——經緯(正上三六、北邊九)

——圖は悉雲に基く(續下二ノ六七八、雖

江)

五常樂 (正上一四九、南留四五)

兒島高德 —— 姓氏(正上二〇三、茶筆五

三)

後白河天皇 —— の大原御幸(續下一ノ一

二九、閑次)

●コス

湖水 —— の冷氣(續下一ノ二二、閑耕)

吳須手 (正上七〇七、桂林四五)

●コセ

御前 (正上一四八、南留四二)

尼 —— わ —— 等いふ名(續中九〇一、後

松)

—— と稱する名(正上一二二九、春波二〇)

御成敗式目 —— の第一、二條(正上一五〇、

南留五〇)

五星 (正下三〇一、續昆一〇)

五節 —— の事(續上四五二、蒼梧)

—— の始(續上一三二、年山)

五節句 —— 「セツ」節句ヲ見ヨ

後世 —— に縁あると無きと(續下一ノ三七、

閑耕)

—— の事は布施して購得べし(正下七六四、

雲萍一八)

—— を願ふに心得違多き事(正下七、梅叢

八)

後撰集 —— の戀歌(正上一〇〇九、鋸屑

四二)

後撰集正義 (續中一一九、比古)

古錢 「クワ」貨幣ヲ見ヨ

●コソ

こそ (續上六六三、れざめ)

小袖 (續中八一七、松落)

—— 着用並袴敷(續下一ノ四一九、松竹)

羽林家及高倉家の練貫 —— (續下一ノ四二

〇、松竹)

鎌倉武士着染 —— (續中七二二、後松)

小紋 —— (續中八五八、後松)

紅梅 —— 着用(續下一ノ四二二、松竹)

大小の丸、えとの丸(續下二ノ一三五、柳

記)

●コタ

五代史 —— 唐書 —— 注(正上八四九、昆陽一

〇四)

悟道 (正下八五〇、花月三一)

眞の —— 人(正上一一五一、春波五六)

火燧 —— 地火爐(續中四八五、骨董)(續下二ノ

四七三、柳隨)

—— 並地爐火再考(續中五一三、骨董)

●コチ

五蓍 —— 六蓍(正上一二二三、傍廂二〇)

吳仲圭 (正下四二六、畫譚一九)

●コツ

鮎 —— をコツと云ふ(正上七七六、圓珠六三)

骨酒 (續下一ノ三八七、燕居)

骨董羹 「サウ」雜炊ヲ見ヨ

骨董舖 —— の字義(續下一ノ三五六、燕居)

乞食 「コシ」乞食ヲ見ヨ

九重 大内を——といふ(正上七五七、圓珠

二九)

古今 —の沿革を明らかにむべし(續下一ノ二五

三、年々)

心 —を用ふる事(正下八八三、花月八六)

—ゆるすは失ふの初(正下一二一八、心

双四)

心の双紙 —序(正下一一六、心双一)

心太 「トコ」心太チ見ヨ

心葉 (續上一四三、年山)(正上七五、北邊

七六)

小御門 (正下二六二、家屋八四)

●コサ

ござ笛 (正下一四四、世事四七)

ござんなれ といふ詞(正下一六八、世事

八八)

胡砂 (正上四五七、玄同上ノ三一)(續上一

八四、錦所)

五材 (正下三二〇、續昆四一)

五山 —の僧に賜りし公狀(續中六五五、

後松)

五左衛門井戸

二二)

の事(正上二六三、雨窓

御座候

さめ)

—文字の誤用(續上六四六、ね

乃

こざるへん及びのぼりざる(正上一四九、

後三條天皇

—藤家の權を奪ひ給ひし得

後三年役

の起り(正上一六五、春波)

小侍

(正下二七六、家屋二一〇)

●コン

輿

(續中七八四、後松)

輿舍

(正下二五一、家屋六二)

輿寄

(正下二三六、家屋三三)

居士

(正上六四三、善庵一三)

誤字

—を容易に改む可らざる事(續下二

ノ五一、梅筆)

腰刀

「タウ」刀劔ヲ見ヨ

腰抱

「シユ」出產ヲ見ヨ

腰卷

女房(續中八一、後松)

五色

(續下二ノ五一、梅筆)

古事記

—中の誤(續下一ノ一五九、閑

次)

古書

—のたがひ(續上六四八、ねざめ)

—の注解及校正(續下一ノ一六一、閑次)

—の訓(正下一〇六一—一〇六五、消閑

五〇)

乞食

—の賢(正下五七一、兎小九ノ七一)

—の煙草(正上七二一、七二二、思草九、

一一)

—鍾馗に扮出す(正上一二〇六、蜘蛛二

六)

甌島

薩州(正上一七九、茶筆一三)

吳祥瑞

陶工(正上九三七、假世二五)

小侍從

(正上五一、北邊三六)

御所

(正下二七五、家屋一〇八)

御書所

「ウタ」歌所ヲ見ヨ

五十音

(續上三九五、醋中)

胡弓 (續下一ノ四八七、筠庭)

——古製(續中五〇三、骨董)

古今集 の訓(正下一〇六一、消閑四八)

——の序(正上一三三、南留一三)(續上六四二、れざめ)(續下一ノ二七七、年々)

(續下一ノ九二、閑耕)

——の序井人麿入唐(正下一〇四一、消閑一三)

白川雅喬——の御傳受を辭す(正下九七二、大海一四)

民部卿古今開見のよろこび(正下九七四、大海一七)

——筆跡(續中一二三〇、天朝)

貫之主のかゝれたる——(續上七五六、松落)

——としをへての歌(續下一ノ三二七、燕居)

古今集遠鏡 (續下一ノ二四四、年々)

古錦囊 (續下一ノ二五九、閑次)

●コケ

石 (正上八二〇、昆陽五〇)

石高 (續上三七五、燕居)

國家 ——の經濟(正下八〇六、雲萍八九)

國歌八論 の話(正上四〇二、泊々五)

國郡 ——大小の差異(續上四三二、蒼梧)

古今——の違ひ少からざる事(續下一ノ二二四、閑耕)

國司 (正上一五三、南留五一)(正上一四三、南留三三)

——守護人の墓(正下二〇〇、墳墓四)

國字 ——返簡(正上八〇六、昆陽二二)

文をかくに——を以てす(正上一一七四、春波九五)

國史後抄 (續中一八三、比古)

國守 の仁心(正下八一、雲萍九八)

國體 (正下八九一、花月一〇〇)

國風 本邦の——(續下一ノ三、閑耕)

愚なる——(正上一一二七、春波一六)

唐山の——(續下一ノ三、閑耕)

國分寺 (正上三三六、傍廂五九)(續下一

ノ七四〇、難江)

——瓦(正上三九〇、傍廂一五四)

穀物 穀品(正下三一、續昆二六)

極樂 ——地獄の繪(正上三四九、傍廂八四)

五月 ——可畏(續下一ノ八一九、難江)

——に始めて遭ふ事を思む(正上七六二、圓珠四〇)

虎關禪師 大聖釋迦佛の法孫師鍊(續下一ノ一七五、閑次)

こけ (正上七四五、圓珠八)

虎溪三笑 の圖(正下四二五、畫譚一八)

古言 (續上六六二、れざめ)

——簡約(正上六六、北邊六一)

語源 ——は強て詮索すまじき事(續下一ノ二四四、年々)

五絃琴 (正上八八五、昆陽一七一)

柿屋 (正下二五八、家屋七六)

●ココ

古々鳥 (續上九一四、河社)



廟神 (續上三九三、醋中)

勾玉 (正上七一、桂林五五)

公家 (續上八六九、松落)

公治長 — 並百鳥語 (正下九三三、閑窓)

三三)

貢獻 貢を進といふ事 (續上八八一、松落)

百五物 (續上一六六、錦所)

孔子 — 贊 (續下一ノ三八六、燕居)

孔門の高弟大夫の家に仕へざる理由 (正下

一〇一六、多波六六)

孔丘といふ事 (續上六三四、ねさめ)

の湯武をあしといはれさりし事の理

(續上八〇二、松落)

孔子家語 — の注 (正上一九八、茶筆四)

五)

— の序 (正上七九五、昆陽一)

孔明 — 甲冑せる圖 (正下四三三、書譚三)

二)

武侯彈琴退仲達 (續上六二一、ねさめ)

後拾遺集 — の序 (續上六四、年山)

洪水 — の歌 (續中一三一八、

佐倉の浮田 (正下五四六、兎小九ノ二七)

小唄 (正下一五〇、世事五八)

— の字數 (續下二ノ一二三、柳記)

さすやうでさゝぬの — (續下二ノ一二一、

柳記)

岡崎節 (續下二ノ一九六、柳筆)

弘法大師 — の詩 (正下一〇三六、消閑五)

— の筆力 (正上七三、北邊七三)

— 五色の光明を放つ (正上一八、春

波一〇七)

興福寺 — 享保火災 (正下九四一、消閑

四五)

●コエ

聲 — に起腹尾あり (正上八四一、昆陽九二)

肥 — の字 (正上八〇九、昆陽二六)

小右衛門火 (正下六一六、兎小九ノ一五

一)

●コオ

五音 — 相通 (正下一〇一九、多波七二)

吳音 — といへる名 (正下一〇二二、多波七七)

— と漢音 (正下一〇二二、多波七六)

●コカ

小督局 (正上一八四、茶筆二二)

古學 — の事 (續中六三八、後松)

五岳 (正上一八四、茶筆二二)

五箇山 (續下一ノ三〇、閑耕)

後柏原天皇 — の御製 (續上七九、年山)

後龜山天皇 — の御製 (續上五八、年山)

小がね草 — 石川雅望の — (正下二二〇、

小金一一九)

小壁 (正下二二二、家屋二二)

古潤和尚 (續中一〇九〇、近世)

木枯 — の義 (正上七七三、圓珠五八)

●コキ

五行 (續上八四六、松落)

— 家の説害多しと云ふ論 (正下三四、梅

叢五四)

故郷 — より文 (正上九七八、關秋二二)

胡鬼板 — 胡鬼子 (續中五八二、骨董)

——祭神祇於春日山事(續上一八五、錦所)

阮仲容

——曝曬鼻輝圖(正下四三二、畫

譚二九)

儉德

——と伊勢大廟(正下一一〇五、梧拾

六五)

儉約

(續上一二三、年山)

——を薦むる書(續中一三二〇、遊藝)

——は上より行はざる可らず(正下九九四、

多波三〇)

慳貪

——蕎麥、飯、野良、傾

城等(續上七、五、還魂)(正上六六七、

善庵五二)

權の北の方

(續上五八、年山)

權衡

(續下一ノ七二〇、難江)

憲法

(續下二ノ二五三、柳隨)

犬皮

「マツ」松風ヲ見ヨ

研皮

「マツ」松風ヲ見ヨ

顯微鏡

(正下八六六、花月五六)

健舞

(續下一ノ三九〇、燕居)

懸黎

——、莫難共に玉の名(續下一ノ三三

三、燕居)

建禮門院

——の御果小督の局の如し(續

下一ノ一三〇、閑次)

鈴錄

(正下八五〇、花月)(正上九四四、假世

三八)

藤鹿

(正上八六三、昆陽一三〇)

●ケモ

顯文

(續中六三四、後松)

●ケラ

下膳

(續下一ノ七八五、難江)

●ケロ

けろりかん

の字(續下一ノ三一、燕居)

●コ

子

——を愛(正下八五七、花月四二)

——多きを欲せざる國々(正上一一八二、春

波一〇九)

——を思ふ闇(續上六三、年山)

基

「イコ」園基ヲ見ヨ

籠

農具に——といふもの(正上九八五、鋸屑

三)

御

——とは女の稱(正上一三四、南留一八)(續

下一ノ五六五、難江)

後

大臣稱號の——の字(續上二三一、梅日)

●コア

古近江

三絃師——(正上九二八、假世八)

●コイ

五位

——朝臣(續上一六五、錦所)

——以上(續上八六九、松落)

——袍色(續中七八〇、後松)

五位石

(正上九二〇、輜軒三七)

鴛鴦

(正上九八七、鋸屑七)

小石川

(續上一九四、南向)

小板葺

(正下二五八、家屋七六)

●コウ

こうござい

筑紫の——といふ魚(正上一

六四、南留六九)

鵠

鵠を「こう」といふ(正上一四五、南留三

七)

—の草稿(續下一ノ三八〇、燕居)

—の秘事(正下一〇五九、消閑四五)

—の深意(正下八八九、花月八一)

—の評(正下八八九、花月九六)(續上六

二一、ねさめ)

—は歌學の棟梁(正下一〇五八、消閑四

五)

—もくろく長歌(續上七〇、年山)

—若紫の巻のうちの事(續上六五一、ね

さめ)

—蓬生の巻のうちの事(續上六二三、六

三九、六六〇、ねさめ)

—夕霧の巻のうちの事(續上六六二、ね

さめ)

—夕顔の巻のうちの事(續上六二四、六

三〇、六三五、ねさめ)

—紅葉の賀巻のうちの事(續上六二九、

ねさめ)

—みをつくしの巻のうちの事(續上六六一、

ねさめ)

—松風の巻のうちの事(續上六五五、ね

さめ)

—椿木の巻のうちの事(續上六三七、ね

さめ)

—朝顔の巻のうちの事(續上六五四、ね

さめ)

—の春鹿(正上九四八、假世四三)

—末摘花の巻のうちの事(續上六三五、

六五四、ねさめ)

—推本の巻のうちの事(續上六六三、ね

さめ)

—桐壺の巻のうちの事(續上六四一、六

五一、ねさめ)

—かゝり火の巻のうちの事(續上六六〇、

ねさめ)

—繪合の巻のうちの事(續上六二三、ね

さめ)

—あふひの巻のうちの事(續上六五三、

ねさめ)

—あつま屋の巻のうちの事(續上六六二、

ねさめ)

—薄雲の巻のうちの事(續上六五六、ね

さめ)

—薄雲の巻の中の考(續下一ノ五七六、

難江)

—浮舟の巻なるまさらはしき人々(續下

一ノ七〇六、難江)

源平盛衰記

(正上二二六、茶筆九一)

参考——(續中三五七、比古)

献上物

總町代正月の——(正上一一六四、

春波七九)

檢首

(續中九七八、後松)

檢地

(正上一〇二八、茅窓二九)

硯水

(續上二七一、梅日)(續下一ノ九五、

閑耕)

見臺

(正上一四二、南留三一)

見當

「メン」免官ヲ見ヨ

嶮道

(正上八六五、昆陽一三四)

遣唐使

——なきにしかじ(正下九八〇、

多波七)



「を」とし色に加ふ（正下一〇一五、多波

六五）

賢女（正下四六五、兎小八ノ二七）

賢女傳——作者の皮表（正上三六六、傍

廂一二二）

賢女物語——井山ある染（正上二八六、雨窓

六一）

賢愚——智者の言（正下九七七、多波一）

財を貯ふ人の愚（正下九九五、多波三一）

愚を装ふて智者を欺く（正下九九〇、多波

二二）

謙——守れとの説（正下三九、梅叢六二）

元可法印——南方退治の時談會の事（正上三

五一、傍廂八五）

元寇——元人攻小茂田浦（正上八三六、昆陽八

二）

元享釋書——の無稽、續下一ノ一五三、閑次）

元從（續上三八〇、酣中）

元真集（續上九五六、河社）

元白——が詩筆（續上五四〇、織錦）

元服——天皇の年齒（續中八一七、後松）

殿上——（續中六六三、後松）

冠禮の衣服（續中八一六、後松）

——已前叙位（續中六六一、一〇〇〇、後

松）

社人幼年にて——（續下二ノ五三三、梅筆）

言語——昔人の——（續上八七九、松落）

——を慎むべき事（正下七五一、雲萍一）

國土風氣の差音聲の相違（正下一〇二三、

多波七九）

御國言（正上三四、北邊六）

言行——人に衣服より——にあり（正下九九

〇、多波二四）

語は善して行は惡き事多し（正下三六八、

我宿一四）

兼好法師——の詞（續下一ノ三五五、燕居）

——の落書（正下八六、遊京四）

喧嘩——兩成敗（正下九九七、多波三六）

縣官——有二（續下一ノ三四三、燕居）

玄關（正下二八八、家屋一三七）

玄國寺——龍池山——（續上二〇〇、南向）

玄様——廓にて僧の事を——といふ（續下二ノ

一一七、柳記）

玄同放言——引用書目（正上四三四、玄同上

六）

——を編める崖略並小引（正上四三〇、玄

同上）

——補遺正偽（正上六二三、玄同下二三四）

玄翁——の名（正上一六三、南留六九）

玄寶——僧——（正上一一五六、春波六五）

源氏——（正上五三五、玄同下八七）

——の氏神（續上一五六、錦所）

源氏物語——（續上九二五、河社）（正下一六

六、世事八六）

——論、並私撰勅撰令之辨（續中六三七、

後松）

——引歌（續上六六四、ねさめ）

——を解す事（續中六〇五、後松）

——作者以下の論（續中六〇四、後松）

——新釋（續下一ノ七二六、難江）

董

駒の爪、駒——(續下二ノ一七九、柳筆)

ひらかけ(續下二ノ九一、柳記)

塗木履、桐——、塗——、柳——、(續下二ノ一八〇、柳筆)

竹——、露路——(續下二ノ一八一、柳筆)

外題 書名の書き様(續中六三二、後松)

下段之間 (正下二八五、家屋一三二)

獸 の字義(正上七七九、圓珠六九)

●ケチ

けちぎり 「イウ」遊女ヲ見ヨ

蜘蛛 に舐めらるゝと髪落つ(正下二一八、世事四)

●ケツ

結夏 (續下一ノ二二二、年々)

月琴 (續下一ノ四七八、筠庭)

月桂 考(正下二〇七六、茅窓一二二)

月中桂子(續下一ノ三三八、燕居)

月經 月水の様(續下一ノ二〇六、年々)

月事 寄稱多し(續下一ノ三五五、燕居)

月蝕 ——の說(正下三二九、續昆五九)

文化天明兩年の——(正上一七二、茶筆一)

月僊 (續中一〇八八、近世)

血氣 の說(正上二二八、茶筆七八)

血脉類衆集記 (正上八一六、昆陽四二)

闕字 文かく時——する事(正下九八二、多波九)

闕欠 (續上四一一、醋中)

闕巡 (續上一六八、錦所)

闕所 ——、闕國(正上一五三、南留五一)

潔癖 米芾潔病(續下一ノ三六一、燕居)

削り花 (續中四二四、比古)

●ケニ

けに ——、げに(續下一ノ六九三、難江)

●ケハ

下馬 のくづれ(續上七四一、下馬)

所のかまへ(續上七三七、下馬)

●ケヒ

撿非違使 ——の轍をかくる事(正上一六二、南留六七)

氣比明神 (正上七三八、細道二六)

●ケフ

夾竿 (續中八二四、後松)(續上八七五、松落)(續下ノ一四二、閑次)

夾竹桃 といふ木の名(正上八三一、昆陽七二)

脇息 (續下一ノ六七二、難江)

煙 ——くらへ(正上七二一、思草九)

●ケマ

蹴鞠 「シウ」蹴鞠ヲ見ヨ

●ケミ

假名 (正上一六一、南留六五)

の文字(正上一四二、南留三二)

●ケム

けんすい 問食を——といふ(續下一ノ九五、閑耕)

●ケム

劍 (續下一ノ五七四、難江)

相、家相(正下九四一、閑窓四七)

「タウ」刀劍ヲモ見ヨ

賢 ——をもとむ(續上一二八、年山)

慶徳庵　の辭世（續上一六、年山）

驚燕　（正下四四〇、畫譚四四）

拂燕の字義（續下一〇三五〇、燕居）

文鎮　「ケフ」夾竿ヲ見ヨ

家司　（續中八三一、後松）

繼嗣　（續中九八一、後松）

繼體紀錯亂　（續上九〇八、河社）

桂漿　「シツ」漆器ヲ見ヨ

經藉著錄　（續上四〇九、醋中）

經典　皇朝の——（續中一〇一六、後松）

契冲　行實（續上一四八、年山）

が鹿の歌（正上九二八、假世九）

の歌（正上一〇〇八、鋸屑四一）

がはたちの解説（續下一〇二六二、年々）

々

系圖　古の——（正上一四〇、南留二七）

刑罰　差別（續下一〇三一〇、燕居）

水獄（正上六四九、善庵二二）

火あぶり（正上一六一、南留六六）

笞杖（正上一二六、南留四）

支那の笞刑（正上八二六、昆陽）

桂林漫錄　の序（正上六八五、桂林一）

●ケウ

橋褐　（續上三九八、醋中）

曉山　畫工——（正下八二四、雲萍一一八）

奢侈　（正上一一九、春波一）

江戸の——（正下一一〇五、梧拾六五）

禁——（正上七九七、昆陽五）

過奢御告の申渡書（續中一三一八、遊藝）

慎むべきは——なり（正下三七二、我宿二）

一

生涯の——を極めし事（續中六九一、後松）

美服珍膳世の弊を矯むる説（正下四七、梅叢

七六）

●ケカ

下向　（續上八八一、松落）

下澣　（續下一〇六五二、雞江）

●ケキ

外記　——三度申（續上一七九、錦所）

法申（續上一八〇、錦所）

蠲紙　（正上八〇九、昆陽二六）

鷄首　（正下二四七、家屋五二）

劇場　「カフ」歌舞伎ヲ見ヨ

●ケケ

けゝれ木　（正上三三七、傍廂六二）

けゝれなき　心無きを——といふ（正上

三三、南留一六）

●ケコ

下戸　（續上八八四、松落）

●ケサ

袈裟　はす糸——（續下二〇三四七、柳隨）

華藏院　「トウ」豆腐ヲ見ヨ

懸相文　除夜に賣る——（續下一〇九五、

閑耕）

下座見　（續上七三七、下馬）

●ケシ

下手人　（正上一六二、南留二）

化粧　男子の——（正下一二七、世事一九）

●ケタ

下駄　ころばすといふ——（續中四七〇、骨



六位以下の——(正上一五三、南留五一)

幼少叙位(續中六六一、後松)

小兒叙位(續中九八四、後松)

官吏 實官(續下一ノ二二九、年々)

科擧の法は我國に適せず(正下一〇〇七、

多波五一)

我國の役は唐土の官なり(正下一〇一七、

多波六八)

和漢古今の高官(正下一〇〇一、多波四二)

官當免官(續下一ノ八一三、難江)(續中六

一〇、後松)

官林備覽 といふ書(正下三一六、續昆三

五)

關羽 の像(正下四三四、畫譚三二)

——の評(正上三八七、傍廂一四九)

關本 (正下二六五、家屋九一)

關防 (正上八二八、昆陽六六)

卷纓 凶事——(續中八五六、後松)(續上一

七八、錦所)

勸學院 の雀(續上二九〇、梅日)

勸化 (正上八六二、昆陽一二八)

勸修寺經廣 の輿直(正下九六九、大海八)

管絃 二條(續中九四四、後松)

觀相 「サウ」相ヲ見ヨ

觀世音 靈教水厄金像——(正下五九二、

兎小九ノ一〇八)

身代——(正下五一〇、兎小八ノ一〇三)全

補遺(正下五六九、兎小九ノ六六)

朝觀音に夕藥師と云ふ謬(續下二ノ一三七、

柳記)

夕顔——(續下二ノ一二二、柳記)

土中出現の——(正下五五九、兎小九ノ四

八)

順禮三十三所の——(續下一ノ一三八、閑次)

筑紫觀音寺(續下一ノ一八、閑耕)

冠幘之痕 (正下一二三、北邊一四二)

冠辭考 ——中の非(續下一ノ二六七、年

々)

——の板下(正上四〇八、泊々一五)

灌佛 (續上六六四、ねさめ)

歡樂 やまびな——といふ(續下一ノ二二七、

年々)

●ケ

け 木を——といふ(正上七七六、圓珠六九)

●ケイ

敬 (續中六三六、後松)

細書爲——(續上二二二、梅日)

——の字の意義(正下一〇一四、多波六三)

敬空 (正下三五六、續昆一〇六)

藝 奇獸異鳥の——(續下一ノ五九、閑耕)

藝鳥 (續下二ノ一五三、柳筆)

藝妓 町藝者の風俗(正上一二二七、蜘蛛四

五)

慶安 口入屋を——といふ(正下一六一、世

事七七)

口入屋を——といふの起(續下一ノ五四四、

筠庭)

慶滋 (續下二ノ五三五、梅筆)

明末の——と江戸の——（正下一〇九六、

梧拾五〇）

安元三年の——（續上四二、年山）

失火連座の法（正下一〇九七、梧拾五三）

高松邸中殿の——（正下四九八、兎小八、

八二）

——の歎（續下一ノ三二六、燕居）

——の時の心得（正上一八三、茶筆一九）

火事といふ者（正上一三一、春波二三）

行人坂の——（正上一二〇六、蜘蛛二五）

火車 題題（正上一〇八六、茅窓一二九）

火春 （續下一ノ四〇〇、燕居）

科擧 「クワ」官吏ヲ見ヨ

郭巨 か釜（正下一六五、世事八五）

菓子 の變格（正上一二〇一、蜘蛛一七）

——南新右衛門が事（正上九六二、假世六

八）

松風を犬皮、研皮といふ（正上六六四、善

座四八）

手筈の蓋に——を盛る（續下二ノ五二〇、

梅筆）

ちやら糖（續下二ノ一一九、柳記）

過失 過を飾る説（正上一九二、茶筆三四）

過所 （正上一三一、南留二二）

化石 （正上一一八〇、春波一〇五）

果然 「サル」猿猴ヲ見ヨ

貨狄 （續下一ノ七八五、雞江）

貨幣 三貨由來（正上一〇八七、茅窓一三一）

貨は國の本、財は國の命（正下九九四、多

波三〇）

花降銀（正上八二二、昆陽五二）

寛字銀（正上八四五、昆陽九八）

寛永通寶以前の錢（正上一六二、南留六七）

大佛錢（續下一ノ一六〇、閑次）

され小判（續上六二七、れさめ）

錢（續上八七六、松落）（正上一四〇、南留二

七）

錢若干字（續上二九一、梅日）

錢有聲（續上三五三、梅日）

錢半邊（正下三三五、續昆七一）

赤錢（正上八五九、昆陽一二二）

青錢（正上八八〇、昆陽一六二）

切錢（正上八四六、昆陽九九）

京錢（正上八五二、昆陽一一二）

鑄錢（正下三一五、續昆三三）

毀銅佛爲——（正上八六六、昆陽一三五）（正

下三〇一、續昆一〇）（續下一ノ三八八、

燕居）

阿闍陀銀（正上八三六、昆陽八二）

阿闍陀銀錢（正下三五二、續昆九八）

寶貨沿革（續下一ノ七〇〇、雞江）

露銀（正上八三九、昆陽八六）

こしなれ小判（續上六二七、れさめ）

乾坤通寶（正上八〇二、昆陽一五）

五等錢（正上八〇四、昆陽一八）

禍福 （正下八八六、花月九一）

——は命なり（正下五、梅叢四）

人の禍は禍の神の所爲（續上六四〇、れさ

め）

官位 私の——（正上三三〇、傍廂五〇）

西畫の三面附銅版畫(續中一〇七六、西畫)  
和漢の畫法は眞を描く能はず(續中一〇七

七、西畫)

虎畫の風情(續上四四一、蒼梧)

町畫風(正下四三六、畫譚三六)

洋畫(正上一一六〇、春波七二)

左轉畫家(正下四三九、畫譚四二)

御畫(續中一二七〇、天朝)

文人畫(正下四一五、畫譚二)

韓人の畫(正下四三〇、畫譚二六)

界畫(正下四三六、畫譚三七)

加賀の染畫(正下四四二、畫譚四七)

阿蘭陀畫(正下四四二、畫譚四七)(續中一

〇七五、西畫)

古畫(續下二ノ二五九、柳隨)

竺畫(正下四四二、畫譚四七)

醉僧圖の始(正下四二二、畫譚一五)

倭畫師(正上六九二、桂林一〇)

祝壽圖(正下四二三、畫譚一五)

會議の弊(正下九八二、多波一〇)

會所 (正下二五〇、家屋六一)

廻勤 (續上七四一、下馬)

壞座 (續下一ノ三四五、燕居)

懷紙 經文題和歌 (續下二ノ五二九、梅

筆)

古代の (續下一ノ一三九、閑次)

詩歌の (續上六、年山)

童形の (續上六六、年山)

尼の和歌 (續下二ノ五一九、梅筆)

佐理の (續下一ノ一四〇、閑次)

和歌の書法(正下一〇三九、消閑一〇)

懷妊 の帶(續下一ノ六二二、難江)

日を吞むと夢みて (正下一二五、世事

一六)

懷風藻 評(續下一ノ一三二、閑次)

外腎 (正下三〇五、續見一六)

傀儡 (正上三八五、傍廂一四五)

皇 一、王(正上一三九、南留二五)

―及帝の字の訓(正上一三五、南留一九)

皇位 御位爭(正上三四六、傍廂七七)

皇胤紹運錄 本名由來考(續中三五〇、比

古)

皇后 秋ノ宮(正上七五七、圓珠三〇)(正上

一〇〇〇、鋸屑二七)

皇太子 玉珮(續中九八〇、後松)

皇統 授受(續上五一六、蒼梧)

光陰矢の如し といふ諺(正下一一九、

世事五)

光明皇后 の施浴(續下一ノ一二七、閑次)

廣隆寺 の像設(正下一〇九三、梧拾四五)

黃河 (續上六七、年山)

黃道 (正上八六〇、昆陽一二五)

鑛山 銀坑(正上九一二、轡軒二四)

火浣布 (正下四二〇、畫譚九)(正上三九

六、傍廂一六四)(正下三四八、續見九三)

火災 (正上一二〇八、蜘蛛二八)(續下一ノ

三六一、燕居)

丙午丁未の (正下一〇六八、梧拾五)(正

下六九二、兎小一〇ノ一)(續上五〇五、

蒼梧)



天降異物(正上一〇七六、茅窓一一二)

東園家題語(正下九三六、閑窓三七)

通リ惡覺(正下一九四、世事一三四)

石藥師の——(正下九三七、閑窓三九)

鼠の——(正下六三四、兎小九ノ一八一)

日野家の——(正下九三七、閑窓三九)

兩國河の——(正下五四九、兎小九ノ三二)

蓮葉虛空に翻る(正下六二七、兎小九ノ一七〇)

七〇)

黒氣(正上一七二、茶筆二)

地中聲を發す(正上一八五、茶筆二三)

天鼓の妖(正上一二〇七、蜘蛛三七)

化物を斬る(正上一一四〇、春波三七)

幡を幽靈と誤る(正上一一四〇、春波三八)

豆小豆の降りたる事(正上一七二、茶筆二)

繪畫 (正下八八〇、花月八二)(正下四四五、

書譚五〇)

——の濫觴(正下四一五、書譚一)

描畫法(正下四四二、書譚四六)

——のかき様(續下一ノ一六四、閑次)

畫圖の風韻寺塔の没入を免る(正下七六一、

雲萍一五)

畫帖コンスト、シキルド、ブーク(續中一〇

七六、西畫)

——に魂を入る、(正下八一四、雲萍一〇

二)

——は人物の勸戒あるを第一とす(正下四

三九、書譚四二)

一國寺の名畫(正下八一四、雲萍一〇二)

江戸奥州上方人の——の嗜好(正上一一四

五、春波四五)

古畫、行燈、桃燈圖(續中五八、骨董)

古畫を證とす(正下一六五、世事八四)

上古の名畫諸家(正下四二八、書譚二四)

專門畫家(正下四三九、書譚四一)

探幽の畫(續下一ノ一六三、閑次)

米元章日本畫を評す(正下四二九、書譚二

五)

唐以前の畫(正下四二九、書譚二四)

戴文進秋江漁父の圖(正下四三五、書譚三

五)

和漢の風俗畫(正下四三六、書譚三六)

和漢の畫像と西洋の畫像(續中一〇七七、

西畫)

和畫(正上六九二、桂林一〇)

探幽の富士山(正上一一四四、春波四四)

畫水(正下四二四、書譚一六)

畫馬、虎(正下四一八、書譚七)

畫梅(正下四一七、書譚五)

畫馬喫草(續下一ノ三二一、燕居)

花鳥畫(正下四一六、書譚二)

畫幅を藏する心得(正下四四〇、書譚四四)

冠服(正下四二〇、書譚一〇)

蠟絹畫(正下四四二、書譚四七)

俗畫(正上三七二、傍廂二二)

吹雲(續下一ノ三二〇、燕居)

西洋畫の用(續中一〇七五、西畫)

西畫を浮畫と思ふは非なり(續中一〇七六、

西畫)

西畫望視法(續中一〇七七、西畫)

位 の和訓(續下一ノ三二一、燕居)

位山 (續上一〇一九、河社)(續下一ノ五六

四、難江)

海月 (續上一一九、庖丁)

藏法師 (正上六〇四、玄同下一九八)

藏廻り (續下一ノ五三、閑耕)

藏人 の鶴退(續下一ノ四四〇、松竹)

庫門徒 庫法門(正下六四二、兎小九ノ一

九五)

●クリ

ぐりはま 附芋の山(續下一ノ一八一、柳

筆)

栗 の大樹(正上二二八、茶筆九四)

伐(正上八二一、昆陽五一)

厨 (正下二五二、家屋六三)

●クル

くるり (正上三九四、傍廂一六〇)

ぐるく 法師 (續下一ノ二九、足薪)

栗柄野 (續下一ノ一五、閑耕)

車 附、下簾、後戸(續下一ノ四四六、松竹)

主人乗の時(續下一ノ四四六、松竹)

制名目(正下三二五、續昆五一)

車副 裝束(續中六五九、六七七、九〇

九、後松)

車舎 (正下二五一、家屋六一)

車宿 事(續中六八一、後松)

車寄 (正下二三六、家屋三三)

板(續中八三〇、後松)

胡桃 (續上一〇三五、河社)

●クレ

樽 一の木考、付一の足下(續下二ノ九〇、

柳記)

●クロ

くろ坊 (續下二ノ三〇、足薪)

くろん坊 (正下一〇四五、消閑二〇)

鐵門 (正下二七九、家屋一一八)

黒髪山 (正下一〇五四、消閑三七)

黒田孝高 (續下一ノ八一七、難江)

黒船 (正上八三四、昆陽七七)

●クワ

くわら 「ネツ」榎付ヲ見ヨ

鈴 (續上三九一、醋中)

慈姑 鬼庇(正上八六七、昆陽一三九)

花押 判書(正上一二六、南留三)

「カキ」書判ヲモ見ヨ

花甲子 の義(續上二八六、梅日)

花甲重逢 (正下一二八、世事二〇)

花月 の遊(正下八九七、花月一一〇)

花月草紙 の序(正下八二八、花月二)

華夷 (正下九八一、多波八)

怪異 (正上二二三、茶筆六九)

怪鳥宮中に啼く(正下九二三、閑窓一四)

物化(正下一三七、世事三六)

物の怪の辨(正下二四、梅叢三八)

物怪の濡衣(正下六一四、兎小九ノ一四八)

見異鳥於山中(正下九三三、閑窓三三)

延暦寺竹林院有兒靈語(正下九三六、閑窓

三八)

猿來洛中(正下九三七、閑窓三九)

白髮畑の怪(正下一〇九、遊京下ノ四四)

勳位 (正上一五四、南留五三)

君子 の訓(正上一三五、南留一九)

武門有徳の——(正下一〇六八、梧拾四)

——は其罪を憎で其人を憎まず(續中一〇

四二、烹雞)

——は時とおしうつりて俗と交る(正下八

〇二、雲萍八二)

君主 の明(續上二七、年山)

名君の節儉(正上二九〇、雨窓六八)

君臣 賢臣を擧げらる(正上一二二〇、蜘蛛

三二)

聖主賢臣(正下一〇一六、多波六六)

無用の臣(續下一ノ三六一、燕居)

人君は天職(正上一一六一、春波七四)

名君夜話並仁心(正上二九四、雨窓七四)

名君臣下へ教諭(正上二五三、雨窓六)

群書治要 の流行(正下三五三、續昆一〇

一)

●クメ

久米仙人 吉野山賽仙(正上五五四、玄同

下一一六)

久米團二郎 の詩(正上九二五、假世四)

久米平内 ——石像(續下二ノ一一一、柳

記)

●クモ

くものはたて (正上七六九、圓珠五二)

雲 慶一、慧星(正下六二九、兎小九ノ一七

三)

——の聲(續上六〇、年山)

雲宇途郷 (正上一二三、北邊一六〇)

雲形 と字にて暮に書く事(正上八八、北邊

一〇〇)

雲形 (續中一三三八、いそ山)

雲の泉 「ウム」雲泉ヲ見ヨ

雲の海 「ウム」雲海ヲ見ヨ

蜘蛛 の大なる物(正上九八八、鋸屑九)

蠅取——(續下二ノ七一、足薪)

——を殺す勿れ(正上七七四、雲萍三四)

弄——語(正下九三三、閑窓三一)

蜘蛛の網 (續上五四三、織錦)

蜘蛛の糸卷 の序(正上一一八八、蜘蛛一)

蜘蛛手 (續下一ノ六七、閑耕)(續中三四

〇、比古)

供物 百種の——(續下二ノ五二四、梅筆)

公文司匠 (續下一ノ六七、雞江)

公文所 (正下二七七、家屋一一二)

●クユ

くゆる 悔を——といふは音なる事(正上

一五〇、南留四六)

●クラ

鞍 ——五種(續中七六六、後松)

移——(續中七九六、後松)

——の紋(續下一ノ四一四、松竹)

——の辻總(續下一ノ四一五、松竹)

——具(續中七八五、後松)

——具管具(續中九一七、後松)

——覆(續中六一七、七八五、後松)

倉庫 (正下二五三、家屋六六)

柱なしの土藏(續下二ノ三二九、柳隨)

倉垣 (正下二六一、家屋八二)



郡 一州の字義(正上一四〇、南留二八)

一初(正上三一〇、傍廂一六)

一危して忠士出づ(正上九七九、關秋二五)

一里名の唱と文字の異なるもの(續下二ノ

五、閑耕)

一號(續下二ノ六四九、難江)

日本古今一數の多寡(續上四六七、蒼梧)

一な州と稱する事(續下二ノ一九八、年々)

國造 (正上一五四、南留五二)

邦頼親王 相親事(正下九四二、閑窓

四八)

●クネ

九年母 (正上三一〇、傍廂一五)

●クハ

公方 (續下二ノ三九二、燕居)

鋏形 (續中八八九、後松)

一といふ詞(續上五四〇、織錦)

桑名屋德藏

妖怪と答話す(正上二七〇、雨窓三五)

●クヒ

食初 (續中一一五九、歷世)

食積 (正上三九七、傍廂一六六)

●クフ

久夫都々伊 (續中三三一、比古)

●クマ

熊 飼「うまい」と唸る(續下二ノ五九、閑耕)

一の月の輪(正下五〇一、兎小八ノ八七)

一茄子を忌む(正上一八六、茶筆二五)

一兩賊を説服す(正下八二四、雲萍一九)

熊谷直實 兩賊を説服す(正下八二四、雲萍一九)

雲萍一九)

一の通世(正上二〇〇、茶筆四七)

熊澤蕃山 一か琴歌(續下二ノ三五四、燕居)

燕居)

熊代熊斐 (續中一〇八二、近世)

熊の膽 一の功能(正下一七〇、世事九三)

熊野權現 一豊島村(續上二〇二、南向)

熊野別當 一系圖(續下二ノ四一九、柳

隨)

熊野饅頭石 (正上九〇九、轡軒一九)

愚味 其愚や及ぶ可らず(正下七五七、雲萍

七)

●クミ

組打 大兵小兵の(續中六〇六、後松)

組垣 (正下二六一、家屋八二)

組掛 (續中九六八、後松)

●クム

訓 一と字の先後(正上六九、北邊六六)

訓點 (正下一一七、世事一)

訓讀 (正上三三、北邊五)

訓蒙淺語 一自序(正下三七六、訓淺二)

軍 贈(正上八八四、昆陽一六八)

一中艱難(正上一九五、茶筆四〇)

軍學 一の始(正上三九〇、傍廂一五三)

一以下の論(續中六七〇、後松)

軍神問答 評 (正上三五三、傍廂八九)

郡 諸國の一制(正上八三八、昆陽八五)

一縣制の弊(正下九九二、多波二七)

一縣と封建の制(正下九九一、多波二五)

——天王寺未來記披見の事（續中三六八、

比古）

——の遺訓（正下三六五、我宿一〇〇）

樂（正下八五五、花月三八）

補（正下八六一、花月四九）

死ぬる（正上三四七、傍廂七九）

無病長壽の靈（正上三八五、傍廂一四六）

病源——性の説（正上二〇八、茶筆六〇）

白禿（續下二ノ五三五、梅筆）

毒虫に螫れたる時の（正下九三五、閑窓

三三）

延喜式にのせたる一種（正上二四三、南留

三二）

金瘡の妙（正下八一二、雲萍九九）

王朝時代の（續下二ノ二八五、年々）

阿蘭陀（正上八二六、昆陽六一）

癩と血の道の（正下九九〇、多波二三）

辛櫃（續下二ノ五三六、梅筆）

——升（正上八七二、昆陽一四七）

●クセ

癖 多く見る（正上九五〇、假世四八）

人の（正下一〇三八、消閑九）

久世通夏 ——浴湯を改めしむ（正下九六

八、大海六）

口宣問答（續中六一四、後松）

●クワ

くそふく の事（正上七七五、圓珠六二）（續

上九五、年山）

具足 當世 着次第（續中八八八、後松）

小——論（續中八二二、後松）

●クタ

くだかけ といふ詞（正上三三八、傍廂六

三）（正上三五、北邊八）

百濟寺 ——古印（正上七〇一、桂林三二）

●クチ

くちづたへ（正上三四六、傍廂七七）

くちばみ 喰を——といふ（正上一四六、

南留三九）

口 は病を入れ禍を出す（正下八〇九、雲萍

九三）

口遊 ——と云ふ書の解題（續中九〇、比古）

口女（續下一ノ二三六、年々）（續中四八、

比古）

朽木形（續上四五四、蒼梧）

鯨 の異名（正上八四四、昆陽九五）

——をサイナといふ（正上七五六、圓珠二

八）

鯨袖口（續下二ノ一六五、柳筆）

●クツ

履 こんがう、こんず（續下一ノ五〇八、筠庭）

馬上の（續下一ノ四一六、松竹）

「クタ」下駄「サウ」草履ヲモ見ヨ

沓脱（續中六八五、後松）（正下二三六、家

屋三二）

●クテ

九條尙實 の長大（正下九七〇、大海一一）

——造明月樓（正下九二五、閑窓一七）

●クニ

國 ——數（正下三四〇、續昆八〇）

——名稱州（正上六六九、善庵五七）

くきら鳥 (續上一〇三一、河社)

久木 の解(續上一三九、年山)

●クク

愚管抄 讀 (續中三五三、比古)

●クケ

公卿 瘦——に蘇すべき議(正下一〇九一、

梧拾四三)

公卿間 (正下二三九、家屋三八)

●クサ

草 といふ名(正上七八〇、圓珠七〇)

「なカヤ」といふ(正上七五六、圓珠二九)

草合 關百合の濫觴(續下一ノ三五三、燕居)

草双紙 の變格(正上一二一五、蜘蛛四〇)

草の汁 (正上五三、北邊四〇)

草水の油 (續下一ノ三八三、燕居)

草餅 (續上一二四、庖丁)

艾糕(正上八一六、昆陽四二)

噓 を惡む(續上三〇七、梅日)

●クシ

くしのさはれ 義經記にある——といふ

櫛

語(續下一ノ三八二、燕居)

一の權輿(續中一一一四、歷世)

「なかんざ」といひし事(續中一一三四、

歷世)

一に據て神代の人の體量の考(續中一一一

七、歷世)

一を擲くるを忌む(正上九九六、鋸屑二二)

(續中一一三四、歷世)

津間一考(續中一一一四、歷世)

黃楊の一、沉の一、玉一(續中一一二〇、

歷世)

刺一(續上二五二、梅日)(續上九七五、河社)

蔭給の一、三つ一(續中一一二三、歷世)

塗一、青貝の一(續中一一二四、歷世)

瑤瑁の一(續中一一二五、歷世)

櫛一(續中一一三〇、歷世)

二枚一(續中一一三一、歷世)

髮梳の小一(續上五五五、織錦)

櫛占

櫛筭 といふもの(正上七四三、圓珠四)

串浦社

伊豫——の靈現(續下一ノ二五、

閑耕)

公事根源

(續上八、年山)

孔雀太夫

(續下二ノ三五、足薪)

●クス

くすぐる

といふ俗語(正下一二〇、世事

七)

くすしき

の語(續上二〇、年山)

國栖奏

吉野——(續上一二三、庖丁)

楠正成

(正上一九四、茶筆三八)

の碑(續上六八、年山)

——を弔の文(續上六九、年山)

——幕前の自刃(正上九四二、假世三三)

——朝臣以贈三位稱郷否論(續中九三四、

後松)

——頼朝、朝政、泰衡を評す(正下三六七、

我宿一三)

——古人の勇を評す(正下三七三、我宿二

二)

——古將を評す(正下三六四、我宿九)



魚鱗鶴翼 といふ文字(續上二三二、梅日)

魚綾 (續中六九一、後松)

曲几 (續下一ノ六七二、難江)

曲送 (續上四〇四、醋中)

曲禮 井孝經の訓(正上一四一、南留三〇)

曲朶 (續下一ノ六七二、難江)

居所 につくる事(續下一ノ二二九、年々)

許宣平 (續下一ノ三五七、燕居)

清原明經 (續下一八ノ三〇、難江)

清正集 (續上九三八、河社)

廬飾 見え坊と自負と(正下七五八、雪萍八)

漁夫 — 金櫃を拾ふ(正上一一五八、春波六九)

六九)

漁文辭 古文——(正下一〇五七、消閑四)

一)

去來 俳人——平家の土盛久を論ず(續下一

ノ一三一、閑次)

鉅鹿民部 (續中一〇八一、近世)

●キリ

桐 の木に物かく(續上五六七、織錦)

義理 の學(正上八二八、昆陽六六)

蟋蟀 (正上八六、北邊九六)(正上三七五、

傍廂二二七)

蟋蟀草 (正上八三二、昆陽七四)

切支丹 — 懼るべきにあらず(正上一一

七三、春波九三)

切付 (續中七八五、後松)

切妻 (正下二三九、家屋三八)

吉姑蘿 (正上八五三、昆陽一二二)

●キロ

記録 に乏きは惜むべし(正下九九六、多波

三三)

— を考へて惡事を働くもの(正下九九六、

多波三三)

記録所 (續上八八〇、松落)

●キワ

妓王妓女 — 佛御前(正下一一二一、心

双一二)

— 井妓王涌(續下一ノ三一、閑耕)

妓王堰 (正上九一二、端軒二三)

●ク

駒 の字(續下一ノ四〇三、燕居)

●クイ

葵丘 の音(正上一八三八、南留二四)

●クウ

空海和尚 「コウ」 弘法大師ヲ見ヨ

空公行狀碑 嵯峨二尊院の——(續下一ノ

一五一、閑次)

空也宗 — 茶筌賣(續下二ノ二一八、柳

記)

藕絲 — の織物(續上三五六、梅日)

●クカ

公解 (正上一五六、南留五五)

久我通誠 と本願寺姫君との贈答歌(正下

九七〇、大海一〇)

●クキ

くきのたん 檜垣姫集中——(正上一三三、

南留一五)

狂歌師

——に何の屋の號を附ける始(正上九二六、假世六)

行幸

文政乙酉(記(正下七三二、兎小一〇ノ七三))

祭使舞人諸社——式試樂(續中九八七、後松)

行基式目

(正下八六、遊京下五)

行基燒

の靈、忌筈(續下一ノ一五五、閑次)

次

行障

の考(續上四一四、蒼梧)

行列

諸家の(續上七三八、下馬)

強記

の人(續下一ノ三〇七、燕居)

儼尸

(正上九二一、轡軒三九)

鏡川子

(續中一〇八四、近世)

鏡臺

昔の(續中一一一二、歷世)

——に守を掛る事(續中一一一一、歷世)

兄弟

不弟を誡めし事(正上一九一、茶筆三三)

三

京江問答

井再問(續中九九五、後松)

京都

——を洛陽長安といふ(續下一ノ二六)

一、年々

堀川は東西にありし事(續上七七七、松落)

京の水(續下一ノ七五八、難江)

大路、小路(續上七七七、松落)

の淨瑠璃(正上一二二三〇、獨語一三三)

九

條路圖解(續上四九五、蒼梧)

京都將軍

御館の圖(正下一九一、家屋一四一)

(正下二八六、家屋一三三)

京間

田舎間(正下一四一、世事四三)

京丸

の棧(正下七九五、雲萍七〇)

京童

の序か辨(此下六五三、兎小九ノ二二五)

五

享和

初年知名の士の死(續上五四三、織錦)

瘡

(續上二五二、梅日)

脚色

(續上三七二、梅日)

客人

來る時の事(續中六八一、後松)

客人權現

青樓の(正上九五九、假世六四)

六四

客亭

(正下二八八、家屋一三六)

客殿

(正下二八八、家屋一三六)

●キヨ

渠

(正上八二八、昆陽六五)

蛭々

(正上八八、北邊九九)

凶荒

の準備なかるべからず(正下一〇一三、多波六一)

多波六一

——年表(正上一二一〇、蜘蛛三三)

凶服

(續中八八〇、八九三、後松)

關東不着

論(續中八六一、後松)

距蹠

(正上八八、北邊九九)

玉葉集

の中神祇の歌(續上六二五、ねさめ)

め

玉衡車

(正上八三二、昆陽七六)

玉東西

(續下一ノ四〇三、燕居)

玉瀾女

(續中一〇八八、近世)

玉練槌

(續上二七六、梅日)

極東

(正上九一八、轡軒三四)

魚鼓

簡板(正上八五八、昆陽二〇〇)

魚袋

金魚袋(續上六一三、織錦)

問答(續上四〇六、醋中)

金閣寺 (正下一一〇四、梧拾六四)

金銀 鎚—法(正上八八六、昆陽一七二)

我國の—多しと思ふは非也(正下九八四、

多波一三)

—を賣とす(續下一ノ七〇七、難江)

瀝りに—を開掘するの弊(正下九八四、

多波一二)

金銀鐵 (正上三八六、傍廂一四六)

金魚 眞餘屋の—並狂言(續下二ノ一八四、

柳筆)

金槐集 (續下一ノ六五三、難江)

金盞 (正上八〇〇、昆陽一二)

金聖歎 (正上七一四、桂林五八)

水滸傳像贊(正上六〇六、玄同下ノ二〇二)

金蘭齋 (正上九五一、假世五〇)

金靈 並經舟の事(正下五七九、兎小九ノ八

六)

金樓子志怪篇 梁孝元帝—中の語(續下

一ノ三三九、燕居)

均 (正下三二四、續昆四九)

謹 の字(續上三九一、酣中)

銀 (續上八七六、松落)

白—(正下二九七、續昆二)

「クワ」續山ナモ見ヨ

銀閣寺 (正下一一〇四、梧拾六四)

銀河 —織女に似たる事(正下四八〇、兎

小八ノ五二)

銀錠 (正上八六九、昆陽一四一)

琴高 —鯉に乘し故事(續下一ノ三六七、

燕居)

禁國 (續下二ノ五一八、梅筆)

禁色 (續中六五八、後松)(續上五五九、織

錦)

禁當 —といふ辭(續下一ノ三三六、燕居)

禁中 —無蜥蜴事(正下九二三、閑窓一五)

禁秘御抄 の事(正下九一六、閑窓一)

錦繡段 (續下一ノ六五二、難江)

錦文綾文 (續上三九一、酣中)

公忠集 (續上九三七、河社)

公節 (正上一四九、南留四四)

巾着 (續下一ノ五一二、筠庭)

前—(續下一ノ五一三、筠庭)

巾着のいかのぼり —といふ謎(續下二

一三五、柳記)

木村源之進 か智(正上九四九、假世四六)

木村重成 の書札(續上六一四、織錦)

●キモ

肝煎 —といふ名(正下一六一、世事七七)

偽目 (正上五一八、玄同下ノ六一)

鬼門 鎌倉御殿、京都將軍館(正下二九〇、

家屋一四一)

●キヤ

經音 を聞て成佛す(正上一一六四、春波七

八)

—の妙人を感動せしむ(續下一ノ一三七、

閑次)

經文 墨經朱註(續上三九七、酣中)

狂歌 紫檀樓が—(續下一ノ三五六、燕居)

庚申祭の—(正上三二六、傍廂四三)

借債を味める—(正下九九二、多波二七)



祈年祭 白鷄、白猪(續上一六四、錦所)

●キノ

甲子 (續上三二〇、梅日)

——祭(正上九九六、鋸屑二〇)

——の雨(續上三四六、梅日)

甲乙 (續上一〇一三、河社)

紀の國屋文左衛門 の豪遊(正上一一九六、蜘蛛九)

——が住みし庵(正上九五五、假世五六)

——が涼の酒盃(正上九五七、假世六一)

紀の國屋亦右衛門 (正下七六六、雲萍二二)

紀ノ貫之 が梁簡銘(續下一ノ二二、閑耕)

——岸本由豆流を嘲る(正上一二四七、後言三二)

貫之集(續上九四二、河社)

紀梅亭 (續中一〇八九、近世)

紀宗直 (正下九二八、閑窓二四)

木下長嘯子 が短檠の歌(正上九四八、假世四五)

木の丸殿 は土佐國なりと云ふ論(正下一〇五五、消閑三八)

黃袍 (續中九八〇、後松)

昨日こそ といふ語格(續下一ノ五九二、難江)

昨日今日 (續下一ノ三一六、燕居)

●キハ

牙 をキバといふ(正上一三三七、南留二二)

擬盃 (續中六六四、後松)

●キヒ

吉備津彦命 と申す御名(續上七五四、松落)

吉備津宮 の釜(正下一〇五五、消閑三九)

●キフ

忌服 (續下一ノ二〇三、年々)

七歳にならぬ子は服なし(續上八六七、松落)

木鯛 (續上六〇二、織錦)

●キヘ

毀廟 の字義(正上八八二、昆陽一六四)

●キホ

龜卜 (正上一二一六、茶筆七四)

——の法對馬に傳はる(正上八三七、昆陽八四)

龜のますら(正上三五四、傍廂九一)

我國に傳へし——(正下一〇〇八、多波五三)

●キマ

鬼まん國 (正上一五八、南留五九)

●キミ

君 直は——に同じ(正上五二九、玄同下七八)

君の淵 といふ詞(正上七六、北邊七九)

氣味 の感應(續下二ノ一九六、閑次)

紀三井寺 (續下二ノ三二、足薪)

●キム

きんち といふ事(續上六三〇、れさめ)

金 (續上八七六、松落)

方立一寸爲十六兩(正下三三一、續昆六二)

金鳥玉兔 の義(續下一ノ一〇六、閑次)

北野神社 二月廿五日の神供(續下一ノ一)

二一、閑耕)

北政所 大臣の室家を——といふ(續下二ノ五一四、梅筆)

ノ五一四、梅筆)

北山寒巖 (續中一〇八五、近世)

北村季吟 兒を叱す(正上二七二、雨窓三七)

●キチ

几帳 一尺(正上四七、北邊三〇)

儀杖 (續中九二〇、後松)

歸陣 (續中九七八、後松)

●キツ

きつ といふ器(續中二三七、比古)

乞巧篋 「ダナ」七夕チ見ヨ

切懸 (續下一ノ二八四、年々)

切掛 (正下二六〇、家屋八一)

切立 (正下二五〇、家屋五六)

吉凶 前定(續上八四、年山)

吉祥庵 (續上一八六、南向)

吉兆 (正下四五三、兎小八ノ五)

木津川 (正上五〇、北邊三四)

狐 一人の子を産む(正上五五、北邊四三)

孫右衛門(正下五七〇、兎小九ノ六九)

一の愚(正下八六八、花月六〇)

一を神とする事(續下二ノ五二四、梅筆)

一を稻生明神の使はしめと云ふ事(續下一ノ七一、閑耕)

九尾の——(正下一八〇、世事一一〇)

正念寺(續下一ノ七一、閑耕)

狐妖 狐のばくる事(正下一〇四六、消閑二二)

狐妖

狐の術(正上一一六二、春波七四)

七戸の狐隊(續下一ノ二七、閑耕)

狐蠱人(續下一ノ四〇八、燕居)

妖狐説淵源(續下一ノ三二〇、燕居)

妖狐(續下一ノ三一九、燕居)

狐持(續下一ノ五五、閑耕)

野狐魅人(正下五八九、兎小九ノ一〇三)

狐遣 野業仕的人(正下八一八、雲萍一〇九)

狐憑 狐の祐天(正下六七九、兎小九ノ二五)

八)

狐囀の幸(正下六一二、兎小九ノ一四三)

狐火 王子の——(續下二ノ一一八、柳記)

●キト

木戸 一門(正下二七九、家屋二一八)

氣筒 の制(正上八九三、昆陽一八三)

儀同三司 (正下九五〇、准后二)

●キナ

畿内 五——(續上八八〇、松落)

●キニ

忌日 一に神事佛事ともに従はざる事(續下二ノ五二八、梅筆)

下二ノ五二八、梅筆)

●キ又

き又 といふ詞(續中六七、比古)

蓋 (續中七〇五、後松)

衣搭 の訓(續上九〇八、河社)

衣被き (續上六〇、年山)

生絹 (正下四四一、畫譚四五)

●キネ

杵に弦 といふ諺(續下二ノ一九四、柳筆)

六、燕居

奇遇 (正下六二〇、兎小九ノ一五八)

鬼官人 (續下一ノ三八四、燕居)

●キケ

技藝 —— 勝れたる人慎かたの事(正下一三、梅蓋一九)

梅蓋一九

—— に関する至言(正下七六四、雲萍一七)

義經記 「ミナ」源義經ヲ見ヨ

紀元 革命 (正上一〇七〇、茅窓一〇二)

(續下一ノ一九九、年々)

擣謙 (續上三九九、醋中)

●キコ

氣候 六月寒事(正下九三九、閑窓四四)

機巧 表具師の—— (正上二三〇、茶筆九八)

疑獄 牽聯(正上八二二、昂陽五三)

●キサ

象 の名(正上一四〇、南留二七)

象潟 (正上七三五、細道一九)

后 (正上七五七、圓珠三〇)

義茶亭 (續上二五一、梅日)

階 (續中六八一、後松)

香山和尚 の庵(正上九三九、假世二八)

—— の逸事并歌(正上九四一、假世三一)

●キシ

雉子 (續上二二〇、庖丁)

己己 の別(續下一ノ七七七、難江)

鬼室集斯 —— 墓碑考(續中三四五、比古)

鬼子母神 雜司谷 (續上二〇一、二〇八、南向)

騎射 二條(續中六六九、後松)

—— 例(續中七六九、後松)

—— 流鏑馬以下の論(續中九二五、後松)

起請 (正下一九二、世事一三二)(續上八八三、松落)

偽書 (正上一九三、茶筆三六)

鬼神 (正下一〇二八、多波八五)

畸人傳 (續下一ノ八四〇、難江)

●キス

王餘魚 (續上二二八、庖丁)

●キセ

北の方

龜成 俳人——(正上九五〇、假世四七)

義絶 (正上一三五、南留一九)

煙管 石山——(正下九七二、大海一一三)

—— の竿、鵜、つんぼう—— (續下二ノ七六、足薪)

長、—— の鐔(續下一ノ五一三、筠庭)

懷中——(續下一ノ五一四、筠庭)

喜撰法師 (正下五六、遊京七)

—— の歌は稀なる話(正下一〇三四、消閑)

●キリ

木曾 —— 路は美濃に屬す(續上九一五、河社)

●キタ

龜足 (續下二ノ一六七、柳筆)

きた 分、段、刻、寸な——とよむ(續下一ノ七二六、難江)

義太夫節 の起原(正上一二三〇、春波二一)

●キテ

北の方 の稱(續上四八〇、蒼梧)

六十三

●キテ

六十三



九鼎 (正上八〇一、昆陽一二)

舊習 — は改め難き事 (正上二二七、茶筆)

七六

弓術 「ユミ」弓ヲ見ヨ

求肥 (正上六六四、善庵四八)

狐尾袍 (續上一七一、錦所)

宮廟 門圖 (正下三三二、續曷六四)

胡瓜牛 (續中五一、骨董)

●キオ

記憶 (正下八四〇、花月一四)

祇園會 山鉾 (續上七七六、松落)

祇園執行日記 (正下九三、遊京下一七)

祇園神社 爲春日社末社 (續上一五七、錦所)

祇園南海 (續中一〇八一、近世)

與一の狂詩 (正上九二四、假世一)

●キカ

きかく といふ詞 (續下一ノ六六一、難江)

擬階の奏 (續上一二二、年山)

其角 が發句を辨す (正下六八六、兎小九ノ)

二六九

●キキ

義氣 梶浦某の — (續下一ノ一八七、閑次)

龜居 簡居、丈六居 (續上一六、年山)

桔梗 の名 (正上一四〇、南留二七)

飢饉 曲米、芋、山丹 (正下三八九、訓淺一)

九

凶年に酒を造る事を禁す (續上六四九、れ)

ざめ

奥州南部癸卯の — (正下五六四、兎小九)

ノ五九

食せずして飢ざる法 (正下一七一、世事九)

五

消夏自適天明荒凶記附錄 (正下六九三、兎)

小一〇ノ三二

●キク

菊 (續中三七五、比古) (續上八三三、松落)

— は神代よりあり (正上三二一、傍廂三四)

— の和訓 (正上九三八、假世二七)

萬葉集に — なし (續下一ノ三五五、燕居)

— と藤袴 (續中三八八、比古)

— の歌 (續上九、年山)

— の本色 (續上一〇二三、河社)

大小 — 語 (正下九四三、閑窓五〇)

難波宗建卿菊花語 (正下九四三、閑窓五一)

— もと — (正上七六一、圓珠三八)

— の名 (正上一〇四、南留二七)

— 一枝 (續下一ノ六三七、難江)

白 — 黃 — (續下一ノ二一七、年々)

— 變支 (正下七一三、桂林五六)

菊合 (正上九三四、假世一八) (續中三八四、比古)

菊坂 の名稱 (續上一九四、南向)

菊酒 (續上一二六、庖丁)

菊亭晴季 の執心 (正上九三七、假世二三)

菊の宴 (續中三七七、比古)

菊の着せ綿 (續上八三五、松落) (續中三)

八七、比古) (續中六二三、後松)

聞 の訓義 (續下一ノ四〇五、燕居)

器具 朔日 — の敗るを忌む (續下一ノ三六)

狩衣 (續上八一五、松落)

——着様の事(續中六九六、後松)

——裏附帶(續中七二五、後松)

武家服制裏打——(續中七九七、後松)

結——(續中六九〇、九八四、九九八、後松)

松)

麴塵——(續中七二五、後松)

ろくたいの——(續中九八四、後松)

唐織物——(續中七七二、後松)

——の地(續中六八九、後松)

——の幅(續下一ノ四一三、松竹)

二重三重等の——(續中九八三、九九八、九二二、九二七、後松)

縫取——(續中九四四、後松)

練薄物——(續中七二五、後松)

參向三卿——(續中八四九、後松)

攝家大臣清華大將——着用の有益(續下一ノ四一九、松竹)

濱松侯——添狀(續中八五五、後松)

雁 (正上七八六、圓珠八〇)(續上二二〇、

庖丁)

都にかへる——(續上一〇一七、河社)

——再活事(正下九二三、閑窓一四)

歸——を秋に詠める歌(續下一ノ三三六、燕居)

居)

——の子(正上五六、北邊四五)

雁金 の義(續上七五六、松落)

——は雁に非ず(正上三五二、傍廂八七)

切木四之泣(續上三一三、梅日)

賓宮 (續中九六〇、後松)

嘉量 (正下三四七、續見九一)

●カル

輕口話

「オト」落語ヲ見ヨ

●カレ

かれいひ

「イヒ」飯ヲ見ヨ

海鰐魚

(正上九八九、鋸屑一〇)

●キ

き さとーの辨(續下一ノ七四二、難江)

木 (正上七七九、圓珠六九)

義 の字(續下一ノ九六、閑耕)

●キイ

さいた坊 (續下二ノ二八、足薪)

鬼一法眼 (正上七一三、桂林五八)

●キウ

灸 (正上一〇九、北邊一三六)

——に一壯二壯といふ事(續上二七五、梅日)

——治の暇(續下二ノ五一九、梅筆)

休翁 堺の——(正下八二二、雲萍二一六)

救窮 (正下三四二、續見八二)

救荒本草 の作者(正上八七四、昆陽一五

一)

九朽 の義(正上八四四、昆陽九六)

九朽 一罷 廣筆柳炭幀(正下四四〇、書譚

四三)

九猷 (續下二ノ五一五、梅筆)

九穀 (正上三八三、傍廂一四一)

九姑課 (正下六一二、兎小九ノ一四四)

九虎日 (續上三〇二、梅日)

鷗髯 「カミ」髯ヲ見ヨ

●カヤ

蚊帳 (續中九九九、後松)(續下二ノ五二三、

梅筆)

——の釣様(續中九八四、後松)

——製作並用様(續中七九九、後松)

——に勾袋を掛る事(續下二ノ二二四、柳

筆)

——釣初め(續下二ノ二二四、柳筆)

——畫雁(正上七〇五、桂林四一)

●カユ

粥 昔の——は今の飯(續上八八五、松落)

——與一飢人(正下三二五、續昆三二)

粥杖 粥木(續中七八五、後松)

——粥木、祝木(續中五二七、骨董)

●カラ

から 韓唐を——といふ(正上一四七、南留

二九)

からいしもの の義(續中二二〇、比古)

からさへづり (續下一ノ二二二、年々)

海鰐魚 「カレ」海鰐魚ヲ見ヨ

傘 大——(續下一ノ五一一、五〇六、筠庭)

——風流——(續下一ノ五〇六、筠庭)

——の護身(續下一ノ四九七、筠庭)

——日——(續下二ノ三八、足薪)

唐紙 障子——(續上八四七、松落)

唐桐 (續下一ノ二二三、年々)

唐崎松 (正上一〇〇一、鋸屑三〇)

唐拍子 (正下五五八、兎小九ノ四六)

韓紅地 (續上九一六、河社)

硝子 (正下三四一、續昆八一)

鴉 (續下二ノ一五三、柳筆)(正上九八七、

鋸屑七)

——京——の義(續下二ノ一五三、柳筆)

——子持——(正上七二、北邊七一)

——の巢より火出づ(正上二一六、茶筆七五)

——の鳴聲(正上三四一、傍廂七〇)

烏籠 といふ事(續下二ノ六二、足薪)

烏峠 奥州——(正上九六八、關秋六)

烏の婆 京都團栗辻の——(正下七八三、

雲萍五〇)

烏丸資慶 の辭(正下一〇三九、消閑一一)

——の寫されたる源氏物語(正下九七二、

大海一四)

烏丸光胤 の和歌語(正下九三八、閑窓四

〇)

烏丸光廣 の歌並硯箱(正上九三五、假世

二二)

——御連歌の執筆を辭す(正下九七四、大

海一七)

烏八白 (正下一四五、世事五〇)

枳穀 (正上八〇八、昆陽二四)

●カリ

がり 何々——といふ詞(正上一一一、北邊

一三八)

がり／＼ おろし 「タイ」大根おろしヲ見

ヨ

狩獵 に鹿を本とする事(正上一四八、南留

四二)

競——、藥——(正上七五四、圓珠二五)



煎餅屋の——(續下二ノ三九、足薪)

味噌屋の——(續下二ノ五二三、筠庭)(續

下二ノ六三、足薪)

醬油の——(續下一ノ五二三、筠庭)

合羽屋の——(續下一ノ五二三、筠庭)

法衣屋の——(續下二ノ一七〇、柳筆)

楊枝屋の——(續下一ノ五二三、筠庭)

染屋の——(續下一ノ五二三、筠庭)

白粉師の——(續下一ノ五二四、筠庭)

唐紙師の——(續下一ノ五二四、筠庭)

水引師の——(續下一ノ五二四、筠庭)

そば切の——(續下一ノ五二四、筠庭)

烟草屋の——(續下一ノ五二四、筠庭)(正

上七二三、思草二二)

粉屋の——(續中四六九、骨董)

籠屋の——(續下二ノ四六、足薪)

號衣 カンバン といふ衣(續上八八六、松落)

簡板 (正上八五八、昆陽二二)

●カメ

龜 (正上七八〇、圓珠七〇)

—尿を取る法、—の命、—の看經、讀州丸龜  
の大(續下一ノ六九、閑耕)

龜のますら (正上三五四、傍廂九二)

瓶 糝汰瓶(續下二ノ四八二、柳隨)

●カモ

鴨 (續上二二〇、庖丁)

鴨川 —爲宮川(續上九一三、河社)

鴨長明 —海道記の説(正下一〇三九、

消閑一〇)

—の發心集(續下一ノ一五二、閑次)

髻 (續中一一九五、歷世)

賀茂神社 (續上八二〇、松落)

賀茂祭(續中七二九、後松)

賀茂祭の再興(續下一ノ七五、閑耕)

賀茂祭近衛使の後悔(續下一ノ七五、閑耕)

賀茂祭近衛使の勅祿(續下一ノ四四九、松

竹)

賀茂祭の勅使(續上八二二、松落)

賀茂八幡次第(續上一五五、錦所)

宅替の時賀茂へ社參(續下二ノ五三三、梅

筆)

賀茂競馬記録(續上四六四、蒼梧)

賀茂山 (正上七五三、圓珠二二)

賀茂敦直 の書法(正下五五二、兎小九ノ

三六)

賀茂眞淵 縣居翁碑墓(正上四一三、泊々

二四)

縣居翁烏計非言(正上四〇六、泊々二二)

縣居翁魚石隱題の歌(正上四〇六、泊々一

二)

縣居翁書體三樣(正上四〇七、泊々二三)

縣居翁令條略論(正上四〇七、泊々二四)

縣居織錦詩作の話(正上四二七、泊々四八)

縣居翁贈辨子文(正下八五、遊京下三)

縣居翁へ有栖川家より御歌を給はる(正上

四〇五、泊々一〇)

橘常樹 —の梅の詞を評す(正上四二〇、

泊々一九)

—門の三才女(正上四一五、泊々二八)

といふ名(正上七八五、圓珠八〇)

鷗

今の如く―なさしたる始(續中一一四五、

歷世)

娼婦の―(續下一ノ三七九、燕居)

東福門院御―の事(正下九二八、閑窓二二)

唐圖の釵子(續中一一四三、歷世)

釵子に耳搔を添し始(續中一一四八、歷世)

南天樹の―子(續中一一四六、歷世)

干支

―唱考(續中二八、比古)

干祿字書

の韻(續上三八五、酣中)

檐

(正上三三四、傍廂五六)

甘藷

「サツ」甘藷ヲ見ヨ

甘草

(正下三四〇、續昆八〇)

甘味

は乏しきにあり(正下八一六、雲萍一〇五)

甘露

―降事實(續上四四六、蒼梧)

顔色

といふ字義(正下三二三、續昆四九)

顔色土の如し

といふ語(正上三四八、傍廂八一)

鹹草

(正七九九七、鋸屑二二)

拾楹橋樑

のよみ方(續下一ノ八〇〇、難

江)

神館

(續下一ノ六一四、難江)

神無月

(續上四一、年山)

神奈比森

(續下一ノ六九〇、難江)

神主

「シン」神官ヲ見ヨ

含生草

(正上八八三、昆陽一六六)

上達部

(續下一ノ二四二、年々)

鑑定家

の不明(正下四二七、書譚二二)

古筆鑑定の法(續下一ノ一六三、閑次)

「ヒラ」平澤氏ヲモ見ヨ

巫

(正上七七七、圓珠六五)

堪忍

の稽古(正下七九〇、雲萍六二)

―せば世に恥辱なし(正下七七九、雲萍四四)

商家の手代武家の下部を打擲して追出さる

(正下七九九、雲萍七七)

五堪忍(正下七六一、雲萍一三)

―の緊要(正下三七九、訓淺三)

甲の聲乙の聲

(正上一二五、南留一)

肝癢

―もちの事(正上一九一、茶筆三四)

早魃

―米穀を不傷(正上一七六、茶筆七)

看板

饅頭屋の―(續下一ノ五二二、筠庭)

楠の―(續下一ノ五二二、筠庭)(續上七一

一、還魂)

酒店の―(續下一ノ五二二、筠庭)

酢の―(續下一ノ五二二、五二三、筠庭)

(續下二ノ六三、足薪)(續上七二二、還

魂)

産婆の―(續下一ノ五二二、筠庭)

質屋の―(續下一ノ五二二、筠庭)

麩屋の―(續下一ノ五二二、五二四、筠庭)

溫鈍屋の―(續下二ノ一七〇、柳筆)(續

下一ノ五二四、筠庭)

湯屋の―(續下一ノ五二二、筠庭)(續下

二ノ九、足薪)

金龍山米饅頭の―(續下一ノ五二二、筠

庭)

饅頭屋の―(續下一ノ五二三、筠庭)

餅屋の―(續下一ノ五二二、五二三、五

二四、筠庭)

繁文御—(續中九三九、後松)

古—圖(續中八七九、後松)

聖德太子御—の透額(續下一ノ一五一、閑次)

次)

薄額—(續中七〇三、後松)

能の神の唐—(正上一四七、南留四〇)

—字受(續上八〇七、松落)

—直衣(續中六一一、後松)

眼 (續上三九二、醋中)

眼罩 —といふもの(正上八五四、昆陽一一三)

浴 の字(續下一ノ六五二、難江)

雁 「カリ」雁ヲ見ヨ

閑院 —と—大君と—の御は同人なる事

(續下一ノ六七六、難江)

閑院宮 —尊號宣下(續下一ノ八一五、難江)

(續中六九三、後松)

閑居 —と不善(正下七五九、雲萍九)

—のたばこ(正上七二〇、思草七)

閑居の友 —といふ書(續上七一、年山)

閑際筆記 (正上一一八一、春波一〇七)

閑田耕筆 —抄書(續中一三二五、遊藝)

寒 は何時に在る(正上九二九、假世一〇)

寒山拾得 (續下一ノ六三九、難江)

寒氣 文化六七年の—(正上一一五九、春波六九)

波六九

漢音吳音 —にて書をよむ事(續上六四九、れさめ)

れさめ

我國漢音の始(正下一〇二三、多波七七)

我國吳音の始(正下一〇二二、多波七六)

儒佛共に漢音を用ふべき事(續下一ノ二四九、閑次)

九、閑次

漢火生剋應驗辨(正上五一五、玄同下五五)

訓同じくて意義相違ある漢字(正下一〇二四、多波八〇)

四、多波八〇

漢語 —は易し(正下一〇二二、多波七六)

漢人 「シナ」支那人ヲ見ヨ

漢和 (正下一一八、世事三)

漢文 の助語といふもの(正下一〇二四、多波八〇)

波八〇

我國人の唐まなびするの難き所以(正下一

〇二五、多波八一)

韓廐 (正上一九七、茶筆四三)

韓志和 (續下一ノ三四六、燕居)

韓退之 「カン」韓愈ヲ見ヨ

韓天壽 木孔忝(續中一〇九〇、近世)

韓愈 —の文(正上二二三、茶筆八七)

—排佛(正上二〇九、茶筆六三)

—像(正下四三五、書譚三四)

簪 世俗—造始事(正下九二八、閑窓二三)

櫛を—ともいひし事(續中一一三四、歷世)

青龍刀の—(續中一一四七、歷世)

柏録(續下二ノ五二八、梅筆)

前刺、後刺(續中一一四七、歷世)

髮笄を—といふ(續中一一四二、歷世)

孝謙天皇の御—(續中一一四〇、歷世)

步搖—(續中一一四七、歷世)

竹の—(正下一一八八、世事一二四)

裁細工の花—(續中一一四七、歷世)

花—(續中一一四四、歷世)

兩てん(續中一一四四、歷世)



## 江)

小兒の胎髪を剃る(續中一一五〇、歷世)

胎髪を少し剃り残す事(續中一一五一、歷世)

## 世)

産剃に剃刀を用ゐざる事(續中一一五一、歷世)

## 歷世)

小兒の髪を生す事(續中六〇三、後松)

ひさご花(正上三九、北邊一五)

目ざし(續中一一五四、歷世)(正上七五九、圓珠三四)

## 圓珠三四)

深剪、髪剪(續中一一六一、歷世)

## 髪上げ

(續中一一六五、歷世)

## 髪置

(續中一一五九、歷世)

之式(續中六二六、後松)

## 髪葛子節供

(續中五八七、骨董)

## 髪剪

の妖流行す(正上六五五、善庵三四)

## 髪そぎ

(續下一ノ七二八、難江)

## 髪的油

(續下二ノ九九、柳記)

髪付の始原(續中一一〇二、歷世)

髪付の變遷(續中一二〇三、歷世)

## 髪の飾

神代の——(續中一一三五、歷世)

貞享年中女の——十六品(續中一一九九、歷世)

## 歷世)

釵子といふ——(續中一一四三、歷世)

「カム」簪ヲモ見ヨ

## 髪結

「カン」女髪結ヲ見ヨ

## 紙

(續中一二八一、天朝)

強——(續下一ノ四五〇、松竹)

紺——砂子——(正上七〇五、桂林四二)

風呂屋——(續上三三三、梅日)

奉書(續下二ノ四〇二、柳隨)(續下二ノ九五、柳記)

## 五、柳記)

詔書、勅書、繪旨、宣命、宣旨等の料紙

(續下一ノ四五〇、松竹)

紙屋——(正上一〇〇三、鋸屑三二)

## 紙入

桐——(續下一ノ五一三、筠庭)

## 紙馬

(續上二四三、梅日)

## 紙屋川

(正上一〇〇三、鋸屑三二)

## 上下

(續上八一六、松落)(正上八〇六、昆陽二二)

——の稱(續中六七二、後松)

今世の——(續中六七二、後松)

何色——のよみ(續下一ノ四一三、松竹)

——のつかさ(正下八九二、花月一〇一)

——の上ばかりな着る(續下一ノ二六三、年々)

## 年々)

——の服(續下一ノ四九一、筠庭)

純子の——(正下一三五、世事三三)

人の死たる時の——(續下一ノ二七一、年々)

## 々々)

## 剃刀

(續下一ノ七二八、難江)

——の再考(續中一一五八、歷世)

## ●カム

## がんぞう

といふ古語(續下一ノ九八、閑耕)

## 耕)

## かむだち

(續下一ノ三八九、燕居)

## 冠

の名(續中八一八、後松)

——の製問答(續中七八七、後松)

——禮(續中八一五、八一七、後松)

中古の——(續上一七、年山)

一のねばると云ふ字（續下一ノ三四五、燕居）

古事記一字（續上一五八、錦所）

落一を焼捨る（續中一一七六、歷世）

一沐吉日（續中一一七六、歷世）

一髭を墨にて染む（正上三二二、傍廂三六）

一を洗ふをすすといふ古言（續中一一七六、歷世）

一に伽羅をとめる（續中一二〇七、歷世）

一にたばといふ名義（續中一一九一、歷世）

一のさがりばといふ事（續中一一六四、歷世）

世）

げちに紙らるゝと落つ（正下一一八、世

事四）

昔の女は一の丈長し（續中一一七七、歷世）

婦人貞操の爲に一を裁し事（續中一二〇〇、

歷世）

すべらかにして夜寐（續中一一七三、歷世）

「髪

の風」

結髪したる髪の形状の考（續中一一六七、

歷世）

神代の一（續中一二四九、歷世）

神代より一變したる事（續中一二六六、

歷世）

男女の一（續上八二七、松落）

總角（續上一三四、河社）

▲男

男子の斷髪（續中八九一、後松）

本多流髪井家風（正上二六二、雨窓二〇）

海老折、蟬折（續下二ノ二三四、柳筆）

のんこ、唐犬額（續下二ノ二三五、柳筆）

折柳、大てう、せきれいやう、合せ髪、深

草流、茶筌髪、たてかけ、まきたて、く

りびん、おつゝがみ、千松わけ、つとな

し髪（續下二ノ二三六、柳筆）

三日月髪（續下二ノ二三七、柳筆）

▲女

髻結び（續中一一四七、歷世）

ふきまへ髪（續中五八四、骨董）

ぐる／＼髻（續下二ノ一四八、柳筆）

鷗髻、鎌倉やう、片手髻、唐輪、かうがい

髻（續下二ノ一四九、柳筆）

吹かへし、太夫髻、丸島田、ねぢわけ髪、

いてう髻、むさうりう、ふきあげ（續下

二ノ一五〇、柳筆）

女髻（續中八一九、後松）

おばこ（續中一一九八、歷世）

勝山（續中一一八三、歷世）（續下二ノ一八

九、柳筆）

櫛卷（續中一一九八、歷世）

文金島田（續中一一九七、歷世）

ふめつけ島田（續中五八四、骨董）

兵庫（續下二ノ四四、足薪）（續中一一八一、

歷世）

寶髻（續中一一七一、歷世）

丸髻（續中一一八九、歷世）

耳はさみ（續中一一六三、歷世）

振分髻（續中一一六二、歷世）

▲小兒

上代の小兒髪を剃る（續下一ノ七二八、難

加保茶元成 (正上九五六、假世五八)

●カマ

かまいたち と其呪(續下一〇六、閑次)

かまつかの花 (正上九一〇、輜軒二二)

釜 宮根権現の大―(正上二一六一、春波七二)

―師淨味七郎兵衛(正下七八一、雲萍四六)

釜磨 (續中四八〇、骨董)

釜殿 (正下二五二、家屋六三)

蝦蟆 「カハ」蛙ヲ見ヨ

蝦蟆仙人 (正上六九〇、桂林六)

鎌倉右大臣 「ミナ」源實朝ヲ見ヨ

鎌倉海道 (續上一九六、南向)

鎌倉御殿 の圖(正下二九一、家屋一四一)

―鎧之間の圖(正下二八七、家屋一三三)

鎌倉長吏 ―定書(正上三六七、傍廂一三)

一三

鎌田兵衛 (正上七五六、雲萍四)

竈 (續上三八四、酎中)

竈神 (續上三一五、梅日)

蒲生氏郷 (續下一〇八一八、難江)

―家土喧嘩并同家由緒(正上二八一、兩窓五三)

―毒殺の事(續下一〇八一〇、難江)

蒲生秀實 ―墓表(下正七四九、兎小一〇ノ九〇)

蒲の花かたみ の上(正下七四二、兎小一〇ノ九〇)

蒲鋒 (正上三〇七、傍廂一〇)

蒲鋒小屋 ―の乞食(正下二一〇、小金一〇九)

●カミ

神 (正上七七六、圓珠六四)

―まつり(續下一〇八一四、難江)

―のやしろ(正上七五一、圓珠一八)

―の詭言(正上三六〇、傍廂一〇一)

―の人にかゝり給ふ事(續上七八五、松落)

―を一前二前と申し、事(續上七八七、松落)

―を祭れば―います(續下一〇七二、閑耕)

―に茶を奉る事(續下二〇五二五、茶筆)

―の御姿(正上三二四、傍廂三九)

兵器をもて―をまつる(續上七五四、松落)

人は死後の爲にも―を祭り祈るべき事(續上八四五、松落)

世をまりそめの―(正上四二、北邊二二)

―は聰明正直にして―なり(正下一〇二八、多波八六)

神遊 (續上八二五、松落)

神の使 (正上三三八八、傍廂八二)(正上一〇〇二、鋸屑三〇)(續上七八八、松落)

鳩、猿、鹿(正上一五〇、南留四六)

神代 (正上一五一、南留四七)

―の詞は漢語を交ふ(正上一二九、南留九)

―の年數(續上五五〇、織錦)

神山 (正上七五三、圓珠二二)

髮 吾邦の頭髮(正上二五、獨語四二)

和漢頭―の比較(正上二五、獨語四二)



蒲焼

〔ウナ〕鰻ヲ見ヨ

獺

―を養ふ(續下二ノ三八二、燕居)

加判

(續中九七一、後松)

廁

(續中六二四、後松) (正下二五三、家屋六五)

瓦

(正下二五六、家屋七二) (正上六九八、桂林二二) (正上三六一、傍廂一〇三)

古―(正上八三九、昆陽八七)

瓦門

(正下二六五、家屋九一)

瓦屋

(續上八五一、松落)

●カヒ

かひくし

といふ詞(續上八七八、松落)

かひこ

「カハ」卵ヲ見ヨ

ヒ

の字(正上九八六、鋸屑四)

貝

(正上一四三、南留三四)

―を遊ぶ事(續下二ノ一一九、柳記)

―の名(正上一〇〇五、鋸屑三六)

―の歌書やう(續上二七、年山)

貝盃

(正上一〇〇六、鋸屑三七)

甲斐がね

(正上一六一、南留六五)

甲斐國

(正上一三八、南留二四)

の古塚(續上六六八、ねさめ)

加比加禰歌

(續中二〇六、比古)

蠶

變三色奇蟲(續中一九三、比古) 養―を盛にするの策(正下九八五、多波一五)

耕織圖、蠶圖(正下四二六、畫譚二〇)

脇

カヒナといふ詞(續下一ノ六五七、難江)

●カフ

甲乙

甲の聲、乙の聲(正上一二五、南留二)

甲乙人

(正下一二七、世事一八) (正上一二五、南留二)

甲香

(正上一〇〇五、鋸屑三五)

甲子

「キノ」甲子ヲ見ヨ

甲子山

の紅葉(正上九七四、關秋一六)

甲州金

(正上八五〇、昆陽一〇六)

歌舞伎

(續下二ノ一六七、柳筆) (續中五五二、骨董)

葺屋町―座の梁折れし事(正下五三九、兎小九ノ一四)

冠木門

(正下二六三、家屋八五)

蕪

(正上七七七、圓珠六五)

鋤木梅溪

(續中一〇八五、近世)

鋤矢

ひやうはの―、すいはの― (正上一三七、南留二三)

矢合の鏑

(續中九〇一、後松)

禿

(續中一一五四、歷世)

―に中刺する事(續中一一五五、歷世)

●カヘ

かへる

「カハ」蛙ヲ見ヨ

壁

(正下二三二、家屋二三)

―障子の古畫(正下四三七、畫譚三九)

壁中門

(正下二三八、家屋三五)

壁渡殿

(正下二三七、家屋三四)

反名

(續上七三、年山)

歸山

五幡山(正上九九二、鋸屑一五)

肯

といふ語(續中二〇七、比古)

●カホ

顔鳥

(續中四一〇、比古)

顔花

(續中四一〇、比古)

三)

篋(正上八〇九、昆陽二七)

平家——(續下二ノ四二二、柳隨)

蟬(正下三二四、續昆四九)

可兒才藏 (正上二六七、雨窓二九)

●カネ

鐘 越前常宮の唐——(續中三一七、比古)

明州開元寺——(正上八三四、昆陽七九)

法金剛院——(續上一六九、錦所)

野寺の——(正下一三六、世事三四)

十の音(續下一ノ二九一、年々)

夜半の——(正上二三〇、茶筆九九)

ねよとの——(續上一三四、年山)

「鐘銘」

赤阪圓通寺の——(續上二〇九、南向)

圓覺寺の——(續上三九四、醋中)

道澄寺——の誤(續上三八一、醋中)

金錢<sup>カネ</sup> (正上八七六、昆陽一五五)

腰に——を結付けに死す(正上一一二七、春波一五)

豈た——の番人とのみ誘るべけんや(正

下八〇三、雲萍八四)

鐵漿 (正上七〇六、桂林四三)(續下一ノ二

一四、年々)

(續上八、年山)(續下二ノ三二九、柳隨)

——の始原(續中一二一一、歷世)

男の——を染る事(續下一ノ九二、閑耕)

鐵尺 「シヤ」尺度ヲ見ヨ

●カノ

賀の祝 賀年、米壽(續下一ノ七八九、難江)

中院通茂卿七十の賀(續上一二一一、年山)

四十歳を年賀の始とする事(續下一ノ四五、

閑耕)

六十の——(續下二ノ三〇四、柳隨)

賀の杖(續下二ノ五二三、梅筆)

蚊子侍從 (正上四三、北邊二三)

狩野探元 (續中一〇八三、近世)

●カハ

川 の説(正上二二六、茶筆七四)

——水溢るゝ時(續下一ノ一二二、閑次)

川おろし の義(續下一ノ二六三、年々)

川口湖 (正下二九七、續昆二)

川菜 (續中四〇一、比古)

川名林助 (正上九四九、假世四六)

皮かふ といふもの(續下一ノ五三、閑耕)

河竹の流の身 (續下一ノ五七八、難江)

河津宇萬伎 鷹燕語釋(正上四一一、泊々

二〇)

河原御所 (正下九一七、閑窓四)

蛙 (正上八八五、昆陽一七〇)(續下一ノ七

一一、難江)(續上七六〇、松落)

かへるとかはづ(續上七六〇、松落)

——合戦(正上九八八、鋸屑八)

——の歌袋(正上一〇〇二、鋸屑三一)

蛙掛 (正上三七〇、傍廂一一九)

尸 「セイ」姓氏ヲ見ヨ

樺火 森岡の——(續下一ノ二六、閑耕)

蝙蝠 (正上一一五四、春波六一)(正上一六

〇、南留六三)(正上一〇〇四、鋸屑三

鎌倉の—(續上六二〇、れさめ)

江戸の初—(正上九四八、假世四四)

鯉木 (正上三八一、傍廂一三九)

鯉船 (正下五七九、兎小九ノ八六)

合爪 (續上四〇〇、醋中)

甲冑 (正下八五二、花月三三)

古—(正上七〇二、桂林三四)

製作 (續中八二一、九二四、六六四、

八二三、八二二、八八九、後松)

甲と冑との別(續下一ノ九六、閑耕)

兵學者流—(續中八二二、後松)

—袋(續中八五五、後松)

菅 の字(正上一八四、茶筆二二)

河童—圖説(正上六五二、善庵二八)

近江—語(正下九三五、閑窓三六)

肥前—語(正下九三五、閑窓三五)

鬘 (續中七〇一、後松)

—卷(續下一ノ四九四、筠庭)

桂 (續下一ノ二二七、年々)

桂川 (續上七七八、松落)

葛城 の歌(續下一ノ五八〇、難江)

葛城寺 (續上九七六、河社)

●カテ

加點 (續上四七九、蒼梧)

●カト

加藤清正—心入の事(正上二五五、雨

窓九)

家中へ申渡七ヶ條(正下一八三、世事

一一五)

—相法を學ぶ(正上二〇二、茶筆五二)

—題目の旗(正下一八二、世事一一四)

門出 (續下二ノ五二三、梅筆)

門松 (續上八七五、松落)(正上四八四、玄

同下一〇)

—建飾(續上四四二、蒼梧)

—の用意(正上九六八、關秋六)

門脇宰相 の子孫(續下一ノ三〇、閑耕)

葛野河 (續上七七八、松落)

●カチ

假名 (續中一二六一、天朝)(正上二二九、

南留八)(續上四〇一、醋中)

—の結句(續上一〇二九、河社)

まきはしき—(續下一ノ八三八、難江)

—に書ける文(正下九七七、多波二)

今—と古—(續下一ノ六九三、難江)

—といふもの(正下一〇二〇、多波七二)

萬葉—に記したる著書(正上一一三九、

春波三六)

假名遣 (續上一一〇、年山)(續下一ノ二

九、年々)(續上六四九、れさめ)

—定家の—(續下一ノ六九三、難江)

—難定—の論(續下一ノ三九四、燕居)

假名日本紀 (續下二ノ五一七、梅筆)

金澤文庫 (正上六八九、桂林四)(續下二

ノ二五四、柳隨)

悲し—といふ詞(續上八七七、松落)

要—扇の—(續下二ノ二二二、柳筆)

「アブ」扇ナモ見ヨ

●カニ

蟹 稻の害を爲す—(正上八八一、昆陽一六



荷田 の氏を閑田と書く事(續下一ノ七六〇、

難江)

歌道 「ウタ」歌ヲ見ヨ

片岡山 贈答和歌(正下一四一、世事四三)

片男波 (續上一三八、年山)

片差繩 (續下一ノ四二五、松竹)

片つき の義(續下一ノ四二、柳記)

片手髻 (續下一ノ四九、柳筆)

片外し といふ結風の權輿(續中一一八九、

歴世)

「カミ」髪ヲモ見ヨ

片山伊與女 (續中一〇八三、近世)

肩衣 ばかりを着る事(續下二ノ五一八、梅

筆)

「袴」續下一ノ九二、閑耕)

肩拔鹿 (續上九〇七、河社)

敵討 「フク」復讐ヲ見ヨ

山慈姑 (正上一〇三八、茅窓四六)

刀 (正上七七七、圓珠六五)(續中八九九、

後松)

「タウ」刀劔ヲ見ヨ

刀飾 (正上八五三、昆陽一二二)

帷子 の地質(續下一ノ四二、松竹)

公卿及殿上人の—着用始(續下一ノ四二

一、松竹)

方料 (正上一三七、南留二二)

●カチ

かちん 餅を—といふ(正上二八〇、雨

窓五一)(續下一ノ九五、閑耕)

梶 船の櫓を—といふ(正上七五三、圓珠二

三)

梶井の室 (正下九一七、閑窓四)

梶原景季 が歌(正下一〇五四、消閑三七)

梶原景時 は能く謀れる(正下三六九、我

宿一六)

梶原塚 (續上二〇〇、南向)

家畜 養禽獸(正上六二、北邊五三)

珍禽奇獸國不畜(續下一ノ六〇、閑耕)

犬猫をふかく愛する丈は人情に薄し(正下

八二五、雲萍一二〇)

褐衣 變繪の圖(續下二ノ五四一、梅筆)

—返(續下一ノ四三三、松竹)

●カツ

かつぎ女 階女を—と訓む(正上七五一、

圓珠一八)

がつそう 善兵衛 「アフ」近江屋善兵衛ヲ

見ヨ

かつみ (正上七五三、圓珠二三)

花—の説(正下八六五、花月五五)

かつの木 (續中四五三、比古)

被 (續中八一、後松)

勝手 (續下一ノ七〇六、難江)

勝野范古 (續中一〇八二、近世)

勝屋宣利 (正上九六七、關秋五)

勝山 といふ髪「カミ」髪ヲ見ヨ

經 (正上三二三、傍廂三八)(正下三〇四、

續見一四)

—は御用に用ふ(正上一二三、南留一六)

零落したる人—と譬を批評す(正下七九八、

雲萍七五)

かしく 女の文に用ふる——(續上一四、

年山)

かしく坊 (正上九四三、假世三五)(正上

二六七、雨窓三三)

かしこまる といふ字(正上九八四、鋸屑

二)

かしこみ とオッロシと同じ義(正上七四

七、圓珠一一)

かしは 石を——といふ(續上八、年山)

雅事 文説(正上二一四、茶筆七一)

炊屋 (正下二五二、家屋六三)

櫃鳥 (正上九八八、鋸屑八)

柏餅 (正下一八八、世事一二五)

柏屋近江 (正上九二八、假世)

膳部 (續中六二三、後松)

香椎宮 (續下一〇一二、閑次)

——の文杉(正上一〇〇四、鋸屑二四)

鹿島神宮 にて唄ふ里民の疾病除のうた

(正下七七〇、雲萍二八)

嘉定 (續上二一五、庖丁)

嘉祝(正上三一六、傍廂二六)

嘉祥八朝(續中七六一、後松)

何帛 (續中一〇八七、近世)

歌人 は居ながら名所を知る(正下一一八、

世事三)

頭 に物を載く風(續下一〇五二七、筠庭)

頭包み の種々(續下一〇四九五、筠庭)

「ホウ」帽子チモ見ヨ

●カス

かすがひ (正上七五五、圓珠二七)

春日神社 春日五箇屋災事(正下九四一、

閑窓四五)

——御驗記(正下九二七、閑窓二二)

——頭大風の事(正下九四〇、閑窓四四)

春日局 (續下一〇六八四、難江)

霞 (正上七五六、圓珠二九)(正上三一六、

傍廂二五)

水煙、山煙、煙景、煙柳(正下一〇一七、

多波六七)

——と露の字(正下一〇一七、多波六)

●カセ

かせき (正上七四二、圓珠一)

鹿杖 (續中一五九、比古)(續下二〇五三六、

梅筆)

風 ——の手(正下一三二、世事二七)

風の神 圖説(正下五一二、兎小八ノ一〇

七)

風のはふり (正上三八、北邊一四)

價錢 (正下三二七、續昆五四)

●カリ

かぞいろ の歌(續下一〇七〇五、難江)

●カタ

かたき の字義(續上七七二、松落)

かたち 蜻蛉を——とよむ(續中九八、比

古)

かたちの教 (正下八八三、花月八五)

かたみ ——考(續下一〇五九六、難江)

(正上七五四、圓珠二四)

かたゐ 癩病を——といふ(正上一六三、

南留六九)

後松)

掛物 の上下を巻て掛る事(續下二ノ五二三、梅筆)

陽炎 —に三あり(正上七七〇、圓珠五三)

—と糸遊(正上七四二、圓珠二)

かざろふな—といふ(續中九一、比古)

家言 (正下三二七、續昆五四)

●カコ

駕籠 支那にて—の貨銀(正上八四〇、昆陽八九)

八九)

—を六尺といふ(續上三二四、梅日)

上方に—をオロセといふ(續下二ノ一八二、柳筆)

二、柳筆)

河口 の歌(續上九七七、河社)

○カサ

かざみ 腹に子のある—(正下一五二、世事六二)

世事六二)

笠 (續上八八七、松落)(正上七七七、圓珠六六)

六六)

—の下に布を垂る(續中四九二、骨董)

真附—、左右—(續下二ノ二三、足薪)

加賀—(續下二ノ二二、足薪)

塗—(續中四九四、骨董)(續下二ノ二〇、足薪)(續下二ノ四九八、筠庭)

伊達—(續下二ノ二二、足薪)

女の編—(續中四九四、骨董)

ぬき編—(續下二ノ二四一、柳筆)

焼印編—(續下二ノ二四一、柳筆)

龍富士、—都富士、玉縁、(續下二ノ二四四、柳筆)

綾蘭—(續下二ノ四九六、筠庭)

つらら—(續下二ノ四九八、五〇二、筠庭)

熊谷—(續下二ノ二四二、柳筆)

桔梗—(續下一ノ五〇二、筠庭)(續中四九二、骨董)

目せき—(續下二ノ二四五、柳筆)

富士おろし(續下二ノ二四三、柳筆)

伏—(續下二ノ二四五、柳筆)

小笠掛射様(續中九一二、後松)

笠印 (續中九〇〇、後松)

笠掛

笠印

笠印

笠附 (正上九—一二、獨語一四—一九)

葛西念佛 (續下一ノ五四四、筠庭)

家相 (正下九四一、閑窓四七)

—談(正下五三二、兎小九ノ二)

傘 「カラ」傘ヲ見ヨ

傘の雪 (續下二ノ一二、足薪)

風車 (續上二六六、梅日)

風早實種 が勅答歌(正下九六七、大海五)

鵲 に二種あり(續中二四〇、比古)

—の鏡(續中二一〇八、歷世)

挿頭花 (續上一〇二二、河社)(續中九八五、後松)

五、後松)

瘡開 (正上三〇四、傍廂四)

重色目 (續中六九五、後松)

重點 (正上八〇、北邊八六)

相風 (續上二九三、醋中)

汗衫 「フク」服制ヲ見ヨ

裝飾 昔の男女玉鈴を身の—とせし事(續上八二九、松落)

上八二九、松落)

●カシ



行實(正上一九一、茶筆三一)

苦學(正下一九七、世事一四〇)

——する人の善惡(續上八五五、松落)

正しからぬ人の——(正下一〇〇六、多波

五〇)

幼而學不忘(續下一ノ三二四、燕居)

宋儒の學と明儒の學(正下一〇〇四、多波

四六)

——に志す者の訓(正下一六、梅叢二三)

藤原橘學政の起原(正上一四〇、南留二八)

——は我家の物と思ふ可らず(續下二ノ五

二九、梅筆)

學所 (正下二七七、家屋一二二)

學問所 諸氏の——(續下一ノ七六九、雞

江)

樂器 我國の——(正上一三九、南留二七)

樂石 (正上八一〇、昆陽二九)

樂屋 (正下二四九、家屋五六)

樂羊 ——其子の肉を喰ふ(正上一一六二、

春波七二)

樂譜 の唱歌(續下二ノ五三三、梅筆)

格言 書を學ぶ者は紙を費す(正上一一八七、

春波一一六)

才子も用ゐざる時は愚の如し(正上一一五

八、春波六七)

末大必折る(正上一一五八、春波六八)

便否を忘れ分に安んずるに若かず(正下九

八八、多波一九)

一斑を見て全豹を窺ふべし(正下一〇〇三、

多波四四)

格物致知 と王氏の符(正下一〇〇四、多

波四七)

隱賣女 (正上一二〇三、蜘蛛二二)

隱レ遊 (續中五六七、骨董)

隔水煮 の義(續下一ノ四〇〇、燕居)

鶴頂紅 (正上八六四、昆陽一三四)

鶴亭隱士 ——の畫(正上九五六、假世五

八)

鶴翼 ——の陣(續上二三三、梅目)

岳飛 ——脊上の四字(正上一〇六一、茅窓

八六)

革命紀元 (正上一〇七〇、茅窓一〇二)

(續下一ノ一九九、年々)

香具山 天——(正上一〇〇八、鋸屑四〇)

神樂 ——考(續中四二二、比古)

——のもらうた(續下二ノ五三三、梅筆)

——庭火の末句語はざる事(續下二ノ五〇

九、梅筆)

取物の——(續上九六六、河社)

内侍所の——(續下一ノ七七七、閑耕)

歌會 「ウタ」歌ヲ見ヨ

●力ケ

懸踊 (續上七〇七、還魂七〇七)

懸鈎 (正下一九六、世事一三九)(續中六八

五、後松)

影法師 (正下八一四、雲津一〇二)

——問答の文(正下七七〇、雲津二八)

娼童 ——に鬼子の字を用ふ(續下一ノ三二

三、燕居)

掛蓮 (正下二三五、家屋二九)(續中六七二、

鏡磨 (續中四七三、骨董)

むかしの——(續中一一〇八、歷世)

鏡餅 (續中一一〇七、歷世)(續下二ノ五二〇、梅筆)(正上一〇〇二、鋸屑三一)

掛りの壺 (正下二五〇、家屋六〇)

●カキ

かき見 といふ詞(續上一〇一二、河社)

かざろひ 蜻蛉を——といふ(續中九一、比古)

垣 (正下二五九、家屋七九)

——と城(正下一〇一七、多波六七)

牡蠣 重なりて島をなす(正上一二七七、茶筆九)

鍵 管簫(續下一ノ八三四、難江)

柿 木の文字(續上二三六、梅日)

柿本氏 (正上五三五、玄同八八)(續上九一三、河社)

柿本人麿 (續上二八、年山)

——か歌(正下八三七、花月八)

——が舊跡高角山(續下一ノ一三、閑耕)

——の吉野櫻の歌(正下一〇四二、消閑一五)

古今集の序に——おほき三の位といへる

(續上五六〇、織錦)

——入唐(正下一〇四一、消閑一三)

人丸集(續上九三〇、河社)

人麿社(正上九九六、鋸屑二一)

柿浸 の汁(續上五六六、織錦)

餓鬼 に付かるゝ事(正下八一〇、雲華九五)

柯求 が歌(續上七二、年山)

燕子花 (續中四一一、比古)

限り といふ詞(續上五六四、織錦)

荷蕢丈人のたぐひ (正下九八八、多波二〇)

書判 (續中八一七、八二〇、後松)

「クラ」花押ヲモ見ヨ

●カク

角 (正上一二七、南留五)

角法 (正下三〇五、續昆一七)

角判 (正上八四八、昆陽一〇二)

角盤 ——にて手水の遣ひ様(續下一ノ四五〇、松竹)

○、松竹

角筆 (續中八二四、後松)

角兵衛獅子 (續下二ノ一九五、柳筆)

額 「ヘン」偏額ヲ見ヨ

額間 (續中六八二、後松)

學校 (正上九九一、鋸屑一三)

机上持水碗の懸戒(續上三一七、梅日)

學者 ——の酒量(正上九四八、假世四四)

世の所謂——(正上一二二八、春波一八)

ちくらが沖に漂ふ——(正上一四七、南留四一)

四一

古學四傑の評(正上四二六、泊々四六)

——集りたりとて事理明かなるに非ず(正下一〇一二、多波六〇)

明君と——(正下一〇一一、多波五八)

學問 (正上八一、北邊八七)(正下八三五、花月六)(正下八五三、花月三五)(續上八〇五、松落)

不學の學(正下四〇七、訓淺四九)

柑子 小——(續上一八三、錦所)

好事 の心得(續中四六三、骨董)

好事家 賞鑒家、耳鑑、揣摩聽聲(正下四三八、畫譚四〇)

希有の——(正下七四一、見小一〇ノ八八)

降至 といふ事(續下一ノ八一三、龍江)

考證 の學と修身治國の大道(正下一一〇八、

概拾七〇)

江帥 (正上一〇〇四、信層三四)

江亭記 (續上一九八、南向)

江漢後悔記 (正上一一三三——一一三八、

春波二六——三三)

上野 ——下野といふ古名(正上一四四、南留

三四)

鯁涕 (正上八〇〇、昆陽一一)

膏藥代 (續下一ノ三二五、燕居)

行李 ——の本字(正上一五六、南留五六)

、り(正上三二四、傍廂四〇)

高力清長 佛高力鬼作左(續下二ノ三九二

柳屋)

毫釐錢 ——抄、續上三九二、醋中

幸若 の舞(正上一七——一九、獨語二九—

一三二)(續中一〇六五、烹雜)

### ●力カ

家屋 家屋雜考(正下二二一ヨリ)

私第の事(續中六八〇——六八七、後松)

四阿(續上九二七、河社)(續下ノ二ノ五三

六、梅筆)

五架草架七架九架地圖式(正上八二三、昆

陽五五)

御殿の弘廂(續下二ノ五三五、梅筆)

地震にゆるがさる——(正上一七四、茶筆五)

### ●力カ

かゝぐ ——、さゝぐ、もたぐ(正上七八

四、四珠七七)

かいち といふ詞、井に酸漿を——といふ

(正上七五〇、四珠一六)(正上六三、北

邊五六)

爲 ——眼(續上三九二、醋中)

案山子 ——の義井立——(續下二ノ一一

### 六、柳記)

かいしに——の字を用ふ(續上二八八、梅

目)

——の字の出處(續下一ノ三九六、燕居)

香川太冲 (正上九五〇、假世四七)

加賀節 (續下二ノ一八七、柳筆)

可吞 といふ詞(續上一〇一二、河社)

鏡 (續上八八五、松落)

——の始原(續中一一〇〇、歷世)

鶴の——(續中二一〇八、歷世)

唐の——(續中一一〇七、歷世)

方——(續中一一〇一、歷世)

柄——(續中一一〇二、歷世)

懷中——西土懷中——(續中一一一〇、歷世)

ハツ花形の——井——の異名(續中一一〇七、

歷世)

西土——の始(續中一一一四、歷世)

——を照して面を見ず(續中一一一一、歷世)

神佛に——を奉納する事(續中一一〇二、歷

世)



交割 (續下一ノ六二三、難江)(正上七一、

桂林五四)

交際 嘘誠共に交るもの心に在り (正下七九

八、雲萍七五)

——の道心得あるべき事 (正下九、梅叢一

二)

交情 難桑の約(正下八一六、雲萍一〇六)

耕雲千首 「ダイ」大納言長親ヲ見ヨ

剛臆 (正上一二五、南留二)

珍らしき豪氣なる人(續下一ノ一七一、閑

次)

筭 の起原(續中一一三九、歷世)

「をかんさ」といひし事(續中一一四一、

歷世)

神代の——(續中一一三五、歷世)

筭橋 (續上一九九、南向)

筭鬚 (續下二ノ一四九、柳筆)

航海 西洋人日本の——術を評す(正上一

五九、春波六九)

講義 儒書を講ずる時僧の音聲と同じき事

(續下二ノ五二三、梅筆)

講釋 の徳(正上九四四、假世三七)

孝行 ——の爲に不具となりし人(正下七六

六、雲萍二二)

——に付ての心得(續下一ノ一七八、閑次)

商夫の至孝(續下一ノ四九、閑耕)

家を兄に譲りて孝養を盡す(正下七八五、

雲萍五三)

「孝子」

——元伯(續下一ノ五〇、閑耕)

——彌作(續上一〇〇、年山)

奥州泉の——井名君行狀(正上二七七、雨

窓四六)

——關の吉右衛門(正下七六二、雲萍一六)

——多井某(正上九七九、關秋二四)

——難波次郎(正下七六四、雲萍一八)

——破風山の龜松(正下七三七、兎小一〇

ノ八一)

「孝女」

少女の至孝賊を泣かしむ(正下七九二、雲

萍六六)

孝經 古文——の序(續上六三一、れさめ)

孝謙天皇 の御簪(續中一一四〇、歷世)

——の十三經をさづかり給ふ事(正下一〇

二三、多波七八)

高家 ——名目(續上五二五、蒼梧)

高坂彈正 (正上一五六、南留五六)

高嵩谷 (正上九二六、假世五)

高然暉 (正上八五七、昆陽一一九)

高陽山人 (續中一〇九〇、近世)

高野六十那智八十 といふ謠(正下一一

九、世事五)

告朔 (續下一ノ七七四、難江)(續中七〇二、

後松)

告使 (續中六一五、後松)

格子 (正下二三二、家屋二三)(續中六八五、

後松)

内——外——(續中六八二、後松)

格子おろし 「イウ」遊女ヲ見ヨ

格子間 (正下二三二、家屋二四)

架 五七一九一（正上八二三、昆陽五五）

●カイ

亥 の字（續上三四三、梅日）

解 の字（正上一〇〇一、鋸屑二九）

開 女陰に「」の字を書く（續下二ノ八七、柳記）

開河 （正上八五七、昆陽一一八）

開元通寶 （正上八六八、昆陽一四〇）

開帳 （續下二ノ五二九、極筆）

嵯峨瑞像の「」（正上一二〇七、蜘蛛二六）

開中 の字義（正上八六三、昆陽一三〇）

開關 以來年歴（續下一ノ七九一、難江）

改易 （正上一二六、南留四）

改元 （續下一ノ二〇〇、年々）（正上八一三、昆陽三七）

改心 したる人に與ふるの書（續中一三二、遊藝）

街樹

（正上八六五、昆陽一三三）

海國兵談 の論（續中六五六、後松）

海嘯 「ツナ」海嘯ヲ見ヨ

海水 鹹苦の佛説（正一一四九、春波五三）

赤に變ず（續下一ノ三七一、燕居）

海貳 （正上八二四、昆陽五八）

海分 （正下三二六、續昆五三）

界畫 「タラ」繪畫ヲ見ヨ

戒壇 （續下一ノ七七八、難江）

戒名 信士、居士（正上六四三、善庵一三）

●カウ

かうかの木 合歡（續下一ノ六四、閑耕）

かうふり柳 （續上六七、年山）

香 焚 知時（續上三三六、梅日）

薰物埋土中（續上二七七、梅日）

なまくさき なるをさる（續上五六八、織錦）

御即位當日の「並元和帝名」を諸臣に賜ふ

（正下九七四、大海一七）

奥通 用ふる證（續下一ノ三五二、燕居）

降眞（正上一四二、南留三一）

沈を燒男女差別の事（續中六〇五、後松）

源氏（續下一ノ七八七、難江）

系圖（續下一ノ七八七、難江）

五炷（續下一ノ七八七、難江）

香合 の論（續中六〇五、後松）

古田織部の「」（正下八一、雲萍九七）

を賣却す（正下八〇七、雲萍九〇）

題目踊時繪（續中五〇七、骨董）

は香壺の轉語（續中六〇五、後松）

香壺 「カウ」香合ヲ見ヨ

香煎 の飲み様（正下七七六、雲萍三七）

香頭 （續上三六〇、梅日）（續中八六五、後松）

香の物 かくの「」（續下二ノ一一〇、柳記）

更 を定むる事（正上八六〇、昆陽一二五）

持（正上八六六、昆陽一三六）

更衣 （續下一ノ四四〇、松竹）

庚 康に作る（續上三八二、酣中）

庚申 祭の狂歌（正上三二六、傍廂四三）

交友 の道（正下八七六、花月七五）

交易 （正上三一三、傍廂二〇）

●オヤ

親 「シン」親子チ見ヨ

親方 主人を——といふ（續上六二一、ねきめ）

め

親知らず子しらす といふ地（正上七三六、細道二一）

六、細道二一）

祖<sup>オヤ</sup> （續下一ノ七九六、難江）

祖谷山 （續下一ノ三〇、閑耕）

小山田與清 ——清水濱臣との和解（正上一二四〇、後言二〇）

一二四〇、後言二〇）

祐天僧正 ——を呵す（正上一二三八、後言一五）

一五）

○オヨ

およすけ （續下一ノ三六一、燕居）

於與豆禮言 といふ言（續中四五〇、比古）

御寄掛 （續下二ノ五二二、梅筆）

——の圖（續下二ノ五四〇、梅筆）

●オラ

オランカイ 地名——考（正上六五七、善庵三七）

庵三七）

和蘭 ——年號なし（正上八一九、昆陽四八）

——兩城圖（正上八二六、昆陽六一）

——風説書（正上一一七三、春波九四）

——語（正上八一六、昆陽四二）

——文字（正上八一〇、昆陽三〇）

●オリ

織襖 の事（續中七二五、後松）

織物 汗衫（續中一〇〇四、後松）

吳織（續下一ノ六〇四、難江）

綾織（續下二ノ一七六、柳筆）

島織（正上三九五、傍廂一六二）

東京錦（續下二ノ五二二、梅筆）

丹前しま（續下二ノ一九二、柳筆）

浮線綾妻名稱浮糸事（續中九三五、後松）

●オレ

折木四 （續上三一三、梅日）

折柳 といふ髭（續下二ノ二三六、柳筆）

●オロ

をろかおひ ——をひつちといふ（正上七四九、四珠一五）

四九、四珠一五）

おろし 嵐を——といふ（正上七四九、圓珠二四）

珠二四）

おろしの風 といふ詞（正上八七、北邊九八）

八）

おろせ （續下二ノ一八二、柳筆）

おろち 蛇を——といふ（正上七五〇、圓珠一五）

珠一五）

おろのはつ尾 （續上六六、年山）（續上一〇一九、河社）

〇一九、河社）

愚者 ——の異名（續下二ノ三二一、足齋）

——の眞似して賢者を欺く（正下九九〇、多波二二）

多波二二）

卸す といふ字（正下三二四、續昆五〇）

——の眞似して賢者を欺く（正下九九〇、多波二二）

——の眞似して賢者を欺く（正下九九〇、多波二二）

○カ

り の本字（正上一三六、南留二二）

か ふつかの日みかの日等の——の字（正上一四四、南留三五）

四四、南留三五）

が の 詞主客の差（續中四〇二、比古）

——の詞主客の差（續中四〇二、比古）



祖父 (正上七七八、圓珠六六)

——祖母の物語(續中五〇八、骨董)

首<sup>オホト</sup> (正上五二九、玄同七八)

臍氣 といふ詞(正上四七、北邊二九)(續上八四一、松落)

●オマ

座<sup>オマシ</sup>敷(正下二六六、家屋九三)

虎子<sup>オマル</sup> 小兒の養器を——といふ(正上一三九、南留二四)

○オミ

おみ おみ帯等の——といふ語(正上一二五、南留五)

臣 (正上五二六、玄同七四)

女郎花 (續下一ノ七八一、難江)

○オム

オンタラシ の字(正上一三七、南留二三)

おんべやき といふ事(續上五三三、織錦)

音 の存亡(正上九六、北邊一一三)

音樂 の起原(正下九九八、多波三六)

音訓 からさきに書たる文字の讀様(續上七

六七、松落)

音聲 (正上八四一、昆陽九一)

音調 三弦音知海嘯(正上九二四、假世二)

音便 と訛(正下八〇五、雲萍八七)

音律 鈴木修敬の律學說(續下一ノ七五、閑耕)

りちのしらべ(正上一五八、南留六〇)

御 の字の訓(正上四七、北邊三〇)

御賀 (續中九八六、後松)

御曹子 (正上一五一、南留四八)

御出祭 (續下二ノ五一、梅筆)

溫泉寺 有馬——の法華經(正下八四、遊京二)

女 「フチ」婦女ヲ見

女髮結 の起立(正上一九四、蜘蛛四)

女のあへる といふ詞(續上七五六、松落)

隱亡 (續下二ノ二二六、柳筆)

茶毘師は——(正上三六一、傍廂一〇三)

陰陽師 ——の訓み方(正上一二五、南留

二)

諺文 (正上八二二、昆陽三四)

●オモ

おもて歌 (續上一〇一四、河社)

重きもの ——しめり茶磨に笠の雪(續下二ノ二二、足薪)

重荷に小付 といふ語(續下二ノ二六二、年々)

表奥 (正下二九一、家屋一四一)

表衣 を縫縮めて着る事(續下二ノ五二四、梅筆)

童女の——(續中一〇〇三、後松)

面影橋 (續上一九二、二〇四、南向)

面白し といふ詞(正上三一五、傍廂二四)

玩具 盆太鼓(正上一二一六、蜘蛛二)

思ひ草 (正上七四九、圓珠一五)(續上二

三〇、年山)

思へば呪ふ (正下九九一、多波二五)

母屋 (續下二ノ二九一、年々)

——と庇(續上八四六、松落)

大阪陣 岩瀬郡の老人物語（正上二六〇、雨怒一七）

大阪土 （續下二ノ一二六、柳記）

大澤池 （正上七五八、圓珠三二）

大捌助六 俠商——（正下七六三、雲萍一六）

大鹽平八郎 の謀反ニ付江戸の風聞（續中一三七、遊藝）

——父子焼死の報（續中一三二九、遊藝）

大隅國 （續上四三七、著梧）

大鶴鶴尊 と寛道稚子との國譲り（正上一四四、南留三五）

大稅 （續上一五五、錦所）

大芹 （續上九七五、河社）

大ぞう といふ詞（續下二ノ九九、柳記）

大塚（地名） （續上二〇二、二〇四、南向）

——の名稱（續上一九四、南向）

大嵩神社 の梁簡銘（續下一ノ二二、閑耕）

大津繪 佛像（續中四九九、骨董）

大津皇子 の小傳（續下一ノ一三二、閑次）

大床 （正下二七八、家屋一一四）

大床子の御膳 （續下二ノ五二四、梅筆）

大伴氏 の家譜（續下一ノ八三一、難江）

——と大友（續上六四、年山）

大伴家持 は美男（續上七三、年山）

家持集（續上九三三、河社）

大友の松 （續上一九九、南向）

大友屋敷 の由來（續上一九一、南向）

大西南畝 （正上二〇二、茶筆五一）

大野九郎兵衛 赤穂の家士——並其娘（續下一ノ一八七、閑次）

大橋築地 の繁昌（正下六九九、兎小一一六）

天明頃の中洲（正上一一九六、蜘蛛六）

大祓 祝詞（正上五七、北邊四七）

大原吞響 （續中一〇八六、近世）

大原行幸 の説（續下一ノ二二九、閑次）

大原女 （續下一ノ二九三、年々）

——の贊（正下七七二、雲萍二九）

大日本國 （正上一五一、南留四七）

大日靈尊 の日の字（正上七四六、圓珠一〇）

大總 （續下一ノ四一五、松竹）

大水 （正下二九八、續昆二）

大峯の鬼 附鈴木（正上一三二、南留一三）

大宮川 （續下二ノ五二〇、梅筆）

大村氏 禮本問答（續中八五〇、後松）

大門 （正下二六二、家屋八四）

大櫓 を天主と稱する事（正下一〇九四、拾四八）

大八洲 の總名（正上一三〇、南留一〇）

大山 （正上八二八、昆陽六六）

狼 小女一を殺す（正上三一、修府一八）

於穆 は陽春の父なり（續下一ノ一三三、閑次）

太田稻荷 （續上一九五、南向）

太田莊 武藏國——（正上四六八、玄同五）

太田道灌 の官名（正上九三九、假世二七）

道灌家集（續下一ノ五六八、難江）

道灌家集（續下一ノ五六八、難江）

道灌家集（續下一ノ五六八、難江）

道灌家集（續下一ノ五六八、難江）

道灌家集（續下一ノ五六八、難江）

全貌 (續中六二、比古)

於布須 (續中六一、比古)

●才木

おほきみ 主を——といふ (正上一三五、

南留二〇)

おほこ といふ詞 (續中四八〇、骨董)

おぼつかな といふ詞 (正上七一、北邊七

〇)

おほつふね といふ人名 (續下一ノ五六六、

難江)

大堰 大井と—— (續上七七八、松落)

大堰山 (正上七五二、圓珠二二)

大石良雄 ——を論ず (續上四二、閑耕)

(正上二七五、雨窓四三)

——に人懐きし事 (正上一九五、茶筆三九)

——が在京中の所行 (續下一ノ一八八、閑

次)

大炊司 (正下二五二、家屋六三)

大炊殿 (正下二五二、家屋六三)

大忌 (續上八六〇、松落)

大齋 (續上一七〇、錦所)

大歌所 (續下一ノ五六一、難江)

大内 百敷九重 (正上七五七、圓珠二九)

大内氏 の遺物 (正上一五九、南留六二)

——龍蛇の類を採る事を禁ず (續上二八二、

梅日)

大海のはし の奥書 (正下九二六、大海二

〇)

——の跋 (正下九七五、大海一九)

大江氏 の祖 (續上六六九、れさめ)

大江千里 (續上六六八、れさめ)

大江朝綱 (正上六五、北邊五九) (正上三

〇三、傍廂三)

大江匡衡 の行狀 (正上一〇〇五、鋸屑三

四)

大江山 ——二所あり (續下一ノ一五、閑

耕)

大岡忌寸男龍 倭畫師—— (正下四二八、

畫譚二二)

大男 (正上三八〇、傍廂一二七)

大洲の—— (正下一〇一、遊京下ノ三三)

大女 (續下二ノ一四、足薪)

品川の—— (正下六八八、鬼小十二ノ二七四)

大柑子 (續上一八三、錦所)

大鏡 (續中一三二、比古)

大川量平 醫師—— (正上一〇三二、春波

二二)

大川椿海 (續中一〇八八、近世)

大吉備津彦命 「キヒ」吉備津彦命ヲ見曰

大串元善 の碑 (續上九六、年山)

大口 「ハカ」袴ヲ見曰

大口屋文魚 (正上一一九六、圓珠)

大久保加賀守 を諫むる書 (續中一三二三、

遊藝)

——が臨終の直書 (續中一三九二、遊藝)

——が卒去 (續中一三二八、遊藝)

——の菩提所 (續中一三二九、遊藝)

大藏千丈 山岡俊明の狂名 (正上九二五、

假世)

大阪城 の舊名 (續上一九九、南岡)



—にたとふ(正上三〇五、傍廂七)

—紙頭(續上三三六、梅日)

—を尙べる弊(正上一三七、南留二二)

鬼板 (正下二五四、家屋六八)

鬼が窪 (續下一ノ二〇、閑耕)

鬼が島 (續上三三二、梅日)

鬼塚 蒲生郡小坊塚村(續中三四九、比古)

鬼にかな棒 といふ諺(續上六六二、れきめ)

## ●オノ

斧 たつき、よき(正上七四五、圓珠八)(正上七五二、圓珠二〇)

小野 惟喬親王の舊蹟——(續下一ノ一一、閑耕)

小野毛人 の墓(正上九一八、輜軒三五)

小野小町 (正上二〇六、茶筆五八)

—の辨(正下五三二、兎小九ノ一)

—の傳及あなめくの歌(續下一ノ五八二、難江)

—のかぶりし笠(續中七七二、後松)

筆)

—の雨乞と七小町(續下二ノ一六五、柳)

小野道風 の畫像(續下一ノ一五〇、閑次)

—が書(正上三〇三、傍廂三)

—が書朝綱の才(正上六五、北邊五九)

小野篁 の遠謫(正上一一五七、春波六六)

—が冥府出入の穴(續下一ノ三五、閑耕)

小野古道 が歌を縣居翁が歌とあやまりたる(續下一ノ六九四、難江)

磯取<sup>オコシマ</sup>盧島 (正上一三〇、南留一〇)

尾上宮 (續上一〇二六、河社)

自己 —をはかるは暗し(正上一二二六、春波一四)

波一四)

—の好む處を譽む(正上一一二七、春波一五)

—が誠の及ばざるを歎くべし(正下七七

一、雲萍三〇)

—を知らざる可らず(正上一一二六、春波一五)

波一五)

自己か田へ水を引く といふ俗言(正上

三九二、傍廂一五八)

## ●オハ

おば 祖母(正上七七八、圓珠六六)

小林歌城 尾林元雄(正上一二三六、後言

一二)

小原女 「オホ」大原女ヲ見ヨ

尾張學校 (續下二ノ二五四、柳隨)

## ●オヒ

甥 (正上七七九、圓珠六九)

帶 (續中八一二、後松)

反—事(續上一七七、錦所)

鯨—(續下二ノ五五、足新)

名古屋—(續中四八三、骨董)

石—幾筋(續上二九一、梅日)

丹前結(續下二ノ一九三、柳筆)

帶に短し褌に長し といふ諺(正上一二二四、北邊一六〇)

四、

追まはし (續下二ノ一〇五、柳記)

「イフ」遊戲、「スコ」双ナヲモ見ヨ

## ●オフ

晩稻 (正上七四八、圓珠一二)(續上八九二、

松落)

——とシネとは異なり(正上三六六、傍廂

一一二)

教 聖人の——と釋迦の——(正上一一六二、春

波七五)

白粉 ——の看板(續中四六九、骨董)

●オス

御末 (正下二九二、家屋一四四)

●オリ

おそのたはれを (續上一四三、年山)

おそろし (正上七四七、圓珠一一)

●オタ

おたまき草 瑠璃——(正下九三四、閑窓

三四)

お竹大日如來 ——縁起の辨(正下四九三、

兎小八ノ七四)

小田郡 陸奥——(正下三四一、續昆八二)

織田信長 の眞容圖(正上七〇〇、桂林二

九)

——恩賞を賜ふ話(正下六、梅叢七)

——寄荷の事(正上二五〇、雨窓一)

御玉杓子 (續下二ノ七二、足薪)

●オチ

伯叔父 なち、なばといふ名(正上七七九、

圓珠六八)(續上六四六、れさめ)

老翁をなちといふ(正上七五一、圓珠一

九)

落葉 の風(正下八八五、花月八九)

落葉衣 (續上九一七、河社)

落穂集 の實錄(正上一一七〇、春波八八)

落間 (正下二八五、家屋一三二)

●オツ

乙夜 の義(正下三三四、續昆六)

●オト

おとい (正下二二二、家屋三)

おとい 兄弟を——といふ(正上一五八、

南留五九)

御徳日 (續下二ノ五一五、梅筆)

男 古今の相違(正上九六八、閑秋七)

男手 ——女子(續上八七二、松落

威<sup>オロシ</sup> といふ詞(續上五四〇、織錦)(續上三九

四、醋中)

落語 小本の始(正上九二九、假世一〇〇)

輕口咄(續下二ノ一二六、柳記)

輕口咄より出し句(續下二ノ一二、足薪)

弟 (正上七七九、圓珠六八)(正下四一〇、

訓淺五三)

音無瀧 (正上七六七、圓珠四九)

音無瀧 紀州——(續下一ノ六九二、難江)

音羽瀧 京都——(正下七五六、雲萍五)

踊 セタ、小町、かけ——(續上七〇七、

還魂)

題目(續中五〇七、骨董)

踊鳥 (續下二ノ一五三、柳筆)

踊船 (續下二ノ一六〇、柳筆)

●オナ

御中居 (正下二九二、家屋一四四)

●オニ

鬼 (續上七九八、松落)

東洋—を許す(續下一ノ三四七、燕居)

●オク

をく 招くな—といふ(正上七五六、圓珠

二九)

奥 (正下二九一、家屋一四一)

奥津棄戸 (續中四四八、比古)

奥山 (續上九七七、河社)

奥の國 (正上一二二、北邊一〇二)

屋宇 (正下二三七、家屋三三)

屋上 (正下二五三、家屋六六)

御供米 (續上五二四、蒼梧)

小倉色紙 (正上二七九、雨窓四九)

詮 の説(續下一ノ二二六、年々)(正下一〇

〇、遊京下ノ三二)

天子の—(續上一五、年山)

以子配—(正上八六五、昆陽一三四)

古事記傳漢様御—附考(續中二二六、比

古)

皇極義謙の御—(續下一ノ二二六、年々)

公主賜—(正上八六六、昆陽一三六)

法諡曰某々院(續下一ノ六二四、離江)

四—四德(正上五一〇、玄同四七)

●オケ

桶 (續下一ノ五二七、筠庭)

—と箱文字の相違(正上三二九、傍廂四

八)

●オコ

おこつへい窟 (正下一七七、世事一〇四)

おことは點 (正上一二八、南留六)

御事汁 事始事納(續下一ノ二八三、年々)

嗚呼物語 (正上四四四、玄同一一)

瘡 の餓鬼(續上二五二、梅日)

奢 「ケウ」著移ヲ見ヨ

●オサ

おさ— といふ詞(續上五九、年山)(正

上二一七、北邊一五〇)

おさめ といふ物(正上三六一、傍廂一〇

三)

箱 又箴(續下一ノ七〇三、離江)

長田庄司 附鎌田兵衛(正下七五六、雲津

四)

鎧ノ宮 (正下一〇一、遊京下ノ三二)

小澤詢五 (正上九五二、假世五〇〇)

小澤龍庵 (正上九六八、關秋六)

小澤蘆庵 が歌(正上九四四、假世三七)

—が豪家を罵る歌(正上九四三、假世三

四)

—貧を悲む歌(續下一ノ二七八、年々)

●オシ

おじまが磯 與謝の浦(續上一〇一七、河

社)

奥州松島(續上一〇二二、河社)

惜し といふ詞(正上七八五、圓珠七九)

鴛鴦 (正上七八五、圓珠七九)(正上九八七、

鋸屑七)

押板 (正下二八二、家屋一二二)

押入 (正下二八三、家屋一二二)

折敷 (正上九八五、鋸屑四)

作並高坏(續下二ノ五二九、梅筆)

同圖(續下二ノ五四三、梅筆)



—の戀(續上一〇一七、河社)

衰經 (正上一二九、南留八)

御家様 (といふ事(續下二ノ五三六、梅筆))

御家流 (續中一二二八、天朝)

小忌 (續上八六〇、松落)

●オウ

應舉 「マル」圓山應舉ヲ見ヨ

應聲虫 (續下一ノ一九五、閑次)

奥州 「ムツ」陸奥ヲ見ヨ

●オオ

お、 神の宮人の——といふ聲を高く立つる

事(續上八五七、松落)

●オカ

おかし (といふ詞(正上三〇四、傍廂五))

(續下一ノ二一八、年々)(續上八五三、

松落)(續中八一、比古)

おかたまの木 (續下一ノ六六、閑耕)(續

中四〇三、比古)(正上一〇六四、茅窓

九一)

おかめ湊 (續上六〇二、織錦)

岡尾正恵 (續上二四、年山)

岡崎節 (續下二ノ一九六、柳筆)

岡城 豐後——(正上一二二〇、春波二)

岡西惟中 の傳(續下二ノ二八〇、柳筆)

岡岷山 (續中一〇八五、近世)

岡部南嶽 (續中一〇八五、近世)

岡村不卜 の傳(續下二ノ一八四、柳筆)

岡本半助 並茶字の切(正上二九二、

雨窓七一)

岡本宗好 が歌(續上一一八、年山)

御蔭山 の神事(續中七二七、後松)

御壁 (續中四八六、五七八、骨董)

「トウ」豆腐ヲ毛見ヨ

小川破笠 (續中一〇八六、近世)

杜瓦 (正下二五七、家屋七一)

芋壳葺 (正下二五九、家屋七九)

●オキ

興風集 (續上九三八、河社)

願 の訓(續中三九七、比古)

沖ツ島守 の解(續上一三三、年山)

息長河 (續上九五、年山)

隱岐直清 (續上九四、年山)

隱岐國 (續上四三八、蒼梧)

翁問答 (正下一七九、世事一〇八)

荻生徂徠 の眞像(正上一〇二二、茅窓九)

—の言語(正上九三四、假世一八)

—家を賣て明書を買ふ(正上九四二、假

世三四)

—の書けるもの(正上九四九、假世四六)

(正上二二二、茶筆八五)

—の學(正下三九二、訓淺二五)(正上

九〇、茶筆三一)

—と寺札(正上九三三、假世一七)

—が病中(正上三六四、傍廂一〇八)

—の戲謔(正上九四五、假世三八)

—と春藥(正上九三四、假世二〇)

—日本夷人物茂卿(續下一ノ二二〇、年々)

—梅が香や隣は荻生惣右工門(正下六八六、

兎小十一ノ二六九)

—徂徠集(續下一ノ六三五、難江)

煙架 (正上八三三、昆陽七六)

鹽河俣 (正上二二七、茶筆九四)

延喜 時代の政(續下一ノ一四九、閑次)

延喜帝 (正上一三二、南留一四)

燕戲 (續上二五〇、梅日)

燕石 といふ故事(正下四七〇、兎小二ノ三)

五)

燕石雜志 の訛糾(續中一〇六六、烹雞)

燕巢 (續上二四八、梅日)

宛丘 の傳(正上九二七、假世六)

偃臥 (續下一ノ三一五、燕居)

鉛瓦 (正上八六八、昆陽一四〇)

鉛槧 (正上八〇八、昆陽二五)

鉛錢 (正上八六〇、昆陽一二五)

遠藤但馬守 御遊日の裝束(續中六七)

八、後松)

大鹽亂の時の着具(續中八二三、後松)

遠慮 遠慮 (正下八五九、花月四五)

遠慮 無 (正下八六七、花月五八)

を妖言とす(正下九九一、多波二五)

n (正上八三二、昆陽七四)

緣日 江戸の——(正上二四二、都手一七)

厭日 厭對(續上二八〇、梅日)

役小角 役行者(正上三一四、傍廂二二)

——蓄生道におつ(正上三九一、傍廂一五)

六)

——一言主神を呪傳せしとの説(續下一ノ

三八、閑耕)

胡梨 (正上九八八、鋸屑九)

振鉾 なみんぶとよむ(正上二二九、南留八)

江村專齋 (正上一二四九、春波五三)

——の長壽(正上五六七、玄同一三八)

衰了凡 (正上八〇〇、昆陽一一)

●エモ

衣紋 (續中六一五、後松)

高倉家、山科家の——(續下二ノ五三五、

梅筆)

●エラ

ゑらふ鰻 (正下一五五、世事六七)

●エリ

襟 衣くひなといふ(正上七五〇、圓珠一

六)

二一、三一(續中八四〇、後松)

●オ

お 於烏の假字(續下一ノ五五三、難江)

烏呼平矣の假字(續下一ノ五五四、難江)

遠のてになは(續下一ノ六三四、難江)

乎の假字(正上一四一、南留三〇)(續下一

ノ五五四、難江)

——との別(正上一一二、北邊一四〇)

助詞の——文字(正上三五、北邊八)

御 ——の字を冠せし笑話(正上一一八〇、春

波一〇五)

苧 (正上七四八、圓珠一四)

●オイ

綏 (續下一ノ二五二、年々)

老 ——たる人(正下八三八、花月九)

老らく (正上一〇八、北邊一三四)

江戸順禮 といふ事(續下二ノ四〇、足薪)

江戸酸漿 (續上七二六、還魂)

餅取 「エダ」續多ヲ見ヨ

●エノ

榎 (續下一ノ三六〇、燕居)

繪の具 (正下四四一、書譚四五)

繪の間 (正下二八九、家屋一三九)

江の島 の古碑(正上九一五、轡軒二九)

●エハ

恵方 兄方(續下一ノ三、閑耕)

●エヒ

蝦 (續中一二七、比古)(續上二一九、庖丁)

蝦大納言 (正下九六八、大海六)

海老折 (續下二ノ二三四、柳筆)

海老鞘卷 (續中六一八、後松)(正上七〇)

九、桂林五〇)

海老上脇 (續中五七八、骨董)

真美須 蛭子(正上四三八、玄同一)

——を笑顔に描く事(正上一四六、南留三

九)

ひろこ、ひろめ(正上一五二、南留五〇)

夷三郎(續中一〇四四、煮雞)(正上三九四、

傍廂一六一)

夷 唐人の我邦を——と稱へし事(正下九七九、

多波五)

夷屋吉郎兵衛 (續上六九二、還魂)

醉 一船——轡(續下一ノ三五〇、燕居)

繪櫃 桃の——、菊の——(續下二ノ四六、

足薪)

簾 やなぐひ(正上一四五、南留三七)

花胡録(續下二ノ三三〇、柳隨)

香取神寶墨漆——(續中六一九、後松)

●エヘ

江部庄 (續下一ノ三一、閑耕)

●エホ

烏帽子 (續上八〇九、松落)

——の制(續下一ノ九三、閑耕)(正上一二

九、南留九)(續中六九七、後松)

——論(續中六一一、後松)

蹴鞠、馬上、鷹狩に着る——(續下一ノ四

二七、松竹)

細立——(續下二ノ三九五、柳隨)(續下一

ノ四一三、松竹)

へりぬり(續下二ノ四〇九、柳隨)

立——(續中七七六、九四二、後松)

風折——(續中六一〇、七七六、後松)

額——(正上三五九、傍廂一〇〇)

掛緒(續下一ノ四四二、松竹)

烏帽子眉 (續下一ノ四二七、松竹)

●エマ

繪馬 (續上八五九、松落)(續下二ノ五三二、

梅筆)

——と紙馬(續上二四三、梅日)

●エム

圓位上人 の杖(正上三三〇、傍廂四九)

圓空 僧——(續中一〇八七、近世)

圓珠庵 「ケイ」契沖ヲ見ヨ

圓珠經 (正上一二五、南留一)(續下一ノ

三七二、燕居)

圓通大師 寂照法師(續下一ノ三六、閑耕)



## 茶筌七

—— 新挽歌（正下六一四、兎小九一ノ一四六）

## 六

越後の——（正下三一五、續昆三二）

—— の咄（正下八四一、花月一四）

—— 鳥圖考（正下七二八、兎小一〇ノ六七）

—— 間宮林蔵が—— 咄（正上一一三二、春波二五）

—— の靈龜（正下六七五、兎小九ノ二五〇）

繪をらごと（正上三七七、傍廂一三〇）

## ●エタ

穢多（續中四二八、比古）

餌取（續上八三〇、松落）

—— 考（續下二ノ七九八、難江）

—— 團頭（續中一〇七〇、烹雜）

—— ばくらう（正上一四三、南留三三）

杖 昔の人木の——にものな——る事（續上八六五、松落）

## ●エチ

越後獅子（續下一ノ四六五、筠庭）（續下二ノ一九五、柳筆）

## 越後屋

駿河町—— 替紋合印の事（正下四八〇、兎小八ノ五一）

## 越前國

（續上四三五、蒼梧）

—— は不吉なる國（正下一一〇五、梧拾六四）

## ●エツ

閱 の字訓（正上一四四、南留三五）

## 越中國

—— 地理（續下一ノ二三、閑耕）

棧（正下二五三、家屋六六）

## ●エテ

越殿樂 の詞（正上一三二、南留一四）

## ●エト

江戸 —— 名稱起原（續上一八六、南向）

—— を東都と書く（續上五五四、織錦）

—— 北條分限帳内に—— 廻と稱する分（續上二〇六、南向）

—— の古圖略説（正上四六七、玄同四九）

—— 同追考（正上四七七、玄同六五）

—— 永祿年間—— 圖（正上一一六五、春波七九）

—— 附近地名所由梗概（續上二〇九、南向）

—— の牛車（正上一一六九、春波八七）

—— の奢侈と農民の困窮（正下一一〇五、梧拾六五）

梧拾六五

—— の初鯉（正上九四八、假世四四）

—— 風の文盲（續中六一〇、後松）

延寶頃の—— の名物（正上九三一、假世一四）

四

—— の淨瑠璃（正上二二二〇、獨語一九三三）

—— 三三

—— 人の勇氣（正上三二六、傍廂四二）

—— 市中の人数（正上二〇九、蜘蛛三〇）

庚辰 —— の猛風（正下五四九、兎小九ノ三二）

二

寛永 —— 風俗畫（正上一一九、春波二）

明暦以前の —— 風俗（正上一一七〇、春波八八）

八八

## 江戸川

—— 附近の沿革（續上一九〇、南

向二〇八）

## 江戸城

—— 登城（續上七三九、下馬）

中城（正上八三六、昆陽八〇）

宇留ま嶋 (正上九五、鋸屑二〇)

●エ

え (とは兄弟(正上一三四、南留一七))

繪 「クロ」繪書ヲ見ヨ

●エイ

榮衛 (續下一ノ三六九、燕居)

榮花物語 (續上五六三、織錦)

一名世繼解題並作者考(續中二八四、比古)

評(續下一ノ二二四、閑次)

は赤染衛門の一筆に非ず(續下一ノ一

二六、閑次)

榮遍僧正 菩提院 (正下九二六、閑窓

一九)

永代 (といふ錢積り(續下一ノ一六〇、閑次)

永代島茶屋 (續下一ノ五四一、鶏庭)

永代橋 崩る(正上一二一〇、蜘蛛三

三)

永樂錢 「クロ」貨幣ヲ見ヨ

猿獐 探檢(正下三五四、續昆一〇四)

嬰羽嬰商 (正上一三六、南留二二)

英雄 豪傑の名(正下三九二、訓淺二四)

豪傑と稱するは史記より始る(正下三

九四、訓淺二七)

●エウ

要 (といふ語(續上八八一、松落)

謠曲 「ウタ」謠曲ヲ見ヨ

腰鼓兄弟 (續中五七八、骨董)

竊窺 (の訓(正上一三五、南留一九)

●エオ

可愛 (の訓(續上九〇七、河社)

●エカ

柄鏡 「カ」鏡ヲ見ヨ

惠我地 (續上九一六、河社)

●エキ

疫 「ヤク」ヲ見ヨ

驛起稻 (續中一六八、比古)

驛馬 (正上八三四、昆陽七七)

驛路鈴 (續上八九四、松落)(正上一〇一

二、茅窓(續上六四二、れさめ)(續中  
八三二、後松)

易經 慶長刊周易序(正上七九五、昆陽二)

易然集 後詠(續上一三一、年山)

鰻魚 (正上八一五、昆陽四〇)

●エク

江口の君 (の莫入(正上九三二、假世

一七)

●エシ

繪師 典故に暗し(正下四三五、書譚三

五)

會式 (續下一ノ二七三、年々)

繪島 淡路州の稱號(續下一ノ二二〇、

閑次)

江島其積 (が喩草(正上九五二、假世

五〇)

惠心僧都 歌を惜む(正上三八三、傍

廂一四二)

●エリ

蝦夷 (正上一三三、南留一五)(正上一七七、

●ウム

雲海 (正下一三二、世事二七)

雲慶 ——と運慶(正下七四〇、兎小一二)

八六)

雲泉 (續中一〇八六、近世)

雲泉岳 普賢岳焼失(正上一七五、茶筆六〇)

雲南省 (正上一七八、茶筆一二)

雲萍雜誌 序(正下七五三、雲萍一)

縹綱 (續下二ノ五一六、梅筆)

海野幸典 本居宣長——の子を詰る(正上

一二三四、後言九)

運命 開運は富貴長久(正下三九五、訓淺三

〇)

必死を極めし人開運せし話(正下一五九、

世事七三)

●ウメ

梅 (正上一四二、南留三〇)

「な花の兄といふ(續上六五二、れざめ)

(續下一ノ三二五、燕居)

の造り花に鳩(續上四七八、蒼梧)

「に鶯(正下一八〇、世事一〇九)

「の説(正上一〇六二、茅窓八七)

櫻 勅名(正上九九九、鋸屑二六)

梅の香おかしき——を見出す(續下一ノ七〇

五、難江)

梅干 食膳に——を置く事(續下二ノ五二六、

梅筆)

梅若 の像(續下二ノ一〇八、柳記)

梅若社 (續上一九六、南向)

梅若塚 (續下二ノ一〇二、柳記)

●ウモ

埋木 淡路より出る——(續下一ノ二〇、閑

次)

紫檀、黒檀、扶桑木、神代杉(正上一二七

九、春波一〇四)

●ウラ

うらさびし (續上二八、年山)

うらぶれ (續下一ノ三六二、燕居)

裏板 (正下二三一、家屋二二)

浦島太郎 考(續中一〇七〇、烹雜)

裏辻公風 美丈夫——(正下九三四、閑窓

三五)

ト窟 (正上一九三、茶筆三七)

老医少ト(續下一ノ四〇二、燕居)

八卦(正上一四一、南留二九)

ト部家 (續上九〇八、河社)

孟蘭盆 (續上二二六、庖丁)

胡爪の牛(續中五一、骨董)

怨 報——以德(正上一一六〇、春波七一)(續

下二ノ一二四、閑次)

怨念の禍(續下一ノ一九四、閑次)

怨念の爲座敷鳴動す(續下一ノ一九一、閑

次)

●ウリ

瓜 の字(續下二ノ一〇〇、柳記)

十をふりとかく(正上一六二、南留六五)

瓜の蔓に茄子なし——といふ謠(續下一ノ

三八〇、燕居)

●ウル

うるりこ——といふ魚(續中七九、比古)



産剃 に剃刀を用ひざる事(續中一一五一、

歷世)

●ウヘ

上杉家 に傳へたる正成薩房の書(正下三

七一、我宿二〇)

上杉謙信 の氣象(正上二九〇、雨窓六七)

上杉憲春 が藩氏の無道を諫めし書(正下

三六七、我宿一二)

上田秋成 (正上九四六、假世四一)

上野 の名稱(續上九五、南向)

——四時の眺(續下一ノ二〇二、年々)

●ウマ

うま といま(正上八七、北邊九八)

うまさもの (正下八〇二、雲萍八二)

うまれしやう といふ事(正上一四九、南

向四三)

馬 (正上七八一、圓珠七一)(正上一四一、南

留三〇)

以一爲鹿(續下一ノ三五三、燕居)

板立(續上八五八、松落)

五馬、三馬、二馬(正下四八二、兎小三ノ

五七)

月毛逸物(續中八六三、後松)

沛芡(續上三八三、醋中)(續下二ノ三三〇、

柳隨)

はたせ(續下一ノ三一六、燕居)

軍論(續中八〇〇、後松)

駒(正上七四五、圓珠七)

真(正上三四、北邊七)

頁大寛一事(正下九三九、閑窓四三)

駿馬一瞬の碑文(正下四九〇、兎小三ノ六

八)

——の毛に膏と云ふ事(續中六〇六、後松)

名——の產地(正上一二七、南留五)

角生ひたる(正上三八八、傍廂一五一)

——小兒を救ふ(續下一ノ五八、閑耕)

松五郎が遺愛の——考異(正下五五四、兎小

九ノ三九)

馬欄 (續中六〇六、後松)

馬標 (續中九〇〇、後松)

馬代 (續上二九二、梅日)(續上八五八、松

落)

馬腹帶 古書——之圖(續下二ノ五四〇、

梅筆)

字合 ——稱呼考(續上五七四、織錦)

廐 (續上六六九、れさめ)(正下二四三、家

屋四五)

——の圖(正下二四三、家屋四五)

——地割の圖(正下二四四、家屋四五)

●ウミ

海 をわたのはらといふ(正上七四三、圓珠

三)

——のなき國をよめる歌(正上九四二、假世

三二)

山陽の——を江と稱する説(正上一八〇、茶

筆一五)

海龜 (續下一ノ六八、閑耕)

海坊主 (續下一ノ四一二、燕居)(正下九

三六、閑窓三七)

生 の訓義(續下一ノ四〇五、燕居)

○三四、消閑二)

宇治橋

(正上一一八、北邊一五一)

—再造の事(正下九三九、閑窓四三)

散米<sup>ウツマキ</sup>

(續下一ノ九六、閑耕)

團扇

といふ名(續上七五九、松落)(正上九

八四、鋸屑二)

團扇賣

(正上一一九三、蜘蛛三)

●ウツ

うつくしき

(續上八一、年山)

卯杖

(續上九一四、河社)(續下二ノ一四三、

柳記)

卯槌

(續中六〇三、七七七、後松)

宇都宮由的

の綽名(正上九四九、假世四

六)

宇都山

—十圓子(續下二ノ三〇、足薪)

宇津保物語

(續上九二二、河社)

太秦

といふ邑名(正下一〇九三、梧拾四六)

太秦寺

唐土の——(正下一〇九三、梧拾

四六)

鶉

(續上二二一、庖丁)

移鞍

(續中七九六、後松)

●ウテ

腕ぬき

(續下一ノ四九〇、筠庭)

●ウト

善知鳥

(續中一〇二七、烹糴)

温飴

—の看板、芋川——(續下二ノ一七

〇、柳筆)

●ウナ

うな

といふ古語の義(續中五六、比古)

垂髻

(正上七五九、圓珠三四)(續中五六、

比古)

鰻

藤枝の——(正上一一六二、春波七四)

一方にのみ目ある——(正上一一六二、春波

七四)

—の蒲焼(正上三〇七、傍廂一〇〇)(續中四

八六、骨董)

●ウニ

雲丹

(正上一五二、南留五〇〇)

●ウネ

采女

(正上一一五、北邊一四五)(正上一六

〇、南留六三)

●ウノ

宇野三平

(正上九五〇、假世四七)

鶉の目鷹の目

といふ詞(正下一一九、世

事六)

●ウハ

乳母

(正上七五五、圓珠二七)

あこ(正上一三四、南留一八)

姨石

(正上八二〇、昆陽四九)

姨捨山

(正上七五八、圓珠三三)

後妻打

(續中一〇五九、烹糴)

古圖考(續中五五二、骨董)

鱗

(續上一四、年山)

—の字義(正上一四六、南留三九)

上薙

(續中八二八、後松)

上裳

「モ」裳ヲ見ヨ

●ウフ

生衣證文

(續中六七九、後松)

産毛

な少し刺り残す事(續中一一五一、歴

世)

韓人詠歌(正上六九〇、桂林九)

清人詠歌(正上六九一、桂林九)

「辭世」

一の歌(續上七二、年山八六)

一の詩歌といふもの(續下一ノ一八四、

閑次

村松喜兵衛の一(正下一三、梅叢一八)

一の添削(續下一ノ一八五、閑次)

歌占 (續上二二九、梅日)

歌繪 (續中一二六四、天朝)

歌川 遊女 一の句(正上一二四八、春波五

一)

歌垣 (續上九一六、何社)

歌字盡し (續下二ノ一一四、柳記)

歌所 (續下一ノ五六一、難江)

歌主二人 (續下二ノ一二二、柳記)

歌念佛 に名ありし人(續下二ノ一三九、

柳記)

一の句(續下二ノ一三九、柳記)

一の見えたる抄録(續下二ノ一三八、柳

記)

日暮の一(續下二ノ一三八、柳記)

歌袋 (續下一ノ一五九、閑次)(正上一〇〇

二、鋸屑三一)

歌枕 (續上八三九、松落)

歌よみ うた人(續上七八一、松落)

一は縁の詞を大事とす(續下一ノ二八六、

年々)

謠曲 の呼法(續下一ノ六、閑耕)

中の小釋(正下六五四、兎小九ノ二一

六)

うたひもの(續下一ノ七七、閑耕)

中の禁句(續下二ノ五三七、梅筆)

熊野及鉢木(續下一ノ一三一、閑次)

謠本 の數種(續下一ノ七七二、難江)

謠の抄 の勘文(正下一四八、世事五五)

●ウチ

うちあはび (續上八八四、松落)

打 の字義(續上四七七、昔梧)

打板 (正下二三七、家屋三四)

打衣 の着様(續下一ノ四五三、松竹)

打毀 (正下七〇四、兎小二ノ二三)(正下七

一二、兎小二ノ三七)

天明七年の事件(正上一〇八、蜘蛛二

九)

打出小槌 (續中五八六、五〇九、骨董)

打橋 (正下二三七、家屋三四)(續中六八三、

後松)

氏神 (正下一四四、世事四九)

氏子(續上七九三、松落)

一の神事をせざる崇の事(續下二ノ五一

三、梅筆)

氏寺 (正下一六五、世事八三)

氏長者 (正上一五〇、南留四五)

氏より育ち (正下七八六、雲萍五五)

内侍 (正下二七六、家屋一一〇)

内舍人 (續上九六八、河社)

内鼠 (續下二ノ一三四、柳記)

内文 (續上一七九、錦所)

宇治行幸 白河院——行家的美談(正下一



大海二

竹原某が歌の徳(續下一ノ三二六、燕居)

禍を止めし歌と俳句(續下一ノ一九一、閑

次)

「歌集」

能宣集(續上九四〇、河社)

重明集(續上九五五、河社)

重之集(續上九五一、河社)

順集(續上九四六、河社)

高光集(續上九五〇、河社)

賴基集(續上九五一、河社)

兼輔集(續上九三六、河社)

元輔集(續上九四七、河社)

兼輔集(續上九四〇、河社)

忠見集(續上九五九、河社)

中務集(續上九六二、河社)

中務集の歌(續上三九、年山)

「雜」

丑時參詩歌(正下七三一、兔小一〇ノ七二)

歌をつくるといふ事(續上八七九、松落)

忍戀の願(續上一〇三四、河社)

戀の歌(續下一ノ八六、閑耕)

別戀(續上四〇、年山)

寄繪戀歌(續上三三四、梅日)

古今集新古今集戀の歌(續上一〇三四、河

社)

茸狩を歌に咏む事(正下九二五、閑窓一八)

相聞(續上三八九、酣中)

儒教の意によれる歌(續下一ノ九〇、閑耕)

驛名をかくしてよめる歌(正下五三、遊京

一)

心を得てみるべき歌(續上一〇二二、河社)

道歌(正上一一四八、春波五〇)

和歌を引きて材藝ある人の箴を説く(正下

九、梅叢二三)

情に親しき歌は自ら世に弘まる(續下一ノ

一四六、閑次)

延寶の帝御讓位の時某僧の歌(正下九六九、

大海八)

古人の歌は面白し(正下三七四、我宿二四)

延寶の帝煙草の御詠(正下九七一、大海一

三)

荷田東滿が神道の歌(正上九四〇、假世三

〇〇)

職行親王妃たかうなの御詠(正下九六五、

大海一)

ひもの歌(正上七七四、圓珠六〇)

牡丹と杜若(續下一ノ四四五、閑次)

れたる萩の歌(正上七七四、圓珠六〇)

ふたむら山(續上六七、年山)

輕重先後(正上一〇一、北邊一二二)

時代不同の歌(續上三七、年山)

紙燭かな書の歌(續上二四三、梅日)

水上月歌(正上一〇〇三、鋸屑三二)

不斷光佛歌(續上一〇一八、河社)

中國李豐の詠歌(正下九七五、大海一九)

通枝の詠歌(正下九六八、大海七)

細川侯の歌(正上二六九、雨窓三三)

駕氷申也が歌(正上四〇一、泊々四)

琉球人詠歌(正上六九一、桂林九)

五、河社)

討議論をきらふ(續上九一八、河社)

貫之の大阪の關の清水の歌(續上六四五、

れさめ)

發句つたなき歌(續上一〇一七、河社)

戀とみゆるを季に入れたる歌(續上一〇二

七、河社)

ほのゝと明石の浦の云々の歌の作者(續

下二ノ五二一、梅筆)

きくやいかの歌(續上一〇二七、河社)

歌といふ文字を哥とかきならべる(續上五

四四、織錦)

忠盛かいかれの歌(續上六四四、れさめ)

基俊雲を雨とせし歌(續上一〇二五、河社)

關のことわりわすれたる歌(續上一〇六七、

河社)

紫のほへる妹とある歌(續上五九三、織

錦)

阿部仲鷹があなうなばらの歌(續上六三一、

れさめ)

歌にやまといふことを冠せたる(續上

五八一、織錦)

古今集あふみよりの歌(續上五四七、織錦)

「歌題」

隱居の歌(正上四〇八、泊々一五)

題詠(正上一三二、南留一三)(正上九九、

北邊一八)

探題(正上五七、北邊四六)(續下一ノ二二

三、年々)

題の難(續上一〇一六、河社)

頓阿の物名歌(續上一〇二五、河社)

歌合(續上一〇一五、河社)

「歌會」

和歌會議(續中七九〇、後松)

寶曆六年葛飾別業會の歌(續上五七六、織

錦)

歌會分體(續下一ノ四一一、燕居)

「歌話」

慈母の咏歌にて子犯罪を免かる(續下一ノ

一八四、閑次)

小兒真心の歌(正上三八三、傍廂四一)

和歌免執(續下一ノ三五七、燕居)

和歌免姦通罪(續下一ノ三六八、燕居)

撰集に入ること(續下一ノ八七、閑耕)

靈光院烏丸光榮卿の和歌を賞せらる(正下

九六七、大海六)

日野資枝求和歌傳話(正下九三八、閑窓四

一)

我頼のうた(續下一ノ三〇九、燕居)

七夕歌槐葉に書く事(續下二ノ五一四、梅

筆)

延寶の御時もし多き歌を召されける中(正

下九七三、大海一五)

本歌の詞の所をかへざる歌(續上一〇三一、

河社)

貫之の歌の下をかへたる(續上一〇二一、

河社)

佛法僧の鳥歌をよみし事(正下一〇三六、

消閑五)

武者小路實陰が咏歌竹亭月(正下九六五、

三夕の―(續上五五八、織錦)(續下一ノ七二七、難江)

今古詠―のたがひ(續上一〇三四、河社)

百首―はじめ(續上一〇一五、河社)

からやまとの―のけぢめ(續上五四二、織

錦)

耳にさばる―(續上六六、年山)

―の餘情と餘韵(續下一ノ二八七、年々)

和詩(正上三〇四、傍廂五)

詩―同趣(續上九五、年山)

―を以て實を蔽ふ可らざる事(續下一ノ九

〇、閑耕)

自棄のいましめ(續上六七、年山)

―連歌懸物(續上三六三、梅日)

―道評論(正上二二二、茶筆八四)

―に付て(正上一一六、獨語一一九)

數島の道(正上三一、北邊一)(正下一六二、

世事七八)

―は修身齋家の妨とならず(正下八〇二、

雲萍八一)

「歌格、歌体」

三十六言の―(正上三八〇、傍廂一三六)

同し詞のある―(續下一ノ八二二、難江)

和歌の体裁(續下一ノ八八、閑耕)

―に關字(續上六、年山)

用語のみを遣ひたる歌(續上一〇二〇、河

社)

後世の旋頭歌(正上三六一、傍廂一〇三)

短歌(正上一五八、南留六〇)(續上一二九、

年山)

長歌(續上一二九、年山)(正上一五八、南

留六〇)

「歌詞」

詞の時代(正上六四、北邊五八)

―いゝましき事(續上一〇一五、河社)

―の反切(正上九三、北邊一〇八)

―のしな(續上六〇六、織錦)

―をもじにかくにひがこと多き事(續上七

八二、松落)

「評論」

宮内卿俊成卿女の歌沙汰(續上一〇三〇、

河社)

方角たがひたる歌(續上一〇二〇、河社)

新古今よき歌三首の中(續上一〇一八、河

社)

程と頃とつかひたる歌(續上一〇二一、河

社)

歌の評(正下八六九、花月六二)

人口に膾炙する歌となく(正下一四二、

世事四四)

撰集に古歌の句を改られし事(續下二ノ五

二八、梅筆)

撰に入ること不審の歌(續上一〇二八、河社)

後撰集より以下の集に重出の歌(續上九七

九一九八五、河社)

誤て歌の作者を定む(續上四六、年山)

神無月時雨と共に云々の歌(續上六三八、

れさめ)

疑はしき歌(續上二七、年山)

後撰集より千載集までの歌の評(續上九八



るの論(續中二三〇、比古)

●ウサ

卯酒 (續上三四〇、梅日)

宇佐八幡 宇佐使再興の事(正下九一七、閑窓四)

●ウシ

うしろめたなき (正上一一〇、北邊一三七)

牛 (正上七八一、圓珠七二)

― 尊を崇ぶ(正上一〇〇八、鋸屑四〇)

以羊易―(續中一〇五六、烹糴)

― 放れて廳上に座すること(續上六四九、れざめ)

以―祭神(正上三五二、傍廂)

牛車 (正上一四八、南留四二)

牛込 の名の起り(續上一八九、南向)

榎町(續上二〇四、南向)

― 上水道端道祖神の古碑(續上二〇一、南向)

牛天神 (正上一四五、南留三七)

牛は牛連 (正上一一七六、春波九九)

大人 うし、ぬし(正上一四五、南留三七)

雨師 (續下二ノ五二八、梅筆)

蛆 虫を―といふ(正上七四七、圓珠一〇)

丑時參 の歌(正下七三一、兎小一二ノ七二)

潮 (正上八五九、昆陽一二二)

後 うしろ、しりへ(正上七五五、圓珠二六)

後刺 (續中一一四七、歷世)

●ウセ

芋壺 「イモ」字ヲ見ヨ

雨前茶 「チャ」茶ヲ見ヨ

●ウリ

雨窓閑話 の序(正上二四八、雨窓一)

●ウタ

うたて (續上八七八、松落)

歌 ―はいひつくきぬをよしとす(續上八四〇、松落)

―の聞やう(續上二二、年山)

―の教導(正上一〇六、北邊一三二)

―の巧拙(正上五二、北邊三九)

―の四知(正上九八、北邊一二七)

―の次第(正上九九、北邊一八)

深情詩にありや―にありや(正上一〇〇八、鋸屑四〇)

古歌のこゝろ(續上七八二、松落)

作者の名(正上三三八、傍廂三三八)

―の得失(正上八二、北邊九〇)

―よむべし(正下九七五、大海一九)

―に同心同字を忌む(續下一ノ二九二、年々)

有注の―(正上四三、北邊二二)

詠―の事(正下八五六、花月四〇)

上古の―奇を好まず(正上五五、北邊四三)

一首十體の―(正下一〇四六、消閑一六)

言をいさいかかへて心をいたくかへたる―

(正上三四四、傍廂七五)

中古の―は萬葉の心に及びがたし(續下二

ノ五三〇、梅筆)

古―の事(正下八九三、花月一〇三)

鰯 (續下二ノ六二、難江)

鎌倉の— (正上一一六二、春波七四)

一曰示(正上六四八、善庵二一)

# ウ

鵜 (正上七五六、圓珠二八)

# ウイ

烏有先生 (正上二〇二、茶筆五一)

外郎右近 (續下二ノ七七、足薪)

# ウエ

植木 の流行(正上二一八、茶筆七七)

殖槻 といふ地(續上九八六、河社)

# ウオ

魚 (正上七七六、圓珠六三)

—をといふ(續上二四六、梅日)(續中

四六九、骨董)

—子(正上八七二、昆陽一四八)

古人の名をおへる—名(續下二ノ二三七、年々)

人名の— (正上三六五、傍廂一一一)

—彦(續上三八四、醋中)

懸居翁—名隱題のうた(正上四〇六、泊々

一二)

水すめば—すむ(正上一四五、南留三七)

湖水の—醉ふ(續下二ノ一二一、閑次)

土中より—を得(續下二ノ四三〇、柳隨)

—沂水(正上九八九、鋸屑一一)

—化石(續中一〇四一、烹雜)

魚板 古製—(續中四九九、骨董)

# ウカ

うかる といふ詞(續中六八、比古)

うかれん坊 (續下二ノ二八、足薪)

口漱 (正上六四三、善庵一一)

浮瀬 (續中一〇六五、烹雜)

# ウキ

浮世 (續下二ノ一〇四、柳記)

此世は夢の迷の中(正上二一七三、春波九四)

—の相場(正上九二八、假世九)

世の中はあひもち(正下九八一、多波八)

—に厭果申候(正上九二四、假世一)

浮世狂 といふ詞(續中五三二、筠庭)

浮世人形 (續中四八一、骨董)

浮世袋 (續中四八一、骨董)(續中四九八、

骨董)

# ウク

鶯 (正上七七六、圓珠六三)

百千鳥は—の異名(正上七四七、圓珠一

二)

鶯、百舌、百千鳥(正上一〇三九、茅窓四

九)

老の—(續上七四、年山)

梅に—(正下二八〇、世事一〇九)

# ウケ

うけらが花 (續上八八、年山)

有卦無卦 (續下一ノ三、閑耕)

# ウコ

右近源左衛門 (續下二ノ二〇〇、柳筆)

右近の馬場のひをりの日 といふ來れ

○

陰門 開(續下二ノ八七、柳記)

のうた(正上三〇四、傍廂四)

陰陽 (正下一〇六八、梧拾四)

陽九陰六(正上八二五、昆陽六〇)

飲酒 (續中六六四、後松)

飲食 祭 (正上八六八、昆陽一四〇)

飲中八仙 の崔宗之(正下四三二、書譚二)

九)

韻塞<sup>キムフタキ</sup> (正下一一七、世事二)(續下一ノ六一)

五、難江)

齋部廣成 —の失(正上三三六、傍廂六)

一)

●イメ

いめたて、 (續下一ノ二六七、年々)

維明 僧 (續中一〇八六、近世)

●イモ

芋 の定價(續下二ノ八五、柳記)

一壺(正上八一五、昆陽四〇)

一の山(續下二ノ一八一、柳筆)

鑄物師 (續下二ノ二八四、柳隨)

惣左衛門(正上九六〇、假世六六)

蠅蜒 (正上三九三、傍廂一五八)

●イヤ

醫藥 「クス」藥ヲ見ヨ

●イリ

入綾 (續下二ノ二八五、柳隨)

入江府生 (續下一ノ一二〇、閑次)(續下

一ノ一二〇、閑耕)

入子さや (續下一ノ五九四、難江)

入ぬる磯 (續上一〇二八、河社)

入日をあらふ (續上一〇一八、河社)

不入計村<sup>イリヤズ</sup> (續下二ノ八五、柳記)(正下三

〇三、續昆一三)

煎炭 (續下二ノ二八五、柳隨)

海參 (正上一〇〇六、鋸屑三六)

●イル

入間詞 (續下二ノ二二三、柳筆)

入間様 (續下二ノ二二三、柳筆)

●イロ

いろ といふ冠り物(續下一ノ二七一、年々)

いろは (續上一二二五、年山)(續中一二六

〇、天朝)(續上一〇一三、河社)(正上九

三七、假世二四)(續上三八五、醋中)

奥加ニ京ノ字ニ事(正下九二九、閑窓二

四)

文字(正上三三六、傍廂六〇)

和難(續上七一、年山)

四十七言の歌(正上四〇九、泊活一七)

色 一の名(正上一三八、南留二四)

五一(正上九七六、閑秋一九)

色氣 の説(正下七七二、雲萍三一)

色好 する男(正上九六九、閑秋七)

色難 (續下一ノ二三八、年々)

圍爐裡 白染圍爐(正上八六八、昆陽一三

九)

圍爐裏之間 (正下二八九、家屋一三九)

●イワ

醫王山 清光寺(續上二〇三、南向)

射分の錢 (續下二ノ一四三、柳記)



今宮祭 (正上九九三、鋸屑一七)

今様 (正上一七一、獨語二九—三二)

むかしの歌(續上七六六、松落)

●イミ

忌寸 (正上五二九、玄同七八)

諱 (正上三六七、傍廂一一四)

避 (續中九八八、後松)(正上八〇八、昆陽二五)

陽二五)

一の字(續中八一八、後松八一六)

天子の法(續上八四、年山)

一の字の説(正上二〇九、茶筆六二)

本朝避(續上三九六、醋中)

皇子の御(正下一〇〇、遊京下三一)

●イム

インキ 阿蘭陀墨(正上八三二、昆陽七三)

ゐんこ (正上一五六、南留五六)

いんでん皮 (正上一四〇、南留二八)

印章 (續上八八二、松落)

用二名下字(續上一八一、錦所)

林氏の——(正上七一四、桂林六〇)

和歌に——を押す(正下一九六、世事一三八)

八)

百濟寺古 (正上七〇一、桂林三二)

印刷 書版刷墨(正下三一八、續昆三八)

西洋印書(正上八四六、昆陽九九)

印度 孫七天笠物語(正下六六七、兎小一一二—三七)

牛糞を尊ふ(正上一〇〇八、鋸屑四〇)

印籠 (續下一ノ五二二、筠庭)

九)

を開きし時の歌(正下九六八、大海)

院號 (續下一ノ二三三、年々)

院庄碑 (續下二ノ三〇一、柳隨)

因果應報 (續下一ノ一九二、閑次)(續下一ノ一三〇、閑次)

早く現世にあり(正下七五九、雲萍一〇)

因果地蔵 (續下二ノ一一一、柳記)

引戯 (正上八二九、昆陽六八)

引證 非なる者多し(正上一一六四、春波七八)

八)

隱居 (正下七五九、雲萍九)

隱元禪師 烟草を惡む(續下一ノ一七五、閑次)

隱語 (正下四六六、兎小八ノ二九)

隱者 と菊(續下一ノ一五八、閑次)

遁世家の用意(正下八〇七、雲萍九〇)

張良隱遁(正上二〇九、茶筆六二)

隱囊 (續上三五四、梅日)(正上八四〇、昆陽九〇)

陰火 小右衛門火(正下六一六、兎小八ノ一五)

陰莖 鐵槌傳(續下一ノ七五三、難江)

陰溝 (續下一ノ四一〇、燕居)

陰草 (正上七四九、圓珠一五)

陰車 の轂(續下一ノ七五四、難江)

陰德 賊により死を免る(續下一ノ一八二、閑次)

竹垣三右衛門の——(正下一〇七一、梧拾一

二、閑次)

竹垣三右衛門の——(正下一〇七一、梧拾一

二、閑次)

竹垣三右衛門の——(正下一〇七一、梧拾一

岩船檢校 (續下二ノ二八七、柳隨)

位牌 (正上一二九、南留八)

石村近江 (の系(續下一ノ四八三、塙庭)

缸 (正下二四六、家屋五一)

祝木 (續中五二七、骨董)

忌食 (の遺物(續下一ノ一五五、閑次)

茨木檢校 (續下二ノ二八七、柳隨)

●イヒ

いひかゆ (續上六四七、ねさめ)

飯 (な「カレヒ」といふ(正上七五八、圓珠三

三)

飯倉神明 (續上二二七、梅目)

飯綱權現 (「イツ」伊豆那ヲ見ヨ

飯豐皇女 (正上三九〇、傍廂一五三)

の御行跡(正下一〇四五、消閑二一)

飯沼天神 (の靈現(正下四六六、兎小二ノ

二五)

鵜鴬 (正上九八七、鋸屑七)

●イヘ

家 (「ガカ」家屋ヲ見ヨ

家様 (續上三九二、醋中)

雖 (の字(正上二二〇、茶筆八一)

●イホ

いほり (續上七七二、松落)

位袍 (裁縫(續中八〇八、後松)

「ハウ」袍参照

異木 (正上一八四、茶筆二二)

五百代小田 (續上一四三、年山)

虻蟲 (正下四六九、兎小二ノ三三)

●イフ

衣服 (續上八一、松落)(正上三五六、傍

廂九五)

ころも、はかま等のモマ(續下一ノ二七五、

年々)

「な」む字は髪ノ字を用ふ、(續下一ノ

三八八、燕居)

改良の案(正下九八六、多波一七)

「は椎」ばしてそめて黒き色なる事(續

上八六八、松落)

葉山間四季衣裝并給小袖着る時節(續中八

五九、後松)

とのゐもの (續上六五八、ねさめ)

仲國小督局を尋ねに赴 (の論(續中六〇

八、後松)

入磨像 (論(續中九三三、後松)

武家 (附着例(續中六五四、後松)

の變遷(續上一、松落)

寛永以來 (の變遷(正上二二——二六、獨

語三六——四三)

御國人の衣きるは左澤なりし事(續上八一

八、松落)

召具(續中九四三、後松)

「モヤ」模樣ヲ見ヨ

●イマ

今一方 (續下二ノ八六、柳記)

今一所 (續下二ノ八六、柳記)

今鏡 (續中二九〇、比古)

今神の湯 (正上三八〇、傍廂一三七)

今式部のおもと (歌集(續上九二、年山)

今參り (正下八八八、花月九五)

## ●イナ

いなせ (續上八二、年山)

いなびかり (正上七四二、圓珠二)

稲負鳥 (續中四一四、比古) (正上一四四、

南留三五) (續下二二六六、年々)

稲置 (正上五二九、支同下七八)

稲田姫 (續下二一九、閑耕)

稲葉熟水 (正上八一三、昆陽三七)

稻荷 (續下二七三八、難江) (正上一〇四

五、茅窓五八)

——の正一位(正下五三六、兎小九ノ九)

稻荷岡 (と小砂とり) (續上七二七、還魂)

田舎詞 (正下一六七、世事八七)

田舎間 (正下一四一、世事四三) (續下二

八四、柳隨)

因幡 遊女——が淨瑠璃(續上六七五、還魂)

伊奈半左衛門 (正上一二一〇、蜘蛛三一)

電光 (正上七四二、圓珠二)

## ●イヌ

犬 のはなし(續下二ノ二八四、柳隨)

——猫幸不幸(正下七二七、兎小一〇ノ六

四)

白狗の功(續上七七三、松落)

——のさんた(續下二ノ六一、足薪)

飼——二十里を経て主家に歸る(續下一ノ五

八、閑耕)

小兒の額に——字(續上八、年山) (續上三

〇六、梅日)

元祿年中——の御觸(正下六一〇、兎小八ノ

一三九)

犬石 (續中五三、比古)

——の記(正下五四、遊京四)

犬追物 の事(續中七〇一、後松) (續中八八

〇、後松) (續下二ノ二八七、柳隨) (續中八

六六、後松)

——の盜腸(續下一ノ三二一、燕居)

——装束の間(續中八七四、後松)

犬神遣 (續下一ノ五五、閑耕)

犬神人 (續下一ノ五四、閑耕)

犬走 (正下二六〇、家屋八〇) (續中七〇七、

後松)

犬張子 (續上三〇六、梅日)

犬坊 の事(續中七〇七、後松)

## ●イネ

稻 穀(正上三六七、傍廂一一三)

鵜の——附供大人米考(正下六五〇、兎小九ノ

二二〇)

異年號 「ネン」年號ヲ見ヨ

## ●イノ

ゐのかしら物語 (續中九三五、後松)

井上喜膳 の奇行(正下二〇七七、梧拾二

〇)

亥子餅 (續上二二六、庖丁) (續中七六一、

後松)

亥ノ字 (續上三四三、梅日)

亥ノ日 (續上二二八、梅日)

## ●イハ

岩 ——巖と同じ(正上七四六、圓珠一〇)

岩茸 木曾の——取(正下七八一、雲華四七)

岩とかしは——といふ詞(續上八、年山)



一 溪道三 (續下二ノ二八〇、柳隨)  
 一 莖二葉 (正上三九六、傍廂一六四)  
 一 切經 (續下二ノ二七三、柳隨)  
 一指 (正上八二七、昆陽六四)  
 一 週 七日を以て——とす (正上五九、春波七〇)  
 一 絲和尚 (續下二ノ二七九、柳隨)  
 一 身田 (正上九二〇、輜軒三八)  
 一 生不犯 (續下二ノ二七三、柳隨)  
 一 升瓶 (正上七六、北邊七九)  
 一 一寸先はやみ (續下二ノ二八五、柳隨)  
 一 一寸法師 (續下二ノ二九、足薪)  
 一 世の源氏 (續下二ノ二七五、柳隨)  
     —座次(續中九七一、後松)  
 一 錢 (正下三二九、續昆五八)  
 一 錢切 (正下一八五、世事一九) (續上二四一、梅日)  
 一 錢職分 由緒(正下五一九、兎小八ノ一二)  
 一 錢七 (正下三三六、續昆七一)

一 刀流 (續下二ノ二八一、柳隨)  
 一 搦手半 (續下二ノ二七六、柳隨)  
 一 竹鼓律 (續下一ノ一二三、閑次)  
 一 竹塚 (續下一ノ一九三、閑次)  
 一 蝶 (續下二ノ二七八、柳隨)  
 一 筆 (正上三二七、傍廂四五)  
 一 筆書寫大般若 (續下二ノ二七九、柳隨)  
 一 服一錢 煙草の—— (續上七三三、還魂)  
     —下り出茶屋(續下一ノ五三六、筠庭)  
 一 伏三向 (續下一ノ六一一、難江)  
 一 遍上人 緣起(續下二ノ二八二、柳筆)  
 一 本御書所 (續上一六六、錦所)  
 一 齋宮 (續下一ノ五五九、難江)  
 一 齋女 (續上八二四、松落)  
 一 飯綱 「イツ」伊豆那ヲ見ヨ  
 一 逸品、神品、妙品、能品(正下四二七、畫譚二二)  
 一 泉 しみづ(正上七五〇、圓珠一七)  
 一 泉殿 (正下二四八、家屋五六)  
 一 和泉國 (續上四三三、蒼梧)

出雲白 と云ふ牡丹(續下二ノ一五八、柳筆)  
 出雲大社 出幸大社(正上三九二、傍廂一五八)  
 ●イテ  
 いでや (續上八七九、松落)  
 井堤 (正上七五二、圓珠二〇)  
 位田 の制(正上一五一、南留四八)  
 ●イト  
 いとま (正上七四七、圓珠一一)  
 絲遊 (正上七四二、圓珠二)  
 絲卷 (續下一ノ五二〇、筠庭)  
 伊藤仁齋 (正上九五三、假世五二)  
     —の度量(正上九五〇、假世四八)  
     —盧士維禎の事(續上一二一、年山)  
     —の學流(正上一〇二〇、茅窓一五)  
 伊藤蘭嶋 (續下一ノ八四、近世)  
 從父兄弟 (正上七七九、圓珠六八)  
 從弟姪 (續上六九九、還魂)  
 井戸屋 (正下二四四、家屋四七)

一場姫 (續下二ノ二八一、柳隨)

一處懸命 (續下二ノ二七六、柳隨)

一樹の陰に宿るも他生の縁 と云ふ詞

(正下一五六、世事六七)

一兒二山王 の義(續下二ノ一六二、柳筆)

一條兼輝 節會内辨の時野々宮定基公の評

(正下九六八、大海七)

一口はれ (續下二ノ二七五、柳隨)

一ノ谷 上總五郎兵衛——の戦況を説く(正

下三七〇、我宿一八)

一ノ上 (續下二ノ二四二、年々)(續下二

ノ二七三、柳隨)

一ノ所 (續下二ノ二七三、柳隨)

一番 の訓み様(正上一五六、南留五七)

一文字 (續下二ノ二四五、柳筆)

一文字石 (續下二ノ二七二、柳隨)

一文毎日倍まし (續下二ノ二七九、柳隨)

一里 (正上八二七、昆陽六四)(續上九四、

牟山)(續下二ノ二七四、柳隨)

——の町數(續上三三〇、梅日)

一里かね (續下二ノ二八二、柳隨)

一里塚 の始(正上二六三、雨窓二二)(續

下二ノ二七二、柳隨)

一目兩勇 (正上五一八、玄同六一)

一兩に四貫文 (續下二ノ二七六、柳隨)

市川團十郎(五代目) の質朴(正上一一九

九、蜘蛛一四)

市川八百藏 初代(正上一二二〇、蜘蛛五

〇)

市ヶ谷八幡 舊地(續上二〇五、南向)

市邊押岩皇子 の墓(續下一ノ二〇、閑耕)

市野屋十郎兵衛 (續下二ノ一三三、柳記)

市姫神 (正上九九五、鋸屑二〇)

襟 (續下一ノ五六四、難江)

市守長者 (續下二ノ五三、足薪)

灼然 (正上七五八、圓珠三二)

●イツ

伊豆 (續上四三四、蒼梧)

伊豆那 信濃の——(正上六七二、善庵)

一家言 (續下二ノ二八二、柳隨)

一角獸 (正上八八三、昆陽一六七)(續下

二ノ二七五、柳隨)

一角地 (正上八六九、昆陽一四三)

一龜一鶴 (續下一ノ三二八、燕居)

一休禪師 の歌(續下二ノ三〇二、柳隨)

——歌を以て後花園院を薦めしと云事(續

下一ノ四〇、閑耕)

——係(續下二ノ三〇三、柳隨)

——がめでたしとする事(正下七六五、雪

萍一九)

——御用心の訓戒(正下八〇七、雪萍九一)

老佛老和尚(正上五一、玄同四九)

——の墨蹟(正下一〇三五、消閑四)

——の事並墨蹟(正下一〇三五、消閑四)

——一休ばなし並詩歌(正上一一二二、春波六)

——膳部の物を一器にまじへ食ふ(正下七

九五、雪萍六九)

一華堂 (續下二ノ二八〇、柳隨)

一貫文 の田地(續下二ノ二七七、柳隨)

一家 (續上八九一、松落)

伊勢貞丈 〃の像(續下二ノ二九八、柳隨)

— 安齋翁を難する事(續中六八八、後松)

伊勢貞春 〃の像(續下二ノ二九八、柳隨)

伊勢神宮 (正上一一八三、春波一一〇)

— 雛形守(續上四四八、蒼梧)

— 寶物(正上九一、北邊一〇五)

伊勢物語 (正上一三二、南留一三)(正上四四、北邊二五)

— 新義の大凡「いせと名つけたるは」(續上五六九、織錦)

— 拾穂抄注の事(續上六一九、れさめ)

— 新釋の事(續上八四二、松落)

— のうちの事(續上六六三、れさめ)

— 家集の辨(續上五七〇、織錦)

— 定家卿のかきたまへる——(續上七五七、松落)

— 東海談に——に知るよしまでと云事(續上六三三、れさめ)

●イリ

いそ (正上一四三、南留三二)

いそひたひ 〃の義(續中一五八、比古)

磯貝 (正上七四九、圓珠一四)

磯竹島 (正上九〇三、轡軒九)

石上社 伴佐伯ノ二殿(續上一五六、錦所)

勤臣 (續上八二、年山)

五十槻園 〃の早吟(正上四二二、泊泊三八)

五十集 (正上三四一、續昆八二)

伊曾保物語 〃の一節(正上一一六八、春波八五)

●イタ

いたや (正下四六一、見小一ノ二〇)(正下五九三、見小七ノ五九三)

板垣 (正下二六〇、家屋八一)

板壁 (正下二二二、家屋二三)

板倉重宗 (正上一一八一、春波一〇七)

板部 (續下一ノ二八四、年々)

板立馬 (續上八五八、松落)

板花檢校 (續下二ノ二八七、柳隨)

板ひき (續下二ノ二八五、柳隨)

板文庫 (續下二ノ二八三、柳隨)

板屋 くさく(正下二五八、家屋七六)

— の事(續中六八六、後松)

出衣 〃の事(續中六七八、後松)

— の製様々の事(續中六七八、後松)

魺 〃の和名考、〃の怪異(正下四七二、見小二ノ三九)

虎杖 イタトリ 〃の花(正上七四九、圓珠一五)

●イチ

いちめる (正下一二〇、世事六)

いやりこ といふ詞(正上七五八、圓珠三二)

一掾 不増——(正下三三一、續昆六三)

一河の流一樹の蔭 (續下一ノ一四〇、開次)

一絃琴 (正上四四、北邊二四)(續下二ノ二七五、柳隨)

一字かなから (續下二ノ二七五、柳隨)

一字訓傳 六書精蘊(正上一三四、南留一七)

一字平出 (正上一四九、南留四四)

一時軒 「ガカ」岡西惟中ヲ見ヨ



くすしの心得(正下八八三、花月八六)

からの——と我國の——(正下九九〇、多

波二三)

——杉某の定見(正下九九〇、多波二二)

——の剃髪(續下一ノ七九一、難江)

——の直言(正下九八九、多波二二)

——の門を開置く事(續下二ノ九五、柳記)

産醫可<sub>レ</sub>慎事(正上二二九、茶筆九六)

智醫(正上八〇三、見陽一六)

くすしの先見(正下八三六、花月七)

老醫少ト(續一下ノ四〇二、燕居)

——を信ぜずして巫を信ず(續下一ノ一二五、

閑次)

## 醫術

醫祖神(正上一〇八〇、茅窓一一九)

醫と祈禱(續下一ノ二八五、年々)

醫は仁の術といふ論(正下四七、梅叢七五)

藥の使用法(正下九九三、多波二八)

醫に望聞問切の四つありと云説(正下四七、

梅叢七四)

くすしの術(正下八六六、花月五七)

古のくすしの道(正下八三七、花月八)

くすしの道(正下八九五、花月一〇七)

醫療を料理と呼ぶ(續下一ノ三五〇、燕居)

礎イシブ  
(正下二八〇、家屋一一九)

碑文

建治の古碑(正下五〇八、兎小八ノ九九)

奈保山陵碑文(續中五五、比古)

多摩郡貝取村堀起の古碑(正下四六五、兎

小八ノ二八)

和州古碑(正上九一六、輜軒四ノ三〇)

墓碑銘(續下一ノ四四一、松竹)

打碑の法(續上五六七、錦織)

衣裳 は禮の標示(續下一ノ九三、閑耕)

衣裳法度(續下二ノ三〇一、柳隨)

衣食 世は皆——のために勞す(正下八一三、

雲萍一〇二)

伊斯都々伊 (續中三三二、比古)

位署 津輕家獻燈位署問(續中八六四、後松)

位色 の制(續中七八〇、後松)

以上 (續下一ノ七九二、難江)

櫛イシヤウ唯 (續上一六五、錦所)

移徙 ——朝(續上二五八、梅日)

——忌赤衣(續上二五七、梅日)

●イス

倚子 (續上三九四、醋中)(續上四〇一、醋

中)

鵞イスカ (正上九〇二、輜軒七)

蝦夷の——(正下七三〇、兎小一二ノ七〇)

●イセ

ひせき (正上七五二、圓珠二〇)

伊勢 のうめる御子(續下一ノ七八八、難江)

——家集(續上九四四、河社)

伊勢氏 系圖(續下二ノ二九一、柳隨)

——由緒書(續下二ノ二九五、柳筆)

——傳來逆煩ウツラエビラ煩(續中六一九、後松)

伊勢踊 (正下五一四、兎小八ノ一一〇)

伊勢講 (續下二ノ五一三、梅筆)

伊勢海 (續上九七四、河社)

伊勢の上人 (續上一八、年山)

伊勢の濱萩 (續下二ノ三〇一、柳隨)

●イコ

園基 遊民の外——を爲すべからず（正上一

一六五、春波八〇）

ト福福（續下一ノ三四〇、燕居）

——をよくする法（正下一〇〇六、多波五

〇）

——將基に遊ぶ人の箴（正下三三、梅叢五

二）

——の害につき後三年役の譚（正上一一六

五、春波八〇）

●イサ

いざ、てふ、 の詞（正上一四五、南留三六）

いさら水 （正上七五〇、圓珠一七）

伊齋鼓岳 （續中一〇八五、近世）

諫 のこと（正下八五一、花月三一）

石和 甲州——（正下二九九、續昆五）

●イシ

石 （正下三三〇、續昆六二）

奇——（續正下三一九、續昆三八）

一分婉（正上一八四、茶筆二二）

一材（正上一八九、茶筆三〇）

一不レ可レ踏（續上三一〇、梅日）

熊野饒頭——（正上九〇九、輜軒一九）

——咒病（續上三一〇、梅日）

麻布の異——（正下七二九、兎小一二ノ六八）

立石村の立石（正下六四六、兎小九ノ二〇

二）

——の價（正上七九九、昆陽八）

佐久山自然——（正下六七八、兎小九ノ二五

七）

喪捨山の嶽——（正上八二〇、昆陽四九）

石打ノ征箭 （續下二ノ二八五、柳隨）

石帶 幾筋（續上二九一、梅日）

石柏 （正下三二九、續昆六〇）

石河 （續上九七七、河社）

石川數正 ——大阪軍に加はる（續下一ノ

七八四）

石川雅望 太田南畝——を懲す（正上一二

四四、後言二六）

——を誹れる小説家に答ふ（正上一二五八、

難後言一）

石川重弘 が歌（續下三四〇、燕居）

石川丈山 ——の歌并凸凹字（正上一〇二

二、茅窓二〇）

石川年足 の墓誌（正下九四、遊京下二二）

石川方救 の幼時（正下五三七、兎小五ノ

一〇）

石川康長 （續下二ノ二八六、柳隨）

石榻 （正上一三四、南留一八）

石竹 （正上三五六、傍廂九四）

石疊 （正下二八〇、家屋一一九）

石立 （正下二四六、家屋五一）

石田梅巖 （正上九三八、假世二五）

石地藏 の圖（正下六四七、兎小九ノ二〇三）

石濱 江戸——（正上八七五、昆陽一五二）

石曳 の古書（續下一ノ一七七、閑次）

石佛 （正下三二一、續昆四二）

石山寺 の秋月と螢（續下一ノ一四、閑耕）

醫師 今の世の庸醫（正下一二二〇、心双一

〇）

## 六、難江

何爲<sup>イカ</sup> なしかも(續上九七五、河社)

位階 五位以上(續上八六九、松落)

六位以下(正上一五三、南留五一)

諸師のイ(正上一四二、南留三二)

降至、降所不至(續下二ノ八一三、難江)

雷 「ライ」雷ヲ見ヨ

貽貝 (正上一〇〇六、鋸屑三六)

猪飼津 (續上九〇八、河社)

## ●イキ

いきどほる と云事(續上六二九、れさめ)

め

息 の數(正下七二八、兎小一〇ノ六七)

日本人の——(正上八六一、昆陽一六)

位記 問答(續中六一二、後松)

月日辰時の讀樣(續下一ノ四五六、松竹)

壹岐眞根子 の名(續下一ノ四〇、閑耕)

生御魂 (續上一三八、年山)

英吉利 (正上一一七〇、春波八八)

醫經 を講ずる事(續下二ノ五一、梅筆)

## ●イク

## 軍

いくさ(續上七七二、松落)

合戦沿革三編(續中八二〇、後松)

すくなき軍して多きいくさとなかふ事

(續上七六九、松落)

—といふ言(續中二五〇、比古)

征行三式(續中九七八、後松)

和漢智戰(正上五九五、玄同一八五)

軍の陣 といふ詞、(正上一四八、南留四一)

一

軍の道 (正下八四三、花月一八)

育兒 幼兒を育つる法(正下九九九、多波三九)

九

衣冠 の掛緒(續中九六六、後松)

—に野劍長覆輪等を帶する事(續中九一〇、後松)

〇、後松)

—に革裏の劍を帶する事(續中六七六、後松)

後松)

神拜の——束帶(續下一ノ四三六、松竹)

大工の——(續下二ノ五二六、梅筆)

## ●イケ

池 庭の——(正下二四五、家屋四九)

—沼の別(正上二二二、茶筆八四)

—の事(續中六八一、後松)

日本紀作云々—之義(續下二ノ九二二、年々)

池田家 の祖(正下一〇七一、梧拾九)

池田 一心齋 の豪氣(正上二二八、蜘蛛四七)

池田五半 が風流(正下八〇九、雲萍九五)

池田光政 の儉德(正下一〇七〇、梧拾八)

—の齋素(正下一〇八八、梧拾三七)

曹源院畫贊(正上一九七、茶筆四二)

池野大雅堂 名實に適ふ(正上九五四、假世五四)

池永檢校の言に勵まる(正上七〇、北邊六九)

世五四)

池野無名 (續中一〇八一、近世)

生花 (續下二ノ二八四、柳隨)

夷賢志 と云ふ書(正上一一三八、春波三四)



——は男娼の美なるに如す（正上九三九、

假世二八）

——は多く水邊に居たること（正下八〇九、

雲萍九四）

北里烈女（正下五七八、兎小六ノ八二）

——の用ふる隠語（正四六七、兎小二ノ三

一）

天明頃——の風（正上一一九八、蜘蛛一

二）

けちざり又けちとり（續下二ノ二三七、柳

筆）

局おり、鳩部屋（續下二ノ二三九、柳筆）

——が才智老僧の惑をさます（續下一ノ一

八五、閑次）

局女郎を青暖簾といふ（續下二ノ二三七、

柳筆）

格子おろし（續下二ノ二三九、柳筆）

——の實（續下一ノ三七四、燕居）

——に戯るゝを浮世狂といふ（續中四九八、

骨董）

難波の夜發（正下一〇三、遊京下三四）

よたか（正上二四四、都手二〇〇）

——總角が世代（正下一二六、世事一八）

——勝山の孝心（續中一一八八、歷世）

——市川が詩（續下一ノ三一九、燕居）

——高尾（正下六三二、兎小九ノ一七八）

——妙（續上一一五、年山）

——花扇の孝（續中一〇六二、卒難）

——濱荻の孝養（正下八〇五、雲萍八六）

——琴柱の義烈（正下五七八、兎小九ノ八

二）

——吉野（正上九四一、假世三二）

遊女屋 遊廓新吉原若松屋の掟（正下五七

四、兎小九ノ七五）

娼家に樓號の始（正上一一九九、蜘蛛一三）

芳原十二時（正上六二七、北里一）

熊渠 石を臥虎と誤る（正下一〇二八、多波

八七）

又口 （正下三二六、續昆五四）

優古堂詩話 （續上二九五、梅日）

猶子 （正上一五六、南留五七）

有識者 を伎藝者流と云事（續中六五六、

後松）

有職 日野資朝の——（續下一ノ二二六、年

々）

友禪 （續中一〇八三、近世）

友禪扇 （續下二ノ五一、足薪）

祐天上人 夢吞劍（續下一ノ三二五、燕居）

幽靈 （正上六九七、桂林二一）（續上八八九、

松落（續下一ノ七七六、難江）

——の辨（正下六二八、兎小九ノ一七一）

船——（續下一ノ二八、閑耕）

——菩提寺に來りし話（正下四五七、兎小

ノ二）

——の見ゆる處（正上三五八、傍廂九八）

——の正鉢（正上一一四〇、春波三八）

●イカ

いかのぼり （正上一一九三、蜘蛛三）

——と云事（續上六三二、れさめ）

烏賊 （續上二二八、廬丁）

沼三八)

荒木田麗女 著述書目(正下九二、遊京一

六)(續下一ノ六五三、難江)

荒木又右衛門 の幼時(正上二五七、雨

窓一三)

荒和祇 (續上八二四、松落)

荒人神 (正上一四四、南留三五)

嵐 (正上七四九、圓珠一四)

嵐山 の花見(續下一ノ一九八、年々)

——の櫻(續下一ノ一〇、閑耕)

●アリ

ありがた坊 (正上九五六、假世五七)

有て善き はよく、あしきはあしきもの

(正上九七八、閑耕二四)

有てよき物 (正上九七八、閑耕二三)

有馬温泉 至尊——御湯治(續下二ノ五三

五、梅筆)

蟻とほし (續上八五、年山)

在根良 のよみ方(續下一ノ一七、閑耕)

在原業平 の幼時(正下一〇五六、消閑四

〇)

伊勢物語と——(正上四四、北邊二五)

業平集(續上九三六、河社)

〇イ

ゐ といふは田にまかす水(續下一ノ二二八、

年々)

井 鑿——出火(正下六〇七、兎小九ノ三四)

毒——(正上一七七、茶筆九)

——中の流水(續下二ノ三〇一、柳隨)

如法寺村の火——(續下一ノ三八三、燕居)

厄——(續下一ノ三二一、燕居)

異 の字(續上三八一、酣中)

矣 の假字(續下一ノ五五四、難江)

蘭 (正上七五三、圓珠二三)

●イア

位禊 (續中六二〇、後松)

射揚的(續中六二〇、後松)

●イウ

遊廓 をクツハといふ(正下八一三、雲萍一

〇〇)

古の——(正下八〇九、雲萍九四)

——にて脩を玄様といふ(續下二ノ一二七、

柳記)

遊戯 兎戯の變遷(正上一二二二、蜘蛛三六)

上野のはなまげ(續下二ノ三五一、柳隨)

園花(續下一ノ三五一、燕居)

雜戯(正上八一〇、昆陽二八)

葱吹、五木(續上三一二、三二九、梅日)

祖母祖父物語(續中五〇八、骨董)

したら、無木(續中五〇九、骨董)

碁石遊(續下二ノ一〇八、柳記)

海老上鶴(續中五七八、骨董)

遊京漫錄 の序(正下五一、遊京二)

遊藝園隨筆 の序(續中一三一七、遊藝)

遊化窟 (續上三五八、梅日)

遊女 (續上八三〇、松落)

——を川竹の流の身といふ(續下一ノ五七

八、難江)

安産章 (正上八八三、昆陽一六六)

安心 四少三安(續下一ノ九九、閑耕)

安藤定明 (續上一四六、年山)

安藤爲章 家譜(續下一ノ七九二、難江)

安藤滿五郎定實 (續上一四六、年山)

安徳天皇 (正下九九、遊京下二八)(正下

一ノ二〇二、梧拾六〇)

——の舊蹟(續下一ノ三〇、閑耕)

——の遺事附雨蛤竹筒(正下五八六、兎小

七ノ九七)

安南國 と通商の書(正下二九九、續昆六)

編版 (正上九八七、鋸屑六)

行燈 (續中四九一、骨董)(續中五八〇、骨

董)(正上三七八、傍廂一三三)(續下一ノ

五二六、筠庭)

鹽梅 (續上八八六、松落)

●アメ

あめなかのわたり (續下一五九、閑次)

天 (正上七四二、圓珠三)

天地を 袋に縫ひて云々といへる事(續中

九八、比古)

安米都知誦文考(續中八四、比古)

雨 のこと(正下八四四、花月二〇)

——風の事(正下八八二、花月八五)

雨足風手(正下一三二、世事二七)

得三徴——蘇(正上八〇二、昆陽一四)

——夜の感慨(續下一ノ三〇六、燕居)

雨森彦太郎 軍功を讓る事(正下七、梅叢

七)

飴 三官——(續下二ノ一六、足薪)

飴賣 の笛(續下一ノ七九、閑耕)

飴屋忠七 (正上九五九、假世六三)

●アヤ

あやむる (正上一〇七、北邊一三三)

綾蘭笠 (續下一ノ四九六、筠庭)

綾織 (續下二ノ一七六、柳筆)

綾竹 (續下二ノ一七六、柳筆)

文杉 (正下二六一、家屋八二)

過 「クワ」過失ヲ見ヨ

菖蒲興 (續中七三三、後松)

●アユ

あゆ といふ詞(續上八四二、松落)

鮎 (正上九九〇、鋸屑一二)

●アラ

あらか 殿を——といふ(正下二二二、家屋

三)

あらがね の義(續下一ノ二四三、年々)

あらきさゝ波 (續上一〇二八、河社)

あらればしり (續中二七三、比古)

新井白石 ——幼時の強記(正上九三九、

假世二八)

——婚を辭す(正上九四三、假世三五)

——の金煙管の古詩(續下一ノ一七六、閑

次)

——秋月の詩(續下一ノ一〇四、閑次)

——書を望む書翰(續下一ノ一四三、閑次)

——藏書門外不出(續下一ノ一六〇、閑次)

新玉のとし (續下一ノ二四三、年々)

荒海障子の事 (續上四四八、蒼梧)

荒木田久老 は秀才なり(正上四二二、泊



●アマ

あま に二あり(正上七五一、七六四、圓珠一

八、四三)

あまをとめ に二義あり(正上七六三、圓

珠四一)

あま雲 に二あり(正上七六三、圓珠四一)

あま衣 に三あり(正上七六三、圓珠四一)

アマソウネン國 南米——(正下四八〇、

兔小二ノ五二)

あまをぎ (續下一ノ七二八、難江)

あま鳥 (續下一ノ六一、閑耕)

あまのまでかた (續中七四、比古)

あまべ (續下一ノ八、閑耕)

天 の字讀法考(續上五七八、織錦)

天ツ狐 (正上六七三、善庵)

天照大神 の大制(正下三六〇、我宿二)

——を吳の太伯といふ辨(正下六一七、兔

小九ノ一五二)

天の岩戸 (續中四七、比古)

日の神——もり(正上一六一、南留六

五)

天のかく山 (正上一四四、南留三六)

天の羽衣 (正上一四七、南留四一)

天逆手 (續中四一二、比古)

天逆鉾 (正上一一四二、春波四一)

天詔琴 (續上三八三、醋中)

天野丈右衛門 の訓誠(正上九四三、假世

三六)

天吉葛 (續上一〇三三、河社)

尼 さげ——(續上二九三、梅日)

「ビク」比丘尼ヲモ見ヨ

尼が紅粉 (續下二ノ三三、足薪)

尼御前 (續中九〇一、後松)

蟹 カツキメ(正上七五一、圓珠一八)

蟹磯丸 が歌(續下一ノ三八九、燕居)

雨衣 (正上六一、北邊五二)

雨乞 の詩歌(續下一ノ三六三、燕居)

——有効(正上一二五九、春波七〇)

小町——の歌(續下二ノ一六五、柳筆)

水野義風の和歌(正上二一六、茶筆七五)

——に酢答(正上一〇二五、茅窓二五)

雨戸 (正下二八四、家屋一二二)

雨もよ 雪もよ(續上七九六、松落)

銀河 織女に似たる事(正下四八〇、兔

小二ノ五二)

餘り茶 (續下二ノ一二九、柳記)

●アミ

糠蝦 筑紫にて——を「こうさい」といふ

(正上一六四、南留六九)

編笠 「カサ」笠ヲ見ヨ

●アム

あんべいやうもない (正上一四五、南

留三六)

安阿彌の作 (續下二ノ五三、足薪)(續上

六八〇、還魂)

安覺 僧——(續下一ノ三六、閑耕)(續下一

ノ一六四、閑次)

安國殿 へ奉る祈願の大定(續中一二二七、

遊藝)

安齋翁 「イセ」伊勢貞丈ヲ見ヨ

縫—(續下二ノ二一七、柳筆)

猫間—(續下二ノ二一八、柳筆)

ばさら—(續下二ノ二一五、柳筆)

蒔繪—(續下二ノ二二〇、柳筆)

檜—(續中七七〇、後松)(續下一ノ四四五)

(續下二ノ五三二、梅筆)

軍—(續中八九〇、後松)

夏—(續下一ノ四四五、松竹)

目近—(續下二ノ二一五、柳筆)

連歌—(續下二ノ二二一、柳筆)

### 【骨】

猫間—(續下二ノ二一八、柳筆)

七本—(續下二ノ二一五、柳筆)

石州—(續下二ノ二一六、柳筆)

麝香—(續下二ノ二一八、柳筆)

朝鮮—ゆきひら—(續下二ノ二二一、柳筆)

筆)

煮—、黒—(續下二ノ二二二、柳筆)

### 【要】

—を蟹目と書く(正上九八四、鋸屑二)(續下

一ノ二六〇、年々)

—いれ(續下二ノ二二二、柳筆)

扇占 (續下二ノ二二二、柳筆)

扇賣 (正上一一九三、蜘蛛三)

扇車 (續下二ノ二二二、柳筆)

扇引 (續下二ノ二二二、柳筆)

扇屋墨河 が智計(正上一一九七、蜘蛛二)

逢坂ノ關 (續上九一四、河社)

逢阪山 のされかつらといふ歌(續上八三

二、松落)

仰 の字をスケともよまんと思ふ事(續下一

ノ八二一、難江)

葵 (續下一ノ七二六、難江)

蜀葵花(正上八八四、昆陽一六九)

—を簾に掛く(正上三七三、傍廂二二四)

葵祭(正上九九五、鋸屑一九)

鑑 (續中一四七、比古)

古の—(正上一二七、南留五)

花瓦 アヅミカハラ (正下二五七、家屋七一)

近江定春 筆の名匠—及長門(正上九四

一、假世三二)

近江善兵衛 (正上九二八、假世八)

近江八景 (續下一、閑耕一四)

近江節 (續上六七五、還魂)

油 水—の古名(續中一二〇一、歷世)

油搾 (續下一ノ三四五、燕居)

油筒 (續下二ノ一五〇、柳筆)

泥障の寸法 (續下一ノ四二六、松竹)

障泥樽風 (正下二五四、家屋六七)

### ●アへ

あへる—といふ語(續上七五七、松落)

阿部侯—領地を巡撫す(正上一二二七、

春波一七)

阿倍仲麻呂 の評(續下一ノ三六、閑耕)

—の詩(續上一八、年山)

—卒年後三於李白之死(續下一ノ八〇一、

難江)

### ●アホ

あほふばう (續下二ノ二九、足薪)

阿保壽 (續中一〇八七、近世)

●アネ

姉小路公量 河の歌並に帝の御返し（正下

九六五、大海一）

●アハ

あはせ 飯のさいの事を——といふ（續上三

三八、梅日）

あはれ といふ詞の註釋（續上五三九、織錦）

粟 （正上八四〇、昆陽八九）（正下三一八、

續昆三七）

粟田祭 笛師の頓智（續下一ノ一二二、閑次）

阿波侯 の行蹟（正上一一六四、春波七八）

阿波座島 演劇者の常套語（續下一ノ三二

四、燕居）

淡路國 （續上四二九、蒼梧）

淡路島かよふ千鳥 （續下一ノ六四六、

難江）

安房殿町 小石川——（續上一九九、南向）

安房國 （續上四二九、蒼梧）

合せ鬢 （續下二ノ二三六、柳筆）

鮑 ないそがひといふ（正上七四九、

圓珠一四）

うち——（續上八八四、松落）

淡雪 あわになふりそ（續下一ノ七、閑耕）

雪のあはにふるといふこと（續上五四八、織

錦）

●アヒ

相生 （續下一ノ二六二、年々）

●アフ

あふなく——といふ詞（續中三九四、比

古）

あふみ 古今集——より朝たち來れば云々

の歌に就て（續上五四七、織錦）

回 の字（正上一〇一一、茅窓二〇）

押 の字義（續上二六三、梅日）

押字印 （續中八二〇、後松）

押領使 （正上一三三四、南留一七）

扇 日本——（正上八四〇、昆陽八八）

倭——（正上八八三、昆陽一六六）

——に物を書く事（續上七五九、松落）（續上

五六七、織錦）

——を笏にもつ説（正上二二二、茶筆六八）

——をつかふは無禮のわざ（續上八八六、松

落）

——をひろげて送る事（續下二ノ五三〇、梅

筆）

——の上に物を置く事（續下二ノ五二三、梅

筆）

女は年によりりの色のかはる事（續下二ノ

二二二、柳筆）

婚禮に横目——を思む（續下二ノ五三二、梅

筆）

【種類】

幽禪——（續下二ノ五一、足薪）

女持——（續下二ノ二二二、柳筆）

古歌模様——（續下二ノ二二七、柳筆）

そるま——（續下二ノ二一九、柳筆）

道中附——（續下二ノ二一七、柳筆）

桐油——（續下二ノ二二七、柳筆）

南京——（續下二ノ二二〇、柳筆）

布目地——（續下二ノ二二〇、柳筆）



安宅關 (正下一二〇、心双九)

安宅丸 — 造船時の漆 (正下四九七、兎)

小八二

愛宕の市 — にて青酸漿を賣りし起原 (正

上一二二八)

天窓隠して尻隠さず — といふ諺 (續下一

ノ三一五、燕居)

●アチ

あちかたの海 (續下一ノ一二二、閑次)

紫陽花 — 考 (續下一ノ八三三、難江)

●アツ

あつまる 集を — 又「つどふ」といふ (正

上七五七、圓珠二九)

小豆餅 (續上六五三、れさめ)

小豆焼 — といふ事 (續上五三三、織錦)

梓 (正上七四八、圓珠一三)

梓山 美濃國 — (續下一ノ二二、閑耕)

熱田神宮 (正上三七九、傍廂一三四)

敦忠集 (續上九三七、河社)

厚檜皮 (正下二五七、家屋七五)

厚總 (續下一ノ四一五、松竹)

厚總鞆 の色 (續下一ノ四二三、松竹)

東鑑 の跋 (正上七一〇、桂林五一)

— 不審問答 (續下一ノ三六〇、燕居)

流布の — と上杉家傳來の — (正下三六

九、我宿一七)

東鑑曆算改補 — といふ書 (續下一ノ六九九、

難江)

東路のつと — といふ書 (續上二九八、梅日)

東の道の記 — に見えたる事ども (續上六三

八、れさめ)

東の都 — といふ詞 (續上五五四、織錦)

東百官 (正下一六三、世事八〇) (續中八

九二、後松)

吾妻森 の事 (續上六三七、れさめ)

四阿 (正下二五四、家屋六八) (續下二ノ五

三六、梅筆) (續上九七二、河社)

●アト

あとうがたり (續中一一八、比古) (正上

五一、北邊三七)

あとこゆる 跨を — といふ (正上一五七、

南留五八)

アドホカート (正上一六八、春波八四)

あととり (續下一ノ六一、閑耕)

●アナ

あなめ の語釋 (續下一ノ五八二、難江)

呵耐を — とよむ (續上一〇一二、河社)

あなめ の歌 (正上一四二、南留三一)

穴織 (續下一ノ六〇四、難江)

穴磯 の訓 (續上九〇八、河社)

穴師ノ山 (正上七五八、圓珠三三)

穴八幡 (續上一九二、南同)

安名尊 (續上九七五、河社)

圀門 (正下二七八、家屋一一四)

阿難 調達身の長 (續上三二二、梅日)

●アニ

兄 なあにきをちき杯云ふ事 (續上六二四、

れさめ)

兄殺 毆死胞兄父乞有留 (正下三五〇、續見

九五)

字 (續上一二八、年山)

—をつくる事(續下一ノ二三二、年々)

假名を—に用ふ(正上一六一、南留六五)

—名字(續上七六三、松落)

祖の—をつくる事(續上八七二、松落)

「シン」人名ヲモ見ヨ

# ●アシ

あしぎぬ (正上八一、北邊八八)

蘆 を「よし」といふ(正上七五二、圓珠二〇)

蘆垣 (續上、九七六、河社)

蘆つゝ (續中四五二、比古)(續下一ノ五九三、難江)

蘆手 (正上一〇〇〇、鋸屑二八)(正上五八、北邊四八)(續上八三五、松落)(續中一二六四、天朝)(續中六一五、後松)

足利氏 畧譜(續下一ノ六八七、難江)

—時代記錄の誤(正下一〇七七、梧拾一九)

—家譜(正下一〇七七、梧拾一九)

足利學校 (正上七一、桂林五四)

—の藏書(續下二ノ二五四、柳隨)

足利本 (正上七一、桂林五四)

足利義詮 (正上七一、桂林五四)

—の訓(正下九四七、人名五)

足利義教 (八二二、難江)

—男色に溺るゝ事(續下一ノ八二二、難江)

足利義政 —明に錢を請ふの書(正上八〇七、昆陽二四)

東山殿書(正下三二〇、續昆四二)

足輕 (正上八一五、昆陽四〇)

足藝 (續下一ノ五四四、筠庭)

足下 (續下一ノ五一〇、筠庭)

足繼 (續中七七八、後松)

足半 (續下一ノ五〇八、筠庭)

足の綱 (續下二ノ八七、柳記)

足代 麻柱(正上九九三、鋸屑一六)

鹹草 (正上九九七、鋸屑二二)(正上四八四、玄同下五)

アシナカ

阿咀咄 —といふ植物(正上八八六、昆陽一七)

# 一

## ●アス

飛鳥井 (續上九七三、河社)

飛鳥井雅量 —乗馬のはなし(正下九六六、大海三)

飛鳥寺 —銘(正上一〇八七、茅窓一三二)

明日香采女 の歌(續上一〇二五、河社)

## ●アソ

阿蘇 (正上一三三、南留一五)

阿曾女 (續上八六五、松落)

遊の庭 (正下二五〇、家屋六〇)

遊部 (續中二二八、比古)

朝臣 (正上五二五、玄同七一)

—を「アソン」といふ(正上一三六、南留二〇)

—といふ名義(續下一ノ二八五、年々)

—といふ名義(續下一ノ二八五、年々)

—といふ名義(續下一ノ二八五、年々)

—といふ名義(續下一ノ二八五、年々)

## ●アタ

あたし人 越人を—とよむ(正上一四五、南留三七)

南留三七

上バチ (續上一七三、鉦所)

上土門 (正下二六五、家屋九〇)

山女 (續上二四四、梅日)

揚火 (の、と) (正下八五七、花月四二)

揚屋提灯 (續下一ノ五二六、筠庭)

總角 (續上九六八、河社)

「カミ」髪ヲモ見ヨ

### ●アコ

あご (正上一三四、南留一八)

柏 (續中七八四、後松)

—の色目(續中八一、後松)

—の文字(續中六〇三、後松)

—必ず著る事(續中六四〇、後松)

阿胡海 (續下一ノ一七、閑耕)

阿古屋の松 (續下一ノ八二〇、難江)

### ●アサ

あさり (といふ詞(續上二五九、梅日))

あされ (續上五三九、織錦)

麻 (正上七四八、圓珠一四)

—の葉に毒ある事(續上五四一、織錦)

麻ごろも (といふ詞(續下一ノ六五九、難江))

麻布 (の異名(正下七二九、兎小一〇ノ六八))

—日簀(續上二〇八、南向)

朝 あした(正上七四八、圓珠一三)

朝 あけ (續上二四一、梅日)

朝顔 (續上七九六、松落)(續上二二九、年山)

(續中一一三、比古)

—の品種(正上四九四、玄同二一)

—の栽培(正下八一五、雲澤一〇五)

朝倉宮 (續上九六九、河社)(正下一〇五五、消閑三八)

朝觀音に夕藥師 (といふ諺(續上四八一、著梧)(續下二ノ一三七、柳記))

朝月夜 (といふ事(續下一ノ六一、難江))

朝附日 (續下一ノ六一、難江)

朝な夕な (といふ事(正上三四七、傍廂八〇))

朝寝坊 (續下二ノ二七、足薪)

朝比奈義秀 (木曾山に隠る(正下七七四、

雲澤三五)

—の詞(正上九九七、鏝屑二三)

朝日山 (續下二ノ一五八、柳筆)

朝びらき (といふ詞(續下二ノ九六、柳記))

朝参り (正上一二〇七、蜘蛛二六)

浅井長政 (の後(正下一〇八六、梧拾三四)

浅葱梳 (續中、五〇一、骨董)

浅草 附近の名稱(續上一九五、南向)

—の市(正下八四二、花月一六)

浅草觀世音 (正下一二一、世事九)

—の身代(正下五一〇、兎小上一〇三)

浅草寺 (の繪馬(正上六九八、桂林二三))

—の鐘銘(正上六九九、桂林二六)

—の神事舞(正下二二二、世事一〇)

—のみほとけ(續上六六八、ねさめ)

浅草祭 (の番附(續上七三一、還魂))

浅野家 (赤穂 —の繁政(正上一九九、茶

筆四七)

浅間山 (噴火の顚末(正上一二〇五、蜘蛛

二三)



赤穂義士 の難陳(正上三七三、傍廂一二四)

武勇評論(正上三〇三、傍廂三)

赤女 (續中四八、比古) (續下一ノ二三六、年々)

縣居翁 「カモ」賀茂眞淵ヲ見ヨ

縣主 (正上五三〇、玄同下八〇)

曉 の興(續下一ノ二〇三、年々)

―によはとよめる歌(續上一〇二六、河社)

明書院 (正下二八一、家屋一二二)

明床 (正下二八一、家屋一二二)

●アキ

あきじこり といふ事(正上三五九、傍廂九九)

九九)

秋風 古文―辭並和歌(正下一〇三七、消閑七)

打―(正下三二六、續昆五三)

秋さり衣 の解(續上一四一、年山)

秋篠 の外山の里(續下一ノ九、閑耕)

秋しべ (續中四四五、比古)

秋好中宮

のよう方(續下一ノ五七八、難

江)

秋田島沼 並圖(正上四六〇、玄同二ノ三六)

秋津島 と蜻蛉との關係(續中九一、比古)

秋の嵐 (正下八七九、花月七九)

秋ノ七草 (續上八三三、松落)

秋ノ宮 「クワ」皇后ヲ見ヨ、

秋ノ夜 のおぼろ(續上一〇二三、河社)

―の詞(續中九八四、後松)

秋葉神社 火の舞の神事(正上一二六一、春波七三)

春波七三)

安藝國 ―可愛川の考(正下一七五、世

事一〇一)

●アケ

あくがる といふ詞(續中六八、比古)

あくがれる といふ詞(續上三二六、梅日)

惡 の報(正下七五九、雲萍)(正下一一〇三、

極拾六二)

好―(正下八三五、花月四)

陰―必ず禍を蒙る説(正下四四、梅叢七一)

―を以て名とす(續中一〇五六、京雜)

羞―(正上二二九、茶筆九六)

惡賢 ともいふべきもの(正下一〇七一、梧

拾一〇)

惡錢 (正上八二一、昆陽五一)

惡念 ―動かざるは是仁(正下一一〇八、

梧拾、七〇)

―と善心(正下七七七、雲萍三〇)

惡來 の音(續下一ノ三九一、燕居)

鯢鯢 (續下一ノ三二一、燕居)

握符 (正上三三三、傍廂五六)

胡床 (續下一ノ六七二、難江)

蹴蹴、常樂(正上九八四、鏗屑二)

●アケ

結句 (續下一ノ二六四、年々)

明くれ といふ詞(續下一ノ六六一、難江)

明智左馬之助 舊友の武を止む(續下一ノ

一八八、閑次)

明智次左衛門 舊を忘れぬ事(正上二五

一、雨窓六)

明智光秀 が謀反(續下一ノ八二七、難江)

# 百家説林索引

## ●アア

嗚呼 於鳥假字(續下一ノ二、難江)

阿々志夜胡志夜 といふ詞(正上四六、北

邊二八)

阿々則々 (續下一ノ三四八、燕居)

## ●アイ

あいなく といふ詞(續下一ノ六〇九、難江)

あいなどのみ といふ詞(續下一ノ六〇

九、難江)

愛國 (正下八五一、花月三)

哀挽餘響集 (續上九九、年山)

## ●アウ

央 の字(續上四〇〇、醋中)

鶯 の訓(正上一〇三九、茅窓四九)

鸚鵡石 (正上九〇四、猿軒一一)

## ●アエ

あるか といふ詞(續上一〇三二、河社)

あえもの といふ詞(續上一〇三三、河社)

## ●アオ

あをによし (正上七八四、圓珠七七)

あをひとぐさ 民を——といふ(正上七五

七、圓珠三一)

襖 は位襖也(續中六二〇、後松)

あなといふ服(續下一ノ六六六、難江)

襖子 (續中六二一、後松)

襖袴 (續下一ノ四一三、松竹)

——の幅(續下一ノ四一三、松竹)

白馬 を「あなうま」と云ふ(續下一ノ一六二、

閑次)

白馬節會 七日の青馬白馬(續中一九六、

比古)

——拜見の有様(續上四四九、蒼梧)

青ざし (續下二ノ一四五、柳記)

青摺袍 (續上一七一、錦所)

青暖簾 局女郎を——と云ふ(續下二ノ二三

七、柳筆)

青酸漿 愛宕の市にて——を賣りし起原(正

上二二一八、蜘蛛四五)

青山 の名の起り(續上一八八、南向)

## ●アカ

あが佛 (續上一〇三二、河社)

あからぬ 候亡を——といふ(續上、一〇三

三、河社)

あがり鯨 といふ諺(續下二ノ一三六、柳記)

銅 續より——の出る數(正上八六四、昆陽一

三三)

赤え (續下一ノ二三七、年々)

赤國 (正下一八四、世事二二七)

赤坂 の名の起り(續上二一八、南向)

——圓通寺の鐘銘(續上二〇九、南向)

赤芻 と紫水(續下二ノ一〇一、柳記)





ホ	北邊隨筆	富士谷御杖	北邊	正編上	二七
マ	茅窓漫錄	茅原定	茅窓	正編上	一〇一〇
ミ	北里十二時	石川雅望	北里	正編上	六二七
	庖丁書錄	林羅山	庖丁	續編上	二一一
	松の落葉	藤井高尙	松落	續編上	七四七
	都の手ぶり	石川雅望	都手	正編上	二三二
リ	柳菴隨筆	栗原信充	柳菴	續編下二	二四七
レ	柳亭記	柳亭種彦	柳亭	續編下二	八二
ワ	柳亭筆記	全	柳亭	續編下二	一四七
	歷世女粧考	山東京山	歷世	續編中	一九二
	我宿草	太田道灌	我宿	正編下	三五八
	和歌世話	不詳	和歌	正編上	一六五

シサ

セス

リ

タ

骨董集	山東京傳	骨董	續編中	四五九
金剛談	小林元備	金剛	正編下	九〇九
昆陽漫錄	青木昆陽	昆陽	正編上	七八八
後松日記	松岡行義	後松	續編中	五八九
蒼梧隨筆	大塚嘉樹	蒼梧	續編上	四一二
准后准三后考	新井白石	准后	正編下	九五〇
春波樓筆記	司馬江漢	春波	正編上	一一一九
後言	小說家主人	後言	正編上	一二二六
人名考	新井白石	人名	正編下	九四五
松竹問答	松岡辰方	松竹	續編下	四一三
織錦舍隨筆	村田春海	織錦	續編上	五二九
還魂紙料	柳亭種彦	還魂	續編上	六七一
消閑難記	岡西惟中	消閑	正編上	一〇三一
關の秋風	松平樂翁	關秋	正編上	九六五
世事百談	山崎美成	世事	正編下	一一四
善庵隨筆	朝川善庵	善庵	正編上	六三五
西洋書譚	司馬江漢	西書	續編中	一〇七四
續昆陽漫錄	青木昆陽	續昆	正編下	二九四
足薪翁百話	柳高種彦	足薪	續編下	一
多波禮具佐	雨森芳洲	多波	正編下	九七七

テ	ト	ナ	ニ	ホ	ヒ	フ
轉注說	天朝墨談	難波	烹難の記	年山紀聞	梅園叢書	墳墓考
狩谷核齋	瀧澤解等	岡本保孝	瀧澤解	安藤爲章	三浦安貞	中山信名
轉注	天朝	難江	烹難	年山	梅叢	墳墓
正編下	續編中	正編下	續編中	續編上	正編下	正編下
九五七	一二一八	八九九	一〇一七	一九八	六一五	一九九
獨語	太宰春臺	難後言	烹難	年山	梅叢	墳墓
一	四四六	一二五八	一〇一七	一九八	六一五	一九九
鳥おどし	川崎重恭	難後言	烹難	年山	梅叢	墳墓
八九九	五四七	一二五八	一〇一七	一九八	六一五	一九九
難波	岡本保孝	難後言	烹難	年山	梅叢	墳墓
五〇四	一二五八	一〇一七	一九八	六一五	一九九	一九九
梅窓筆話	橘經亮	梅叢	正編下	二二三	三九九	五〇四
一	四四六	一二五八	一〇一七	一九八	六一五	一九九
比古婆衣	伴信友	梅叢	正編下	二二三	三九九	五〇四
一	四四六	一二五八	一〇一七	一九八	六一五	一九九
筆のすさび	菅茶山	梅叢	正編下	二二三	三九九	五〇四
一	四四六	一二五八	一〇一七	一九八	六一五	一九九
墳墓考	中山信名	梅叢	正編下	二二三	三九九	五〇四
一	四四六	一二五八	一〇一七	一九八	六一五	一九九

# 收 錄 書 目

イ		ウ		エ		オ		カ	
書名	著者名	符號	收録卷數	書名	著者名	符號	收録卷數	書名	著者名
遊京漫錄	清水濱臣	遊京	正編下 五一	遊藝園隨筆	川路聖謨	遊藝	續編中 一三一七	遊藝園隨筆	川路聖謨
軒小錄	伊藤東涯	軒	正編上 八九七	磯山千鳥	堀秀成	いそ山	續編中 一三三三	磯庭難考	喜多村信節
雨窓閑話	不詳	雨窓	正編上 二四八	雲萍雜志	柳里恭	雲萍	正編下 七五三	圓珠庭難記	漢沖
燕居雜話	日尾菊山	燕居	續編下 二九九	奥の細道	松尾桃青	細道	正編上 七二五	鋸屑	谷川士清
尾花が本	本居宣長	鋸屑	正編上 九八一	大海のはし	富士谷成章	大海	正編下 九六五	太田道灌日記	
思草	尾花が本の別名	思草	正編下 二一七	家屋雜考	澤田名垂	家屋	正編下 二一七	傍廂	齋藤彦鷹
傍廂	齋藤彦鷹	傍廂	正編上 二九六						
コ		ケ		ク		キ			
假名世說	大田南畝	假世	正編上 九二二	閑田耕筆	伴蒿溪	閑耕	續編下 一	閑田次筆	同
閑田次筆	同	閑次	續編下 一〇一	閑窓自語	柳原紀光	閑窓	正編下 九一六	河社	漢沖
河社	漢沖	河社	續編上 八九六	酣中清話	小島知足	酣中	續編上 三七七	錦所談	山田以文
錦所談	山田以文	錦所	續編上 一五一	近世逸人畫史	老樗軒	近世	續編中 一〇七九	蜘蛛の糸卷	山東京山
花月草紙	松平樂翁	花月	正編下 八二八	書譚鷄助	仲山高陽	書譚	正編下 四一三	訓蒙淺語	大田晴軒
訓蒙淺語	大田晴軒	訓蒙	正編下 三七六	桂林漫錄	桂川中良	桂林	正編上 六八五	玄同放言	瀧澤解玄
玄同放言	瀧澤解玄	玄同	正編上 四二九	下馬のお	堀秀成	下馬	續編上 七三五	こかねくさ	石川雅望
こかねくさ	石川雅望	こかねくさ	正編下 二一〇	心の双紙	松平樂翁	心の双紙	正編下 一一一六	梧窓漫筆拾遺	太田道灌
梧窓漫筆拾遺	太田道灌	梧窓	正編下 一〇六六						



續編上四百四十九頁にありて蒼梧隨筆中のもの

(續下二ノ一四五、柳記)とあるは

續編下二の百四十五頁にありて柳亭記中のもの

(正上一八四、世事一一七)とあるは

正編上八百八十四頁にありて世事百談中のものにて原版百家説林中同書の百十七頁にあるものなり

一書名の符號は別表收録書目を参照すべし

一本索引の編輯は最初是れに従事したる者の都合に依りて是れを辭し、中途其人を異にするの止むを得ざるに至りたる爲、或者は粗に、或者は詳に、又全編を通して統一を缺ける箇所無きにしもあらず、閱者乞ふ之れを諒せられよ

編 者 識



# 百家說林索引

## 凡 例

一本索引は百家說林正續兩編中に載せたる事項を五十音順辭書體に排列したるものにして、檢者は各所に散在せる或る同一事項の存在を一目の下に檢出するの便を得べし

一排列の方法は五十音順を基礎としたれども、同音中にありて首字の同じきものは一處に集むるの便宜法を採り、必しも精密なる音順に依らず、是れ一目觀易からしめんが爲のみ

一五十音中には「イ」「キ」「オ」「ヲ」「エ」「エ」とを區別せず、又ンの音は凡てムの部に收めたり

一標題の稱呼は最も普通なるものを採り諸所より參照を附したり、又必要に依りては二ヶ所三ヶに出せるものあり

一檢者若し所要の標題を見出し能はざれば更に他の同意義、又は廣狹の同意味の事項を搜索されたり

一本索引に用ふる符號は最初卷并其丁數、次に書名の略號を以てす、書名の略號の下に數字の記入しあるは百家說林原版（十冊本）の丁數なり、是れ該書の所藏者にも共に便益を得さしめんとの微意のみ、假令ば

（續上四四九、蒼梧）とあるは



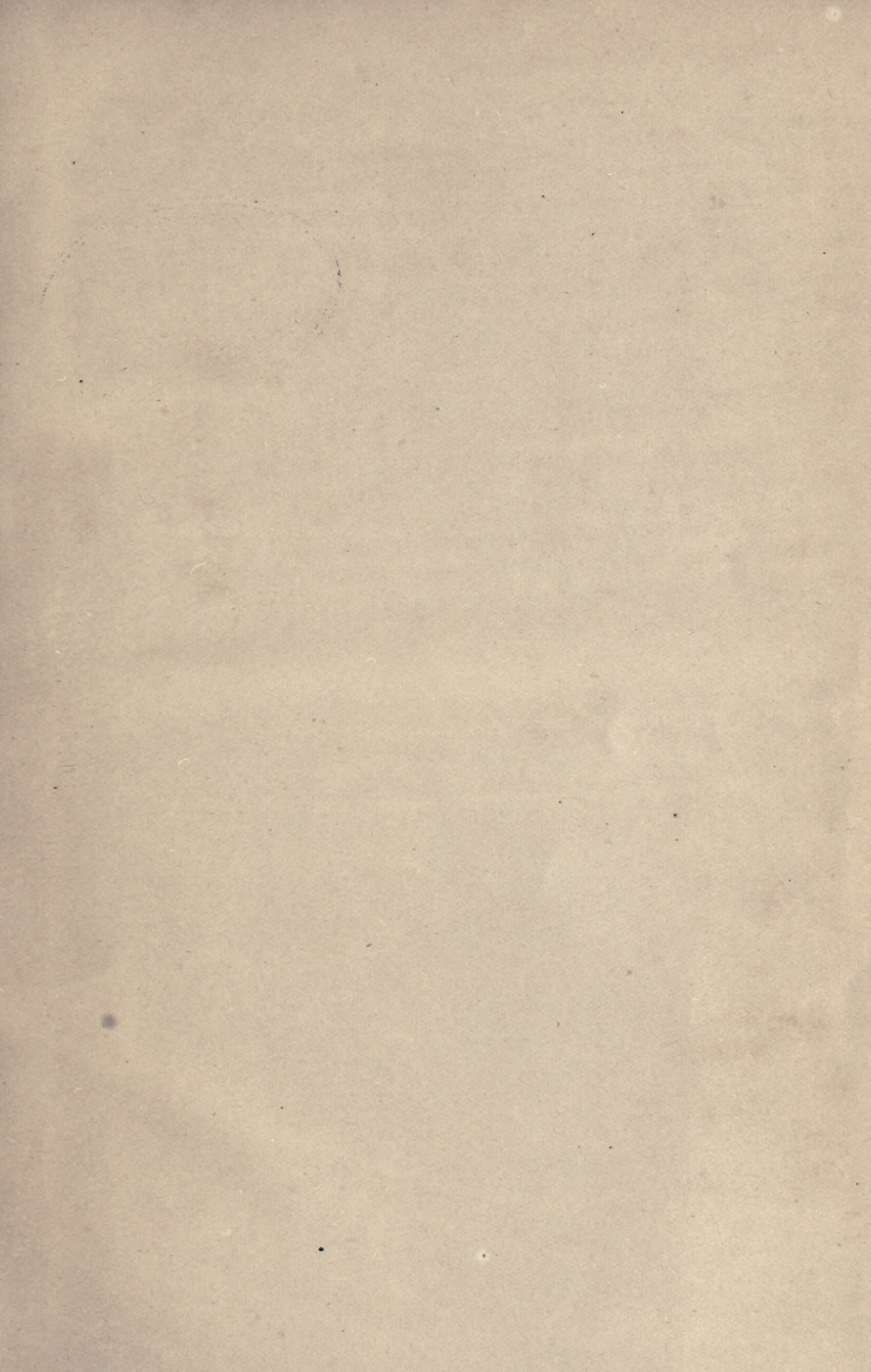
PL  
772  
H9  
1905  
v. 7

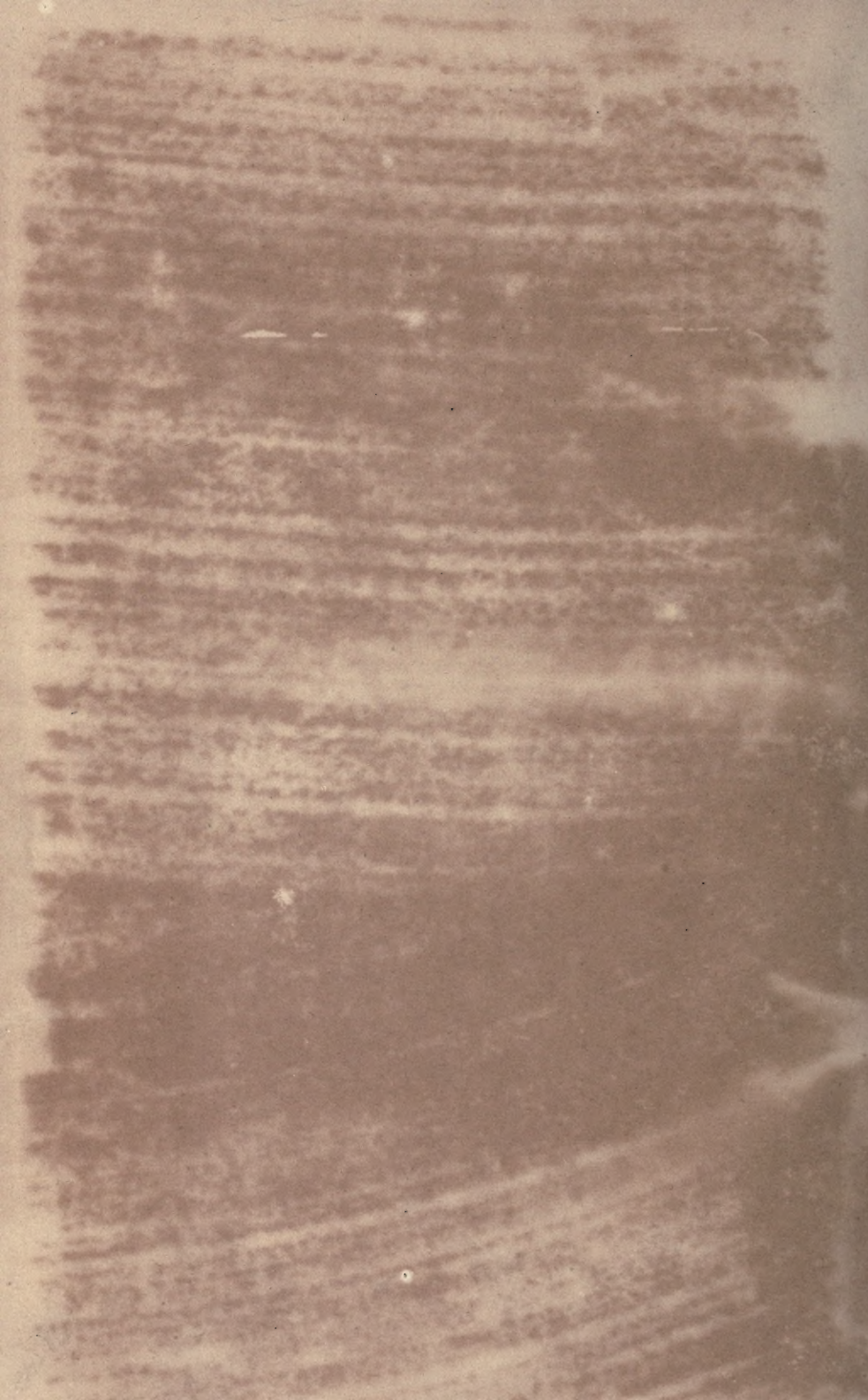




百家說林

索引







PL            Hyakka zeirin  
772  
H9  
1905  
v.7

East Asia

PLEASE DO NOT REMOVE  
CARDS OR SLIPS FROM THIS POCKET

---

UNIVERSITY OF TORONTO LIBRARY

---

